

令和7年度
授業概要
(シラバス)

美術学部 美術表現学科



東北生活文化大学

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを、担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や、受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記 載 例】

① 科目名	⑦ 【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態：	学期： 必・選：
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	
◆ 授業の概要	
◆ 授業の到達目票	
◆ 学位授与の方針との関連	
◆ 授業計画の内容	
◆ 自習（事前・事後学修の内容）	
◆ 履修上の注意	
◆ 成績評価方法・基準	
◆ 教科書	
◆ 参考書	
◆ 備考	

【科目情報の見かた】

- ① 科目名：授業科目名を記載しています。
- ② 単位（総授業時間＋自習時間）：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。
- ③ 対象学科：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
- ④ 授業形態／学期／必・選：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
- ⑤ 履修科目：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。
- ⑥ 担当者：科目担当者の氏名を記載しています。
- ⑦ 科目ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階，順序等をあらわします。

大分類 中分類 小分類 科目番号 レベル 学年

A — 1 — a — 01 — 1 — 1

大分類：学科・専攻の区分

D・・・美術表現学科

K・・・大学共通

中分類：科目の区分

1・・・大学共通教養科目

2・・・基幹科目

3・・・学科専攻科目

4・・・教職に関する科目

5・・・博物館に関する科目

小分類：科目群

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 ※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習（事前・事後学習）	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修した方がよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3を超えて欠席した場合は、その時点で不合格となりますので注意してください。
教科書および参考書	授業で使用するため、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合、記載しています。

ディプロマポリシーに基づく観点目標

美術学部美術表現学科

<知識・理解>

1. 基本的な知識・学習能力を身につけること。
2. 美術の基本的な体系を理解すること。
3. 美術，工芸，デザイン，メディア芸術（マンガ・イラスト・アニメ・ゲーム）分野において，それぞれの専門知識と技能を身につけ，その知識や技能体系を，産業，文化，自然に関連付けて理解できること。

<汎用的技能>

4. 美術，工芸，デザイン，メディア芸術分野，製造，教育，行政に関する職業や創造及び地域貢献活動において，社会の問題に柔軟に対応することができる。
5. 地域社会の問題を解決するコミュニケーション能力・論理的思考力・創造力・表現力を身につける。

<態度・志向性>

6. 自律的・主体的に他と協働して地域社会の一員としての責任を果たすことができる。
7. 持続的な文化創造に寄与することができる意欲と倫理観・生涯学習力を身につける。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

8. これまでに獲得した知識・技能・態度及び「地域創生演習」「卒業研究」等によって培った創造的思考力を総合的に活用することができる。
9. 自らが立てた新たな課題に，創造的思考力を適用し，主体的に解決する能力を身につける。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈大学 共通教養科目〉

科目名	担当者
歴史Ⅰ	栗原 伸一郎
歴史Ⅱ	栗原 伸一郎
スポーツ	酒井 正彦

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈美術学部 美術表現学科〉

科目名	担当者
プロダクトデザインⅠ	落合 里麻
プロダクトデザインⅡ	落合 里麻
プロダクトデザインⅢ	落合 里麻
プロダクトデザインⅣ	落合 里麻
卒業研究Ⅰ	落合 里麻
卒業研究Ⅱ	落合 里麻
情報デザインⅠ	鶴巻 史子
情報デザインⅡ	鶴巻 史子
情報デザインⅢ	鶴巻 史子
情報デザインⅣ	鶴巻 史子
卒業研究Ⅰ	鶴巻 史子
卒業研究Ⅱ	鶴巻 史子
日本画Ⅰ	数本 冴英佳
日本画Ⅱ	数本 冴英佳
マンガⅠ	佐々野 まりえ
マンガⅡ	佐々野 まりえ
漆芸Ⅰ	長谷部 嘉勝
漆芸Ⅱ	長谷部 嘉勝
漆芸Ⅲ	長谷部 嘉勝
漆芸Ⅳ	長谷部 嘉勝
卒業研究Ⅰ	長谷部 嘉勝
卒業研究Ⅱ	長谷部 嘉勝
卒業研究Ⅰ	長谷部 嘉勝
卒業研究Ⅱ	長谷部 嘉勝
地域創生演習Ⅱ	三浦 忠士
地域創生演習Ⅲ	三浦 忠士
地域創生演習Ⅳ	三浦 忠士
地域創生演習Ⅴ	三浦 忠士
地域創生演習Ⅵ	三浦 忠士
人形Ⅰ	山内 一実
人形Ⅱ	山内 一実
ガラスアートⅠ	山口 綾子
ガラスアートⅡ	山口 綾子
卒業研究Ⅰ	山口 綾子
卒業研究Ⅱ	山口 綾子
製図Ⅰ	湯目 俊彦
製図Ⅱ	湯目 俊彦
図学Ⅰ	湯目 俊彦
図学Ⅱ	湯目 俊彦
インテリアデザインⅠ	湯目 俊彦
インテリアデザインⅡ	湯目 俊彦

2025年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	美表4	伊豆田 友 美	講義	4	2	12001
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	美表4	鈴 木 裕 行	講義	4	2	12002
K-1-a-03-1	有機化学	後期	美表1	小 川 智 久	講義	1	2	12003
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	美表4	小 川 智 久	講義	4	2	12004
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	美表1	堀 江 佐知子	講義	1	2	12005
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	美表3	堀 江 佐知子	講義	3	2	12006
K-1-a-07-1	環境学	後期	美表4	高 瀬 清 美	講義	4	2	12007
K-1-a-08-1	統計学	後期	美表4		講義	4	2	12008
K-1-a-09-2	データサイエンス数学	前期	美表4	池 田 展 敏	講義	4	2	12009
K-1-b-01-1	経済学	前期	美表4	沢 田 拓 哉	講義	4	2	12010
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	美表2	庄 司 一 平	講義	2	2	12011
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	美表4	庄 司 一 平	講義	4	2	12012
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	美表1	栗 原 伸一郎	講義	1	2	12013
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	美表1	栗 原 伸一郎	講義	1	2	12014
K-1-b-06-1	日本国憲法 必修	前期	美表2	横 田 尚 昌	講義	2	2	12015
K-1-b-07-2	法学概説	後期	美表1	横 田 尚 昌	講義	1	2	12016
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	美表1	徳 田 幸 雄	講義	1	2	12017
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	美表1	徳 田 幸 雄	講義	1	2	12018
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	美表2	植 松 公 威	講義	2	2	12019
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	美表2	植 松 公 威	講義	2	2	12020
K-1-c-05-1	美術	後期	美表4	伊 勢 周 平	講義	4	2	12021
				美術学部教員				
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	美表1	杉 井 信	講義	1	2	12022
k-1-c-07-1	災害と防災	後期	美表1	伊 藤 常 久	講義	1	1	12044
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	美表4・美表1	ブシャー シルベ	演習	4・1	1	12023
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	美表4・美表3	ブシャー シルベ	講義	4・3	1	12024
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	美表1	上之原 博 子	演習	1	1	12025
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	美表4・美表3	上之原 博 子	演習	4・3	1	12026
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	美表1	ブシャー シルベ	演習	1	1	12027
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	美表1	ブシャー シルベ	演習	1	1	12028
K-1-d-07-1	中国語	前期	美表1	清 水 浩一郎	演習	1	1	12029
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	美表1	佐 藤 恵 美	講義	1	2	12030
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	美表1	佐 藤 恵 美	講義	1	2	12031
K-1-d-10-1	情報基礎学 必修	前期	美表1	松 尾 広	講義	1	2	12032
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	美表1	酒 井 正 彦	実技	1	2	12033
k-1-e-02-1	スポーツと食事	後期	美表1	川 俣 幸 一	講義	1	1	12045
K-1-f-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	美表1	佐々木 輝 子	演習	1	1	12034
				虎 尾 裕				
				教職員				
K-1-f-02-2	ライフデザイン 必修	後期	美表1	佐々木 晃	演習	1	1	12035
D-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	美表2	伊 勢 周 平	演習	2	1	12036
				落 合 里 麻				
D-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	通年	美表3	落 合 里 麻	演習	3	1	12037
				伊 勢 周 平				
D-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	美表3	石 田 顕 之	演習	3	1	12038
D-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	美表3	行 貞 公 博	演習	3	1	12041
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	後期	美表3	鈴 木 専	演習	3	1	12042
				教職員				
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	美表4	鈴 木 専	演習	4	1	12043
				教職員				

2025年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専門科目

ナンバ・リンク*	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-a-01-1-1	絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。） 必修	前期	美表1	鈴 木 専	実技	1	2	12101
				伊 勢 周 平				
D-3-a-02-1-1	絵画基礎Ⅱ	後期	美表1	伊 勢 周 平	実技	1	2	12102
				鈴 木 専				
D-3-a-03-1-1	彫刻基礎Ⅰ 必修	前期	美表1	虎 尾 裕	実技	1	2	12103
D-3-a-04-1-1	彫刻基礎Ⅱ	後期	美表1	虎 尾 裕	実技	1	2	12104
D-3-a-05-1-1	工芸基礎Ⅰ（プロダクト制作を含む。） 必修	前期	美表1	立 花 布美子	実技	1	2	12105
				佐々木 輝 子				
				長谷部 嘉 勝				
D-3-a-06-1-1	工芸基礎Ⅱ	後期	美表1	立 花 布美子	実技	1	2	12106
				佐々木 輝 子				
				長谷部 嘉 勝				
D-3-a-07-1-1	デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。） 必修	前期	美表1	三 上 秀 夫	実技	1	2	12107
				落 合 里 麻				
D-3-a-08-1-1	デザイン基礎Ⅱ	後期	美表1	三 上 秀 夫	実技	1	2	12108
				落 合 里 麻				
D-3-a-09-1-1	メディア芸術基礎	後期	美表1	鈴 木 専	実技	1	2	12109
				鶴 巻 史 子				
D-3-b-01-2-2	洋画Ⅰ	前期	美表2	伊 勢 周 平	実技	2	2	12110
				鈴 木 専				
D-3-b-02-2-2	洋画Ⅱ	後期	美表2	伊 勢 周 平	実技	2	2	12111
				鈴 木 専				
D-3-b-03-3-3	洋画Ⅲ	前期	美表3	伊 勢 周 平	実技	3	2	12112
				鈴 木 専				
D-3-b-04-4-3	洋画Ⅳ	後期	美表3	伊 勢 周 平	実技	3	2	12113
				鈴 木 専				
D-3-b-05-2-2	日本画Ⅰ	前期	美表2	數 本 冨英佳	実技	2	2	12114
D-3-b-06-2-2	日本画Ⅱ	後期	美表2	數 本 冨英佳	実技	2	2	12115
D-3-b-07-3-3	日本画Ⅲ	前期	美表3	只 野 彩 佳	実技	3	2	12116
D-3-b-08-4-3	日本画Ⅳ	後期	美表3	只 野 彩 佳	実技	3	2	12117
D-3-b-09-2-2	彫刻Ⅰ	前期	美表2	虎 尾 裕	実技	2	2	12118
D-3-b-10-2-2	彫刻Ⅱ	後期	美表2	虎 尾 裕	実技	2	2	12119
D-3-b-11-3-3	彫刻Ⅲ	前期	美表3	虎 尾 裕	実技	3	2	12120
D-3-b-12-4-3	彫刻Ⅳ	後期	美表3	虎 尾 裕	実技	3	2	12121
D-3-c-01-2-2	陶芸Ⅰ	前期	美表2	立 花 布美子	実技	2	2	12122
D-3-c-02-2-2	陶芸Ⅱ	後期	美表2	立 花 布美子	実技	2	2	12123
D-3-c-03-3-3	陶芸Ⅲ	前期	美表3	立 花 布美子	実技	3	2	12124
D-3-c-04-4-3	陶芸Ⅳ	後期	美表3	立 花 布美子	実技	3	2	12125
D-3-c-05-2-2	漆芸Ⅰ	前期	美表2	長谷部 嘉 勝	実技	2	2	12126
D-3-c-06-2-2	漆芸Ⅱ	後期	美表2	長谷部 嘉 勝	実技	2	2	12127
D-3-c-07-3-3	漆芸Ⅲ	前期	美表3	長谷部 嘉 勝	実技	3	2	12128
D-3-c-08-4-3	漆芸Ⅳ	後期	美表3	長谷部 嘉 勝	実技	3	2	12129
D-3-c-09-2-2	染織Ⅰ	前期	美表2	佐々木 輝 子	実技	2	2	12130
D-3-c-10-2-2	染織Ⅱ	後期	美表2	佐々木 輝 子	実技	2	2	12131
D-3-c-11-3-3	染織Ⅲ	前期	美表3	佐々木 輝 子	実技	3	2	12132
D-3-c-12-4-3	染織Ⅳ	後期	美表3	佐々木 輝 子	実技	3	2	12133
D-3-d-01-2-2	視覚デザインⅠ	前期	美表2	三 上 秀 夫	実技	2	2	12134
D-3-d-02-2-2	視覚デザインⅡ	後期	美表2	三 上 秀 夫	実技	2	2	12135
D-3-d-03-3-3	視覚デザインⅢ	前期	美表3	三 上 秀 夫	実技	3	2	12136
D-3-d-04-4-3	視覚デザインⅣ	後期	美表3	三 上 秀 夫	実技	3	2	12137

2025年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専門科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-d-05-2-2	情報デザインⅠ	前期	美表2	鶴 巻 史 子	実技	2	2	12138
D-3-d-06-2-2	情報デザインⅡ	後期	美表2	鶴 巻 史 子	実技	2	2	12139
D-3-d-07-3-3	情報デザインⅢ	前期	美表3	鶴 巻 史 子	実技	3	2	12140
D-3-d-08-4-3	情報デザインⅣ	後期	美表3	鶴 巻 史 子	実技	3	2	12141
D-3-d-09-2-2	プロダクトデザインⅠ	前期	美表2	落 合 里 麻	実技	2	2	12142
D-3-d-10-2-2	プロダクトデザインⅡ	後期	美表2	落 合 里 麻	実技	2	2	12143
D-3-d-11-3-3	プロダクトデザインⅢ	前期	美表3	落 合 里 麻	実技	3	2	12144
D-3-d-12-4-3	プロダクトデザインⅣ	後期	美表3	落 合 里 麻	実技	3	2	12145
D-3-e-01-2-2	マンガⅠ	前期	美表2	鹿 野 明 子	実技	2	2	12146
D-3-e-02-2-2	マンガⅡ	後期	美表2	佐々野 まりえ	実技	2	2	12147
D-3-e-03-3-3	マンガⅢ	前期	美表3	佐々野 まりえ	実技	3	2	12148
D-3-e-04-4-3	マンガⅣ	後期	美表3	鹿 野 明 子	実技	3	2	12149
D-3-e-05-2-2	アニメーションⅠ	前期	美表2	鈴 木 専	実技	2	2	12150
				伊 勢 周 平				
D-3-e-06-2-2	アニメーションⅡ	後期	美表2	鈴 木 専	実技	2	2	12151
				伊 勢 周 平				
D-3-e-07-3-3	アニメーションⅢ	前期	美表3	鈴 木 専	実技	3	2	12152
				伊 勢 周 平				
D-3-e-08-4-3	アニメーションⅣ	後期	美表3	鈴 木 専	実技	3	2	12153
				伊 勢 周 平				
D-3-e-09-2-2	コンテンツデザインⅠ	前期	美表2	和 田 冬 樹	実技	2	2	12154
D-3-e-10-2-2	コンテンツデザインⅡ	後期	美表2	和 田 冬 樹	実技	2	2	12155
D-3-e-11-3-3	コンテンツデザインⅢ	前期	美表3	和 田 冬 樹	実技	3	2	12156
D-3-e-12-4-3	コンテンツデザインⅣ	後期	美表3	和 田 冬 樹	実技	3	2	12157
D-3-f-01-1-1	色彩学	前期	美表1	鹿 野 明 子	講義	1	2	12158
D-3-f-02-1-1	美術史Ⅰ	前期	美表1	大 嶋 貴 明	講義	1	2	12159
D-3-f-03-2-1	美術史Ⅱ	後期	美表1	大 嶋 貴 明	講義	1	2	12160
D-3-f-04-1-2	デザイン概論	後期	美表2	三 上 秀 夫	講義	2	2	12161
D-3-f-05-1-2	美学Ⅰ	前期	美表2	森 田 優 子	講義	2	2	12162
D-3-f-06-2-2	美学Ⅱ	後期	美表2	森 田 優 子	講義	2	2	12163
D-3-f-07-1-2	美術鑑賞Ⅰ	後期	美表2	大 嶋 貴 明	講義	2	2	12164
D-3-f-08-2-4	美術鑑賞Ⅱ	通年	美表4	大 嶋 貴 明	講義	4	4	12165
D-3-f-09-2-3	メディア芸術論 必修	前期	美表3	伊 勢 周 平	講義	3	2	12166
D-3-f-10-2-3	地域工芸論 必修	後期	美表3	佐 藤 雅 也	講義	3	2	12167
D-3-f-11-1-2	論文演習Ⅰ	前期	美表2	山 口 刀 也	演習	2	1	12168
				伊 勢 周 平				
D-3-f-12-2-2	論文演習Ⅱ	後期	美表2	山 口 刀 也	演習	2	1	12169
				伊 勢 周 平				
D-3-f-13-3-3	論文演習Ⅲ	前期	美表3	山 口 刀 也	演習	3	1	12170
				伊 勢 周 平				
D-3-f-14-4-3	論文演習Ⅳ	後期	美表3	山 口 刀 也	演習	3	1	12171
				伊 勢 周 平				
D-3-g-01-1-2	製図Ⅰ	前期	美表2	湯 目 俊 彦	演習	2	1	12172
D-3-g-02-1-2	製図Ⅱ	後期	美表2	湯 目 俊 彦	演習	2	1	12173
D-3-g-03-2-3	図学Ⅰ	前期	美表3	湯 目 俊 彦	演習	3	1	12174
D-3-g-04-2-3	図学Ⅱ	後期	美表3	湯 目 俊 彦	演習	3	1	12175
D-3-g-05-1-4	インテリアデザインⅠ	前期	美表4	湯 目 俊 彦	演習	4	1	12176
D-3-g-06-1-4	インテリアデザインⅡ	後期	美表4	湯 目 俊 彦	演習	4	1	12177
D-3-g-07-1-4	写真Ⅰ	前期	美表4	飯 沢 耕太郎	演習	4	1	12178
D-3-g-08-1-4	写真Ⅱ	後期	美表4	飯 沢 耕太郎	演習	4	1	12179

2025年度 シラバス科目情報一覧

美術学部 美術表現学科専門科目

ナンバ・リンク*	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
D-3-g-09-1-1	美術特別講義Ⅰ	前期	美表1	立 花 布美子	講義	1	1	12180
				落 合 里 麻				
D-3-g-10-1-1	美術特別講義Ⅱ	前期	美表1	伊 藤 恵 夫	講義	1	1	12181
D-3-g-11-1-2	美術特別講義Ⅲ	前期			講義		1	12182
D-3-g-11-1-2	美術特別講義Ⅲ	前期	美表2	佐 藤 一 郎	講義	2	1	12183
D-3-g-12-1-2	美術特別講義Ⅳ	後期	美表2	小野寺 良 枝	講義	2	1	12184
D-3-g-12-1-2	美術特別講義Ⅳ	後期			講義		1	12185
D-3-g-13-1-4	美術特別講義Ⅴ	前期	美表4	三 浦 誠	講義	4	1	12186
D-3-g-14-1-4	美術特別講義Ⅵ	後期	美表4	中 村 真	講義	4	1	12187
D-3-g-15-1-3	美術教諭試験対策講座Ⅰ	後期	美表3	佐々木 晃	講義	3	2	12188
D-3-g-16-2-4	美術教諭試験対策講座Ⅱ	前期	美表4	佐々木 晃	講義	4	2	12189
D-3-g-17-2-3	版画Ⅰ	前期	美表3	三 浦 忠 士	実技	3	2	12190
D-3-g-18-2-3	版画Ⅱ	後期	美表3	三 浦 忠 士	実技	3	2	12191
D-3-g-19-2-3	壁画Ⅰ	前期	美表3	森 敏 美	実技	3	2	12192
D-3-g-20-2-3	壁画Ⅱ	後期	美表3	森 敏 美	実技	3	2	12193
D-3-g-21-2-3	人形Ⅰ	前期	美表3	山 内 一 実	実技	3	2	12194
D-3-g-22-2-3	人形Ⅱ	後期	美表3	山 内 一 実	実技	3	2	12195
D-3-g-23-2-3	ガラスアートⅠ	前期	美表3	山 口 綾 子	実技	3	2	12196
D-3-g-24-2-3	ガラスアートⅡ	後期	美表3	山 口 綾 子	実技	3	2	12197
D-3-h-01-1-1	地域創生演習Ⅰ 必修	前期	美表1	伊 勢 周 平	演習	1	2	12198
D-3-h-02-1-1	地域創生演習Ⅱ 必修	後期	美表1	三 浦 忠 士	演習	1	2	12199
D-3-h-03-2-2	地域創生演習Ⅲ	前期	美表2	三 浦 忠 士	演習	2	2	12200
D-3-h-04-2-2	地域創生演習Ⅳ	後期	美表2	三 浦 忠 士	演習	2	2	12201
D-3-h-05-3-3	地域創生演習Ⅴ	前期	美表3	三 浦 忠 士	演習	3	2	12202
D-3-h-06-3-3	地域創生演習Ⅵ	後期	美表3	三 浦 忠 士	演習	3	2	12203
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	三 上 秀 夫	演習	4	6	12204
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鶴 巻 史 子	演習	4	6	12205
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鈴 木 専	演習	4	6	12206
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	伊 勢 周 平	演習	4	6	12207
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	立 花 布美子	演習	4	6	12208
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	佐々木 輝 子	演習	4	6	12209
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	落 合 里 麻	演習	4	6	12210
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ	前期			演習		6	12211
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	虎 尾 裕	演習	4	6	12212
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	森 敏 美	演習	4	6	12213
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	長谷部 嘉 勝	演習	4	6	12214
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	山 口 綾 子	演習	4	6	12215
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	山 内 一 実	演習	4	6	12216
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	鹿 野 明 子	演習	4	6	12217
D-3-h-07-5-4	卒業研究Ⅰ 必修	前期	美表4	只 野 彩 佳	演習	4	6	12218
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	三 上 秀 夫	演習	4	6	12219
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	鶴 巻 史 子	演習	4	6	12220
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	鈴 木 専	演習	4	6	12221
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	伊 勢 周 平	演習	4	6	12222
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	立 花 布美子	演習	4	6	12223
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	佐々木 輝 子	演習	4	6	12224
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	落 合 里 麻	演習	4	6	12225
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ	後期			演習		6	12226
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	虎 尾 裕	演習	4	6	12227
D-3-h-08-5-4	卒業研究Ⅱ 必修	後期	美表4	森 敏 美	演習	4	6	12228

美術学部 美術表現学科専門科目

[illegible]

教職に関する科目

[illegible]

2025年度 シラバス科目情報一覧

博物館に関する科目

[illegible]

大学 共通 教養 科目

化学Ⅰ

(12001)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

伊豆田 友 美

■ 授業の概要

化学とは、物質の性質やその変化を明らかにしていく学問である。まず、私たちの身の回りに存在する物質がどのような粒子でできているのかを教授する。また、研究や発見について歴史的な逸話を加え、化学がどのように発展してきたのかを教授する。さらに、化学反応の量的関係や化学反応の代表例である酸と塩基の反応と酸化還元反応について日常生活に応用されている例を取り上げ、日常生活と関連付けるように解説する。理解を深めるために、化学の問題を解くことを課する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学の基本的知識を十分に理解する。	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・身近な現象を化学的に理解する力を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業概要、化学とは？	化学の起源について調べる。配布されたプリントを精読する。
第2回 測定の体系	7つの基本単位を理解する。配布されたプリントを精読する。教科書「第1章」14～29頁に目を通す。
第3回 原子構造	教科書「第1章」14～29頁を精読する。教科書「第1章」29～56頁に目を通す。
第4回 化学反応と物質の量	教科書「第1章」29～56頁を精読する。教科書「第2章」57～62頁に目を通す。
第5回 原子と原子の結びつき①イオンとは？	教科書「第2章」57～62頁を精読する。教科書「第2章」63～90頁に目を通す。
第6回 原子と原子の結びつき②様々な化学結合	教科書「第2章」63～90頁を精読する。教科書「第3章」91～109頁に目を通す。
第7回 物質の状態①物質の三態	教科書「第3章」91～109頁を精読する。教科書「第3章」110～122頁に目を通す。
第8回 物質の状態②気体の性質	教科書「第3章」110～122頁を精読する。教科書「第3章」123～144頁に目を通す。
第9回 物質の状態③溶液	教科書「第3章」123～144頁を精読する。教科書「第4章」145～153頁に目を通す。
第10回 化学反応と熱の出入り	教科書「第4章」145～153頁を精読する。教科書「第4章」154～167頁に目を通す。
第11回 反応速度と化学平衡	教科書「第4章」154～167頁を精読する。教科書「第4章」168～182頁に目を通す。
第12回 酸と塩基の反応	教科書「第4章」168～182頁を精読する。教科書「第4章」183～209頁に目を通す。
第13回 酸化還元反応	教科書「第4章」183～209頁を精読する。教科書「第4章」210～224頁に目を通す。
第14回 空気の酸性化	教科書「第4章」210～224頁を精読する。
第15回 総括	これまでの学習内容を振り返る。
第16回 本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する。

■ 履修上の注意

授業終了時に小テストを行うので振り返りを大切にする。事前事後には指定教科書に目を通すこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テスト等総合的に判断する）で評価します。小テストについては、次の授業内でフィードバックとします。

■ 教科書

〔新しい高校化学の教科書〕 〔左巻健男〕 〔ブルーバックス〕 〔定価1300円(税別)〕

■ 参考書

必要に応じて紹介する．

■ 備考

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける．評価と授業の進め方は1回目の授業で説明する．5回を超えて欠席した者は評価の対象としない．

化学Ⅱ

(12002)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

化学Ⅰで学んだ知識に基づき、日常生活に応用している例題を多く取り上げて、私たちの生活と化学の関わりについて教授する。まず、物質の成り立ちやそれに基づく性質について教授する。特に化学結合の仕組みについて重点的に解説する。さらに、無機化合物および有機化合物について個々に解説し、それぞれの違いについてを教授する。最後に、科学技術の発展に伴う環境問題について取り扱い、化学が果たす役割について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学と生活のかかわりを十分に理解する。	0.6	0.1		0.1				0.1	0.1
・化学的な視点で物を捉える力を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業概要，化学Ⅰの復習	教科書「第1章～第4章」13～224頁を復習する。 教科書「第5章」225～262頁に目を通す。
第2回 無機化合物①金属元素と非金属元素	教科書「第5章」225～229頁を精読する。教科書「第5章」230～245頁に目を通す。
第3回 無機化合物②非金属元素の単体と化合物	教科書「第5章」229～245頁を精読する。教科書「第5章」246～262頁に目を通す。
第4回 無機化合物③金属元素の単体と化合物	教科書「第5章」245～262頁を精読する。教科書「第6章」243～275頁に目を通す。
第5回 有機化合物①有機化合物とは？	教科書「第6章」242～275頁を精読する。教科書「第6章」276～292頁に目を通す。
第6回 有機化合物②脂肪族炭化水素	教科書「第6章」275～292頁を精読する。教科書「第6章」293～301頁に目を通す。
第7回 有機化合物③芳香族化合物	教科書「第6章」292～301頁を精読する。教科書「第6章」302～313頁に目を通す。
第8回 有機化合物④アルコール，アルデヒド，ケトンなどの有機化合物	教科書「第6章」301～313頁を精読する。教科書「第7章」315～328頁に目を通す。
第9回 高分子化合物①天然高分子化合物	教科書「第7章」315～328頁を精読する。教科書「第7章」329～339頁に目を通す。
第10回 高分子化合物②合成高分子化合物	教科書「第7章」328～339頁を精読する。教科書「第8章」341～359頁に目を通す。
第11回 人間と化学のかかわり①生活と化学	教科書「第8章」341～359頁を精読する。教科書「第8章」360～367頁に目を通す。
第12回 人間と化学のかかわり②水環境と化学	教科書「第8章」359～367頁を精読する。教科書「第8章」368～386頁に目を通す。
第13回 人間と化学のかかわり③フロンとオゾン層	教科書「第8章」367～386頁を精読する。教科書「第8章」387～404頁に目を通す。
第14回 人間と化学のかかわり④生命と化学	教科書「第8章」386～404頁を精読する。
第15回 総括	これまでの学習内容を振り返る。
第16回 本試験	全ての範囲の学習内容の理解度を確認する。

■ 履修上の注意

化学Ⅰを履修しておくこと。事前事後には指定教科書に目を通すこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験(50%)と平常点・受講態度(50%)（毎回行う小テスト等総合的に判断する）で評価します。小テストについては、次の授業内でフィードバックとします。

■ 教科書

〔新しい高校化学の教科書〕〔左巻健男〕〔ブルーバックス〕〔定価1300円(税別)〕

■ 参考書

必要に応じて紹介する.

■ 備考

質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける. 評価と授業の進め方は1回目の授業で説明する. 5回を超えて欠席した者は評価の対象としない.

有機化学

(12003)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

小 川 智 久

■ 授業の概要

身の回りの物質の中でも、衣食住のあらゆる場面に存在する有機化合物について、分子レベルで理解するため、また生命現象を分子レベルで理解するため、生体成分をはじめとする物質の分子構造およびその構造を組み立てている結合の特徴、性質を理解することに重点をおく。

有機化学の基礎、特に有機化合物の電子配置に基づく反応性と化学結合、官能基の性質、立体化学を中心に講義し、生体成分や食品、医薬、プラスチック・高分子繊維素材など身の回りの物質（有機化合物）の特性を理解する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・有機化合物を分子式、構造式として理解できるようになる。	0.6	0.1	0.1	0.1					0.1
・有機化合物の反応性を官能基や化学結合の特性、立体化学から理解できるようになる。									
・生体成分や食品、高分子繊維などの有機化合物の構造から、その特性を理解できるようになる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 序論 身の回りの物質 有機と無機 元素周期表 電気陰性度	教科書指定ページの熟読（教科書序章：1-15ページ）
第2回 原子の構造と化学結合	教科書指定ページの熟読（教科書8章：188-214ページ）
第3回 有機化合物の特徴と分類、分子式・示性式・構造式	教科書指定ページの熟読（教科書3章：52-65、1章：16-29ページ）
第4回 飽和炭化水素（アルカン）の構造と性質	教科書指定ページの熟読（教科書2章：30-51、4章：66-79ページ）
第5回 不飽和炭化水素（アルケン・アルキン）の構造と性質	教科書指定ページの熟読（教科書5章：140-151ページ）
第6回 アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン	教科書指定ページの熟読（教科書4章：88-105、5章：140-151ページ）
第7回 アミン、カルボン酸、アミド、エステル、芳香族化合物	教科書指定ページの熟読（教科書4章：80-87、5章：122-139、6章：152-167ページ）
第8回 第1回-7回講義の復習・中間試験	第1回-7回講義の復習
第9回 有機化学反応の基礎 電子の移動（求核剤・求電子）、反応機構、共鳴構造	教科書指定ページの熟読（教科書8章：208-229、4章：103-105、5章：113-120ページ）
第10回 有機化学反応1 付加反応・脱離反応・置換反応・転移反応	教科書指定ページの熟読（教科書4章：103-105、5章：113-120ページ）
第11回 有機化学反応2 SN1とSN2 立体化学	教科書指定ページの熟読（教科書4章：103-105、5章：113-120ページ）、補足資料の熟読
第12回 有機化合物の立体化学	教科書指定ページの熟読（教科書7章：168-170、付録1：230-246ページ）
第13回 生体分子の有機化学1 アミノ酸、糖	教科書指定ページの熟読（教科書7章：168-186ページ）
第14回 生体分子の有機化学2 脂質、その他	教科書指定ページの熟読（教科書7章：168-186ページ）
第15回 高分子化合物 プラスチック・繊維	補足資料の熟読
第16回 期末試験	第1回-15回講義の復習

■ 履修上の注意

教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。補足資料は講義時に配布する。

■ 成績評価方法・基準

出席・受講態度（発言・質問）40%、試験（小テスト含む）60%を基準として総合的に評価する。

希望する学生がいれば、本人の採点済試験答案を開示する。試験に対するフィードバックとして、全体的に理解が不十分な項目については、Googleクラスルームを介して、補足説明をおこなう。

■ 教科書

「有機化学基礎の基礎 第3版」[立屋敷哲][丸善株式会社] ISBN 978-4-621-31082-3

■ 参考書

必要に応じて講義中に示す。

■ 備考

質問に関してはオフィスアワーのほか、授業終了後に申し出てもらいあらかじめ時間を調整して受け付ける。またメールやクラスルームを介しての質問も受け付ける。

有機化学Ⅱ

(12004)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

小 川 智 久

■ 授業の概要

身の回りの物質の中でも、衣食住のあらゆる場面に存在する有機化合物について、分子レベルで理解するため、また生命現象を分子レベルで理解するため、生体成分をはじめとする物質の分子構造およびその構造を組み立てている結合の特徴、性質を理解することに重点をおく。

有機化学の基礎、特に有機化合物の電子配置に基づく反応性と化学結合、官能基の性質、立体化学を中心に講義し、生体成分や食品、医薬、プラスチック・高分子繊維素材など身の回りの物質（有機化合物）の特性を理解する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・有機化合物の反応性を官能基や化学結合の特性、立体化学から理解できるようにする。	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・生体成分や食品、高分子繊維などの有機化合物の構造から、その特性を理解できるようにする。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 序論1 身の回りの物質 有機と無機 元素周期表	教科書の指定ページの熟読（教科書序章：1-15ページ）
第2回 序論2 原子の構造と化学結合 電気陰性度	教科書の指定ページの熟読（教科書8章：188-214ページ）
第3回 有機化合物の特徴と分類、分子式・示性式・構造式	教科書の指定ページの熟読（教科書3章：52-65ページ、1章：16-29ページ）
第4回 飽和炭化水素と不飽和炭化水素の構造と性質	教科書の指定ページの熟読（教科書2章：30-51、4章：66-79、5章：140-151ページ）
第5回 アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン	教科書の指定ページの熟読（教科書4章：88-105、5章：140-151ページ）
第6回 アミン、カルボン酸、アミド、エステル	教科書の指定ページの熟読（教科書4章：80-87、5章：122-139ページ）
第7回 芳香族化合物	教科書の指定ページの熟読（教科書6章：152-167ページ）
第8回 第1回-第7回講義の復習・中間試験	第1回-第7回講義の復習
第9回 有機化学反応の基礎 電子の移動（求核剤・求電子）、反応機構、共鳴構造	教科書の指定ページの熟読（教科書8章：208-229、4章：103-105、5章：113-120ページ）
第10回 有機化学反応1 付加反応・脱離反応・置換反応・転移反応	教科書の指定ページの熟読（教科書4章：103-105、5章：113-120ページ）
第11回 有機化学反応2 SN1とSN2 立体化学	教科書の指定ページの熟読（教科書4章：103-105、5章：113-120ページ）、補足資料の熟読
第12回 有機化合物の立体化学	教科書の指定ページの熟読（教科書7章：168-170、付録1：230-246ページ）
第13回 生体分子の有機化学1 アミノ酸、ペプチド	教科書の指定ページの熟読（教科書7章：168-186ページ）
第14回 生体分子の有機化学2 糖、脂質	教科書の指定ページの熟読（教科書7章：168-186ページ）
第15回 高分子化合物 プラスチック・繊維	補足資料の熟読
第16回 期末試験	第1回-第15回講義の復習

■ 履修上の注意

教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

出席・受講態度（発言・質問）40%、試験（小テスト含む）60%を基準として総合的に評価する。

希望する学生がいれば、本人の採点済試験答案を開示する。試験に対するフィードバックとして、全体的に理解が不十分な

項目については、Googleクラスルームを介して、補足説明をおこなう。

■ 教科書

「有機化学基礎の基礎 第3版」[立屋敷哲][丸善株式会社] ISBN 978-4-621-31082-3

■ 参考書

必要に応じて講義中に示す。

■ 備考

質問に関してはオフィスアワーのほか、授業終了後に申し出てもらいあらかじめ時間を調整して受け付ける。またメールやクラスルームを介しての質問も受け付ける。

生物学Ⅰ

(12005)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。

地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 植物の進化（植物の誕生）	植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 植物の進化（裸子植物の進化）	裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 植物の進化（被子植物の進化）	被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 哺乳類の誕生	哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 昆虫の進化（昆虫の誕生）	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 昆虫の進化（昆虫の情報戦略）	昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 昆虫の進化（昆虫の共進化）	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

生物学Ⅱ

(12006)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 生命の誕生	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 骨・筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 肝臓	肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 胃・腸	胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 脳と心（知覚）	脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 脳と心（記憶）	脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 脳と心（こころの進化）	脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 遺伝子（日本人のルーツ）	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 遺伝子（精神の設計図）	遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 生物多様性と保全	生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 試験	

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

環境学

(12007)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

高 瀬 清 美

■ 授業の概要

人間活動により、気候変動、大気汚染、水質汚濁、海洋汚染等の様々な環境問題が引き起こされている。これらの問題は、私たち一人一人の日常生活や経済活動にも深く根ざしており、その影響は地球規模で広がっている。本講義では、環境問題の現状とその発生原因について学び、それらを評価・改善していくための方策について理解を深めるとともに、持続可能な社会の実現に不可欠な環境学の基礎的素養を身につけ未来の環境課題に対応する力を養う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・環境保全に関する全般的な知識を習得する。	0.6	0.4							
・授業で取り上げる様々な環境問題に対して、各自の意見が述べられるようにする。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション 環境学とは？	事前：シラバスをよく読み、授業の内容を把握する。 事後：授業内容の復習をする。
第2回 人類による環境汚染・環境破壊の歴史① 四大公害病について	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第3回 人類による環境汚染・環境破壊の歴史② その他の重大な環境汚染	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第4回 化学物質による汚染 農薬、ダイオキシン、内分泌攪乱物質など	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第5回 大気の汚染 大気汚染物質、オゾン層破壊、酸性雨など	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第6回 水環境の変化 富栄養化と水質汚濁、貧酸素化、マイクロプラスチックなど	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第7回 地球温暖化と気候変動	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第8回 生物多様性の減少	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第9回 身近な公害	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第10回 人口増加と資源の枯渇① その要因と具体例	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第11回 人口増加と資源の枯渇② 対策として行われていること	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第12回 生態系サービスと人類の福利	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第13回 環境保全・修復技術とSDGs ① SDGsとは、その取り組み	事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。

第14回 環境保全・修復技術とSDGs ② 地域の取り組みの紹介	事後：授業内容の復習をする。 事前：インターネット、テレビ、書籍等から関連した話題を収集し目を通しておく。 事後：授業内容の復習をする。
第15回 総括	事前：これまでの授業内容の復習をする。 事後：様々な問題に対して、自分の言葉で意見を述べるができるようにする。
第16回 期末試験	これまでの授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

日常生活において、環境問題や保全に係わる情報に注意、関心を向けるよう心掛けてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（発言、質問、ミニットペーパーへの取り組み等から総合的に判断する）：60%、期末試験：40%として評価します。
- ・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・特になし
- ・講義内で資料を配布します。

■ 参考書

授業時間内に適宜紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

統計学

単位（総授業時間＋自習時間）： 2（30+60）
対象学科：服専4年・健専1年・美表4年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
科目種類：家政学科 大学共通教養科目・美術表現学科 大学共通教養科目
担当者名：五十嵐 有 香

■ 授業の概要

本講義では、集団の特性を把握するために不可欠な統計学の基礎を学びます。データの収集方法や調査票の作成から記述統計（平均・分散等）や推測統計（検定等）を扱う。あわせて、表やグラフを用いたデータの可視化についても取り上げ、情報を分かりやすく整理することについて説明をする。具体的な事例を交えながら、統計学的なものの見方や考え方を身に付けていく。

■ 授業の到達目標		学位授与の方針との関連
・統計学の基礎的な概念や用語について説明できるようになる。 ・基本的な統計指標（平均、割合）や表やグラフを用いて、データから情報を的確に読み取ることができるようになる。		
■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第1回	ガイダンス、研究プロセス	教科書第1章Ⅰ～Ⅱを読む。
第2回	データ収集・分析方法の決定	教科書第1章Ⅲ～Ⅴを読む。
第3回	変数とはなにか	教科書第2章Ⅰ～Ⅱを読む。
第4回	変数の測定	教科書第2章Ⅲを読む。
第5回	測定値の水準と妥当性・信頼性	教科書第2章Ⅳ～Ⅵを読む。
第6回	調査対象の選定	教科書第3章Ⅰを読む。
第7回	データ収集の方法と調査票の作成	教科書第3章Ⅱ～Ⅲを読む。
第8回	実験計画と進め方	教科書第4章を読む。
第9回	1変数の分析（平均、標準偏差等）	教科書第5章Ⅰ～Ⅱを読む。
第10回	1変数の分析（中央値、最頻値等）	教科書第5章Ⅰ～Ⅱを読む。
第11回	2変数の分析（クロス集計表）	教科書第5章Ⅲを読む。
第12回	2変数の分析（相関係数、回帰直線）	教科書第5章Ⅳを読む。
第13回	推定と検定の考え方	教科書第6章Ⅰ～Ⅲを読む。
第14回	平均値の差の検定（t検定）とクロス表の関連度の検定（ χ^2 検定）	教科書第6章Ⅳを読む。
第15回	層別化分析と統計分析の展開	教科書第7章Ⅰ～Ⅱを読む。

■ 履修上の注意

板書を中心に講義を進めるため、ノート等を持参すること。

■ 成績評価方法・基準

末期試験（70％）・授業態度（30％）
試験については、試験終了後に模範解答を配布する。

■ 教科書

実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方 ワールドプランニング 3,025円

■ 参考書

講義内で適宜紹介する。

■ 備考

都合により、授業計画の順番等は変更することがある。
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

データサイエンス数学

(12009)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

池田 展 敏

■ 授業の概要

AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）など、ビッグデータを利活用した技術が社会生活を変革しつつある。データサイエンスは、データ分析を通じ、課題解決や意思決定につながる情報や知見などを提供する。この授業では、AIやIoTを利用したデータサイエンスの発展により社会で起きている変化について学び、将来、私たちがそれらをどのように活用すべきかを考える。また、データサイエンスの基礎となる数学を学ぶことで、受け身でなく、自らの意思で、データサイエンスの活用にアプローチできる素養を養う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等の場で使うための基礎的素養を身につける。
- ・自らの意思でAI等の恩恵を享受し、説明し、活用できるようになる。
- ・データ解析に必要な数学の概要を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. なぜデータサイエンスが必要なのか―社会におけるデータ・AI利活用 ①データ・AI利活用により社会で起きている変化（最新動向）	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第2回	1. なぜデータサイエンスが必要なのか②データ・AIの利活用のための技術と活用領域	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第3回	2. データの種類と収集について ③データの種類と社会で活用されているデータ	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第4回	2. データの種類と収集について④データの収集例（統計調査から画像認識まで）ダウンロードサイトからのデータ収集	配布資料の復習。インターネットによる調べ学習。
第5回	3. 基礎となる数学 ⑤関数とは？変化の表現 一次関数、2次関数、指数関数、対数関数	配布資料の復習。配布課題の提出。
第6回	3. 基礎となる数学 ⑥集合・ベン図、確率の応用	配布資料の復習。配布課題の提出。
第7回	4. データ解析のいろいろ ⑦いろいろな分布と代表値・散布度（統計学1）	配布資料の復習。配布課題の提出。
第8回	4. データ解析のいろいろ ⑧ いろいろなグラフ	配布資料の復習。配布課題の提出。
第9回	4. データ解析のいろいろ ⑨ エクセルに見るデータ解析	配布資料の復習。
第10回	4. データ解析のいろいろ ⑩ 散布図と回帰分析、その他の分析（数量化）	配布資料の復習。配布課題の提出。
第11回	4. データ解析のいろいろ ⑪ 時系列（トレンドを見る。ジグザグ度を見る（自己相関））	配布資料の復習。配布課題の提出。
第12回	4. データ解析のいろいろ ⑫ テキストマイニング、ネットワーク科学	配布資料の復習。
第13回	5. 身近なデータ収集と活用方法 ⑬ ブレーンストーミング	配布資料の復習。ワークシートの完成。
第14回	5. 身近なデータ収集と活用方法 ⑭ SWOT分析、KJ法	配布資料の復習。グループワークの分析。
第15回	6. データ・AI利活用における留意事項 ⑮ データ・AIを利活用したり守ったりする上で知っておくべきこと	配布資料の復習。
第16回	期末試験	試験範囲を復習しておくこと。

■ 履修上の注意

一部の講義は集中講義となるので、注意してください。
 PCを使う場合があるので、必要に応じ持参してください。
 クラスルームを使って諸連絡を行いますので、必ず活用してください。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（コメントシートなどの提出、提出課題、グループワークへの参加度など）：60%、 期末試験：40%。
 提出物はコメントをつけて返却、期末試験も返却します。

■ 教科書

授業時、またはクラスルームで、必要な資料を配布します。

■ 参考書

[データサイエンスリテラシー][高橋弘毅・市坪誠・河合孝純・山口敦子][実況出版][2, 530円]

■ 備考

質問については、授業終了後、または、クラスルームで受け付けます。

経済学

(12010)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

沢田 拓哉

■ 授業の概要

日本は、戦後から高度経済成長を通じて経済大国となったが、バブル崩壊、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症など経済・社会に多大な影響を受ける経験をしてきた。一方で世界に目を向けるとグローバル社会からの転換期として各国で様々な問題が発生しており、日本もその影響を強く受けることが予想される。本講義では経済学の基礎的知識を解説し、一国経済と国民の日常生活との関係から、内外の経済問題に対応するための知識に結びつけて考えていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・経済学を学習する上で必要な基礎知識とその概念について身につける。	0.6	0.4							
・社会人として必要な専門性や制度的な知識を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス・イントロダクション	経済学の考え方を共有し、次回提出する。
第2回 経済学で用いる数学的なセットアップ	復習し、計算の仕方等を理解・活用できるようにする。
第3回 余剰と市場の失敗①～消費者行動～	消費者の行動の内容を復習し、マスターする
第4回 余剰と市場の失敗②～企業行動～	企業の行動を理解し、消費者との違いを把握する
第5回 余剰と市場の失敗③～市場分析と市場の失敗～	市場の失敗とその原因を理解し、計算をマスターする
第6回 国民所得とは①～GDPとは～	GDPの計算の仕方をマスターする
第7回 国民所得とは②～他経済指標とGDPの違い～	他の経済指標の計算をマスターする
第8回 金融	金融市場を理解し、マスターする
第9回 財政①～年金～	年金制度をマスターする
第10回 財政②～医療保険と介護保険～	医療保険など公的医療保険をマスターする
第11回 景気	景気変動の理論をマスターする
第12回 財政・金融政策	政策的な理論をマスターする
第13回 国際収支統計	貿易とその影響をマスターする
第14回 行動経済学	人間の行動の理解と理論とのずれをマスターする
第15回 まとめと期末テスト	今までの内容について復習し、点数を取れるよう対策する

■ 履修上の注意

- ・最新の政策などをニュースなどで把握し、現実の経済動向が講義の内容にどのように関連するかを意識する
- ・授業で復習するが、数学的な知識として四則演算や連立方程式、図形の面積計算などは計算できる能力を持ってから履修することを推奨する

■ 成績評価方法・基準

平常点80%

授業への参加状況をミニットペーパーの正答率を基本に、総合的に判断する。

またミニットペーパーに授業に関連する質問をし、その内容が良い場合、追加の加点の対象とする。

期末テスト20%

その回の授業に必ず出席し、提出すること、未提出の場合は評価の対象外とする。

ミニットペーパーについては授業中にフィードバックを行う

■ 教科書

なし。事前にスライドを配布します。

■ 参考書

〔アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学〕〔ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト〕〔東洋経済新報社〕〔3800円＋税〕

〔マンキュー経済学Ⅱマクロ編〔第3版〕〕 〔グレゴリー・マンキュー〕 〔東洋経済新報社〕 〔4000円＋税〕

■ 備考

質問等については，授業終了時に受け付けます。

社会学Ⅰ

(12011)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・社会に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.15		0.1		0.1	
・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける									
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「社会」という言葉～起源と類型～
第2回 「自己と他者」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 アイデンティティと社会化、役割理論、ゲーム理論
第3回 「家族」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ヒトとサル、結婚と性、日本のイエ制度
第4回 「共同体」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 社会集団の類型、生活空間と境界・異界
第5回 「国家」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 イデオロギーと教育、ナショナリズム
第6回 「ことば」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 記号と象徴、コミュニケーション、聖典
第7回 「あそび」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 遊びの概念、まじめ／ふまじめ、退屈と充実
第8回 「あたりまえ」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 常識の生成、制度・規範・統制・階層
第9回 「思い込み」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 知識と信念、呪術・科学・宗教
第10回 「連帯」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ネットワーク、人間関係資本、団結と対立
第11回 「仕事」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 合理性、資本主義、交換、勤勉
第12回 「善悪」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 宗教倫理と世俗倫理、道徳と社会
第13回 「正義」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく

	事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人権の思想、自由・平等・政治的公正
第14回 「不安」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②期末レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1, 200円＋税。

②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2, 900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

社会学Ⅱ

(12012)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

人生と生活の「時間」を社会的に考える。どの社会においても、「人生儀礼」や「年中行事」は必ず執り行われる。「年齢」とともに変化する人生の諸段階や、「暦」にもとづいた生活のリズムについて、伝統社会（民俗社会）と現代社会（市民社会）を対比しつつ解説する。人々のさまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、「生きることと死ぬこと」「一年の暮らし」をめぐる諸問題について、身近な事例をもとに解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ 社会に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.15		0.1		0.1	
・ 社会的想像力をふまえた思考力・判断力を身につける									
・ 社会的想像力をふまえた表現力を身につける									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 イントロダクション	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人生の時間と儀礼、生活の時間と行事
第2回 年齢と人生の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第3回 誕生の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 名づけ、初宮詣、初誕生
第4回 こどもと若者の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第5回 おとなの社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第6回 老いの社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 老いと文化、終末期への備え、ボックリ願望
第7回 病気の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 あいまいな「病気」と「健康」、病気なおし
第8回 医療の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第9回 ケアの社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第10回 死の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな死、死の受容、看取り
第11回 死後の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「あの世」の比較文化
第12回 暦と行事の社会学	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな暦法と祝日、日の吉凶
第13回 まつりの社会学（1）～春・夏～	事前学修：次のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

第14回 まつりの社会学（2）～秋・冬～	正月、初午、夏まつり 事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七夕・お盆、年越し
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー）〔50%〕、②期末レポート〔50%〕により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2,600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

歴史Ⅰ

(12013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

史料（歴史資料）は、過去にあった出来事に迫り、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といたった仙台ゆかりの人物に関する史料をはじめ、仙台に関するさまざまな史料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、史料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目して、史料を読解するポイントや歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。なお、教員は宮城県内の史料保存機関で勤務した経験を有する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史に親しみ、さまざまな史料があることを理解する。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・②史料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。									
・③史料から過去の出来事を考えるための方法や留意点を理解する。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 史料に親しむ①手紙（1）	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
第3回 史料に親しむ②編纂記録（1）	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
第4回 史料に親しむ③地図（1）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第5回 史料に親しむ④地図（2）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第6回 史料に親しむ⑤新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
第7回 史料を読み解く①公文書・新聞	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
第8回 史料を読み解く②石碑・公文書	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
第9回 史料を読み解く③日記	配布プリントを再読し、紹介した史料の時代的な特徴について理解を深める。
第10回 史料を読み解く④手紙（2）	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第11回 史料と人物像①伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
第12回 史料と人物像②請願書	これまでの配布プリントを通読し、紹介した史料の背景について理解を深める。
第13回 史料と人物像③編纂記録（2）	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第14回 史料と人物像④現代のメディア	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第15回 補論と総括	これまでの配布プリントを通読し、史料を利用する際の留意点を考えてみる。

■ 履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回提出するコメントの内容で受講態度や理解度を判断する）40%

レポート（講義のまとめに関するもの。文字数と理解度・考察力・文章力から評価する）60%

コメントで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

歴史Ⅱ

(12014)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

栗原 伸一郎

■ 授業の概要

過去にあった出来事の解釈や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な解釈や叙述が可能であり、様々な歴史像を描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新时期に注目して、それが明治期から現代までどのように認識され、語られてきたのかについて説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点・視座でも歴史を捉えることで、多様な歴史像や、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。なお、教員は宮城県内の史料保存機関で勤務した経験を有する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。	0.3	0.2	0.1			0.2		0.2	
・②歴史像が形成される過程や背景を理解する。									
・③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第2回 幕末維新の歴史像①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を鑑賞する。
第3回 幕末維新の歴史像②教科書(1)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第4回 幕末維新の歴史像③教科書(2)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第5回 幕末維新の歴史像④一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
第6回 歴史像の形成①戦前	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。
第7回 歴史像の形成②戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
第8回 歴史像の形成③東北	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
第9回 幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
第10回 幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
第11回 幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
第12回 東北地方と幕末維新①幕末の仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
第13回 東北地方と幕末維新②戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
第14回 東北地方と幕末維新③戦場の人々	配布プリントを再読し、戦争の実態などについて理解を深める。
第15回 補論と総括	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。

■ 履修上の注意

メディア等で幕末維新时期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読

すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回提出するコメントの内容で受講態度や理解度を判断する）40%

レポート（講義のまとめに関するもの。文字数と理解度・考察力・文章力から評価する）60%

コメントで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書

毎回プリントを配布する。

■ 参考書

『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

日本国憲法

(12015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	0.6	0.4							
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。									
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにもどのように生きているのかを確認する。
第2回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第3回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。
第9回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回	幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。

第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかに保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。5回を超えて欠席（6回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点40％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

法学概説

(12016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

この講義は、様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳しく知ることには困難です。ただ、そうした中であっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では毎回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・法学一般の考え方が身についている。	0.6	0.4							
・社会問題を法学という視点から考えることができる。									
・さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	
第2回	みんなの法とわたしの法？	公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。
第3回	どうして約束は守らないといけないの？	自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。
第4回	電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの？	附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。
第5回	どうして事故を起こしたら責任を負わされるの？	過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。
第6回	子どものしつけと虐待はどこが違うの？	「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。
第7回	校長先生の決定には従わないといけないの？	日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。
第8回	8. マンガやアニメを規制してもいいの？	青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。
第9回	どうして悪いことをした人に権利があるの？	被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。
第10回	ギャンブルってやっちゃいけないの？	賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。
第11回	仕事ができないとクビにされるの？	解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。
第12回	手で掴めないものにも権利があるの？	著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。
第13回	損害保険と生命保険のちがって何？	わずかな保険料（掛け金）を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく
第14回	自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。
第15回	株式会社って何？	株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となることを把握する。

■ 履修上の注意

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（平常点は、授業時間中の勉強姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60%（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

哲学Ⅰ

(12017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

徳田 幸雄

■ 授業の概要

人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？無になってしまうのか？それともあの世で生き続けるのか？人間にとって幸福とは何なのか？愛とは何か？善とは何か？悪とは何か？これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえて概説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・死生観についての基本的な知識を身につける	0.5	0.25				0.25			
・人生観についての考察を深める									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	要しない
第2回 古代ギリシャの時代背景－アテネとスパルター	チェックテスト①を見直す
第3回 ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より	チェックテスト②を見直す
第4回 ソクラテス②『クリトン』より	チェックテスト③を見直す
第5回 ソクラテス③『パイドン』より	チェックテスト④を見直す
第6回 プラトン① プラトンの生涯	チェックテスト⑤を見直す
第7回 プラトン② イデア論	チェックテスト⑥を見直す
第8回 プラトン③ 想起説	チェックテスト⑦を見直す
第9回 プラトン④ 愛と美について	チェックテスト⑧を見直す
第10回 プラトン⑤ 徳と善について	チェックテスト⑨を見直す
第11回 アリストテレス① アリストテレスの生涯	チェックテスト⑩を見直す
第12回 アリストテレス② 三原理と四原因説	チェックテスト⑪を見直す
第13回 アリストテレス③ 自然観、神観	チェックテスト⑫を見直す
第14回 アリストテレス④ 霊魂観、倫理観	チェックテスト⑬を見直す
第15回 試験	要しない
第16回 試験の返却、フィードバック	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（50％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。

学期末の試験（50％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

哲学Ⅱ

(12018)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

徳田 幸雄

■ 授業の概要

「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを概説した上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（断種や中絶など）について、その基本的な議論を解説し、さらに深い考察を促してゆく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・幅広い人間観を身につける。	0.5	0.2				0.2		0.1	
・諸宗教の基本的な知識を身につける。									
・生命倫理の問題に関する知識を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	要しない
第2回 ユダヤ教の人間観	チェックテスト①を見直す
第3回 キリスト教の人間観① 原罪とは？	チェックテスト②を見直す
第4回 キリスト教の人間観② キリスト教史	チェックテスト③を見直す
第5回 イスラームの人間観① 六信より	チェックテスト④を見直す
第6回 イスラームの人間観② 五行より	チェックテスト⑤を見直す
第7回 インドの諸宗教における人間観	チェックテスト⑥を見直す
第8回 仏教の人間観① 四諦より	チェックテスト⑦を見直す
第9回 仏教の人間観② 日本仏教より	チェックテスト⑧を見直す
第10回 神道における人間観	チェックテスト⑨を見直す
第11回 スピリチュアリズムにおける人間観	チェックテスト⑩を見直す
第12回 近代人と死ーエリアーデ宗教学を手がかりにー	チェックテスト⑪を見直す
第13回 優生思想について	チェックテスト⑫を見直す
第14回 人工妊娠中絶について	チェックテスト⑬を見直す
第15回 試験	要しない
第16回 試験の返却、フィードバック	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、6回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（50％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。

学期末の試験（50％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

心理学Ⅰ

(12019)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	0.8	0.2							
・行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。									
・記憶のメカニズムについて感覚的記憶、短期記憶、長期記憶の関係を理解し、説明できるようになる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（教授内容と教育目標）－見る、聞くとはどういうことか－	シラバスを熟読すること。
第2回	条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－	資料を熟読し、要点をまとめること。
第3回	心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し、要点をまとめること。
第4回	説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果	実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。
第5回	「心理学を勉強すれば人の心がわかるようになる」という考え方について	「人の心などわかるはずがない」という文章を読む。
第6回	現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	レスポナント条件づけについて調べること。
第7回	現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	オペラント条件づけについて調べること。
第8回	現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	「観察学習」について調べること。
第9回	現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	無意識や抑圧について調べること。
第10回	精神分析学における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し、専門用語を理解すること。
第11回	自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。
第12回	まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと。
第13回	記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え、レポートすること。
第14回	記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し、専門用語を理解すること。
第15回	エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し、感想をまとめること。
第16回	試験	試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20％、試験80％。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う予定である。

授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

心理学Ⅱ

(12020)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

「性格はどのようにして測定されるか」、「性格は変えることができるか」というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査 (心理テスト) の種類とそれぞれの長所・短所について講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法については実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・質問紙法, 作業検査法, 投影法それぞれの長所と短所を理解する	0.8	0.2							
・認知療法の「7つのコラム法」が気分 (感情) の改善に効果があるのはなぜか, 説明できるようになる									
・交流分析における「エゴグラム」を作成し, その意味について理解し, 自己の性格をどのように改善していけばよいか分析できるようになる									

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス (教授内容と教育目標)	シラバスを熟読すること。
第2回 質問紙法の性格検査 (YG性格検査) の測定方法	YG性格検査の測定方法を調べること。
第3回 質問紙法の性格検査 (YG性格検査) の問題点	YG性格検査の問題点を理解すること。
第4回 作業検査法 (内田クレペリン精神検査) の特色と問題点	内田クレペリン検査の測定方法を調べること。
第5回 投影法の種類	投影法の種類と特徴を調べること。
第6回 他者の性格を推論するときに注意すべきことー認知のゆがみなどー	資料とノートを復習し, 専門用語を理解すること。
第7回 性格とは何かービッグファイブと年齢による変化ー	資料をよく読み, 要点をレポートすること。
第8回 認知療法の基本的な考え方 (人間観)	思考と感情と行動の関係について理解すること。
第9回 認知療法の「7つのコラム」の作成方法について	「7つのコラム」の要点をまとめること。
第10回 「私の7つのコラム」の作成	「7つのコラム」を実際に作成し, 感想をまとめること。
第11回 交流分析における基本的な考え方 (人間観)ー5つの自我状態ー	5つの自我状態について調べること。
第12回 交流分析におけるエゴグラムの作成	自分のエゴグラムについて分析してみること。
第13回 自分と他者に対する構え (人生に対する構え)	自分のエゴグラムの結果について分析を深めること。
第14回 交流分析における基本的な考え方 (人間観)ーストロークとはー	自分はどのようにしてストロークを得ているか分析すること。
第15回 全体のまとめ	重要な用語を使って全体を論述できるようにすること。
第16回 試験	試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回, ミニットペーパーに感想やわかったこと, わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%, 試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては, 次回の授業内でフィードバックを行う予定である。

■ 教科書

授業前に資料 (プリント) を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜, 紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

美術

(12021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

伊 勢 周 平 美術学部教員

■ 授業の概要

本講義は美術表現学科教員によるオムニバス授業である。美術が生活文化の重要な構成要素であることへの理解を促し、日常目にするありふれたものや事柄に対して、美術的な視座を与える。さらに各人の新たな美術的な価値観の構築を支援する。各教員が研究領域とする表現媒体の講義・演習を通して、美術における基礎／応用そして普遍性／多様性を横断的に理解し、次の自身の制作のモチベーションに繋がられるように指導する。また、制作を通して、美術作品が取り扱う問題点や日常性との関連等についての理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・美術が生活文化の一つであることを理解できるようになる。	0.6	0.4							
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。									
・多様な美術的な価値観を受容する力を身に着ける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：授業の流れ（伊勢）	次回授業の事前調査と持参物の準備
第2回	色と形のデザイン1（三上）	事前調査とまとめ
第3回	色と形のデザイン2（三上）	事前調査とまとめ
第4回	パラパラ漫画を含む映像制作1（鈴木専）	事前調査とまとめ
第5回	パラパラ漫画を含む映像制作2（鈴木専）	事前調査とまとめ
第6回	美術、デザインに関する映像鑑賞1（鶴巻）	事前調査とまとめ
第7回	美術、デザインに関する映像鑑賞2（鶴巻）	事前調査とまとめ
第8回	陶芸、下絵付けの図案1（立花）	事前調査とまとめ
第9回	陶芸、下絵付けの図案2（立花）	事前調査とまとめ
第10回	東北地方の木工文化（落合）	事前調査とまとめ
第11回	織物の組織図設計について（佐々木）	事前調査とまとめ
第12回	絵画について1：メディウムスペシフィック以降（伊勢）	事前調査とまとめ
第13回	絵画について2：絵画の中にある今日的問い（伊勢）	事前調査とまとめ
第14回	美術表現における、風刺とブラックユーモア 講義及び作品制作（虎尾）	課題制作継続、講義の論点を整理して、考察しまとめる。
第15回	美術表現における、風刺とブラックユーモア 作品のプレゼンテーション、講評（虎尾）	課題制作継続、他の学生の発表についてまとめ、参考資料として今後に活かす。

■ 履修上の注意

- ・ 回ごとに担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡することがある。ガイダンスで配布する資料等も確認すること。
- ・ 各回の授業に必要な事前準備については適宜指示する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 授業態度（質疑応答、協働して課題解決していく態度）・・・50%
- ・ レポート課題提出（テーマ・課題・授業内容への理解）・・・50%

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

- ・ 授業のスケジュール、持参物については第1回目の授業で説明する。
- ・ 授業の進行および理解状況により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

生活文化論

(12022)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 美表 1 年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

杉 井 信

■ 授業の概要

文化人類学は、各々の文化がもつ「当たり前」の日常が、その文化のなかでしか「当たり前」ではないということを、比較を通して具体的に明らかにする学問です。身体は、そのための格好の研究対象とされてきました。この授業では、人間の心と身体との諸側面・属性をいくつか取り上げ、我々が当たり前だと思っている身体理解がいかに文化ごとに異なるか、身体に対する我々と異文化の想像力は違うのかを、文化人類学の視点で、主にアジア・アフリカ・太平洋・南米に目を向けつつ学んでいきます。また、講義中に受講生に問いかけたり発言を求めますし、ディスカッションもします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・文化人類学という学問の性格や、文化人類学的な考え方、諸概念についての基礎知識が獲得できる。	0.7	0.3							
・心と身体との理解のしかたが文化によって大きく異なることが具体的に理解できるようになる。									

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 導入	説明内容を復習する。
第2回 文化人類学の特徴	文化人類学について調べてみる。
第3回 文化とは	文化の概念について調べてみる。
第4回 民族とは	人種と民族について調べてみる。
第5回 音声言語と身体言語	身振りや合図について調べてみる。
第6回 身体技法	姿勢や動作について調べてみる。
第7回 様々な身体変工	自分の身体変工について考えてみる。
第8回 女子割礼	撲滅運動や反発について調べてみる。
第9回 血の観念	異文化での観念について調べてみる。
第10回 血縁	異文化での関係性について調べてみる。
第11回 羞恥心	自分の羞恥心について考えてみる。
第12回 痛み	自分の感じる痛みについて考えてみる。
第13回 インセスト・タブー	タブーの理由を自分でも考えてみる。
第14回 葬られる身体	自分が知っていることをまとめてみる。
第15回 まとめと試験	学んできたことを復習する。

■ 履修上の注意

世界各地の身体にかかわる習慣に触れたドキュメンタリーやニュースなどの短い映像を多く見ます。楽しい映像とはいいがたいものが殆どですが、毎回、しっかり見てもらい、講義内容も踏まえ、各自で考察してもらおうと思います。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の結果で評価点をしますが、欠席回数に応じて減点します。

■ 教科書

教科書は特に指定しません。毎回プリントを配布します。

■ 参考書

『文化人類学を学ぶ人のために』『人類学のコモンセンス』など、文化人類学の入門書 (なんでも構いません。)

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

災害と防災

(12044)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

本講義では、地震・火山列島の日本で発生している様々な自然災害について、その発生の仕組みや被害の特徴、人々の健康や生活への影響について理解する。また、今後予想される災害に対してどのように備えることができるのか、災害発生時に被害を少なくする減災の方法や行動はいかにあるべきかについて、阪神・淡路大地震や東日本大震災等の過去の大規模災害の事例から基礎となる知識や考え方について説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ 自然災害の特徴と対策に関する基礎的な知識を身につける	1								
・ 災害が人々に及ぼす影響について理解を深める									
・ 防災対策や避難行動における基本的な知識を身につける									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 災害に関する基礎的知識：災害の定義、自然災害発生の現状	予習：災害、自然災害等のキーワードについて調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第2回 災害を知る①：地震・津波災害の特徴と対策	予習：地震や津波についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第3回 災害を知る②：雪・風水災害の特徴と対策	予習：雪害、風水害についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第4回 災害が及ぼす影響：心身の健康、生活、地域社会	予習：災害による健康被害や生活への影響を調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第5回 災害前の防災対策や教育	予習：防災対策についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第6回 災害発生時の避難方法	予習：避難方法についてネットや書籍等で調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第7回 防災と安全・安心、スフィア基準	予習：スフィア基準等のキーワードについて調べておく。 復習：配布資料を参考に授業内容の確認を行う。
第8回 期末テスト（まとめ）	予習：これまでの授業内容を確認し、知識を整理する。 復習：出題された事柄や解答を配布資料等で確認する。

■ 履修上の注意

全8回の授業のため欠席は3回までとなりますが、やむを得ない理由の場合は考慮しますので、必ず教員に申し出て下さい。
遅刻等の取り扱いは20分以内とします。

■ 成績評価方法・基準

全体（100％）のうち、授業態度（提出物を含む）が30％、期末テストで70％の評価をします。

■ 教科書

なし（適宜プリントを配付）

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・この授業は生文大高の高大単位認定型授業を兼ねるため、大学生と高校生が同じ教室で履修する可能性があります。
- ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

英語 I

(12023)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年・美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に付けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。英語 I ではUnit 1～6を取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.4	0.6							
・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。									
・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	Class overview: Learning goals and strategies	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回	Meeting people - introductions (Unit 1)	Unit 1 解説及び activities
第3回	Meeting people - asking about others (Unit 1)	Unit 1 解説及び activities
第4回	Describing clothing - items and patterns (Unit 2)	Unit 2 解説及び activities
第5回	Describing fashion preferences (Unit 2)	Unit 2 解説及び activities
第6回	Review, Unit test: Units 1 & 2	復習、テスト
第7回	Health and happiness - giving advice (Unit 3)	Unit 3 解説及び activities
第8回	Health and happiness - personal ideas (Unit 3)	Unit 3 解説及び activities
第9回	Giving and following directions (Unit 4)	Unit 4 解説及び activities
第10回	Talking about locations (Unit 4)	Unit 4 解説及び activities
第11回	Review, Unit test: Units 3 & 4	復習、テスト
第12回	Describing objects (Unit 5)	Unit 5 解説及び activities
第13回	Talking about future plans (Unit 6)	Unit 6 解説及び activities
第14回	Describing plans and dreams (Unit 6)	Unit 6 解説及び activities
第15回	Review, Unit test: Units 5 & 6	アンケート、復習、テスト

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
各Unitのまとめテスト（3回）60%（小テストおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS] [Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著] [Pearson] [3, 498円（税込）]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroom、My Mobile Worldなどのアプリを使用する。
質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英語Ⅱ

(12024)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表3年・美表4年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目
ブシャー シルベ

■ 授業の概要

英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英文読解と英作文の技能を身に付けさせる。簡易な英文であれば理解することができ、身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、異文化への理解を深めさせる。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。英語ⅡではUnit 7～12を取り上げる。

■ 授業の到達目標

	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.4	0.6							
・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。									
・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。									

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 Class overview: Learning goals and strategies	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 Talking about experiences (Unit 7)	Unit 7 解説及び activities
第3回 Comparing animals and nature (Unit 8)	Unit 8 解説及び activities
第4回 Describing a personal experience with an animal (Unit 8)	Unit 8 解説及び activities
第5回 Review, Unit test: Units 7 & 8	復習、テスト
第6回 Describing and demonstrating abilities (Unit 9)	Unit 9 解説及び activities
第7回 Evaluating school/class activities (Unit 9)	Unit 9 解説及び activities
第8回 Talking about likes and dislikes (Unit 10)	Unit 10 解説及び activities
第9回 Talking about routine activities (Unit 10)	Unit 10 解説及び activities
第10回 Review, Unit test: Units 9 & 10	復習、テスト
第11回 Talking about rules and requirements (Unit 11)	Unit 11 解説及び activities
第12回 Talking about obligation and preference (Unit 11)	Unit 11 解説及び activities
第13回 Describing past events (Unit 12)	Unit 12 解説及び activities
第14回 Storytelling (Unit 12)	Unit 12 解説及び activities
第15回 Review, Unit test: Units 11 & 12	復習、テスト

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
各Unitのまとめテスト（3回）60%（小テストおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS] [Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著] [Pearson] [3, 498円（税込）]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroom、My Mobile Worldなどのアプリを使用する。

質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

英会話Ⅰ

(12025)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表1年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目
上之原 博 子

■ 授業の概要

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指します。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1. 基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。	0.2			0.3		0.1	0.4		
・2. 自分自身に関する事柄について説明できる。									
・3. グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス。挨拶と自己紹介。Unit1自分の事を英語で話す。	自己紹介文を考えてくる。
第2回 自分の日常生活を友人に話す。	Unit1の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第3回 自分の好きなことを話す。	Unit2の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第4回 様々な場所について話す。	Unit3の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第5回 道案内をする。	Unit4の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第6回 買い物をする。	Unit5の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第7回 1～6の復習。	Unit6の復習プリント提出。
第8回 身の回りに起きたことを話す。	Personal presentationの原稿を提出。
第9回 家族や友人について話す。	Unit8の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第10回好きなことについて話す。	Unit9の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第11回 バケーションの過ごし方について話す。	Unit10の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第12回 人生について話す。	Unit11の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第13回 自分の希望や目標について話す。	Unit12の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第14回 7～13の復習。	自分の希望や目標について話せるように準備する。
第15回 これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	これまで習った事を踏まえ、英語で自己紹介文を書き提出する。

■ 履修上の注意

授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。
授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。(添削して返却します。)課題文は暗記する事。

■ 成績評価方法・基準

授業態度(ペアワーク、グループワーク積極的に参加する)30%、毎回の課題提出30%、学期末の試験40%で評価します。

■ 教科書

[Breakthrough Plus 1(Level 1) Student Book][Miles Craven][Macmillan Language House c][3, 212円(税込)]

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問等は授業終了後に受け付けます。

英会話Ⅱ

(12026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年・美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

上之原 博 子

■ 授業の概要

前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現を学び、会話できるように指導します。また、日本文化を見直し、英語での説明の仕方を解説します。演習を通して学習した事が、実際に使えるように何度も練習します。自己紹介や身近なトピック、興味のある事、また自分のふるさと等は簡単な英語で話せるように、さらに学期末には自分の考えを英語で言えるようになるよう指導します。授業は学生の学習進捗状況により進めていきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1. 他者とのコミュニケーション能力を身につける。	0.3	0.1		0.1	0.1	0.1		0.3	
・2. 様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようになる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	交通案内：様々な交通機関について外国人への説明の仕方を学ぶ。 。会話での質問の仕方、答え方を学び練習する。	英語での交通案内を暗記する。
第2回	日本の旅館について説明する。（入浴の仕方等） 自分の好きな事を話す。（ペアワーク）	旅館の特徴を考える。 温泉での規則、マナーを暗記する。
第3回	観光地について学ぶ。 自分の1日の過ごし方を話す。（ペアワーク）	自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。自分の好きな場所を考えてくる。
第4回	街歩きのための道案内ができるようにする。	お勧めの場所を考える。道案内を練習する。
第5回	日本の年中行事を紹介する。 自分のふるさとの行事を紹介する。 英語で日本の年中行事を説明する。	紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。故郷の行事を英語で書いてくる。
第6回	日本食の紹介①代表的な日本料理。自分の好きな日本食を紹介する。 日本食を英語で説明する。	代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。課題の和食を英語で言えるように練習してくる。
第7回	日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理 郷土料理を紹介する。 これまで学んだ事を復習する。	気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。
第8回	国内旅行をアレンジする。自分の好きな場所を話す。（ペアワーク）	国内旅行をアレンジして、旅程を提出する。
第9回	英語の絵本に親しむ。英語の絵本の読み聞かせにチャレンジする。 。	興味のある絵本を調べてくる。
第10回	日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。 自分が好きな日本文化を説明する。	紹介したい行事やポップカルチャーを調べてくる。 。
第11回	自分の日本文化体験を紹介する。自分が体験した日本文化を英語で説明する。	体験した日本文化について英文で書いてくる。
第12回	日本のお土産を紹介する。日本のお土産を英語で説明する。	日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。課題文の練習。
第13回	ケガや病気の対応について学び、使えるように練習する。 また災害時の行動を英語で学ぶ。	病名や気分を表す単語を調べる。
第14回	様々なテーマで、自分の意見を述べる練習をする。	必要な単語、フレーズなどをまとめる。
第15回	学期を振り返る。今期学んだことを網羅し、オリジナルの国内ガイドブックを作成する。	これまで学習した事を、英語で自由に話す。

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加することを求める。ペアワーク、課題の発表は英語で行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点30％（会話練習、ペアワークの参加態度）課題、ガイドブックの提出 30％ 学期末試験40％
提出した原稿は回収し、後日添削して返却する。

■ 教科書

配布するプリントを使用する。

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問等は授業終了後に受け付けます。

仏語 I

(12027)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

このクラスでは、フランス語のアルファベットの基本的な発音、新しい母音、不定冠詞と名詞の性・数、不定詞、主語人称代名詞と「～である」（・tre）動詞や基礎的な疑問文に焦点を当てます。また各テーマはテキストに沿って進み、基本的な文法事項を理解しながら、ペアワークでの会話スキルの向上を図ります。目標は、シンプルなフランス文を理解し、身近なトピックに関して意見を表現できるようにフランス語のスキルを向上させることです。また、日常的な練習の一環として、言語学習アプリを利用したアクティブラーニングを行います。このクラスで使用される教材は文法を基盤としており、ユニット1から5の内容を扱います。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・フランス語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能、発音、文法と語彙を身につける。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。									
・ペアワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回	Unit 0 発音編	Unit 0 解説及び練習・クイズ
第3回	Unit 1 不定冠詞と名詞の性・数	Unit 1 解説及び練習
第4回	復習、Unit 1のクイズ	復習、クイズ
第5回	Unit 2 不冠詞・C' est ～ / Ce sont ～	Unit 2 解説及び練習
第6回	復習、Unit 2のクイズ	復習、クイズ
第7回	Unit 3 主語人称代名詞と「～である」動詞	Unit 3 解説及び練習
第8回	復習、Unit 3のクイズ	復習、クイズ
第9回	Unit 4 「はい」「いいえ」で答える疑問文	Unit 4 解説及び練習
第10回	復習、Unit 4のクイズ	復習、クイズ
第11回	Unit 5 「これは何ですか？」	Unit 5 解説及び練習
第12回	復習、Unit 5のクイズ	復習、クイズ
第13回	Unit 1 ～ Unit5 総合復習	Unit 1 ～ Unit5 まとめの解説及び練習
第14回	復習テスト：Unit 1 ～ Unit 5まとめ	テストに向けてUnit 1 ～ Unit 5の復習
第15回	成績の確認・フィードバック・アンケート	成績の確認・フィードバック・アンケート

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）

復習テスト40%（クイズおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[新ゼロからスタートフランス語（文法編）] [島崎貴則著] [Jリサーチ出版] [1, 200円＋税]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

仏語Ⅱ

(12028)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表1年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目
ブシャー シルベ

■ 授業の概要

このクラスでは、フランス語のアルファベットの基本的な発音、新しい母音、否定文・否定疑問文、形容詞の性・位置、-erで終わる規則動詞、動詞 avoir、部分冠詞に焦点を当てます。各テーマはテキストに沿って進め、基本的な文法事項を理解しつつ、ペアワークを通じて会話スキルの向上を図ります。目標は、シンプルなフランス文を理解し、身近なトピックについて意見を表現できるようにフランス語のスキルを高めることです。さらに、日常練習の一環として言語学習アプリを活用したアクティブラーニングを行います。このクラスで使用する教材は文法を基盤としており、ユニット6から10の内容を扱います。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・フランス語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能、発音、文法と語彙を身につける。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。									
・ペアーワーク、アプリでの問題解決等でアクティブラーニングを行う。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroomなどのアカウントを作成や確認する。
第2回	Unit 0（発音編）～Unit 5の復習	Unit 0～Unit 5 解説及び練習
第3回	Unit 1～Unit 5の復習テスト	復習、テスト
第4回	Unit 6 否定文・否定疑問文	Unit 6 解説及び練習
第5回	復習、Unit 6のクイズ	復習、クイズ
第6回	Unit 7 形容詞	Unit 7 解説及び練習
第7回	復習、Unit 7のクイズ	復習、クイズ
第8回	Unit 8 -erで終わる規則動詞	Unit 8 解説及び練習
第9回	復習、Unit 8のクイズ	復習、クイズ
第10回	Unit 9 動詞 avoir	Unit 9 解説及び練習
第11回	復習、Unit 9のクイズ	復習、クイズ
第12回	Unit 10 部分冠詞	Unit 10 解説及び練習
第13回	復習、Unit 10のクイズ	復習、クイズ
第14回	Unit 6～Unit10 総合復習	Unit 6～Unit 10 まとめの解説及び練習
第15回	復習テスト：Unit 6～Unit 10まとめ	テストに向けてUnit 6～Unit 10の復習

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ずテキスト、スマホ及びタブレット、モバイルバッテリー、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。※ ≪ 履 修 資 格 ≫ 「仏語I」の単位を取得していること。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への参加状況および毎時のクイズ、エクササイズ、アプリの活躍等で総合的に判断する。）
復習テスト40%（クイズおよびテストは授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。）

■ 教科書

[新ゼロからスタートフランス語（文法編）] [島崎貴則著] [Jリサーチ出版] [1, 200円＋税]

■ 参考書

なし

■ 備考

Duolingo、Google Classroomなどのアプリを使用する。質問等は授業終了時及びオフィスアワーで受け付ける。

中国語

(12029)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

清水 浩一郎

■ 授業の概要

この授業の目的は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を身につけることにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ 正確な中国語の発音が身につく	0.8	0.2							
・ 中国語で簡単な会話ができるようになる									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンスおよび、中国語の発音記号・単母音の練習	教科書を購入して目を通す（12～16頁）。
第2回	複合母音の発音練習	事前：教科書（19・20・23～26頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第3回	子音の発音練習	事前：教科書（17～18・21～22頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第4回	要注意な発音と声調変化の練習	事前：教科書（27～31頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第5回	第一課：お名前は？（発声練習・練習問題） “是”の用法／人称代名詞／“なに？”と“だれ？” 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（32～35頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第6回	第二課：忙しいですか？（発声練習・練習問題） 文末の疑問詞／形容詞述語文／指示代名詞（1） 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（36～39頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第7回	第三課：誕生日はいつですか？（発声練習・練習問題） 数の数え方 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（40～43頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第8回	第四課：何を食べますか？（発声練習・練習問題） 動詞述語文／反復疑問文 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（44～49頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第9回	第五課：家はどこですか？（発声練習・練習問題） “どこ？”／“在”の用法①／“有”の用法／指示代名詞（2） 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（50～55頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第10回	第六課：どこへ行くの？①（発声練習） 連動文／“どのように？”	事前：教科書（58～61頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第11回	第六課：どこへ行くの？②（練習問題）／第七課：ご職業は何ですか？①（発声練習） 第六課の練習問題／会話練習／第七課の発音練習 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（62～65頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第12回	第七課：ご職業は何ですか？②（練習問題） “在”の用法②／動詞の重ね型／時刻や年月日の表し方 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（66～70頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第13回	第八課：自己紹介①（発声練習） 会話の練習	事前：教科書（72～75頁）に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。

	事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第14回 第八課：自己紹介②（練習問題） 年齢のたずね方／名詞述語文／“跟”の用法／主語述語文 練習問題はグループワークを取り入れます。	事前：教科書（76～79頁）に目を通し、音声ファイルダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第15回 第一課～第八課のまとめ	学習した部分を全体的に復習する。
第16回 文法のテスト	テストの準備をする。

■ 履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します）。期末テスト50%（試験終了後にフィードバックをおこないます）。

■ 教科書

〔新・学漢語1〕〔日中学院教材研究チーム編著〕〔白帝社〕〔2, 500円+税〕〔ISBN : 9784863984493〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

日本語基礎

(12030)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表1年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目
佐藤 恵 美

■ 授業の概要

高校教員として教科の国語を指導してきた経験から、高等学校までに身に付けてきた日本語の能力を復習しながらも、社会に出た後も必要となる日本語の運用方法を幅広く講義する。その中で、知識を得るだけでなく誤りやすい表現にも注意しながら、体験を通して知識を発展させる。得た知識はアウトプットさせながら、伝えるためにどうすべきかを学生自身が考え、楽しみながら、そして他者と交流しながらスキルを身に付け、文章を書く上でも、簡潔且つ効果的で正しい表現を身に付ける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・日本語の特徴を理解し実際に正しく運用するためのスキルを身に付ける。	0.7	0.3							
・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。									
・自己の考えを構築し分かりやすく表現できる能力を身に付ける。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 講義内容の説明 表現練習1「非言語と言語のコミュニケーションをしよう」 日本語の知識確認テスト①	リアクションペーパーの記入
第2回	表現練習2「人に伝える楽しさ・難しさをしよう」 日本語の文法確認テスト②	リアクションペーパー記入
第3回	表現練習3「歌詞から見る日本語」 日本語の文法 文の単位と品詞 文の構造と助詞	ワークシート記入
第4回	日本語の語彙 同音・同訓・類義語・対義語について 確認テスト③	謎かけ問題や言語変換シート作成
第5回	表現練習4「発声の仕組みを体験しよう」 日本語の発音 発声の仕組み・母音と子音の仕組み	ワークシート記入
第6回	敬語の概説と演習	ワークシート記入
第7回	方言と共通語・標準語	歴史と関連付けて学習する ワークシート記入
第8回	あいまいな文章表現や文の乱れをなくす	リアクションペーパー記入
第9回	表現の工夫 比喻表現・接続語句と指示語	文章を見て修正を行い、正しい表記に直す
第10回	文章構成の基礎① 事実と意見の違い（200字作文）	原稿を仕上げる
第11回	文章校正の基礎② 映像から必要な情報を読み取る①	ワークシート記入 意見文作成
第12回	文章校正の基礎③ 映像から必要な情報を読み取る②	ワークシート記入 意見文作成
第13回	人に伝わる書き方とは？	リアクションペーパーの記入
第14回	小論文を書く	テーマを選び、他者からの評価を受けた上で訂正し練り直す
第15回	レポート作成について	第10回で使用した新聞を使用し作成の仕方について調べまとめる
第16回	期末試験	試験後模範解答をもとに復習

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシートは整理して保管してください。ノートやメモを積極的に取り、復習や定期試験に役立ててください。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（40％）、課題やレポート（30％）、リアクションペーパー（30％）を目安として総合的に判断します。試験は終了後に模範解答を配布しフィードバックを行いながら理解度を確認します。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布します。

■ 参考書

講義内で適宜指示します。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

国語表現法

(12031)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

佐 藤 恵 美

■ 授業の概要

人にどう伝えたら言いたいことが伝わるのか。言葉を使いこなす力、正確に伝える力以外にも、表現とは多くある。高校教員として指導してきた国語の表現力を基礎として、自分自身の特性や特徴を知りながら、伸ばす部分と改善する部分を見つめスキルアップしていく。実社会を生きる上で必要とされる知識や表現力については、他者との交流を通じて他者からの視点で意見交換をしながら表現力を高める。文章を書く上では、論理的且つ簡潔な文章を書くために必要なスキルを身に付けるために、小論文や意見文を書くことでスキルアップしていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・実社会に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。	0.7	0.3							
・社会人としての幅広い教養と役立つ知識を学び身に付ける。									
・自己の意見を言語化し、簡潔で分かりやすい文章を作成することができる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 講義内容の説明 表現練習①「言葉を通して人と関わろう。」	次回のワークシートを予習
第2回	自分を表現する① 自分の過去を振り返る 自分史作成	自分史を参考に、自分を見つめるワークシートを作成する
第3回	自分を表現する② 自分の取り扱い説明書・200字自己紹介文作成	前時の課題を復習 次週提出の課題を仕上げる
第4回	身近なものを表現する 200字紹介文作成	原稿を仕上げる
第5回	実用的な手紙の書き方 実用的な敬語表現	様々な種類の手紙を書く
第6回	短い文で端的に表現する力 ～短歌甲子園～	ワークシートを仕上げる
第7回	グループディスカッションについて ねらい・形式・準備・意見のまとめ方	グループでの自己紹介文を作成
第8回	グループディスカッション実践①個人 ～社長になるならどう考えるか～	ワークシートを仕上げる
第9回	グループディスカッション実践②グループ討論	ワークシートを仕上げる
第10回	グループディスカッション実践③発表	作業による成果物を作成し発表する
第11回	意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 計画書作成①	テーマの研究
第12回	計画書作成②グループ分け	計画書・原稿作成
第13回	プレゼンテーション実践①グループ発表	グループでワークシートを仕上げる
第14回	プレゼンテーション実践②全体発表	他者の発表から得たことえをワークシートにまとめる
第15回	表現とは何か	まとめのワークシートを作成

■ 履修上の注意

辞書(電子辞書可)の持参を推奨します。検索・調査目的での電子機器(スマートフォンなど)の使用も可とします。授業で配布されるワークシートは整理して保管してください。

■ 成績評価方法・基準

期末レポート（50％）、ワークシートなどの課題（30％）グループディスカッションでの様子やプレゼンテーションでの発表(20％)を目安として総合的に判断します。期末レポートは後日模範解答を配布してフィードバックを行います。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布します。

■ 参考書

講義内で適宜指示します。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合があります。質問や相談等は講義前や終了後、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

情報基礎学

(12032)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

データの集計・加工、グラフ作成、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ICTを利用して体裁が整った文書を作成できる。	1								
・情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	学習する内容を確認する。
第2回 Google Workspaceの使い方（1）	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第3回 Google Workspaceの使い方（2）	ドライブの基本的な使い方とWindowsのファイルシステムとの違いを理解する。
第4回 文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）	ビジネス文書の様式とワードプロセッサによる作成、表の操作を理解する。
第5回 文書作成（図形の扱い）	図の挿入、編集方法を理解する。
第6回 文書作成（レポート作成に向けて）	図表番号、文献の管理、ページ数挿入、目次作成について理解する。
第7回 文書作成（練習問題）	文書作成についての学習内容を確認し、反復する。
第8回 表計算（計算式、関数）	計算式の表現方法を理解する。
第9回 表計算（データの加工、グラフの作成）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第10回 表計算（データベース、差し込み印刷）	データベースの操作とワードプロセッサとの連携について理解する。
第11回 表計算（練習問題）	表計算についての学習内容を確認し、反復する。
第12回 プレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）	プレゼンテーションのデザインやレイアウトについて理解する。
第13回 プレゼンテーション（アニメーションの利用）	画面切り替え効果やアニメーションについて理解する。
第14回 プレゼンテーション（練習問題）	プレゼンテーション作成についての学習内容を確認し、反復する。
第15回 プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）	アルゴリズムとScratchでのプログラミングについて理解する。
第16回 まとめと実技試験	学習内容を振り返りと試験

■ 履修上の注意

資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、実技試験60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

資料は配布（Google Classroomに掲示）

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スポーツ

(12033)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

酒 井 正 彦

■ 授業の概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。高校で保健体育教諭として勤務する教員が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	0.6	0.1		0.1		0.1		0.1	
・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。									
・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（個人票作成等）グループ分け	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第2回	ターゲットバードゴルフ1 ルール・スイングフォーム・打ち方	・競技の特性やルールの理解、技術の習得
第3回	ターゲットバードゴルフ2 打ち方・長い距離を飛ばす	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第4回	ターゲットバードゴルフ3 打ち方・ホールを狙う（アプローチショット）	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上
第5回	ターゲットバードゴルフ4 コース作り・ゲーム	・技術の復習や技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームの進め方をマスターする
第6回	ターゲットバードゴルフ5 ゲーム	・実戦形式でターゲットバードゴルフを行う ・グループで協力してゲームを行う
第7回	ソフトボール1 キャッチボール・バッティング	・技術の習得、及び技術の向上
第8回	ソフトボール2 試合	・技術の復習、及び技術の向上
第9回	フットサル パス・シュートの練習・試合	・技術の習得、及び技術の向上
第10回	バレーボール1 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバレーボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第11回	バレーボール2 パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上
第12回	バレーボール3 パス・サーブ・スパイク	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しゲームを展開する
第13回	バレーボール4 パス・サーブのテスト	・これまでの技術の成果を発揮する。
第14回	バレーボール5 ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解しチーム協力してゲームを行う
第15回	まとめ及びレポート作成（バレーボール）	・本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回	バスケットボール1 歴史・ルール・パス	・ルールや歴史を学びバスケットボールについて理解を深める ・技術の習得、及び技術の向上
第17回	バスケットボール2 パス・ドリブル・シュートの練習	・技術の習得、及び技術の向上

第18回	バスケットボール 3 パス・ドリブル・シュート・フリースローのテスト	・これまでの技術成果を発揮する
第19回	バスケットボール 4 パス・シュート・ゲーム	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む
第20回	バスケットボール 5 ゲーム	・これまでの技術を応用しゲームに取り組む ・チームで協力してゲームに取り組む
第21回	まとめレポート作成（バスケットボール）	・バスケットボールの授業に関するまとめ、レポート作成
第22回	バドミントン 1 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	・バドミントンの競技の特性や歴史のどについて理解を深める ・ラケットやシャトルに慣れる
第23回	バドミントン 2 サーブ・ストローク練習	・技術の習得、及び技術の向上
第24回	バドミントン 3 ストローク練習・組み合わせ練習	・技術の習得、及び技術の向上 ・フットワークを利用し、2つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第25回	バドミントン 4 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・2つ以上のストロークの組み合わせに慣れる
第26回	バドミントン 5 シングルスゲーム	・シングルのゲームの進め方を学ぶ ・シャトルの特性や相手のポジションを見てゲームがおこなえるようにする
第27回	バドミントン 6 ダブルスゲーム	・ダブルスのゲームの進め方を学ぶ ・パートナーと協力してゲームを行う
第28回	卓球 1 練習	・卓球の特性や技術を理解し技術を習得する ・技術の習得、及び技術の向上
第29回	卓球 2 ゲーム	・技術の習得、及び技術の向上 ・ルールを理解し、ゲームを行う
第30回	まとめ及びレポート作成 （バドミントン）	バドミントンの授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意

- ・毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
- ・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
- ・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
- ・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
- ・質問等については、授業終了時に受付けます。

スポーツと食事

(12045)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

トップスポーツ選手の競技能力は超一流ですが、普段から超一流食材を食べている訳ではありません。私たちと同じくスーパーで買い物をしています。そうすると食事の中身が大切ということが分かります。スポーツの世代としては成長期、成人期、高齢期がありますが、この授業では最初の要となる成長期のスポーツ選手の食事の大切さを教授します。具体的には食事の基本、栄養素、水分補給、補食、増量、減量などについて説明します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・成長期のスポーツ選手の食事についての基礎的な知識を身につける	1								
・成長期のスポーツ選手の水分補給や補食についての基礎的な知識を身につける									
・成長期のスポーツ選手の増量・減量についての基礎的な知識を身につける									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 はじめに	事前学習としてスポーツと食事について興味を持ったこと、疑問に思ったことなどを各自でまとめておいてください。授業内で回答します。
第2回 成長期のスポーツ選手の食事（献立）	事前学習として一般的な献立についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第3回 成長期のスポーツ選手の食事（栄養素）	事前学習として一般的な栄養素についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第4回 成長期のスポーツ選手の水分補給について	事前学習として一般的な水分補給の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第5回 成長期のスポーツ選手の補食について	事前学習として一般的な補食の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第6回 成長期のスポーツ選手の増量について	事前学習として一般的な増量の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第7回 成長期のスポーツ選手の減量について	事前学習として一般的な減量の方法についてネットなどで調べておくと良いです。事後学習としてノートをもとめるなどの復習をしてください。
第8回 期末テスト（まとめ）	これまでの授業内容をまとめておく

■ 履修上の注意

全8回の授業のため欠席3回で欠席オーバーとなりますが、やむを得ない理由の場合は考慮しますので必ず教員に伝えてください。遅刻・早退の取り扱いは、それぞれ20分以内とします。

■ 成績評価方法・基準

100%の評価のうち、授業態度（提出物含む）はルーブリックにて30%分の評価を、期末テストにて70%分の評価をします。

■ 教科書

無し（適宜プリントを配付する）

■ 参考書

なし

■ 備考

この授業は生文高の高大単位認定型授業を兼ねるため、大学生と高校生が同じ教室で履修する可能性があります。質問については、授業時間内またはオフィスアワー、授業開始時に示すメールアドレスにて対応します。

スタディスキルズ

(12034)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

佐々木 輝 子 虎 尾 裕 教職員

■ 授業の概要

大学生生活へスムーズに移行できるように、大学の様々な授業で必要とされる一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識について指導する授業である。本学の歴史や教育内容、大学での学びについての基礎知識、BYOD、図書館等の施設使用の活用法、履修方法等について指導を行う。また、学修ポートフォリオの作成により各自学習目標を設定する。入学前に取り組んだe-learningの復習を実施すると共に、基礎学力向上のための課題を設定し、更なる理解の向上を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・大学生生活に必要な基礎的知識・学習能力を身につけることができる
- ・主体的に課題を解決する能力を身につけることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	本学の歴史・教学の指針・BYOD（Bring Your Own Device）による学び（美術学部長、BYOD委員）	オリエンテーションで実施予定。本学の教育形態を理解し、今後の学修に活かすことを意識する。
第2回	プレイスメントテスト①（国語・英語）（佐々木）	国語・英語の基礎学力を確認・復習する。
第3回	プレイスメントテスト②（数学）（佐々木）	数学の基礎学力を確認・復習する。
第4回	大学で学ぶということ（学長）	大学での学びに必要な点を確認する。
第5回	学修ポートフォリオの作成（虎尾・佐々木）	講義を通じて卒業までの学修の流れを理解し、1年次での学習計画を確認する。
第6回	図書館の活用（図書館司書）	施設の利用について理解する。
第7回	美術学部での学びについて（美術学部長）	美術学部での学習内容を理解する。
第8回	研究倫理（知的財産権・著作権）について（研究倫理委員）	知的財産権・著作権について理解する。
第9回	学修ポートフォリオ中間評価（虎尾・佐々木）	これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを確認・改善点を考える。
第10回	ミニットペーパーの作成・レポート提出方法・メールマナーについて（学習支援センター委員）	ミニットペーパーの作成・レポート提出方法・メールのマナーについて理解する。
第11回	基礎学力向上①国語（学習支援センター委員）	国語において独海能力を身につけ、学習した内容を今後のレポート作成などで活用する。
第12回	BYODによる学び：Mac設定等（BYOD委員）	BYODによる学びを理解し、Macの設定等を行う。
第13回	BYODによる学び：ネットワーク設定等（BYOD委員）	授業でスムーズに使用できるようネットワーク等の設定を行う。
第14回	基礎学力向上②e-learning（学習支援センター委員）	入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認・復習する。
第15回	まとめ（虎尾・佐々木）	スタディスキルズで学んだことについてまとめる。

■ 履修上の注意

- ・授業内容が毎回異なるので、積極的に受講し記録を取ること。
- ・回ごとに担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡することがある。要確認のこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・提出課題（50%）、授業態度（50%）で評価します。
- ・提出物については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

- ・入学前学習（e-learningの教材）の他、適宜指示します。

■ 参考書

- ・授業内で各教員が指示します。

■ 備考

- ・ 必修
- ・ 質問などについては、各授業終了時または各教員オフィスアワーにて受け付けます。（曜日時間は掲示等で確認）

ライフデザイン

(12035)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

佐々木 晃

■ 授業の概要

自分の今後の将来設計を描くにあたって、新しい生活様式、アフターコロナの働き方改革も踏まえて確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、見直すべき点をノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	0.2	0.15				0.5		0.15	
・学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける									
・学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より良い生活のために何が必要か考える
第2回	自分史作成 ～自己を知る～	自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ
第3回	自己分析・自己理解・自己管理	各種の分析を用いて人間性を科学する
第4回	学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す
第5回	時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
第6回	社会人に求められるもの	社会に必要な行動・思考・協働を学ぶ
第7回	社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
第8回	業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
第9回	課題発見能力・協調性・提案力	現状に満足せず次を考える学びを深める
第10回	ビジョン構築力	自分や組織の本来的使命を理解する
第11回	ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
第12回	ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
第13回	ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
第14回	ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
第15回	キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

■ 履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート70％

（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）

・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔静かな人の戦略書〕〔ジル・チャン著〕〔ダイヤモンド社〕〔1,650円（税込）〕

■ 参考書

なし

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。

・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

キャリア開発Ⅰ

(12036)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

立花 布美子 佐々木 輝子

■ 授業の概要

「キャリア開発Ⅰ」では、美術、デザイン、工芸、教育等の現場で活躍する複数の外部講師を招き、講師それぞれのキャリア開発の過程と実際の活動に触れる機会を提供する。プロフェッショナルのリアルな体験に基づくレクチャーをとおして、様々な表現に関わる仕事への理解を促す。さらにワークショップやディスカッション等を併せて企画することで、就職と就職活動のイメージをより具体化させ、職業人・社会人に求められる汎用的能力の重要性を示唆する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・キャリア形成における目標を設定できる。
- ・キャリア形成において必要な技能・能力について理解し、それら技能・能力を主体的に開発することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（立花・佐々木）	Google classroomの指示を確認し、履修の準備を行う。
第2回	外部講師による講義（美術作家）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（美術）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（美術）
第3回	外部講師による講義（工芸・保存修復）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（工芸）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（工芸）
第4回	外部講師による講義（デザイン・広告）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（デザイン・広告）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（デザイン・広告）
第5回	外部講師による講義（メディア）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（メディア）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（メディア）
第6回	外部講師による講義（美術教職）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（美術教職）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（美術教職）
第7回	美術学部教員による講義（大学院進学）：外部講師の現場に関するワークショップやディスカッション	・Google classroomを確認し、講義（大学院進学）受講の準備を進める。 ・ミニットペーパー作成（大学院進学）
第8回	まとめ：進路と課題（立花・佐々木）	・レポート課題における情報収集と内容の検討。 ・レポート作成

■ 履修上の注意

ガイダンスおよびclassroomで準備物等を連絡するので、確認して準備を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパー（6回分・60%）、レポートの提出（40%）の内容で評価する。

授業時間内にフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

外部講師との調整により、授業計画を変更することがある。

開講日と授業内容の詳細については、ガイダンスおよびclassroomで連絡する。

質疑応答については授業時間後、または担当教員のオフィスアワー内で対応する。

キャリア開発Ⅱ

(12037)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

立花 布美子 佐々木 輝子

■ 授業の概要

インターンシップの実践を必須とし、地方公共団体及びその附属機関等の公的事業所、美術・工芸に関連する各種工房、デザイン事務所、ギャラリー・画廊、画材販売店、私的教育機関等に関する事前調査を課す。調査後は、インターンシップを希望する機関・企業との手続きを支援し、併せて社会人としてのマナーやコミュニケーションの取り方について指導する。調査からインターンシップまでの一連の主体的活動をととして、地域社会の一員としての自覚を培い、自立的・主体的な判断に基づく社会人力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける。
- ・主体的に課題を解決する能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	授業全体とインターンシップの流れを復習する
第2回	職業調査（一般企業・公共団体）	一般企業・公共団体に関する調査のまとめ
第3回	職業調査（美術関連・デザイン・工芸）	美術関連企業・デザイン・工芸業界に関する調査のまとめ
第4回	職業調査のまとめ、インターンシップを行う機関・企業の選定 社会人としてのマナーについて	期間・企業に電話等で問い合わせ、インターンシップの内諾を得る
第5回	エントリーシート・内容確認表作成、送付	エントリーシート・内容確認表を完成させる
第6回	インターンシップ日誌等の準備	日誌に必要事項を記入し、持参する物や書類を確認する
第7回	インターンシップ報告書作成	報告書を完成させる
第8回	インターンシップ報告（まとめ・発表）	インターンシップの報告の内容を準備する

■ 履修上の注意

インターンシップの実践を必須とする。

Google classroomに掲載する指示やメールでの連絡事項を常に確認すること。

書類の送付、返送にかかる費用は各自で負担すること。

■ 成績評価方法・基準

インターンシップ先から提出される評定書の内容：50%、課題・日誌：50%

課題については授業時間内にフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

適宜資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等は、授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける。

キャリア開発Ⅲ

(12038)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

石 田 顕 之

■ 授業の概要

本授業ではUXデザインのプロセスを学びます。UXとはユーザーが商品やサービス等を知り、利用し、どのような感想を持つか等の一連の過程です。ユーザーの行動をリサーチし、課題を発見し、必要なデザインを考えていきます。今回は「地域活性化」をテーマにブレインストーミングを行い、プロダクトやサービスなど自由にデザイン提案をして貰います。

担当講師はデザイン事務所代表。ゲーム映像業界/家電メーカーのデザイナーを経て独立。

UI/UX/映像/グラフィック/プロダクト/サービス等のデザインに従事しています。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・UX（ユーザーエクスペリエンス）デザインという考え方の理解。	0.21	0.21	0.37		0.21				
・リサーチ～課題発見～アイデア展開～デザインワーク～プレゼンテーションという、デザインプロセスの理解と実践。									
・ブレインストーミングやプレゼンテーションを通した、デザインにおけるコミュニケーションの重要性の理解。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概要説明／今まで携わってきたデザインキャリアの紹介	シラバスを読んで、授業概要を把握しておく
第2回 事例紹介／UXデザインのプロセス事例	地域の利点、問題点など、自分なりに検討を行う
第3回 「地域活性化」をテーマにチームによるブレインストーミング	ターゲットユーザーの気持ちになり、自分なりに検討を行う
第4回 ターゲットユーザーの行動を研究・整理（カスタマージャーニー）	翌日までにアイディア検討を5案行う
第5回 さまざまなアイディア検討～アイデアブレインストーミング／企画素案のまとめ	自身のアイデアプランをまとめる
第6回 アイデアプランの中間発表／デザインプランのブラッシュアップ	デザインプランの改善、具体化、ブラッシュアップ
第7回 デザインプランのブラッシュアップ	自身のデザインプランをまとめる
第8回 デザインプランの最終発表／ディスカッション／授業のふりかえりとまとめ	授業全体を振り返る

■ 履修上の注意

毎回重要な説明があるので遅刻欠席をしないよう注意。

グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がける。

■ 成績評価方法・基準

平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、及び課題（プラン）制作とプレゼンテーション50%で評価する。

■ 教科書

授業内で参考資料を配布

■ 参考書

授業内で参考資料を配布

■ 備考

質問等については、授業の開始前及び終了後に講義室で直接受け付ける。

キャリア開発Ⅳ

(12041)

単位：1

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

行 貞 公 博

■ 授業の概要

商業セルアニメーションの演出実務経験者による、制作知識と必要な作画技能およびスキルを理解し、身につけられるよう教授する。映像が誕生した背景と古典作品から、映像表現の本質的な特性と魅力を説明し、現在の映像メディアや日本の商業アニメーションの制作プロセス（企画、作画、CG、撮影など）を学ぶ。演習では、商業セルアニメーションの特性とワークフローを理解した上で、業界で求められる技能とそのレベルを理解させる。キャリア形成を見据えた、デジタル作画に取り組み、実践的なスキルを身に付けられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・商業セルアニメの基礎的な知識を身につける。		0.33	0.34	0.33					
・商業セルアニメに必要な技能を理解する。									
・キャリア形成を見据えた基礎スキルのレベルを理解する。									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 映像の誕生／本質的な特性／メディアの種類	調査
第2回 商業セルアニメーションのワークフロー／各部紹介	各部の仕事を意識しての作品鑑賞
第3回 カット制作の現在について	調査
第4回 デジタル作画における基礎知識	自習で実践
第5回 課題の演習（商業アニメでの評価基準を前提として）	商業アニメの品質について調査
第6回 講評（一部作品を選択し、動画検査を行い添削）	他者作品から学びを得る
第7回 セルアニメーション業界で求められる技能とそのレベル	まとめ（講評から展開）
第8回 質疑応答	振り返りと課題抽出

■ 履修上の注意

履修条件

- 1, アニメ・ゲームⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修していること。
 - 2, Photoshopまたは、CLIP STUDIO PAINTの操作ができること。
 - 3, Photoshopでは、基本操作を理解し、ペンタブレットで絵を描いた経験があること。CLIP STUDIO PAINTではアニメーション機能を使った制作経験があること。
- わからない用語があった場合は、都度質問する。機材の都合により定員を設ける場合がある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（50%）、授業態度、取り組みの姿勢、課題発表（50%）で評価する。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

（集中講義）質問等については、授業終了時に受け付ける。

キャリアサポートⅠ

(12042)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

鈴木 専 教職員

■ 授業の概要

就職活動の早期化やインターンシップの定義変更等、採用市場や社会経済情勢が大きく変化している。絶えず変化する就職活動を取り巻く環境に対応できるような授業の展開を図る。従来の自己分析や企業研究の手法、エントリーシートの書き方、SPI等の知識とスキルの修得に加え、内定者や講師陣による最新の就職活動に関する情報提供や指導により、納得のいく進路選択ができるよう支援する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・就職活動に関する最新の知識を修得し、幅広い視野で自らの進路を選択 ・決定する力を身に付ける ・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける ・就職試験を突破する力を身に付ける	0.6					0.4			

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業ガイダンス/ 就職ガイダンス	事前に目指す方向性を考えておくこと。その上で就職活動の流れを確認し、これからやるべき事の理解を深めること。
第2回 キャリア支援サイトガイダンス/ 秋冬インターンシップ対策セミナー	情報収集の方法について理解し、就職活動へ活かすこと。秋冬インターンシップ参加に向けて何が必要なのかを今一度整理し、準備を進めること。
第3回 業界・企業研究基礎セミナー	興味のある業界と企業について調べておくこと。更に知識を広げ、自分に合った企業の見つけ方を理解すること。
第4回 企業比較研究セミナー	様々な企業の比較と自己分析も同時にできる研究方法を理解し、今後の活動へ活かすこと。
第5回 エントリーシート対策セミナー①	自己分析の内容から、伝えたいことを事前にまとめておくこと。エントリーシートの目的や重要性を学び、作成に活かすこと。
第6回 エントリーシート対策セミナー②	エントリーシート作成のコツやポイントを理解し、就職活動本番に向けて準備を進めること。
第7回 SPI対策セミナー	新卒採用で実施されることが多いSPIについて理解し、選考に向けて計画的に準備すること。
第8回 就活は第一印象で決まる ビジネスマナーセミナー	就職活動や社会で必要なビジネスマナーの基本を学び、今後活かすこと。
第9回 面接試験対策セミナー①	面接の目的や相手に分かり易く伝えるコツやポイントを学び、実践に繋げること。
第10回 面接試験対策セミナー②	学んだ内容を修得し、就職活動本番にむけて面接準備を進めること。
第11回 採用担当者の本音を知る パネルディスカッションセミナー	採用側の視点や選考のポイント、求める人材像を理解した上で自分自身が何を伝えるかについて考えること。
第12回 講師と内定学生による就活相談セミナー	内定済の先輩学生から進路選択に関する経験談を聞き、今後の就職活動に活かすこと。
第13回 就活生のための労働法セミナー	就職活動～就職後に係る労働法について学び、労働者を保護する法制度についての知見を高めること。
第14回 就職活動振り返りセミナー	就職活動の流れを再確認し、計画や活動を振り返る。計画に沿って活動を開始・継続すること。
第15回 就活生応援セミナー	社会人から働くことの意義について学び、自身の考えをまとめること。その内容を就職活動へ繋げること。

■ 履修上の注意

- ・インターンシップが就職活動のスタートであることを理解する。
- ・エントリーシートの内容が選考の結果に大きな影響を与えることを理解する。
- ・ミニットペーパーを活用して、文章力向上に努める。
- ・良好な授業環境の実現のため、全員指定された座席に着席する。
- ・課外のセミナーにも積極的に参加し、実力向上に努める。
- ・学んだ内容を繰り返し復習し、修得したことを就職活動に活かす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40％）

ミニットペーパーによる授業の理解度（40％）

疑問や不安を積極的に解消し、真剣な姿勢で受講しているか（20％）

■ 教科書

授業の際に資料を配布する。

■ 参考書

〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1650円〕

〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2600円〕

〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕〔2160円〕

〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2100円〕

〔キャリアをつくる独学力〕〔高橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考

オフィスアワー

原則として、平日9：00～17：00の間に質問を受け付ける。

キャリアサポートⅡ

(12043)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科 大学共通教養科目

鈴木 専 教職員

■ 授業の概要

就職活動で一人ひとりが抱える課題を解決する糸口を掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、授業後に提出するミニットペーパーを用い、就職活動に関する課題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、その内容をもとに一人ひとりの課題解決や有益な情報収集ができる授業展開を図り、納得のいく進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・就職活動における目標や課題を整理し、自身に必要な情報・行動・考え方を理解する	0.4		0.2		0.2	0.2			
・自分に合う企業を見つけるために情報収集を怠らないこと									
・内定を得るために必要な知識とスキルを身に付ける									

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 就職活動復習セミナー	就職活動の流れをもう一度振り返り、自身の目標と計画を確認すること。
第2回 自己分析セミナー	自己分析を改めて行い、自分に合う業種や企業について具体的に把握すること。
第3回 採用担当者の本音を知るセミナー	採用側の視点や選考のポイントを知り、求める人材像を理解すること。その上で自分自身が何を伝えるか改めて整理すること。
第4回 エントリーシート対策セミナー①	自己分析の内容で伝えたいことを事前にまとめること。エントリーシート作成のコツやポイントを改めて学び、内容の完成度を高めること。
第5回 エントリーシート対策セミナー②	前回到続き、学んだ内容をもとに内容の完成度を更に高めること。
第6回 就職活動相談セミナー①	現状と就職活動に関する疑問、悩みや不安を整理し、相談すること。
第7回 面接対策セミナー①	面接の目的・相手に分かり易く伝えるコツやポイントを改めて学び、選考に活かすこと。
第8回 面接対策セミナー②	学んだ内容をもとに面接準備を怠らないこと。
第9回 就活に役立つメンタルマネジメント	心理的負担がかかった時の思考の切り替えやストレス対処法を学び、緊張や不安の軽減に活かすこと。
第10回 就職活動相談セミナー②	就職活動に関する疑問や悩み、前回の相談セミナー以後の動向など、不安を解消するために積極的に相談すること。
第11回 ビジネスマナーセミナー	就職活動や社会で必要なビジネスマナーについて復習し、しっかりと身に付けること。
第12回 就職活動振り返りセミナー①	現在の課題や不安を整理し、解決するために必要な行動や考え方を理解する。
第13回 就職活動振り返りセミナー②	現在の状況や目標に合致する対策・準備を行うこと。
第14回 就職活動振り返りセミナー③	内定獲得や進路選択に必要な情報やスキルを身につけ、積極的に選考に活かすこと。
第15回 就職活動振り返りセミナー④	現在の進捗状況を振り返り、今やるべきことを理解すること。

■ 履修上の注意

学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路の実現に向かって努力すること。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度（50％）

積極的・真剣な態度で受講しているか（50％）

■ 教科書

授業の際に資料を配布する。

■ 参考書

〔業界地図〕〔東洋経済新報社〕〔1650円〕

〔会社四季報〕〔東洋経済新報社〕〔2600円〕

〔就職四季報総合版〕〔東洋経済新報社〕〔2160円〕

〔就職四季報女子活躍版〕〔東洋経済新報社〕〔2100円〕

〔キャリアをつくる独学力〕〔高橋俊介〕〔東洋経済新報社〕〔1870円〕

■ 備考

オフィスアワー

原則として、平日9時～17時までの間に質問を受け付ける。

美術表現学科専攻科目

絵画基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。）

(12101)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表1年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「絵画とは何か」を理解するために、絵画及び映像メディアの制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。さらに、持続的に制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。実際の制作では、静物・石膏像を対象としたデッサン、静物を対象とした着色を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な絵画技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作及び現代的な表現技術について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・a. 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。
- ・b. 絵画を自分自身の問題意識と結びつけることができる。
- ・c. 持続的に集中して学習する態度を身に付ける。
- ・d. 絵画表現が美術制作全般に通じることを理解できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	導入	（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回	制作Ⅰ 静物デッサン	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第3回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第4回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第5回	制作Ⅱ 石膏デッサン	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第6回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第7回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第8回	制作Ⅲ 静物着色	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第9回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第10回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第11回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）	〃（全体を踏まえた仕上げ）
第12回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する材料の準備
第13回	制作Ⅳ 映像メディア	（映像表現の説明）	課題の継続制作（基本プラン）
第14回	〃	（材料収集・加工・修正）	〃（材料収集・加工・修正）
第15回	〃	（編集）（講評会）	振り返り

■ 履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…60%（課題）、b…15%（課題・講評会）、c…15%（授業態度）、d…10%（講評会）
- ・各課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集・映像等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

絵画基礎Ⅱ

(12102)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表1年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
伊 勢 周 平 鈴 木 専

■ 授業の概要

「絵画とは何か」を理解するために、絵画及び映像メディアの制作を通して社会・現実と美術の関連性を考えさせる。さらに、持続的に制作に集中する行為を通して、自己管理能力や生涯にわたって美術を愛好する心を育む。実際の制作では、静物・石膏像を対象としたデッサン、静物を対象とした着色を教授する。ここでは対象物を客観的に写生させることを念頭に、伝統的な絵画技術および描画材料の基本的な使用方法を指導する。映像メディアの制作では、デジタル技術による絵画表現に関わる映像の制作及び現代的な表現技術について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・a. 絵画の基礎的な表現方法・技術を身に付ける。
- ・b. 絵画を自分自身の問題意識と結びつけることができる。
- ・c. 持続的に集中して学習する態度を身に付ける。
- ・d. 絵画表現が美術制作全般に通じることを理解できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	導入	（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回	制作Ⅰ 静物デッサン	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第3回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第4回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第5回	制作Ⅱ 石膏デッサン	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第6回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第7回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する画材の準備
第8回	制作Ⅲ 静物着色	（構図・全体的な把握）	課題の継続制作（構図・全体的な把握）
第9回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第10回	〃	（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第11回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）	〃（全体を踏まえた仕上げ）
第12回	〃	（全体を踏まえた仕上げ）（講評会）	次回課題に使用する材料の準備
第13回	制作Ⅳ 映像メディア	（映像表現の説明）	課題の継続制作（基本プラン）
第14回	〃	（材料収集・加工・修正）	〃（材料収集・加工・修正）
第15回	〃	（編集）（講評会）	振り返り

■ 履修上の注意

- ・モチーフ等は常時セットしてあるので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…60%（課題）、b…15%（課題・講評会）、c…15%（授業態度）、d…10%（講評会）
- ・各課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集・映像等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

彫刻基礎Ⅰ

(12103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、三次元の立体制作を通して学習することで、彫刻分野の基礎的な表現方法を習得する。彫刻制作体験などのアンケートを取り、有名な彫刻作品の例などを解説して鑑賞する。課題1、基礎的な静物の塑造制作、野菜や果物などの自然物をモチーフとして、台座との構成を通して、基礎的な塑造力と造形力を学ぶ。課題2、制作した塑造作品を石膏取りして技法を学ぶ。課題3、ペーパーワークによる立体制作、題材「ダンボールによる箱庭作り」、ダンボール素材を使用して、イメージする過程の中で、家屋、樹木、庭などの空間を創作してゆく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基礎的な塑造作品の制作を通して、塑造力と造形力を体得する。
- ・生き生きとした自然物の観察を通して、デッサン力など観察眼を養う。
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について注意事項を説明。さらに、持参する道具や、服装についてなど説明。三次元立体造形についての過去体験などアンケート調査	制作課題に使用する画材の準備。過去の彫刻作品についての体験を考察する。美術表現の三次元の立体物としての意味を把握、検証
第2回	制作課題1、塑造作品制作、モチーフ「野菜、果物など静物」のデッサン	制作課題の継続制作、自然物としての静物の捉え方(構図・全体的な把握)
第3回	塑造作品制作、心棒作り、粘土練り、制作 粘土荒付け	制作課題の継続制作、自然物としての静物の三次元の捉え方(量感、構成など)
第4回	塑造作品制作（量感。フォルム、構成）	制作課題の継続制作、自然物としての静物の三次元の捉え方(量感、フォルム、構成など)
第5回	塑造作品制作（量感。フォルム、構成、空間）台座の形態を考慮して精度を高める	制作課題の継続制作、自然物としての静物の三次元の捉え方(量感、フォルム、構成など)
第6回	塑造作品制作、講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく
第7回	制作課題2 塑造作品、石膏取り制作、作品型取り雌型完成。	石膏取りについて、様々な作品の型取り技法について分析、研究
第8回	塑造作品、石膏取り制作、雌型、石鹸ひき、流し込み	石膏取について、様々な作品の雌型流し込み技法について分析、研究
第9回	塑造作品、石膏取り制作、雌型割り出し、雄型完成、修正作業、完成持ち帰り	石膏取りについて、様々な割り出し技法について分析、研究
第10回	制作課題3 ペーパーワークによる「ダンボールによる箱庭作り」作品制作 イメージデッサン	ペーパーワークによる様々な作品事例を把握して、技法の違いなどを分析
第11回	ペーパーワーク作品制作、ダンボールより、台座部分のサイズをカットし、上に配置する家屋の構成部品を切断	ペーパーワークによる様々な加工方法、接着、接合などの技法について分析、研究
第12回	ペーパーワーク作品制作、ダンボールで家屋の構成部品を接合、樹木の構成部品を切断	ペーパーワークによる様々な加工方法、接着、接合などの技法について分析、研究
第13回	ペーパーワーク作品制作、台座の上に家屋、樹木で構成された庭を構想して、家屋、樹木の配置と空間を考えながら接着する。完成	ペーパーワークによる様々な加工方法、接着、接合などの技法について分析、研究
第14回	ペーパーワーク作品制作、講評会、全体講評、個人講評、作品撮影、作品持ち帰り	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく
第15回	立体作品制作全般についての総括、まとめ、感想などアンケート調査	三次元の立体作品の意味と、作品の可能性について分析、研究

■ 履修上の注意

制作課題ごとに、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する。

■ 備考

必修

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

彫刻基礎Ⅱ

(12104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、三次元の立体制作を通して学習することで、彫刻分野の基礎的な表現方法を習得する。前期の授業の中で、基礎的な塑造制作として自然物をモチーフとして、実技制作を行なった。立体表現の重要な要素である、量感、フォルム、構成、及び、空間について学習した。基礎的な塑造力と造形力を学んで上で、IIにおいては、塑造の応用編として、前期Iで学んだ「ダンボールによる箱庭作り」を参考に、塑造による「風景彫刻」を制作課題1として実技制作する。さらに、制作課題2として、石膏の直付けによる「動物彫刻」を制作する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基礎的な塑造作品の制作を通して、塑造力と造形力を体得する。
- ・塑造力と造形力をさらに高めるために、塑造作品「風景」を創造してクオリティの高い情感ある作品として表現力を養う。
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について注意事項を説明。さらに、持参する道具や、服装についてなど説明。三次元立体造形についての過去体験などアンケート調査	制作課題に使用する画材の準備。前期授業彫刻基礎Iの彫刻作品についての体験を考察
第2回	制作課題1、塑造作品制作、「風景彫刻」を題材に、塑造制作するための資料収集、キーワードは「桃源郷」「民家」「樹木」「石庭」これらを複合的に配置した風景を造形するためのwebサイトなどの情報を下調べ	制作課題「風景彫刻」の資料収集の継続調査
第3回	塑造作品制作、「風景彫刻」を題材にイメージスケッチ、発表	制作課題「風景彫刻」のイメージスケッチの継続制作
第4回	塑造作品制作、「風景彫刻」の心棒作り、粘土練り、粘土荒付け	制作課題「風景彫刻」の心棒作り、粘土土付けの継続制作
第5回	塑造作品制作、「風景彫刻」の粘土荒付け	制作課題「風景彫刻」の粘土土付けの継続制作
第6回	塑造作品制作、「風景彫刻」の細部粘土土付け	制作課題「風景彫刻」の細部粘土土付けの継続制作
第7回	塑造作品制作、「風景彫刻」の粘土細部土付け、完成・講評会（全体講評、個人講評）。作品写真撮影。	制作課題「風景彫刻」の細部粘土土付けの継続制作。全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく
第8回	制作課題2、石膏直付け作品制作、「動物彫刻」を題材に、資料収集、webサイト情報など下調べ。	制作課題「動物彫刻」の資料収集の継続調査
第9回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」のデッサン、及びエスキース作り	制作課題「動物彫刻」の継続制作、動物の捉え方（構図・全体的な把握）
第10回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」の心棒作り、新聞紙、金網など使用。	制作課題「動物彫刻」の継続制作、動物の捉え方（構図・全体的な把握）
第11回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」の石膏荒付け	制作課題「動物彫刻」の継続制作、三次元の捉え方（量感、フォルム、構成など）石膏直付け技法の分析、研究
第12回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」の石膏荒付け	制作課題「動物彫刻」の継続制作、三次元の捉え方（量感、。フォルム、構成など）石膏直付け技法の分析、研究
第13回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」の細部石膏付け	制作課題「動物彫刻」の継続制作、三次元の捉え方（量感、フォルム、構成など）石膏直付け技法の分析、研究
第14回	石膏直付け作品制作、「動物彫刻」の細部石膏修正、着色、完成。講評会（全体講評、個人講評）。作品写真撮影	制作課題「動物彫刻」の継続制作、三次元の立体作品の意味と、作品の可能性を分析、研究する
第15回	立体作品制作全般について総括、ふりかえり、まとめ、感想などアンケート調査	三次元の立体作品の意味と、作品の可能性について分析、研究

■ 履修上の注意

制作課題ごとに、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

工芸基礎Ⅰ（プロダクト制作を含む。）

(12105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

立花 布美子 佐々木 輝子 長谷部 嘉勝

■ 授業の概要

工芸とは、ものづくりとは何かを歴史や文化、現代の工芸などの多種多様な視点から工芸に関する理解を深める。この授業は、染色・陶芸・漆芸の3分野を学ぶ。各分野の素材、材料、道具を含めた基礎知識を修得する。また、作業工程を理解した上で各技法、装飾を活かし、用途や目的、機能性を含めた制作を通して工芸の可能性について探求していく。各分野進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・工芸に関する基礎知識・学習能力を身につけることができる。
- ・工芸分野における基本的な体系を理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 基礎工芸Ⅰ・Ⅱについて（立花・佐々木）	授業の記録まとめ
第2回	〔陶芸〕①（立花）作業工程・釉薬・粘土について	陶芸に関する資料収集まとめ
第3回	〔陶芸〕②（立花）やきものの歴史	授業の記録まとめ
第4回	〔染織〕①（佐々木）染織の基礎知識について	染織に関する資料収集まとめ
第5回	〔染織〕②（佐々木）色糸効果 平織りの組織図と色糸配列について	授業の記録まとめ
第6回	〔漆芸〕①（長谷部）漆工芸の基礎知識についての説明	漆についてプリント配布
第7回	〔漆芸〕②（長谷部）現在の漆器産地について 各産地の技術技法について	授業の記録まとめ
第8回	A) 陶芸：土練り（荒練り・菊練り）練習、紐づくり練習 B) 染織：色糸効果 下図作成 C) 漆芸：漆加飾法（置目）	A) 陶芸：土練りの理解、復習しておくこと B) 染織：平織の構造について理解しておくこと C) 漆芸：漆加飾法（置目）について理解する
第9回	A) 陶芸：タタラ成形（板皿づくり） B) 染織：色糸効果 糸量の計算 C) 漆芸：蒔絵について	A) 陶芸：荒練りの復習をしておくこと B) 染織：糸量の計算方法を理解しておくこと C) 漆芸：蒔絵について理解する
第10回	A) 漆芸：漆加飾法（置目） B) 陶芸：土練り（荒練り・菊練り）練習、紐づくり練習 C) 染織：色糸効果 下図作成	A) 漆芸：漆加飾法（置目）について理解する B) 陶芸：土練りの理解、復習しておくこと C) 染織：平織の構造について理解しておくこと
第11回	A) 漆芸：蒔絵について B) 陶芸：タタラ成形（板皿づくり） C) 染織：色糸効果 糸量の計算	A) 漆芸：蒔絵について理解する B) 陶芸：荒練りの復習をしておくこと C) 染織：糸量の計算方法を理解しておくこと
第12回	A) 染織：色糸効果 下図作成 B) 漆芸：漆加飾法（置目） C) 陶芸：土練り（荒練り・菊練り）練習、紐づくり練習	A) 染織：平織の構造について理解しておくこと B) 漆芸：漆加飾法（置目）について理解する C) 陶芸：土練りの理解、復習しておくこと
第13回	A) 染織：色糸効果 糸量の計算 B) 漆芸：蒔絵について色糸効果 C) 陶芸：タタラ成形（板皿づくり）	A) 染織：糸量の計算方法を理解しておくこと B) 漆芸：蒔絵について理解する C) 陶芸：荒練りの復習をしておくこと
第14回	仙台市内工芸ギャラリー等 見学（立花・佐々木）	視察記録のまとめ
第15回	講評会（立花・佐々木）	授業内容まとめ

■ 履修上の注意

- ・授業ごと内容が異なるため、積極的に受講し記録をとること。
- ・担当教員が異なるため、掲示にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80%）、提出物（20%）による評価。
- ・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

授業の中で各担当教員が指示する。

■ 参考書

授業の中で各担当教員が指示する。

■ 備考

- ・各担当都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学修目標として参照すること。

工芸基礎Ⅱ

(12106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

立 花 布美子 佐々木 輝 子 長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

工芸基礎Ⅱでは、制作や鑑賞を通して歴史や文化、様々な視点から工芸に関する理解を深めるよう、工芸基礎Ⅰで学んだ各分野の基礎的知識について復習する。また各分野に別れ（2科目選択）、作業工程を理解した上で各技法、装飾を活かし、用途や目的、機能性を含めた制作を通して工芸の可能性について探求していく。各分野進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導し、主体的に制作に取り組む力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・工芸分野の基礎知識を身につけることができる。
- ・工芸に関する文化、生活での関わりについて理解を深めることができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 履修方法（グループ分け） ※2科目選択 A)陶芸・染織 B)染織・漆芸 C)漆芸・陶芸	前期配布プリント参照、作業工程等確認
第2回 A)土練り練習、手捻り成形①玉づくり B)①綴織について 説明 C)金継ぎ：洗い・ヤスリ掛け・固めまたは焼付	A)玉づくりの予習・復習 B)平織の構造を理解しておく C)金継ぎについて調べる
第3回 A)手捻り成形②紐づくり B)②丸を織る（下部） C)金継ぎ：成形・ヤスリ掛け・硬化	A)紐づくりの予習・復習 B)平織の構造を理解しておく C)焼付までの工程理解
第4回 A)手捻り成形①玉づくり削り仕上げ B)③丸を織る（上部） C)金継ぎ：埋め・硬化	A)玉づくり仕上げ作業の予習・復習 B)織の手順を理解しておく C)成形から硬化までの工程理解
第5回 A)手捻り成形②紐づくり削り仕上げ B)④三角を織る（下部） C)金継ぎ：ヤスリ掛け・硬化・下地	A)紐づくり仕上げ作業の予習・復習 B)織の手順を理解しておく C)埋めから硬化までの工程理解
第6回 A)装飾 下絵付け B)⑤三角を織る（上部） C)金継ぎ：ヤスリ掛け・下地固め・塗り・硬化	A)タタラ成形の復習・下絵付けの理解 B)織の手順を理解しておく C)下地までの工程理解
第7回 A)釉掛け作業 B)⑥はつり・インターロックを織る 仕上げ C)金継ぎ：蒔き・固め・磨き・応用	A)釉掛け作業の予習・復習 B)織の手順を理解しておく C)ヤスリ掛けから硬化までの工程理解
第8回 C)蒔絵・地描き A・B・C各工房、教室で講評会	C)仕上げ まとめ
第9回 A)①綴織について 説明 B)金継ぎ：洗い・ヤスリ掛け・固めまたは焼付 C)土練り練習、手捻り成形 ①玉づくり	A)平織の構造を理解しておく B)金継ぎについて調べる C)玉づくりの予習・復習
第10回 A)②丸を織る（下部） B)金継ぎ：成形・ヤスリ掛け・硬化 C)手捻り成形 ②紐づくり	A)平織の構造を理解しておく B)焼付までの工程理解 C)紐づくりの予習・復習
第11回 A)③丸を織る（上部） B)金継ぎ：埋め・硬化 C)手捻り成形 ①玉づくり削り仕上げ	A)織の手順を理解しておく B)成形から硬化までの工程理解 C)玉づくり仕上げ作業の予習・復習
第12回 A)④三角を織る（下部） B)金継ぎ：ヤスリ掛け・硬化・下地 C)手捻り成形 ②紐づくり削り仕上げ	A)織の手順を理解しておく B)埋めから硬化までの工程理解 C)紐づくり仕上げ作業の予習・復習
第13回 A)⑤三角を織る（上部） B)金継ぎ：ヤスリ掛け・下地固め・塗り・硬化 C)装飾 下絵付け	A)織の手順を理解しておく B)下地までの工程理解 C)タタラ成形復習・下絵付けの理解
第14回 A)⑥はつり・インターロックを織る 仕上げ B)金継ぎ：蒔き・固め・磨き・応用 C)釉掛け作業	A)織の手順を理解しておく B)ヤスリ掛けから硬化までの工程理解 C)釉掛け作業の予習・復習
第15回 B)金継ぎ：蒔絵・地描き	B)仕上げ

■ 履修上の注意

- ・授業ごと内容が異なるため、欠席・遅刻の無いよう授業に臨むこと。
- ・担当教員が異なるため、掲示（classroom）にて必要事項を連絡する場合がある。要確認のこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。。
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

- 〔基礎の陶芸 1 : 器のつくりかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2, 420円〕
〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・（陶芸）作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

デザイン基礎Ⅰ（映像メディア表現を含む。）

（ 12107 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫 落 合 里 麻

■ 授業の概要

デザインの基本的な知識やスキルを身につけることを目的とし、平面と立体、映像メディア表現に分けて課題制作に取り組ませる。平面では、抽象的な図形による画面構成に取り組み、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、平面状の紙から立体が生成する仕組みを通して、素材の特性による効果と造形表現の美しさ、可能性を見出せるよう指導する。直線・曲線による折り、ポップアップ、多面体を基にした立体作品を制作させる。映像メディア表現では映像作品を鑑賞し、メディアの特徴を課題（レポート・制作等）をとおして理解させる。

平面（三上／6回）、立体（落合／7回）、映像メディア表現（伊勢／2回）によるオムニバス授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デザインの基本的な知識・技術を身につけることができる。
- ・素材の特性を造形表現として活かすことができる。
- ・幾何形体についての基本的な内容を理解できる。
- ・映像メディアの基本的内容を理解できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について） （三上）	次回課題の準備として情報を集める。
第2回	〈平面課題1〉レタリング イラスト 名刺をつくる（三上）	フォントについて調べる。
第3回	〃 名刺をつくる／講評（三上）	修正を加え再提出する。
第4回	〈平面課題2〉平面構成「点による構成」／課題説明（三上）	プリントを完成させ提出する。
第5回	〃 〃／制作（三上）	彩色の道具について各自、確認しておく。
第6回	〃 〃／講評（三上）	修正を加え再提出する。
第7回	〈立体課題1〉平面から立体を生成する1／課題説明・練習（落合）	道具を揃える。練習課題、試作を進める。
第8回	〃 〃／制作（落合）	折りを練習し、課題を進める。
第9回	〃 〃／制作・講評（落合）	課題を完成させる。
第10回	〈立体課題2〉平面から立体を生成する2／課題説明・練習（落合）	解説内容を復習し、練習課題を進める。
第11回	〃 〃／制作・講評（落合）	課題を完成させる。
第12回	〈立体課題3〉多面体／正多面体についての講義・練習（落合）	講義内容を復習する。各自で紙を購入する。
第13回	〃 〃／制作・講評（落合）	課題を完成させ、ポイント等をまとめる。
第14回	〈映像メディア表現課題〉／課題説明 講義・演習1（伊勢）	演習課題1を完成させる。
第15回	〃 〃／講義・演習2 まとめ（伊勢）	演習課題2を完成させる。 授業を振り返り、ポイント等を整理する。

■ 履修上の注意

絵具は不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。

はさみ、カッター、定規、接着剤等は各自で用意すること。立体の初回授業で指示をする。

■ 成績評価方法・基準

平面課題・映像メディア表現課題

提出課題40％授業態度20％、講評での発表の内容40％で評価する。

立体課題

提出課題70％授業態度30％で評価する。

講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、紹介する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

デザイン基礎Ⅱ

(12108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫 落 合 里 麻

■ 授業の概要

デザインの基本的な知識やスキルを身につけることを目的とし、平面と立体に分けて課題制作に取り組ませる。平面では、抽象的な形体とイメージ表現による画面構成に取り組ませ、制作意図に沿った表現ができるように指導する。立体では、意図に沿った造形、問いに対する答えを探す試行錯誤、手を使った思考の訓練を行わせる。〈立体課題1〉ではスタイロフォームを使った構成、〈立体課題2〉では木材を使ったペーパーナイフのデザイン、〈立体課題3〉ではオーナメントのデザインに取り組ませる。

平面（三上／7回）、立体（落合／8回）によるオムニバス授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・図形を丁寧に描く技術を身につけることができる。
- ・制作意図に沿ったイメージ表現ができるようになる。
- ・素材の特性を造形表現として活かすことができる。
- ・形態を生み出し定着させる過程で、独創的な発想ができるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス・ 〈平面課題1〉平面構成「点による構成（具象）」／制作（三上）	自習（事前・事後学修の内容） 今回の課題の準備として画像を集める。
第2回	〃 〃	修正を加え再提出する。
第3回	〈平面課題2〉平面構成「イメージ構成1」／課題説明（三上）	今回の課題の準備、資料を集める。
第4回	〃 〃	彩色用具について各自、確認しておく。
第5回	平面構成「イメージ構成2」／課題説明（三上）	彩色用具を揃える。
第6回	〃 〃	修正を加え再提出する。
第7回	〃 〃	修正を加え再提出する。
第8回	〈立体課題1〉分割による構成／課題説明・試作（落合）	本番材の前の試作を進める。
第9回	〃 〃	課題を完成させる。
第10回	〈立体課題2〉道具のデザインと制作／課題説明（落合）	アイディアスケッチを進める。
第11回	〃 〃	断面の形を考える。
第12回	〃 〃	制作図を完成させる。
第13回	〃 〃	切削加工を進める。
第14回	〃 〃	塗装の前段階まで完成させる。
第15回	〃 〃	授業を振り返り、ポイントをまとめる。

■ 履修上の注意

絵具は、不透明を使用する。他の用具、材料については授業でその都度指示する。

三角定規、各種筆記用具は各自で用意すること。小刀を持っていない場合は購入する必要がある。

■ 成績評価方法・基準

平面課題

提出課題40％授業態度20％、講評での発表の内容40％で評価する。

立体課題

提出課題70％授業態度30％で評価する。

講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。 必要に応じて授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、紹介する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

メディア芸術基礎

(12109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表1年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
鈴木 専 鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

メディア芸術基礎では、コンピューターを使用するための知識と情報リテラシーを学ぶ。情報を利活用しながら、グラフィックソフト（Illustrator、Photoshop）による演習を行う。2年次以降のPCを使用する授業に必要なグラフィックソフトの基本的な操作と表現方法を身につけられるよう指導する。ICT（Information and Communication Technology）を活用しながら、デザイン・メディア表現への理解を促すと共に、多様なデジタル技法を知り、視野を広げられるよう教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報リテラシーを身につける
Illustratorの基本的な操作と表現技法を身につける
Photoshopの基本的な操作と表現技法を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス	情報リテラシーについて調査
第2回	2	PCの基礎的な使用方法	CP操作について調査・PC操作まとめ
第3回	3	課題1：イメージ構成（Photoshop基礎）制作	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第4回	4	課題1：イメージ構成（Photoshop基礎）完成	技法調査・課題まとめ
第5回	5	課題2：情報表現（Illustrator基礎）制作	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第6回	6	課題2：情報表現（Illustrator基礎）完成	技法調査・課題まとめ
第7回	7	課題3：情報表現（Illustrator応用）スケッチ	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第8回	8	課題3：情報表現（Illustrator応用）制作	技法調査・技法まとめ
第9回	9	課題3：情報表現（Illustrator応用）完成	修正箇所の確認・課題まとめ
第10回	10	課題4：動画表現（Photoshop応用）スケッチ	ソフトについての調査、情報の利活用・制作準備
第11回	11	課題4：動画表現（Photoshop応用）制作	技法調査・技法まとめ
第12回	12	課題4：動画表現（Photoshop応用）完成	修正箇所の確認・課題まとめ
第13回	13	課題提出、発表と講評	課題提出、発表準備・まとめ
第14回	14	メディア芸術事例① 作品鑑賞	メディア芸術作品の調査・鑑賞まとめ
第15回	15	メディア芸術事例② 作品鑑賞	メディア芸術作品の調査・鑑賞まとめ

■ 履修上の注意

毎回、個人のPC、AdobeCC（Photoshop、Illustrator）を使用します。
授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。
グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。
必要に応じて教材・材料費（500円程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。
課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

ワークシートを配布する。

■ 参考書

これからはじめるIllustratorの本（技術評論社）、これからはじめるPhotoshopの本（技術評論社）

■ 備考

2グループ制（A・B）で行う場合があります。
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

洋画 I

(12110)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平 鈴 木 専

■ 授業の概要

授業概要

洋画の基礎となるテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を身に付けさせる。絵画基礎での経験を踏まえて、写生を原則として、明暗・色彩・立体態・空間等の洋画表現の諸要素への理解を促す。実制作に当たっては、制作に対する基本的な姿勢や態度を養うと共に、洋画に伝統的に使用されてきた画材料の使用法等技術面での指導を行う。課題は大きくⅠ～Ⅲまで設定し、Ⅰ、Ⅱは全員が同一のモチーフを着彩によって描画、Ⅲは各自設定したモチーフ（風景を含む）を、自ら立案した計画に沿って制作させ、基本的な制作過程を意識させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・a. 洋画表現について基本的な知識を身に付け、生活の中での意識を理解する。
- ・b. 洋画の専門的な表現方法・技術を修得し、社会で有用となるスキル身に付ける。
- ・c. 制作のプロセスを理解し、問題意識を持って主体的・持続的に制作する態度を獲得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・授業の導入(科目・成績評価・画材等の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・制作Ⅰ 静物着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第3回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第4回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第5回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講習会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・制作Ⅱ 人物着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第7回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第8回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第9回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講習会)	次回課題に使用する画材の準備
第10回	・制作Ⅲ 自由制作(制作意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作意図・エスキース・構図・下地)
第11回	・ 〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第12回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第13回	・ 〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第14回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)	〃 (全体を踏まえた仕上げ)
第15回	・ 〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講習会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講習会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…10%(講習会)、b…65%(課題)、c…25%(授業態度、課題)
- ・各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅱ

(12111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平 鈴 木 専

■ 授業の概要

洋画で扱うテーマ及び技術を学び、主体的に美術活動に取り組む姿勢や態度を養い、洋画表現と自分自身を含む実社会との関係性を自覚させる。洋画Ⅰで経験した洋画表現の諸要素への理解を踏まえ、個々人の創造力の基礎を育む。課題は大きくⅠ～Ⅲまで設定し、Ⅰでは写生、Ⅱでは構想、Ⅲではそれらを統合した表現を指導する。テーマにあった画材料を選択、自ら立案した計画に沿って制作させることで、各自に合った基本的な制作過程及び表現を意識させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・a. 洋画表現について専門的な知識を身に付け、社会の中での意識を理解する。
- ・b. 自己の課題に基づいた洋画の専門的な表現方法・技術を修得し、社会の中で有用となるスキルを身に付ける。
- ・c. 制作のプロセスや描画材の特性を十分に理解し、問題意識を持って主体的に制作する態度を獲得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・導入(科目・成績評価・画材等の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・制作Ⅰ人物デッサンor着彩(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第3回	・〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第4回	・〃 (部分的な把握)	〃 (部分的な把握)
第5回	・〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・制作Ⅱ文章題(エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(エスキース・構図・下地)
第7回	・〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第8回	・〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第9回	・〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第10回	・制作Ⅲ自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第11回	・〃 (全体的な把握)	〃 (全体的な把握)
第12回	・〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第13回	・〃 (部分的な描きこみ)	〃 (部分的な描きこみ)
第14回	・〃 (全体を踏まえた仕上げ)	〃 (全体を踏まえた仕上げ)
第15回	・〃 (全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・到達目標a…10%(講評会)、b…65%(課題)、c…25%(授業態度、課題)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・都合により、モチーフを若干変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅲ

(12112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平 鈴 木 専

■ 授業の概要

主眼的に洋画表現を深めるために必要となる専門的技術及び美的創造力を身に付けさせる。写生表現の他に、個人の内面的なテーマによる着色等を課す。洋画における絵画空間を意識した上で、洋画Ⅰ・Ⅱで修得した技術を深化させた主題及びコンセプトの具現化を目指して指導する。また、テーマの明確化・醸成をはかるためにドローイングを複数制作させる。さらに、社会と自己の洋画表現との関係性について説明を求め、表現行為の意義を考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・洋画表現の理論を理解し、専門的な表現方法・技術を身に付ける。
- ・社会との関わりにおいて、美術表現の有効性を理解し、これに係る自己の課題を発見することができる。
- ・自己表現の精度、説得力を意識し、生涯にわたって美術活動を行う力・態度を身に付ける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・導入(科目・成績評価・画材等の説明)、制作Ⅰドローイング(課題の説明)	課題に使用する画材の準備
第2回	・制作Ⅰドローイング(1、2)	課題の継続制作ドローイング(1、2)
第3回	・〃ドローイング(3、4)	〃ドローイング(3、4)
第4回	・〃ドローイング(5、6)	〃ドローイング(5、6)
第5回	・〃(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・制作Ⅱ自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第7回	・〃(全体的な把握)	〃(全体的な把握)
第8回	・〃(部分的な描きこみ)	〃(部分的な描きこみ)
第9回	・〃(部分的な描きこみ)	〃(部分的な描きこみ)
第10回	・〃(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第11回	・制作Ⅲ自由制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)	課題の継続制作(制作の意図・エスキース・構図・下地)
第12回	・〃(全体的な把握)	〃(全体的な把握)
第13回	・〃(部分的な描きこみ)	〃(部分的な描きこみ)
第14回	・〃(部分的な描きこみ)	〃(部分的な描きこみ)
第15回	・〃(全体を踏まえた仕上げ)(講評会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

洋画Ⅳ

(12113)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平 鈴 木 専

■ 授業の概要

洋画Ⅲの学修を踏まえ、主体的に洋画表現を深め、個人の課題を十分意識した制作を指導する。従って3課題のすべてを自由制作とし、使用する画材料なども任意とする。そして、これまで学んできた専門的技術及び表現材料を活用した、個人の内的なテーマ及びコンセプトの表現を実現させる。また、洋画表現の構成要素(作品の造形性、制作行為、発表活動、自己及び社会に及ぼす影響等)への包括的な理解を促し、表現行為の意義を理解させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・洋画表現の意義を社会・文化等との関係において理解することができる。
- ・主体的・専門的な表現方法・技術による美術表現を自己実現につなげていくことができる。
- ・持続的に美術活動(制作)を行うことで、社会の課題解決につながる多様な視点とスキルを獲得することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・授業の導入（科目・成績評価・画材等の説明）	課題に使用する画材の準備
第2回	・制作Ⅰ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第3回	・〃（全体的な把握）	〃（全体的な把握）
第4回	・〃（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第5回	・〃（全体を踏まえた仕上げ）(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第6回	・制作Ⅱ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第7回	・〃（全体的な把握）	〃（全体的な把握）
第8回	・〃（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第9回	・〃（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第10回	・〃（全体を踏まえた仕上げ）(講評会)	次回課題に使用する画材の準備
第11回	・制作Ⅲ自由制作(制作意図・エスキース)	課題の継続制作(制作意図・エスキース)
第12回	・〃（部分的な描きこみ全体的な把握）	〃（部分的な描きこみ全体的な把握）
第13回	・〃（部分的な描きこみ）	〃（部分的な描きこみ）
第14回	・〃（全体を踏まえた仕上げ）	〃（全体を踏まえた仕上げ）
第15回	・〃（全体を踏まえた仕上げ）(講評会)	

■ 履修上の注意

- ・制作スペースは常時確保されているので、各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題(90%)と授業態度(10%)
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

日本画Ⅰ

(12114)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

数 本 冨英佳

■ 授業の概要

日本画家としての経験を基に、日本画制作における基礎を指導する。日本画の初歩的な知識として画材の性質を知り、その取り扱い方法や、技法・手順の習得を目的とする。日本画の著名な作家の作品を通し、興味関心を深め、植物・静物等のデッサン（写生・素描）、エスキース（下図・構成）を経て本画の作成（トレース、骨描き、下塗り、着色）をし、1つの作品に仕上げて課題として提出させる。日本画作成導入から、作品完成に至る各段階、また、履修者の進度に応じて具体的なかつ適切な技術指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・日本画画材の基礎知識、基礎技法を修得できる。
- ・日本画に必要な描写力の向上を目指すことができる。
- ・日本画独自の技法を実践することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 日本画の説明	日本画の鑑賞
第2回 構想、デッサン	モチーフの観察と構成。
第3回 デッサン	細かに対象を観察し描写をする。
第4回 デッサンからエスキース（小下図）作成・大下図の制作	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。デッサンの確認、必要に応じて加筆。
第5回 大下図の制作仕上げ・本画の和紙の水張り・骨書き練習	仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。
第6回 本画制作 トレース 骨描き	骨描きのため線の引き方を練習する。
第7回 本画制作 墨にて陰影を施す	墨のぼかしの練習をする。
第8回 本画制作 墨での陰影仕上げ	墨の陰影の表現を練習する。
第9回 本画制作 下塗り、下地作り	備品の技法書等で下塗り、下地について下調べしておく。
第10回 本画制作 水干及び、岩絵具での大まかな描き込み	備品の技法書等で水干と岩絵の具について下調べしておく。
第11回 本画制作 水干及び、岩絵具での各部分の描き込み	制作を進める。膠の管理。
第12回 本画制作 水干及び、岩絵具での描き込み	必要に応じて制作を進める。膠の管理。
第13回 本画制作 水干及び、岩絵具での細部の描き込み	完成度を高めるためにさらに制作を進める。膠の管理。
第14回 本画制作 仕上げ	自らのイメージが作品に表現できているかどうかを確認し、必要に応じて加筆する。
第15回 講評・まとめ	苦労した点、工夫・努力した点を言葉でまとめておく。

■ 履修上の注意

丁寧に対象を観察し、基本技法を真面目に習得すること。

道具や日本画材の取り扱いについては説明や指示をよく聞き、丁寧に扱うこと。

■ 成績評価方法・基準

課題作70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（創作意欲や、創作の自主性等、講評会での発言やまとめのあり方）

講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

日本画Ⅱ

(12115)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

数 本 冨英佳

■ 授業の概要

日本画家としての経験を基に、日本画制作における基礎を指導する。日本画の基礎的な知識として画材の性質を知り、その取り扱い方法や、技法・手順の習得を目的とする。課題は大きく2つに設定し、制作1では主にマチエール研究（墨・岩絵具・箔・胡粉・和紙などの伝統画材だけでなく、他分野の画材とのミクストメディア的な研究を含む）を行い、幅広い日本画の分野の表現について技術指導を行う。制作2では、制作1の研究で学んだ表現・技術を活用して制作し、1つの作品に仕上げ課題として提出させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・箔押しや盛り上げ等のマチエール技法の習得ができる。
- ・アクリル絵具やコラージュ等、他の画材や技法との併用の体験ができる。
- ・応用的な日本画表現を身に着け、自己の作品に生かすことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	導入・日本画の説明・課題の説明 制作1：テストプレート ドーサ引き・墨による表現 盛り上げ・重ね塗り	日本画の鑑賞、日本画Ⅰ受講者は、前回の制作の振り返りをしておく。 ドーサの効果について下調べしておく。墨による効果を使った作品について調べておく。表現に合わせて盛り上げておく。
第2回	制作1：テストプレート 箔押し・たらし込み	様々な表現と効果の確認。 箔が施された作品を鑑賞しておく。
第3回	制作2：構想・デッサン・資料研究 テーマの探求	モチーフやテーマを事前に考えておく。
第4回	制作2：デッサン・本画の和紙の水張り	必要に応じてデッサンのデッサンの加筆をする。 仕上がりイメージし、構図とともに細部も確認する。
第5回	制作2：デッサンからエスキース（小下図）・大下図作成	観察出来ていないと気づいたところを丁寧に描き込んでおく。
第6回	制作2：大下図作成・仕上げとトレース	トレースの準備をしておく。
第7回	制作2：本画制作 トレース・骨描き・墨にて陰影を施す	骨描きのため線の引き方を練習する。
第8回	制作2：本画制作 骨描き仕上げ・墨にて陰影を施す	墨のぼかしの練習をする。
第9回	制作2：本画制作 下塗り・下地作り	技法書等で下塗り、下地について下調べをしておく。
第10回	制作2：本画制作 下地作り仕上げ・水干及び岩絵具での制作	技法書等で水干と岩絵具について下調べをしておく。
第11回	制作2：本画制作 水干及び岩絵具での制作	制作を進める。膠の管理。
第12回	制作2：本画制作 水干及び岩絵具での制作の進行	必要に応じて制作を進める。膠の管理。
第13回	制作2：本画制作 水干及び岩絵具での制作描き込み	完成度を高めるためにさらに制作を進める。膠の管理。
第14回	制作2：本画制作 水干及び岩絵具での制作仕上げ	自らのイメージが作品に表現できているかどうかを確認し、必要に応じて加筆する。
第15回	講評・まとめ	苦労した点、工夫・努力した点をまとめておく。

■ 履修上の注意

丁寧に対象を観察し、基本技法を真面目に習得すること。
道具や日本画材の取り扱いについては説明や指示をよく聞き、丁寧に扱うこと。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）

授業態度30％（創作意欲や、創作の自主性等、講評会での発言やまとめのあり方）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

無し

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
スケッチブック、鉛筆、練り消しを常備すること。

日本画Ⅲ

(12116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

只 野 彩 佳

■ 授業の概要

日本画Ⅰ、Ⅱ基礎的な知識、技法を踏まえた上で、より高度な絵画表現を目指し制作をする授業。日本画の作品を完成させる流れを身につけ、20号以上の作品に仕上げることを課題とする。教員は、描画材や支持体の知識を講義するとともに履修者の制作の導きを行う。また、作品の保存と保護の観点から紙の裏打ちの実践、指導を行う。授業全体の流れを汲みながら、履修者の進度に応じて定期的に相談をし、制作を進めていく。このため履修者は、各自が己の制作テーマに沿って主体的に選択、取り組みを行う必要がある。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・自己や社会と向き合い、制作のテーマを見いだすことができる。
- ・自身のテーマの表現に必要な知識、技法を習得し、作品を仕上げるができる。
- ・作品の保存と保護について理解し、制作を行うことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入、日本画の説明、課題の説明	日本画Ⅱまでの制作や学びの振り返りをしておく。
第2回 構想、小下図の作成、支持体準備	描きたいモチーフやテーマを模索し、イメージを膨らませておく。
第3回 小下図の作成、支持体準備、モチーフのデッサン	小下図を決め、具体的な描きたいモチーフを探し出す。
第4回 大下図制作の開始、支持体用意完了	支持体のパネル、紙を用意し終える。
第5回 裏打ち指導	全員遅刻せず集合し、授業開始する。
第6回 裏打ちした本紙の水張り、大下図制作	裏打ちを終えておく。
第7回 本画制作、トレース、転写	大下図、水張りを終えておく。
第8回 本画制作、骨描き、隈取り	トレースと転写を終えておく。
第9回 本画制作、胡粉掛け、下塗り	墨の陰影や、下地をどう塗るか計画しておく。
第10回 本画制作、水干での描き込み①	色の配置や塗る順番をおおまかに計画しておく。
第11回 本画制作、水干での描き込み②	制作を進めておく。膠の管理をする。
第12回 本画制作、水干および岩絵具での描き込み	制作を進めておく。膠の管理をする。
第13回 本画制作、岩絵具での描き込み	制作を進めておく。膠の管理をする。
第14回 本画制作、岩絵具での仕上げ	描き始めを思い起こしながら仕上げる。
第15回 講評、プレゼンテーション（※アクティブラーニング）	制作の意図、工夫した点を話せるようにまとめる。

■ 履修上の注意

日本画Ⅱを履修し、単位を修得していること。

モチーフをよく観察し、必要な知識、技法を積極的に習得すること。

毒性のある赤系の絵の具は水道に流さないこと。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。

パネル、紙は必ず購入する必要があります。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70%（完成度50% 意図・発想20%）

授業態度30%（創作意欲や、創作の自主性等）

講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリント配布します。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問は授業前もしくは終了時に受け付けます。

スケッチブック、鉛筆、練り消しなどの描画材を用意すること。

日本画Ⅳ

(12117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
只 野 彩 佳

■ 授業の概要

日本画Ⅲでの作品制作の流れを踏まえた上で、展示と発表までを視野に入れた計画を立案し、制作を行う授業。個々の作品テーマを効果的に伝えるための展示空間を構想し、作品点数やサイズ、配置方法などを計画した上で制作を行う。作品一点もしくは複数を組み合わせて20号以上の作品に仕上げることを課題とする。教員は、授業全体の流れを汲みながら、履修者の進度に応じて、作品素材、使用技法、作品点数、作品サイズ、配置について相談しながら指導にあたる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・・展示空間を意識して制作することができる。
- ・・自己の作品スタイルを模索する力がある。
- ・・作品の完成度を高める取り組みや工夫ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	導入、課題の説明、構想、技法の説明	美術作品をよく鑑賞する。制作したい作品のテーマを考えておく。
第2回	構想、小下図の作成、支持体準備	描きたいモチーフや組み合わせを模索し、イメージを膨らませておく。
第3回	展示図面作成のためのグループワーク（※アクティブラーニング）、小下図の作成、モチーフのデッサン、支持体準備	作品の組み合わせを構想し終えておく。
第4回	支持体用意完了、大下図開始	具体的に描きたいモチーフを用意しておく。
第5回	裏打ち	全員遅刻せず集合し、授業開始する。
第6回	裏打ちした本紙の水張り、大下図制作	裏打ちを終えておく。
第7回	本画制作、トレース、転写	大下図、水張りを終えておく。
第8回	本画制作、骨描き、隈取り	トレース、転写を終えておく。
第9回	本画制作、胡粉掛け、下塗り	墨の陰影や、下塗りの色を決めておく。
第10回	本画制作、水干での描き込み	色の配置や塗る順番をおおまかに決めておく。
第11回	本画制作、水干での描き込み②	箔や盛り上げなど、用いたい技法を決めて準備。
第12回	本画制作、水干および岩絵具での描き込み	実現したい表現や技法があれば適宜教員に質問。
第13回	本画制作、岩絵具での描き込み	制作を進めておく。膠の管理をする。
第14回	本画制作、岩絵具での仕上げ	描き始めを思い起こしながら仕上げる。
第15回	展示、講評、プレゼンテーション（※アクティブラーニング）	制作の意図、工夫した点を話せるようまとめる。

■ 履修上の注意

日本画Ⅲを履修し、単位を修得していること。
モチーフをよく観察し、必要な知識、技法を積極的に習得すること。
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さないこと。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。
パネル、紙は必ず購入する必要があります。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）
授業態度30％（創作意欲や、創作の自主性等）
講評会等でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリント配布します。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問は授業前もしくは終了後に受け付けます。
スケッチブック、鉛筆、練り消しなどの描画材を常備すること。

彫刻 I

(12118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、彫刻分野における、いくつかの基礎的な表現方法を、1年生の彫刻基礎の授業で学び習得してきた。具体的には、三立体表現の重要な要素である、量感、フォルム、構成、及び、空間について学習した。2年生の彫刻Iにおいては、さらに作品制作の中で、塑造力と造形力と共に表現力を養うために、塑造作品頭像「友人の首」を制作して、石膏取りを行う。

最後に、木を素材とした造形作品制作として、木材などをカービング彫刻と、集合彫刻の要素を取り入れ、加工し構成していく作品として、三次元の造形性の意義について、表現を通して考えていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「友人の首」を制作することにより、人間の頭部の骨格、量感、面の構成、各部の構造などを学んでいく。さらに、情感豊かな塑造作品として表現することを学ぶ。
- ・生き生きとした人間の頭部の観察を通して、デッサン力など観察眼を養う。
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について注意事項を説明。さらに、持参する道具や、服装についてなど説明。	制作課題に使用する画材の準備。1年生時の彫刻基礎授業の彫刻作品についての体験を考察
第2回	制作課題1、塑造作品「頭像」制作、「友人の首」のデッサン	制作課題の継続制作、頭像としての友人首の捉え方(構図・全体的な把握)
第3回	塑造作品「頭像」制作、心棒作り、粘土練り、制作 粘土荒付け	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第4回	塑造作品「頭像」制作、粘土荒付け（量感、フォルム、構造、構成）	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第5回	塑造作品「頭像」制作、粘土荒付け（量感、フォルム、構造、構成）	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第6回	塑造作品「頭像」制作、粘土荒付け（量感、フォルム、構造、構成）	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第7回	塑造作品「頭像」制作、粘土細部土付け（量感、フォルム、構造、構成）	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第8回	塑造作品「頭像」制作、粘土細部土付け（量感、フォルム、構造、構成）完成	制作課題の継続制作、「頭像」としての「友人の首」三次元の捉え方(量感、フォルム、構造、構成など)
第9回	塑造作品「頭像」制作、講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく
第10回	制作課題2 塑造作品、石膏取り制作、作品型取り雌型完成。	石膏取りについて、様々な作品の型取り技法について分析、研究
第11回	塑造作品、石膏取り制作、雌型、石鹸ひき、流し込み	石膏取について、様々な作品の雌型流し込み技法について分析、研究
第12回	塑造作品、石膏取り制作、雌型割り出し、雄型完成、修正作業、完成持ち帰り	石膏取りについて、様々な割り出し技法について分析、研究
第13回	制作課題3 角材や木の枝を素材とした造形作品制作、イメージスケッチ、材料収集、材料加工	木を素材とした造形作品について、様々な構成等の技法について分析、研究
第14回	木を素材とした造形作品制作、材料加工、接着構成	木を素材とした造形作品について、様々な構成等の技法について分析、研究
第15回	木を素材とした造形作品制作、材料加工、接着構成、完成後講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく。三次元の立体作品

■ 履修上の注意

制作課題ごとに、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

・授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

彫刻Ⅱ

(12119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、彫刻分野における、いくつかの基礎的な表現方法を、1年生の彫刻基礎の授業で学び習得した。また、2年生の彫刻Iにおいては、塑造力と造形力と共に表現力を養うために、塑造作品頭像「友人の首」を制作して、石膏取りを行った。さらに、造形作品制作として、少しカービングの要素も取り入れた表現を試みた。後期授業の彫刻IIにおいては、抽象彫刻を学ぶことをテーマに、石を素材とした作品制作を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・実材制作「石材による抽象彫刻制作」を題材として、カービング彫刻を学ぶ
- ・基礎的なカービング彫刻作品の制作を通して、表現力と造形力を体得する
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について注意事項を説明。さらに、持参する道具や、服装についてなど説明。「抽象彫刻」について、様々な石彫作品を文献などで紹介、鑑賞	制作課題に使用する道具の準備。美術表現の三次元の立体表現としての意味を把握、検証する
第2回	制作課題1、「石材による抽象彫刻」の作品制作、テーマ「芽吹、萌芽」に基づき、植物の萌芽について、調査しエネルギーの感じる様子などを考慮し、抽象形態としての単純形「卵形」との関係において、それらをミックスさせる表現として、イメージスケッチ	制作課題の継続制作、文献調査などを通して多くのプランを検討する
第3回	カービング彫刻の作品制作、エスキース作り	制作課題の継続制作、卵形などの抽象形態と萌芽のエネルギーの感じをどのようにミックスさせるか検討する
第4回	カービング彫刻の作品制作、コヤスケと石頭による石材の荒取り、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第5回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第6回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第7回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第8回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第9回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第10回	カービング彫刻の作品制作、ノミと石頭による荒彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第11回	カービング彫刻の作品制作、仕上げ用ノミと石頭による仕上げ彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第12回	カービング彫刻の作品制作、仕上げ用ノミと石頭による仕上げ彫り	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第13回	カービング彫刻の作品制作、仕上げ用ノミと石頭による仕上げ彫り、細部磨き	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第14回	カービング彫刻の作品制作、仕上げ用ノミと石頭による仕上げ彫り、細部磨き、仕上げ、完成	制作課題の継続制作（石材の量感。形態、フォルム、空間）を考慮して進める
第15回	カービング彫刻の作品制作、講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく

■ 履修上の注意

制作課題について、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

彫刻Ⅲ

(12120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、彫刻分野において、1、2年生で基礎的なモデリング、カービング彫刻を学んできた経験を活かして、人体塑造のモデルさんの立ちポーズによる「人体塑造」3分の1像を制作することにより、自然な人間の骨格、プロポーション、量感、筋肉各部の構造や違いなど、三次元の立体表現に欠かせない要素を学んでいく。さらに、情感豊かな塑造作品として表現することを学習する

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基礎的な塑造作品の制作の経験を活かして、さらにレベルアップした塑造力と造形力を体得する。
- ・生き生きとした自然物としての人体の観察を通して、観察眼を鍛えるデッサン力と、三次元の立体表現及び、造形力を養う
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作内容の説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について。成績評価、持参する道具や、服装についてな説明。古今東西の人体塑造彫刻の作品例を、文献などで紹介、鑑賞	制作課題に使用する画材の準備。美術表現の三次元の立体物としての「人体塑造彫刻」の意味を把握、検証する。歴史的な人体塑造作品例を検証する
第2回	制作課題1、塑造作品制作「人体塑造」を始めるにあたり、塑造モデルさんの立ちポーズをクロッキーやデッサン、モデル①	制作課題の継続制作、人体の捉え方(構図・全体的な把握)
第3回	塑造作品制作「人体塑造」心棒作り	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、構成、全体の把握)
第4回	塑造作品制作「人体塑造」粘土荒付け、モデル②	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、量感、フォルム、動き、構成、全体の把握)
第5回	塑造作品制作「人体塑造」粘土荒付け、モデル③	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、量感、フォルム、動き、構成、全体の把握)
第6回	塑造作品制作「人体塑造」細部粘土付け、モデル④	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、量感、フォルム、動き、構成、全体の把握)
第7回	塑造作品制作「人体塑造」各部分、細部粘土付け、モデル⑤	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、量感、フォルム、動き、構成、全体の把握)
第8回	塑造作品制作「人体塑造」各部分。細部粘土付け、仕上げ、完成モデル⑥	制作課題の継続制作、人体の捉え方(プロポーション、量感、フォルム、動き、構成、全体の把握)
第9回	塑造作品制作「人体塑造」講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく
第10回	制作課題2、「人体塑造」作品石膏取り制作、作品型取り雌型完成	石膏取りについて、様々な作品の型取り技法を分析、研究
第11回	「人体塑造」作品石膏取り制作、作品型取り雌型完成	石膏取りについて、様々な作品の型取り技法を分析、研究
第12回	「人体塑造」作品石膏取り制作、雌型に石鹸ひき、乾燥、石膏流し込み、スタッフ張り込み	石膏取りについて、様々な作品の雌型流し込み技法を分析、研究
第13回	「人体塑造」作品石膏取り制作、割り出し、雌型完成	石膏取りについて、様々な作品の雌型流し込み。割り出し技法を分析、研究
第14回	「人体塑造」作品石膏取り制作、雌型修正完成	石膏取りについて、様々な作品の修正技法を分析、研究
第15回	立体作品制作全般についての総括、まとめ、感想などアンケート調査、三次元の立体作品の意味と、作品の可能性を把握し研究する	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく

■ 履修上の注意

制作課題ごとに、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80%）、提出物（20%）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

彫刻Ⅳ

(12121)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、彫刻分野における、基礎的な表現方法を、1年生の彫刻基礎の授業で学び習得した。また、2年生の彫刻Iにおいては、塑造力と造形力と共に表現力を養うために、塑造作品頭像及び、石膏取りを行い、後期彫刻IIではカービングとして石材による抽象彫刻を表現した。3年生前期授業彫刻I IIにおいて、人体塑造及び石膏取りを学習し、後期授業の彫刻Ⅳにおいては、生き物など具象的な形態を、木を素材とした彫刻作品の制作を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・実材制作「木材による具象彫刻制作」を題材として、カービング彫刻を学ぶ
- ・基礎的なカービング彫刻作品の制作を通して、表現力と造形力を体得する。
- ・制作する態度と同時に、制作スキル、作業手順など段取りを学んでいく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス。導入、授業スケジュールについて説明。制作するにあたっての心構えや、制作態度について注意事項を説明。さらに、持参する道具や、服装についてなど説明。「具象彫刻」について、様々な木彫作品を文献などで紹介、鑑賞	制作課題に使用する道具の準備。美術表現の三次元の立体表現としての意味を把握、検証する
第2回	制作課題1、「木材による具象彫刻」の作品制作、テーマ「生き物」として、4本足の哺乳類、爬虫類の他、2本足の鳥類など文献や写真集などで調査し、いろいろな仕草についてポーズや動きを取り入れ、生き生きとした生命感ある形をカービングしていくためのイメージスケッチを多数描いてみる	制作課題の継続制作、文献調査などを通して多くのプランを検討する
第3回	カービング彫刻の作品制作、エスキース作り	制作課題の継続制作、具象彫刻として実際の生き物の形態の特徴を分析する
第4回	カービング彫刻の作品制作、道具について説明、木彫用ノミの研ぎ	制作課題の継続制作、木彫道具ノミなどの種類と研ぎの違いを分析、研究
第5回	カービング彫刻の作品制作、木材の墨入れ、木取り、ノコギリで荒取り	制作課題の継続制作、木材の木取りについて分析、研究。ノコギリの種類を把握、研究
第6回	カービング彫刻の作品制作、ノコギリで荒取り	制作課題の継続制作、ノコギリの荒取りについて分析、研究
第7回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミによる荒彫り	制作課題の継続制作、丸ノミの使用法について分析、研究
第8回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミの荒彫りと、平ノミのはつり技法	制作課題の継続制作、平ノミの使用法について分析、研究
第9回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミの荒彫りと、平ノミのはつり技法	制作課題の継続制作、平ノミの使用法について分析、研究
第10回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫り	制作課題の継続制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫りの分析と、研究
第11回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫り	制作課題の継続制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫りの分析と、研究
第12回	カービング彫刻の作品制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫り	制作課題の継続制作、丸ノミの仕上げ彫りと、平ノミの仕上げ彫りの分析と、研究
第13回	カービング彫刻の作品制作、平ノミの仕上げ彫り、彫刻刀による細部の仕上げ彫り	制作課題の継続制作、平ノミの仕上げ彫りと、彫刻刀による細部の彫りの分析と、研究
第14回	カービング彫刻の作品制作、彫刻刀による細部の仕上げ彫り、完成	制作課題の継続制作、彫刻刀による細部の彫りの分析と、研究
第15回	カービング彫刻の作品制作、講評会（全体講評、個人講評）	全体講評の意義を分析、互いの作品を参考にして今後の制作に取り入れていく

■ 履修上の注意

制作課題について、制作過程の段取りを確実に把握できるように、説明をしっかりと聞いて制作に取り組む。立体作品全般、できるだけ多くの作品を実際に観に美術館へ足を運んだり、多くの文献を調べるなど、日頃の努力が重要である。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（80％）、提出物（20％）による評価。

■ 教科書

授業の中で指示する。必要なプリント、資料を配布する。

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

陶芸 I

(12122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
立 花 布美子

■ 授業の概要

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程などを含めた基礎的スキルを更に深める。石膏型による型おこし成形に取組み、より完成度の高い「製品」を意識した機能性且つ美的デザインに仕上げさせる。石膏の特徴や保存について、また、原型づくりの注意点を説明する。各自施す装飾技法により進度が異なるため、作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけていくよう指導していく。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで発想の展開力を追求させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・石膏型による型おこし制作において基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。
- ・「型」を使用した制作についての意味を理解することができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 型おこし(押し型)成形とは 石膏について	型おこし(押し型)成形について予習
第2回	デザイン ①原型づくり	ワークシートの記入 原型づくりの工夫・装飾技法について
第3回	②原型づくり 仕上げ(荒削り)	原型のチェック
第4回	③原型づくり 仕上げ(細部)	石膏取りについて予習しておくこと
第5回	石膏型づくり(凹型)	カリ石蝕について予習しておくこと
第6回	石膏型づくり(凸型) カリ石蝕の理解	彫刻刀を各自準備する
第7回	石膏型仕上げ ①型おこし	完成した石膏型の修正
第8回	②型おこし後、随時バリ取り仕上げ	各自の計画表の見直し、修正
第9回	③型おこし後、随時バリ取り仕上げ(個数確認)	バリ取りの注意点の確認
第10回	バリ取り仕上げ(細部)	バリ取りの注意点の確認
第11回	①仕上げ 各自装飾(化粧掛けなど)	化粧掛け等の準備・復習
第12回	②仕上げ 各自装飾(下絵付けなど)	下絵付け等の準備・復習
第13回	①各自装飾 釉掛け(透明釉)	ワークシート内容の再確認
第14回	②各自装飾 釉掛け(ワラ白)	ワークシート内容の再確認
第15回	窯出し プレゼンテーション 講評	まとめプリントの記入 他学生の作品の感想・自己作品の評価

■ 履修上の注意

- ・1年次、工芸基礎Ⅱ内で陶芸選択、履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅱ

(12123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
立 花 布美子

■ 授業の概要

工芸基礎で修得した知識や技法、作業工程を含めた基礎的スキルを更に深める。電動ろくろ制作では、ろくろ挽きの基礎知識、技術を身につけるよう教授する。組み物制作では、同じ形・大きさに揃える観察力を高め、計画的に制作を進めるよう指導する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら、自他作品への管理能力と、効率良く制作ができるための判断力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・組み物制作において基礎知識、専門技術を身につけることができる。
- ・電動ろくろ制作において基礎知識、技術を身につけることができる。
- ・作業計画を見直すことで問題解決ができるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 製陶法の復習	トンボ、化粧掛けについて予習
第2回	【A】電動ろくろ成形：菊練り練習 【B】手びねり成形：組み物デザイン	【A】5kg菊練り→巻き上げ→締め理解・練習 【B】デザイン案の収集 ワークシートの記入
第3回	【A】練習1 菊練り、土殺し 【B】トンボの制作	【A】土殺し理解・練習 【B】型・トンボの制作、割り掛けサイズの理解
第4回	【A】練習2 土殺し 【B】①-1制作	【A】土殺しの練習 【B】各自使用する粘土の準備・制作
第5回	【A】練習3 バイ挽き 【B】①-2制作、仕上げ、加飾	【A】土殺し→バイ挽きまでの理解・練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第6回	【A】①-1水挽きまで 【B】①-3制作、仕上げ、加飾	【A】バイ挽き→コテの使用 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第7回	【A】①-2仕上げ、加飾 【B】②-1制作、仕上げ、加飾	【A】カンナの研ぎ方についての理解・使用方法 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第8回	【A】②-1水挽きまで 【B】②-2制作、仕上げ、加飾	各自の計画表の見直し、修正
第9回	【A】②-2仕上げ、加飾 【B】②-3制作、仕上げ、加飾	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第10回	【A】③-1水挽きまで 【B】①②仕上げ、加飾	【A】水挽きまでの反復練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第11回	【A】③-2仕上げ、加飾 【B】①②仕上げ、加飾	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第12回	【A】④-1水挽きまで 【B】釉掛け（透明釉）	【A】水挽きまでの反復練習 【B】仕上げ 化粧泥の準備・各自の加飾方法
第13回	【A】④-2仕上げ、加飾 【B】釉掛け（ワラ白釉）	【A】湿台を使用して削り仕上げ・加飾 【B】釉掛け作業
第14回	【AB共通】釉掛け：透明釉	釉掛け作業・窯詰め作業
第15回	【AB共通】窯出し 講評	まとめプリントの記入

■ 履修上の注意

- ・1年次、工芸基礎Ⅱ内で陶芸を選択、履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔基礎の陶芸2:器の飾りかた〕〔田中見依〕〔美術出版〕〔2, 420円〕

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 080円〕

■ 備考

- ・ 作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅲ

(12124)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
立 花 布美子

■ 授業の概要

陶芸Ⅰで修得した石膏型の技術を応用した「鋳込み成形」による制作に取り組む授業である。機能的且つ美的デザインであり、鋳込みに適した原型作りを指導する。石膏の扱い方の復習、泥漿づくりから攪拌機の操作、泥漿の保存法を教授する。学生同士協働するためのコミュニケーションを図りながら効率良く制作ができるよう指導し、成形から焼成までの全体的な流れの中で問題を発見、解決する能力を身につけるよう教授する。完成作品のデザイン性、用途、機能性を含めたプレゼンテーションを行うことで、発想の展開力を追求させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・鋳込み成形、泥漿について基礎知識を含めた専門技術を身につけることができる。
- ・「型」を使用した制作についての意味を理解できる。
- ・制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 石膏の扱い方復習 泥漿鋳込みとは	泥漿鋳込みについて予習
第2回	デザイン ①原型作り	デザイン案の収集・ワークシートの記入
第3回	②原型作り	原型のチェック
第4回	①石膏型作り（1面）	石膏を流し込む壁作り 彫刻刀を各自準備する
第5回	②石膏型作り（2面）	石膏を流し込む壁作り カリ石鹼の準備
第6回	③石膏型作り（3面）	石膏を流し込む壁作り 石膏型の仕上げ・乾燥
第7回	①泥漿作り（攪拌機、珪酸ソーダの扱い方）	攪拌機・珪酸ソーダの扱い方について予習
第8回	②泥漿作り（泥漿の保存法）	泥漿の状態を毎回チェックすること
第9回	①鋳込み 型外し バリ取り	各自の計画表の見直し、修正
第10回	②鋳込み 型外し バリ取り仕上げ	泥漿の残量をチェックし、補充が必要であれば泥漿作りを行う
第11回	③鋳込み 型外し バリ取り仕上げ(ヤスリがけ)	仕上げ
第12回	④鋳込み 仕上げ(ヤスリがけ)	仕上げ・個数確認
第13回	①加飾 釉掛け（掛け分けも可）	釉薬の準備
第14回	②加飾、釉掛け（掛け分けも可）釉薬処理作業	釉掛け作業・窯詰め作業
第15回	窯出し 講評	まとめプリントの記入 他学生の作品の感想・自己作品の評価

■ 履修上の注意

- ・陶芸Ⅰまたは陶芸Ⅱを履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50%（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50%
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

陶芸Ⅳ

(12125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

前半の課題として、ろくろ成形において更に高度な技術を修得するため、大物水挽きを反復練習し、様々な表現ができるよう指導する。後半の課題として、様々な素材による制作方法（ろくろ制作、オブジェ）、装飾を試み、卒業研究へとつなげていく授業である。大物課題の窯詰め方法を教授し、卒業研究時には各自が窯詰め作業をスムーズに行えるよう判断力を身につけ、これまでに習得した陶芸の知識を活かしながら研究計画を立てられるよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ろくろ制作において高度な技術の修得、知識理解を深めることができる。
- ・大物制作における表現、想像力を身につけ、意欲的に取り組むことができる。
- ・制作、プレゼンを通しての展開力、判断力を身につけることができる。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス 菊練り練習（3～5kg）	様々な大物ろくろ挽きについて予習
第2回 電動ろくろ成形（亀板使用）大物土殺し練習	道具（ダンゴ、亀板）について予習
第3回 各自粘土の種類を選択 大物土殺し練習	様々な土殺しの理解・復習
第4回 大物土殺し練習 ダンゴの使用	ダンゴの様々な使い方の理解
第5回 ①-1 中鉢・大鉢 練習、制作	様々な器の形の名称を予習
第6回 ①-2 中鉢・大鉢 削り仕上げ	大鉢の削り方についての理解
第7回 ②-1 大皿・ドラ鉢 練習、制作	大皿の水挽きの注意点の理解・復習
第8回 ②-2 大皿・ドラ鉢 削り、仕上げ	大皿の削り方についての理解
第9回 ③-1 筒花生・壺 練習、制作	張らし伸ばしの理解・練習
第10回 ③-2 筒花生・壺 削り、仕上げ 卒業研究内容の検討	様々な素材、装飾技法など資料収集
第11回 ①各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 （テストピース作り）	各自材料の注文 釉薬の原料についての理解
第12回 ②各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 （釉薬の調合）	釉薬の調合の理解
第13回 ③各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 （焼成実験）	各自釉薬の調合・焼成実験を進める
第14回 ④各卒業研究内容に応じた制作 釉薬の調合・実験 （焼成後の検証）	各自釉薬の調合・焼成実験を進める
第15回 窯出し 講評 卒業研究内容の検討等	卒業研究申告書内容の確認とまとめ

■ 履修上の注意

- ・陶芸Ⅰまたは陶芸Ⅱ、および陶芸Ⅲを履修していること。
- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業参加状況50％（各回の制作日誌の記入内容も含む）、課題作品50％
- ・各課題について、講評会でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

- 〔陶芸を学ぶ①〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 480円〕
- 〔釉薬手づくり帖〕〔野田耗一著〕〔誠文堂新光社〕〔1, 641円〕
- 〔釉薬づくり入門〕〔深海宗佑著〕〔誠文堂新光社〕〔2, 835円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。
- ・ループリックを授業中に配布するので、学習目標として参照すること。

漆芸Ⅰ

(12126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆塗りの主な技法として仙台木地呂塗りを中心に塗りの技法を指導する。木目を生かした木地呂漆塗り・不透明塗り〔朱漆塗り・黒呂色漆塗り・色漆塗り（木地呂漆＋顔料で作る）等〕を刷毛塗り、研ぎ、磨きの漆塗り技法で修得し、色漆で塗り塗り研ぎの技法を用い、下層上層の色漆の断層が紋様となる意匠塗り（例・根来塗）、仕掛塗り（例・津軽塗）が理解できるように指導する。万延元年創業仙台筆笥の伝統技法を用い、仙台筆笥等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・素地の調整と固めの仕組みを理解でき、下地工程ができる。
- ・漆の粘度の調整ができ、漆を塗ることができる。
- ・研ぎ磨きの工程が理解でき仕上げることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の説明 漆塗りの道具について 木地呂塗り 不透明塗り	プリント配布
第2回	素材の違いによる木地調整と木地固め	漆塗りの工程を復習しておく。
第3回	・木地呂塗：砥の粉錆付け 表面 ・不透明塗り：寒冷紗張り 表面	錆漆、糊漆について理解しておく。
第4回	・木地呂塗：砥の粉錆付け 裏面 ・不透明塗り：寒冷紗張り 裏面	漆が乾燥しているか確認しておく。
第5回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆（生漆＋木地呂漆）ヘラしごき① ・不透明塗り：空研ぎ 地の粉錆付け①表面	呂瀬漆（ロゼウリ）、地の粉錆について理解しておく。
第6回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆（生漆＋木地呂漆）ヘラしごき② ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 地の粉錆付け①裏面	呂瀬漆、地の粉錆に乾燥しているか確認しておく。
第7回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆（生漆＋木地呂漆）ヘラしごき③ ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 砥の粉錆付け②表面	砥の粉錆について理解しておく。
第8回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆（生漆＋木地呂漆）ヘラしごき④ ・不透明塗り：空研ぎ ⇒ 砥の粉錆付け②裏面	錆面が平滑であるか確認しておく。
第9回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 呂瀬漆（生漆＋木地呂漆）ヘラしごき⑤ ・不透明塗り：表裏水研ぎ	木地呂漆、不透明漆について理解しておく。
第10回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆中塗り 表面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆中塗り 表面	ムラなく平滑に塗りができたか確認しておく。
第11回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆中塗り 裏面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆中塗り 裏面	漆が乾燥し、水研ぎの作業に入れるようにしておく。
第12回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆上塗り 表面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆上塗り 表面	ムラなく平滑に塗りができたか確認しておく。
第13回	・木地呂塗：水研ぎ ⇒ 木地呂漆上塗り 裏面 ・不透明塗り：水研ぎ ⇒ 黒または朱漆上塗り 裏面	足りない上摺り漆を重ねておく。
第14回	木地呂塗/不透明塗とも上塗り研ぎ ⇒ 胴摺り	研ぎ、胴摺りについて理解しておく。
第15回	仕上 講評会	仕上げ磨きについて理解しておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。工芸基礎Ⅰ、Ⅱを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進捗（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし2〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕

〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・基本教材費：16, 500(税込)〔木製: 樺プレート・シナ合板プレート 各1枚、寒冷紗、漆刷毛〕
- ・漆は各自購入
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅱ

(12127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

多種多様な作品の完成度を高めるため漆を用いて文様などの装飾を施す加飾法について指導する。

蒔絵筆、粉筒（竹製で蒔絵粉の粗さに適した布を竹先に貼ったもの）等の加飾道具の使用法、またその道具をできる限り自作できるよう、さらに各種顔料で色漆を調合し、漆絵、平蒔絵、研ぎ出し蒔絵、高蒔絵、卵殻、螺鈿、箔絵、金粉蒔きなど各種技法で作品の完成度を高める指導をする。

万延元年創業仙台筆筒の伝統技法を用い、仙台筆筒等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・卵殻等で文様を作成することができる。
- ・色漆等で筆を用い文様を作成することができる。
- ・一連の作業を理解し作品を製作できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	卵殻・螺鈿・箔絵・平蒔絵・高蒔絵について	プリント配布（手板作り等）
第2回	卵殻、螺鈿の下処理	卵殻、螺鈿を用意し、卵殻は下処理できるよう乾燥させておく
第3回	卵殻、螺鈿の和紙貼り	手板を作成しておく。
第4回	卵殻、螺鈿手板：卵殻、螺鈿を漆貼る。	卵殻、螺鈿漆貼り用に呂瀬漆をつくっておく。
第5回	・黒呂色塗り手板：漆塗り ・蒔絵作業手板：平蒔絵、研ぎ出し蒔絵	・黒呂色漆をつくっておく。 ・平蒔絵、研ぎ出し蒔絵の文様構図の考察
第6回	・黒呂色塗り手板：黒呂色研ぎ ・蒔絵作業手板：平蒔絵、金蒔絵、箔絵	・研ぎができるよう乾燥させておく。 ・平蒔絵、金蒔絵、箔絵の文様構図の図案化
第7回	・黒呂色塗り手板：胴摺り ・高蒔絵手板：金粉定着	・高蒔絵の文様構図の考察
第8回	・黒呂色塗り手板：磨き ・高蒔絵手板：磨き	・高蒔絵の文様構図の図案化
第9回	各手板の仕上げ	作品への置目（材）をできるようにしておく。
第10回	作品への図案転写 ①	色漆を塗れるようにしておく。
第11回	作品の図案に色漆を塗る ②	仕上げ等の作業ができるようにしておく。
第12回	作品：胴摺り ③	作品の完成度の確認。
第13回	作品：磨き ④	まとめの作業ができるよう準備。
第14回	総仕上げ	まとめの完成
第15回	まとめ・講評会	講評会への資料の準備

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅰを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進捗（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

- 〔日本の漆工 其の一 材料と用具〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円（税込）〕
- 〔やさしく身につく漆のはなし2〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円（税込）〕
- 〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円（税込）〕

■ 備考

- ・漆芸Ⅱの基本材料費、漆は各自購入。

- ・ 質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅲ

(12128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

乾漆制作(仏像制作等に用いられている木では造形しにくい形状を制作する技法)は自由で楽しい発想を重視し、乾漆の基礎、先々高度な造形を目指すための習作として、漆の特性、可能性を追求し、表現力、意匠力を研鑽し作品を制作できるよう指導する。①粘土型の脱活乾漆、②石膏型の乾漆を寒冷紗、麻布で強皮で自由な形、大きさを乾漆素地を2点以上を工夫しながら制作を進める。万延元年創業仙台筆笥の伝統技法を用い、仙台筆笥等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 乾漆制作の工程を理解できる。
- ・ 乾漆素材の布(寒冷紗、麻布)を漆で貼ることができる。
- ・ 作品として乾漆作品を制作できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	乾漆について 粘土型、石膏型	プリント配布
第2回	・粘土原型作り ・石膏型作り	作品のスケッチ、図面
第3回	※以下粘土型・石膏型共通作業 原型の調整	石膏型を乾燥させ、次の作業に進みやすくしておく。
第4回	原型の表面調整と離型剤塗り	離型剤の糊を調整しておく。
第5回	寒冷紗貼り 縦	寒冷紗の糊を取り、布の大きさを裁断しておく。
第6回	目止め錆付け	目止め錆を作っておく。
第7回	寒冷紗貼り 横	空研ぎし、漆が乾燥しているか確認。
第8回	目止め錆付け	空研ぎし、目止め錆をつくっておく。
第9回	麻布貼り	麻布糊を取り、布の大きさを裁断しておく。
第10回	目止め錆付け	空研ぎし、目止め錆をつくっておく。
第11回	寒冷紗貼り 縦	糊漆を作っておく。
第12回	目止め錆付け	錆漆を作っておく。
第13回	寒冷紗貼り 横	糊漆を作っておく。
第14回	目止め錆付け	錆漆を作っておく。
第15回	縁の始末 講評会	全体の漆の乾燥を確認しておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅰまたは漆芸Ⅱを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・ 作品提出（60％）：完成度、デザイン、個性の表現（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし3〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・ 基本材料費：5, 500円（税込）【粘土、石膏、寒冷紗、麻布等】
- ・ 漆は各自購入
- ・ 内容質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

漆芸Ⅳ

(12129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆芸Ⅲで制作した乾漆素地を完成させ、今まで学んできた朱塗り、黒呂色塗り、色漆を用いる変り塗り〔意匠塗り（例・根来塗）、仕掛塗り（例・津軽塗）〕、漆加飾の漆絵、平蒔絵、研ぎ出し蒔絵、高蒔絵、卵殻、螺鈿、箔絵、金粉蒔きなど加飾の各種技法を用い乾漆作品が完成でき、乾漆制作には多様な表現方法があることを理解し、漆器作りの楽しさ面白さを感じるよう指導する。万延元年創業仙台筆笥の伝統技法を用い、仙台筆笥等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・乾漆型、脱活乾漆型を作り、作品を仕上げるができる。
- ・形に合った色調、加飾で作品が製作できる。
- ・乾漆漆器として作品を仕上げるができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	脱乾 縁の調整 固め 捨て塗り	脱乾し塗りの工程に進めるようにしておく。
第2回	黒中① 内	空研ぎし塗り作業に進めるようにしておく。
第3回	黒中① 外	空研ぎし塗り作業に進めるようにしておく。
第4回	水研ぎ、黒中② 内	水研ぎし外面全体が平滑であるか確認しておく。
第5回	水研ぎ、黒中② 外	水研ぎし内面全体が平滑であるか確認しておく。
第6回	水研ぎ、黒中③ 内	作品図柄、色調加飾の考察
第7回	水研ぎ、黒中③ 外	作品図柄、色調加飾の完成
第8回	絵付け彩色等〔デッサン、絵付け〕（漆絵、蒔絵、卵殻等）	細部の調整をしておく。絵付け工程に入れるようにしておく。
第9回	絵付け彩色等〔呂色漆による塗り固め〕（漆絵、蒔絵、卵殻等）	色漆等の粘度、色調を確認しておく。絵付け漆の乾燥を確認しておく。
第10回	絵付け彩色等〔呂色漆仕上げ固め〕（漆絵、蒔絵、卵殻等）	全体の色調加飾の度合の確認。
第11回	仕上げ工程 細部の砥石（600番）による研ぎ	仕上げの工程に入れるようにしておく。
第12回	仕上げ工程 細部の砥石（1500番）による研ぎ	上摺りの不足している部位に述べ摺りをしておく。
第13回	磨き工程 水研の粉胴摺り	磨きの工程に入れるようにしておく。
第14回	磨き工程 油研の粉胴摺り	磨きの完成度を高めておく。
第15回	作品完成（仕上げ磨き） 講評会	まとめの準備 プレゼンの準備

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅲを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（40％）：意欲、柔軟性、理解度など
- ・作品進度（60％）：デザイン、センス、個性の表現、完成度（講評会課題提出でフィードバックする）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし3〕〔（一財）日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・漆芸Ⅳの漆、副材は各自購入。
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

染織Ⅰ

(12130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 輝 子

■ 授業の概要

工芸基礎Ⅱ（染織）での実習を踏まえ、木杵を使用した綴織の織物制作を行う。各自の計画に基づき、デザイン性を高めた作品制作ができるよう指導する。織機の構造、張力調整、糸量の計算等について理解し、使用目的に応じた素材選択ができるよう教授する。今後使用する多様な織機の種類、構造について理解を深め、自身に適した技法を探り、各自の設定するテーマに沿って作品展開できる創造的実践力を養うことができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・織り実習を学習する上で必要な知識を身につける。
- ・織の工程・高機の構造及び使用手順を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 授業概要	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 織機の構造について 織物計画	織機の構造について 資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 下図に関する調査 下図作成	下図に関する調査・制作ノートのまとめ
第4回 下図作成	下図作成・制作ノートのまとめ
第5回 原寸拡大	素材研究・制作ノートのまとめ
第6回 素材の選定 糸量の計算	糸の扱いについて 制作ノートのまとめ
第7回 糸巻き 整経	素材研究・制作ノートのまとめ
第8回 整経	材料準備・制作ノートのまとめ
第9回 箆通し	箆通しに関する制作記録のまとめ
第10回 綜統通し	綜統通しに関する制作記録のまとめ
第11回 織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作記録のまとめ
第12回 織り②（中央部）	織り②（中央部）に関する制作記録のまとめ
第13回 織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作記録のまとめ
第14回 端糸の始末 仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回 講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
綴織りの基礎知識を要するため、工芸基礎Ⅱ（染織）を履修し、単位を修得していること。
教材費として実費（1000円程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅱ

(12131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 輝 子

■ 授業の概要

高機実習前の実習として、卓上機を使用した織実習を実施する。織機の構造、制作工程に関する理解を促し、組織図等の織計画の設計指導にあたる。織計画に基づく制作をとおして、織物制作に関する一連の工程を理解できるよう教授する。ノッティングの技法を用い、タビストリー又は敷物を制作させる。必要に応じて、糸の精錬・天然染料を用いた染色実習等も実施する。織物の使用目的に応じた素材選択に関する研究をとおして、染織に関する専門的な知識と高機制作に備えた基礎的スキルを修得できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・織り実習を学習する上で必要な基礎知識を身につける。
- ・織の工程・卓上機の構造及び使用手順を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要 織機の構造・用具について	染織に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	ノッティング 図案資料収集	ノッティングに関する研究・制作ノートのまとめ
第3回	下図作成① エスキース	エスキースに関する研究・制作ノートのまとめ
第4回	下図作成② 完成	下図に関する研究・制作ノートのまとめ
第5回	下図作成③ 原寸拡大	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第6回	素材の検討・発注	素材に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第7回	糸準備	糸準備・制作工程ノートのまとめ
第8回	整経	整経に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第9回	箆通し	箆通しに関する制作記録のまとめ
第10回	綜統通し	綜統通しに関する制作記録のまとめ
第11回	織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作記録のまとめ
第12回	織り②（中部）	織り②（中部）に関する制作記録のまとめ
第13回	織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作記録のまとめ
第14回	糸の始末	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回	講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
教材費として実費（2000円程度）を徴収します。教材費の他、作品に使用する糸は各自購入すること。
織に関する基礎知識が必要なため、染織Ⅰを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅲ

(12132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 輝 子

■ 授業の概要

染織Ⅰ、Ⅱの実習を踏まえ、高機を使用した綴織の織物制作を行う。各自の計画に基づき、糸の浸染実習を実施し、デザイン性を高めた作品制作ができるよう指導する。織機の構造、タイアップ方法、糸量の計算等について理解し、使用目的に応じた素材選択ができるよう教授する。多様な織機の種類、構造について理解を深め、自身に適した技法を探り、各自の設定するテーマに沿って作品展開できる創造的実践力を養うことができるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・織り実習を学習する上で必要な知識を身につける。
- ・織の工程・高機の構造及び使用手順を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 授業概要	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回 織機の構造について 織物計画	織機の構造について 資料収集・制作ノートのまとめ
第3回 下図に関する調査 下図作成	下図に関する調査・制作ノートのまとめ
第4回 下図作成	下図作成・制作ノートのまとめ
第5回 原寸拡大	素材研究・制作ノートのまとめ
第6回 素材の選定 糸量の計算	糸の扱いについて 制作ノートのまとめ
第7回 糸巻き 整経	素材研究・制作ノートのまとめ
第8回 整経	材料準備・制作ノートのまとめ
第9回 箆通し	箆通しに関する制作記録のまとめ
第10回 綜統通し	綜統通しに関する制作記録のまとめ
第11回 織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作記録のまとめ
第12回 織り②（中央部）	織り②（中央部）に関する制作記録のまとめ
第13回 織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作記録のまとめ
第14回 端糸の始末 仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回 講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
作品に使用する糸は各自購入すること。
糸染め・織りの基礎知識を要するため、染織Ⅰ、染織Ⅱを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

染織Ⅳ

(12133)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 輝 子

■ 授業の概要

染織Ⅰ～Ⅲの染織実習で習得した技法の中から特定の技法を選択させ、綿密な作業計画に基づき、制作をとおりイメージの具現化を指導する。4年次の卒業研究を踏まえ、制作過程に必要なプロセスを確認させ、論理的展開力の向上を目指す。授業形態はアクティブラーニングを導入し、提案・検討を重ね、活発な意見交換を通じて協働して学ぶ態度を養うことができる。ポートフォリオの作成・発表をとおり、各自のテーマ、デザイン性の深化を促し、表現に必要な課題を発見・解決できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・制作過程に必要なプロセスを理解し、技術を身につける。
- ・染色及び織に関する専門的な知識・技術を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	研究内容の設定	研究内容に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回	参考資料収集① 技法について	技法に関する研究・制作ノートのまとめ
第4回	参考資料収集② 素材について	素材に関する研究・制作ノートのまとめ
第5回	下図作成	下図作成・制作ノートのまとめ
第6回	下図原寸拡大	下図原寸拡大に関する制作ノートのまとめ
第7回	染料・素材の決定	染料・素材の決定に関する制作ノートのまとめ
第8回	整経	整経準備・制作ノートのまとめ
第9回	箆通し	箆通し準備・制作ノートのまとめ
第10回	綜統通し	綜統通し準備・制作ノートのまとめ
第11回	織り①（下部）	織り①（下部）に関する制作ノートのまとめ
第12回	織り②（中央部）	織り②（中央部）に関する制作ノートのまとめ
第13回	織り③（上部）	織り③（上部）に関する制作ノートのまとめ
第14回	端糸の始末 仕上げ	講評会用備品準備・制作ノートのまとめ
第15回	講評会	講評会準備・制作ノートを完成させる

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
作品に使用する材料は、各自購入すること。
染織Ⅰ、染織Ⅱ、染織Ⅲを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

受講人数等の事情により、シラバスの修正（授業計画等）が生じる場合があります。
質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅠ

(12134)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

この授業は、「色彩構成」「色と素材研究」を中心に、デザインにおける表現力とイメージの伝達力を育成することを目的とする。その前段階として次の2課題を設定している。「色彩構成」では、物どうしの大きさ、物とその背景の関係を比率やバランスで捉える構成力を培い、さらに色との関係を検証させ、実際に描写する課題を提示する。「色と素材研究」では、同色でも素材の違いで色が違って見えることの仕組みを体験的に学習させることで、色に関する理解の深化を図る。作品評価は、平常の授業態度に加えプレゼンテーションでの作者の発言内容と他学生の意見や反応も重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基本的なデザインスキルを身につける。
- ・調べたことを図やイラストにまとめる力を身につける。
- ・思考力、創造力、表現力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	自習（事前・事後学修の内容）
第2回	色と素材研究 課題説明 用具、材料の説明	今回の課題について情報を集める。
第3回	色と素材研究 制作1 素材の検討 素材の接着	テーマに沿って材料を集める
第4回	色と素材研究 制作1 色彩計画 作業、道具、材料の確認	各自の素材を比較、検討する。
第5回	色と素材研究 制作1 彩色、描写 完成	道具の準備と材料を購入する。
第6回	色と素材研究 制作2 素材の検討 素材の貼り込み	遅れている人は授業外で進めておく。
第7回	色と素材研究 制作2 色彩計画 作業、道具、材料の確認	各自の素材を比較、検討する。
第8回	色と素材研究 制作2 彩色、描写 完成	道具の準備と材料を購入する。
第9回	色と素材研究 講評	遅れている人は授業外で進めておく。
第10回	色彩構成 課題説明	作品について制作の意図やねらいを説明できるよう準備しておく。
第11回	色彩構成 資料収集 アイディアスケッチ 下描き完成	作例を調べる。画材や道具の準備をする。
第12回	色彩構成 彩色と構成	完成できなかった人は授業外で進めておく。
第13回	色彩構成 彩色と描写	道具、画材の確認をする。足りない用具は購入を済ませておく。
第14回	色彩構成 制作 完成	遅れ気味の方は授業外で進めておく。
第15回	色彩構成 講評	完成できなかった人は授業外で進めておく。
		作品について制作の意図やねらいを説明できるよう準備しておく。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。計画の順序や日程を変更することがある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅡ

(12135)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

この授業は、グラフィックデザインにおける表現力とイメージの伝達力を身につけることを目的とする。授業として次の2課題を設定している。「ポスターデザイン」では、依頼されたポスターのデザインを課す。PBL形式にて授業を実践し、チームによるグループワークの機会を提供する。「絵本のための原稿制作」では、企画に沿った絵本制作を課す。手描きの原画にソフトウェア・アプリを用い、文字入れ、レイアウトを試行させる。作品評価は、平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見や反応も重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・基本的なデザインスキルを身につける。
- ・情報を図やイラストにまとめる力を身につける。
- ・地域との関連からデザインを考える方法を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について） 班編成と役割分担	今回の課題について情報を集める。
第2回	ポスターデザイン 課題の説明 プランニング	テーマに沿って情報を集め調べる。
第3回	ポスターデザイン プレインストーミング	各班はテーマに沿って調べる。
第4回	ポスターデザイン プレインストーミング 中間発表	手書きラフを準備する。
第5回	ポスターデザイン 制作	ソフト、アプリを使って制作をする。
第6回	ポスターデザイン プレゼンテーションの手法 企画書作成	企画書完成、印刷をする。
第7回	ポスターデザイン 最終プレゼンテーション	印刷原稿の準備
第8回	絵本制作 テーマ設定 情報収集	テーマに沿って情報を集め調べる。
第9回	絵本制作 計画、スケジュール確認	手書きラフスケッチで全体、ストーリーを確認。
第10回	絵本制作 素材、材料の確認 アイディアスケッチ 下描き	遅れている人は各自進めておく。
第11回	絵本制作 ストーリー確認	制作を進め、中間プレゼン用ラフを完成させる。
第12回	絵本制作 中間発表（進捗状況確認）	発表で感じたことや他の制作との比較で手直しをしておく。
第13回	絵本制作 中間発表での意見や感想を制作に生かす。	遅れ程いる人は各自進めておく。
第14回	絵本制作 完成	制作を進め次回までに完成させる。
第15回	絵本制作 発表	修正を加え完成させる。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。授業計画の順序、内容の変更をすることがある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅢ

(12136)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

外部からの依頼によるデザイン2課題を課す。1. 社会福祉法人と2. 企業からの依頼があり予定をしている。依頼の趣旨を踏まえ、依頼者からの要望や課題・問題をデザインで解決できるように指導する。もし依頼のキャンセルがあった場合は、次の課題に変更する。幾何学的な図形を用いた構成「幾何学構成」：幾何学構成の「歴史」や「表現方法」について研究する。実技をとおして、画材、道具の使い方、制作の手順を体験させる。作品評価は、平常の授業態度に加えプレゼンテーション時での作者の発言内容と他学生の意見や反応も重視する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	次回の課題について情報を集める。
第2回	外部依頼デザイン制作1 課題説明 依頼の内容確認、進め方、用具、材料の説明 / テーマ「抽象」制作1 課題説明 日程、用具、材料の説明	課題について情報を集める。
第3回	外部依頼デザイン制作1 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き / テーマ「抽象」制作1 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き	各自のテーマに沿って調べる。
第4回	外部依頼デザイン制作1 作業 機材、道具、材料の確認 / テーマ「抽象」制作1 作業 機材、道具、材料の確認	必要な用具を準備する。
第5回	外部依頼デザイン制作1 作業 進行具合の確認 / テーマ「抽象」制作1 作業 進行具合の確認	予定を見直し制作を進める。
第6回	外部依頼デザイン制作1 作業 進行具合の確認 / テーマ「抽象」制作1 細部の修正	制作を進める。
第7回	外部依頼デザイン制作1 細部の修正 完成 / テーマ「抽象」制作1 仕上げ 完成	制作を完成させ、まとめる。
第8回	講評・まとめ	加筆、修正を行う。
第9回	外部依頼デザイン制作1 課題説明 依頼の内容確認、進め方、用具、材料の説明 / テーマ「抽象」制作2 課題説明 日程、用具、材料の説明	課題について情報を集める。
第10回	外部依頼デザイン制作2 アイディア ラフスケッチ 計画 下描き / テーマ「抽象」制作2 アイディアの検討 ラフスケッチ 計画 下描き	テーマに沿って情報を集め調べる。
第11回	外部依頼デザイン制作2 作業 機材、道具、材料の確認 / テーマ「抽象」制作2 作業 機材、道具、材料の確認	材料等必要なものを事前に準備する。
第12回	外部依頼デザイン制作2 作業 進行具合の確認 / テーマ「抽象」制作2 作業 進行具合の確認	制作を進める。
第13回	外部依頼デザイン制作2 細部の修正 / テーマ「抽象」制作2 細部の修正	予定を見直し制作を進める。
第14回	外部依頼デザイン制作2 細部の確認 完成 / テーマ「抽象」制作2 仕上げ 完成	制作を進め完成させる。
第15回	講評・まとめ	完成させ提出する。

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。授業計画の順序、内容の変更をすることがある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、講評時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

視覚デザインⅣ

(12137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

デザインによる卒業制作を想定し、素材研究・技法研究、展示を意識した研究制作に取り組ませる。個別指導を中心に、各自が設定したテーマとそれらのテーマに関する取材・調査に基づくデザイン制作を課す。中間発表や最終プレゼンテーションはグループ単位で行うこととし、受講生たちに、「個」とは異なる「集団」での伝達行為の機会を提供する。また、これまで培った知識・技能・態度を総合的に活用し、自律的思考に基づく、社会貢献モデルの提示を求める。具体的には「イメージ力」「プレゼンテーション力」の向上を図りつつ、各自、自分のイメージを発表をとおして具現化することができるよう指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる
- ・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	課題1「各自テーマを設定」	テーマ設定	調査、資料収集を行う。	
第2回	「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究			調査、資料収集を行う。	
第3回	完成予想（図やマケット）	制作	材料準備	材料の購入を済ませておく。	
第4回	制作	基本構造	制作	中間構造	作品制作
第5回	制作	細部・表面	制作	仕上げ	作品制作
第6回	制作	設置計画			発表の手順等、準備をする。
第7回	発表	手直し	講評・まとめ		発表後の手直しをする。
第8回	課題2「各自テーマを設定」	課題説明	「各自テーマを設定」	テーマ設定	調査、資料収集を行う。
第9回	「各自テーマを設定」情報収集 技法・素材研究			調査、資料収集を行う。	
第10回	完成予想（図やマケット）	制作	材料準備	材料の購入を済ませておく。	
第11回	制作	基本構造	制作	中間構造	作品制作
第12回	制作	細部・表面	制作	仕上げ	作品制作
第13回	制作	設置計画	制作	設置	作品制作
第14回	発表	手直し			発表の手順等、準備をする。
第15回	講評・全体のまとめ			発表後の手直しをする。	

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する。

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う。

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅠ

(12138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報デザインとは、複雑な情報や仕組みを整理し、わかりやすく伝えるための手法である。情報デザインⅠでは、Adobe IllustratorやPhotoshopを用いて「情報の可視化」演習に取り組み、情報を視覚的に表現し、他者にわかりやすく伝えるための技法を修得する。情報デザインの基礎的な考え方を理解し、表現力を身につけられるよう教授する。グループディスカッションを通じて他者と協働しながら、理論的かつ説得力のあるプレゼンテーションができることを目指す。大手総合電機メーカーでデザイナーとしての実務経験を有する教員が、実践的な内容を重視して指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・情報デザインの基礎的な考え方を理解し、データ整理、表現に応用することができる
- ・グラフィックソフトを用いて、データや情報を視覚的に表現し、わかりやすく効果的に用いることができる
- ・グループディスカッションを通じて他者と協働し、論理的かつ説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	情報デザインについての調査
第2回	情報デザイン基礎 調査、発表、情報を伝える難しさを体験する	情報デザインについての調査・概論まとめ
第3回	課題1：情報の可視化基礎演習 情報収集、グループディスカッション、アイデアスケッチ	情報の可視化調査・情報の可視化まとめ
第4回	課題1：情報の可視化基礎演習 デザイン制作	情報の可視化調査・制作プロセスまとめ
第5回	課題1：情報の可視化基礎演習 プレゼンテーション、講評、提出	プレゼンテーション準備・課題のふりかえり
第6回	課題2：情報の可視化 ① 情報収集	デザイン調査・デザインまとめ
第7回	課題2：情報の可視化 ① アイデアスケッチ	アイデアスケッチ準備・アイデアスケッチのまとめ
第8回	課題2：情報の可視化 ① デザイン制作	デザイン準備・デザインプロセスのまとめ
第9回	課題2：情報の可視化 ① 中間プレゼンテーション、ブラッシュアップ	中間プレゼンテーション準備・デザイン制作のふりかえり
第10回	課題2：情報の可視化 ① プレゼンテーション、講評、提出・映像鑑賞	プレゼンテーション準備・課題のまとめ
第11回	課題3：情報の可視化 ② 情報収集	デザイン調査・制作プロセスまとめ
第12回	課題3：情報の可視化 ② アイデアスケッチ	アイデアスケッチ準備・アイデアスケッチのまとめ
第13回	課題3：情報の可視化 ② デザイン制作	デザイン準備・デザインプロセスまとめ
第14回	課題3：情報の可視化 ② 中間プレゼンテーション、ブラッシュアップ	中間プレゼンテーション準備・デザイン制作のふりかえり
第15回	課題3：情報の可視化 ② プレゼンテーション、講評、提出	プレゼンテーション準備・課題のまとめ

■ 履修上の注意

メディア芸術基礎を履修、修得していること。授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。
グループディスカッション、グループワークでは相互に協力・協働して積極的に取り組むよう心がけること。
制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。教材・材料費（500円～程度）を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

インフォグラフィックスー情報をデザインする視点と表現（誠文堂新光社）

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅡ

(12139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報デザインⅡでは、Animateを用いてプロジェクションマッピングの演習に取り組む。プロジェクションマッピングは立体物に映像を投影し、特殊な視覚効果を生み出す技術である。授業では、動画表現の基礎を学び、表現技法を修得できるよう指導する。課題テーマとして地域の伝統や歴史を設定し、地域文化への理解を深め、若い世代への伝承を促進する。技術習得とともに、地域社会とのつながりを意識した創造的思考を育めるよう教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・プロジェクションマッピングを用いた動画表現の基礎を理解し、表現できる
- ・アニメーションソフトを活用して、地域文化や伝統を反映した情報の可視化ができる
- ・地域の伝統や歴史に基づいた情報を、視覚的に正確かつわかりやすく伝える表現力を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス プロジェクションマッピング 概要	ソフトについての調査・制作準備
第2回	Animate の基本操作と原理	制作準備・制作プロセスのまとめ
第3回	課題1：Animate 基礎演習	制作技法の調査・演習のまとめ
第4回	課題2：プロジェクションマッピング ① 調査・デザイン・動きのスケッチ・発表	情報収集・制作計画
第5回	課題2：プロジェクションマッピング ① 制作	デザイン調査・制作プロセスのまとめ
第6回	課題2：プロジェクションマッピング ① 中間発表、投影実験	中間発表、投影実験準備・ブラッシュアップ
第7回	課題2：プロジェクションマッピング ① ブラッシュアップ	ブラッシュアップ・制作プロセスまとめ
第8回	課題2：プロジェクションマッピング ① 完成、発表、講評、提出	発表準備・課題のまとめ
第9回	課題3：プロジェクションマッピング ② 調査・発表・PM作品鑑賞	情報収集・制作計画
第10回	課題3：プロジェクションマッピング ② デザイン・動きのスケッチ・発表	デザイン調査・制作計画
第11回	課題3：プロジェクションマッピング ② 制作	制作計画・制作プロセスのまとめ
第12回	課題3：プロジェクションマッピング ② 中間発表、投影実験	中間発表、投影実験準備・制作プロセスのまとめ
第13回	課題3：プロジェクションマッピング ② ブラッシュアップ	ブラッシュアップ・制作プロセスのまとめ
第14回	課題2：プロジェクションマッピング② 完成、発表、講評、提出	発表準備・課題のまとめ
第15回	映像作品鑑賞	映像作品の調査・映像表現のまとめ

■ 履修上の注意

メディア芸術基礎を履修、修得していること。情報デザインⅠを履修、修得しているのが望ましい。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（60%）、授業態度、取り組みの姿勢、発表（40%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「プロジェクションマッピング の教科書」 田中健司著（C&R研究所）

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

情報デザインⅢ

(12140)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報デザインⅢでは、XDまたはFigma（アプリデザインソフト）を用いてインタラクショナルデザイン、UI/UXデザイン演習に取り組む。インタラクショナルデザインとは、ヒトとモノの間に起こる相互作用のかたちを描くことである。インタラクショナルの基礎的な考え方を理解し、表現する力を身につける。グループディスカッションを通じて、他者と意見を交換し、デザインの多角的な視点を取り入れる。プレゼンテーション資料を制作し、効果的に情報を伝達するスキルを向上させる。大手総合電機メーカーでの実務経験を有する教員が実務に基づく指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・インタラクショナルデザインおよびUI/UXデザインの基礎を理解し、実践的に表現できる
- ・アプリデザインソフトを用いて、効果的なデザインおよび情報構築ができる
- ・グループディスカッションを通じてデザインに対する多角的な視点を取り入れ、その結果を基に効果的な資料を作成し、プレゼンテーションを行うことができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	アプリデザインソフトについての調査・課題準備
第2回	デザインサーベイ	デザインサーベイ準備・デザインサーベイ結果まとめ
第3回	デザインサーベイの結果発表 アプリデザインソフト基礎	デザインサーベイ結果発表準備・アプリデザインソフト基礎まとめ
第4回	課題1：UIデザイン、インタラクショナルデザイン基礎 ① 情報収集・情報整理・分類、テーマ設定、アイデアスケッチ	情報収集・情報まとめ
第5回	課題1：制作	制作準備・制作プロセスまとめ
第6回	課題1：プレゼンテーション、講評、提出	プレゼンテーション準備・課題1ふりかえり
第7回	映像鑑賞 ①	映像作品に関する調査・映像鑑賞まとめ
第8回	課題2：UIデザイン、インタラクショナルデザイン基礎 ① 情報収集・グループディスカッション・情報整理・分類	情報収集・まとめ
第9回	課題2：グループディスカッション内容発表 テーマ設定、アイデアスケッチ	グループディスカッション発表準備・まとめ
第10回	課題2：デザイン検討	デザイン検討準備・デザインプロセスまとめ
第11回	課題2：制作	制作準備・制作プロセスまとめ
第12回	課題2：中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション準備・まとめ
第13回	課題2：修正、ブラッシュアップ	ブラッシュアップ準備・まとめ
第14回	課題2：プレゼンテーション、講評、リフレクション、提出	プレゼンテーション準備・課題2ふりかえり
第15回	映像鑑賞 ②	映像作品に関する調査・映像鑑賞まとめ

■ 履修上の注意

情報デザインⅠを履修し、修得していること。情報デザインⅡを履修し、修得しているのが望ましい。

授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。

グループディスカッション、グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。

制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（70%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（30%）で評価します。

課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報デザインⅣ

(12141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

情報と関わる人びとの活動や経験を可視化し、ユーザーが価値を感じる出来事や経験をデザインすることは、情報デザインにおいて重要な課題である。情報デザインⅣでは、経験デザインおよびサービスデザイン演習に取り組み、コミュニケーションや価値を生み出すデザインについて学ぶ。専門的な知識と技法を修得し、実践的なデザイン力を身につけられるよう教授する。自らデザインテーマを設定し、取り組むことによって、実践的な力を養い、課題を自分で考えて解決できる能力を高める。大手総合電機メーカーでの実務経験を有する教員が実務に基づいた指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ユーザー体験を理解し、経験デザインおよびサービスデザインにおける価値創造の方法を考え、適切に表現できる
- ・デザインテーマを自ら設定し、そのテーマに基づいて、効果的なデザインプロセスを実行できる
- ・ユーザーにとって直感的に理解しやすい魅力的なデザインを用いて、情報を効果的に伝えることができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	ソフトについての調査・制作準備
第2回	課題1：経験デザイン・サービスデザイン ① リサーチ・情報収集・情報整理・分類	情報収集準備・情報収集のまとめ
第3回	課題1：リサーチ結果発表、テーマ設定、アイデアスケッチ	発表準備・アイデアまとめ
第4回	課題1：デザイン検討、制作	デザイン検討・制作プロセスまとめ
第5回	課題1：中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・中間プレゼンまとめ
第6回	課題1：ブラッシュアップ	ブラッシュアップ・ブラッシュアップまとめ
第7回	課題1：プレゼンテーション、講評、リフレクション、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第8回	映像鑑賞 ①	課題1ふりかえり・映像鑑賞まとめ
第9回	課題2：経験デザイン・サービスデザイン ② リサーチ・情報収集・情報整理・分類	情報収集準備・情報収集のまとめ
第10回	課題2：リサーチ結果発表、テーマ設定、アイデアスケッチ	発表準備・アイデアまとめ
第11回	課題2：デザイン検討、制作	デザイン検討・制作プロセスまとめ
第12回	課題2：中間プレゼンテーション	中間プレゼン準備・中間プレゼンまとめ
第13回	課題2：ブラッシュアップ	ブラッシュアップ・ブラッシュアップまとめ
第14回	課題2：プレゼンテーション、講評、リフレクション、提出	プレゼン準備・課題のまとめ
第15回	映像鑑賞 ②	課題2ふりかえり・映像鑑賞まとめ

■ 履修上の注意

情報デザインⅢを履修し、修得していること。
授業開始時に重要な説明があるので遅刻をしないよう注意する。
グループワークでは相互に協力・協働して積極的に課題に取り組むよう心がけること。
制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（70%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（30%）で評価します。
課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

プリントを配布する。適宜指示する。

■ 参考書

「デザインはストーリーテリング」エレン・ラプトン著（ビー・エヌ・エヌ新社）

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

プロダクトデザインⅠ

(12142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

落合里麻

■ 授業の概要

プロダクトデザインの基礎となる知識・技法を学び、基礎的な表現力と発想力を身につけさせる。様々な分野の工業製品の事例を参考にしながら、デザインへの理解を促すとともに、その概念を把握できるよう指導する。〈課題1・2〉では工業製品をスケッチし、比較することで物の構造を把握し、アイデアを外在化させるための技術を習得させる。〈課題3〉ではモビールをデザインし、アクリル板を使って制作する。素材の特徴と加工方法について学び、イメージを的確に形にすることを目標とする。授業担当者の実務経験を活かして指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・物の形状を短時間で的確に描くことができる。
- ・工業製品のデザインと構造を理解し、相手に伝えることができる。
- ・素材の特徴と加工方法について理解する。
- ・素材の特性を造形表現として活用できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、プロダクトデザインの事例について	プロダクトデザインの事例について調べる
第2回	〈課題1〉内容説明、工業製品を短時間でスケッチする	描きたい工業製品を選び、準備する
第3回	〃 工業製品を観察し、プレゼンボードを制作する	プレゼンボードのレイアウトを検討する
第4回	〃 プレゼンボード制作、プレゼンテーション、講評	プレゼンボードを完成させる
第5回	〈課題2〉内容説明、工業製品を観察し、特徴をまとめる	比較する工業製品を決定し、準備する
第6回	〃 デザインを細部まで比較し、内容をまとめる	デザインを比較した結果をまとめる
第7回	〃 プレゼンボード制作	プレゼンボードのレイアウトを検討する
第8回	〃 プレゼンテーション、講評	プレゼンボードを完成させる
第9回	〈課題3〉内容説明、アイデアスケッチ、模型を制作する	模型を完成させ、デザインを確定する
第10回	〃 材料の色や種類、全体の構造を検討する	使う材料を決定する
第11回	〃 制作／アクリル板を糸鋸で切り取る	切り取り作業を完了させる
第12回	〃 制作／サンダーで形を整える	形を整え、各部材の重さとバランスを確認する
第13回	〃 制作／アクリル板の縁を研磨する	研磨剤を使って磨き上げる
第14回	〃 制作／ワイヤーで水平材に取り付ける	バランスを微調整し、完成度を上げる
第15回	〃 プレゼンテーション、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・授業内で指示する材料・道具類は自分で購入すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・デザイン基礎Ⅱを履修し、単位を修得していること。
- ・製図Ⅰを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ポーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕

〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅡ

(12143)

単位（総授業時間数＋自習時間）： 2 （60 ＋ 30）

対象学科：美表 2 年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

家具の基本的な知識や人体との関係性、製作・製造に適した素材や構造、生産技術、生産工程について、授業担当者の実務経験を基に教授する。課題では、合板を使った組み立て・分解可能な椅子の模型制作を行う。身の周りの椅子や机、名作椅子の観察を通して、用途、機能、素材等を総合的に判断してデザインできるよう指導する。また、人体の寸法、動作、重量とのバランス感覚を身につけさせる。さらに使う人の視点で課題に向き合い、「外観のデザインの良さ」と「使いやすさ」の両方を満たすことの意味について考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・工業製品の用途、機能、素材等に関して課題を見つけることができる
- ・工業製品や他者の作品を使う人の視点で考察できる
- ・合板の加工方法や塗装方法を身につける
- ・人体の寸法、動作、重量を考慮したデザインができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、課題内容説明、椅子の調査、アイディアスケッチ	家具と人体寸法の関係を調べる
第2回	使う人、空間、場面を設定し、実寸でデザインを考える	設定を基にデザインを考える
第3回	縮尺3分の1模型のデザイン、構造を検討する	材料を購入する
第4回	縮尺3分の1模型の制作（部材の墨付け、切り取り）	制作の計画を立てる
第5回	縮尺3分の1模型の制作（溝加工、穴あけ加工等）	加工を進める
第6回	縮尺3分の1模型の制作（細部の仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第7回	縮尺3分の1模型の制作（仕上げ）、色見本制作	模型を完成させる
第8回	中間プレゼンテーション、意見交換、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる
第9回	縮尺2分の1模型のデザイン、構造を検討する	デザインを再検討し、確定する
第10回	縮尺2分の1模型の制作図と部材図を描く	制作図と部材図を完成させる
第11回	縮尺2分の1模型の制作（部材の墨付け、切り取り）	全ての部材の墨付けをする
第12回	縮尺2分の1模型の制作（溝加工、穴あけ加工等）	加工を進める
第13回	縮尺2分の1模型の制作（細部の仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第14回	縮尺2分の1模型の制作（仕上げ）	模型を完成させる
第15回	プレゼンテーション、意見交換、講評	他学生のプレゼンから学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・授業内で指示する材料・道具類は自分で購入すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・プロダクトデザインⅠを履修し、単位を修得していること。
- ・製図Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ポーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕

〔プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識〕〔JIDA「プロダクトデザインの基礎」編集委員会〕〔ワークスコーポレーション〕〔2, 400円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅢ

(12144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

落合 里麻

■ 授業の概要

社会とプロダクトデザインの関わりについてリサーチし、アイデアを形にする。課題では「あかりのデザイン」をテーマに作品を制作させる。生活の中の「あかり」に関する問題と解決策を話し合い、快適な暮らしへと導くための製品の外観、構造、機能について考えさせる。授業担当者の実務経験を活かし、材料の特性や加工方法について教授する。また、生産工程や機械について理解させ、現場の課題について考察させる。講評会では作品のプレゼンテーションや意見交換を行い、デザインを他者に伝え、発信できる力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・社会とプロダクトデザインの関わりにおける問題点や改善点を複数見つけ出すことができる
- ・問題の解決策と快適な使い心地の双方について検討できる
- ・使う立場と作る立場の両方の視点で材料を選択できる
- ・自らのデザインを他者に的確に伝えることができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、課題内容説明、テーマから発想する	様々な視点でテーマについて考える
第2回	アイデアスケッチ、デザインを検討する	デザインを複数描き出す
第3回	紙で模型を制作する	模型を完成させる
第4回	デザインを決定する	細かい部分の納まりを検討する
第5回	材料を選定し、構造、加工方法を検討する	制作の計画を立てる
第6回	材料を選定し、構造、加工方法を検討する	加工方法を確定し、材料を購入する
第7回	制作図を描く（三面図）	制作図（三面図）を完成させる
第8回	制作図を描く（部材図）	制作図（部材図）を完成させる
第9回	制作（材料に転写し、部材を作る）	部材の外側を大まかに切り取っておく
第10回	制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第11回	制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第12回	制作（部材の組み立て、微調整）	微調整を行う
第13回	制作（塗装、仕上げ）	塗装後に細部を調整し、完成度を上げる
第14回	プレゼンボードを制作する	プレゼンボードを完成させる
第15回	プレゼンテーション、意見交換、講評	プレゼンと意見交換から学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・授業内で指示する材料・道具類は自分で購入すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・プロダクトデザインⅠ・Ⅱを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ポーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕
〔Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド〕〔井上竜夫〕〔日経BP〕〔4, 100円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

プロダクトデザインⅣ

(12145)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

落合里麻

■ 授業の概要

プロダクトデザインのプロセスに則り、発想力・企画力・表現力・プレゼンテーション力などの実践的な能力を身につけさせる。本授業では、課題作品の制作とCAD演習を行う。作品制作では、学生自身でテーマを設定し、暮らしを快適にするための製品デザインを考案、制作させる。CAD演習では、授業担当者の家具メーカーでの実務経験を基に指導する。CADは現代の製品デザインや設計に欠かせないツールである。形状や構造をCAD図面で的確に伝える能力を身につけさせ、デザインや製造分野の就職に活かせるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・様々な立場の人や空間、場面等を意識し、精度の高いデザインができる
- ・形、機能、制作意図を的確に伝えることができる
- ・CADの操作方法を習得し、箱の詳細図を描くことができる
- ・産業におけるCADの役割や有効な使い方を理解する

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、CADの概要と歴史	Windowsの基本操作を確認する
第2回	CADの基本操作（図形を描く）	様々な図形を描いて練習する
第3回	CADの操作（移動、複写、回転、寸法記入等）	各種機能の使い方を覚える
第4回	CADの操作（縮尺と用紙の設定方法）	設定を確認し、図面を印刷する
第5回	CADの操作（モデル空間とペーパー空間）	空間の使い分けについて復習する
第6回	課題作品制作 内容説明、意見交換、テーマを設定する	テーマとそれに伴う問題点を考える
第7回	リサーチ、アイデアスケッチ	リサーチの結果をまとめる
第8回	デザイン、構造を検討する	デザインを複数描き出す
第9回	紙で模型を制作する	模型を完成させる
第10回	デザインを決定する	細かい部分の納まりを検討する
第11回	材料を選定し、構造、加工方法を検討する	加工方法を確定し、材料を購入する
第12回	制作（部材を作る）	加工の手順を確認する
第13回	制作（部材の組み立て、塗装、仕上げ）	細部を調整し、完成度を上げる
第14回	PowerPointを使ってプレゼン用のデータを作成する	データを完成させ、プレゼンを練習する
第15回	プレゼンテーション、意見交換、講評	プレゼンと意見交換から学んだ内容をまとめる

■ 履修上の注意

- ・授業内で指示する材料・道具類は自分で購入すること。
- ・授業外の時間を使って制作を進めること。
- ・プロダクトデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

課題70%、授業態度（材料、道具の準備、整頓、清掃等を含む）30%で評価する。

授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

〔デザインを学び始めた人のためのデザイン製図〕〔青木英明 他〕〔（株）ポーンデジタル〕〔2, 500円＋税〕
〔Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド〕〔井上竜夫〕〔日経BP〕〔4, 100円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

マンガ I

(12146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

マンガ・イラストレーションとそれを取り巻く様々なコンテンツと社会のかかわりについて教授する。マンガの発生から現在に至る歴史の解説を代表的な作品を示し教授する。マンガ・イラストレーションの定義づけを様々な観点から、或いは事例を示し理解させる。マンガと著作権の関係をとり上げコンプライアンスの重要性を認識させる。4コママンガ作成を課すことで制作の基礎を強化する。フランスやアメリカ等の海外マンガの現状を伝え、日本のマンガと対比させる。また雑誌等の広告を想定した小作品、クロスメディア展開されるコンテンツのキャラクターデザインの制作を課し、情報伝達手段としてのマンガ・イラストレーションの技法と魅力を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・マンガ・イラストの基礎的な技術習得と表現を身につける
- ・学習した内容を深めて発展した表現を身につける
- ・マンガの定義と歴史を知ることができる
- ・マンガ・イラストを用いてわかりやすく情報を伝える技術を習得できる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス マンガの定義／マンガを構成する要素	道具を用意する
第2回	マンガ史① 4コママンガI	現在のマンガの土台となった作品を読んでもみる
第3回	マンガ史② 4コママンガII	作品の元になる事象を書き出しておく
第4回	プロとアマチュア 4コママンガIII	オチにとらわれすぎずにネームを作成する
第5回	マンガとタブー 4コママンガIV	作品の面白さを生かす画面の構成に留意する
第6回	著作権とマンガ 4コママンガV	丁寧に作業を進めておく
第7回	キャラクターについて 4コママンガVI	講評
第8回	マンガのジャンル レポートマンガ・イラストエッセイI	広告の一環として作られたマンガを多数読み、制作の留意点を考えておく
第9回	マンガと文学 レポートマンガ・イラストエッセイII	24年組の作品を読んでもみる 画面の華やかさに考慮しネームを進める
第10回	外国から見た日本のマンガ レポートマンガ・イラストエッセイIII	国外のマンガを読んでもみる 作画に必要な資料を収集しておく
第11回	レポートマンガ・イラストエッセイIV	完成度を高める
第12回	キャラクターデザインI 構想と世界観の設定	マンガ・小説・アニメーション・ゲームで同時に展開されるコンテンツのキャラクターについて調査しておく
第13回	キャラクターデザインII 色彩設計とラフから清書	丁寧に作業を進める
第14回	キャラクターデザインIII 仕上げと微調整	完成度を高める
第15回	キャラクターデザインIV 講評会	視聴者、製作者の視点から他者の作品を鑑賞する

■ 履修上の注意

制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40%（画力・丁寧さ・仕上げ） 授業態度20%（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

必要に応じて、そのつど資料を配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

授業後にオフィスアワーを設け、質問等に対応します。

マンガⅡ

(12147)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々野 まりえ

■ 授業の概要

フランスでの漫画出版やLINEマンガでの連載など、漫画家としての経験を生かして指導する。
実践形式でアナログのマンガ・イラストに必要な基礎技術と表現方法を指導する。
道具の使い方、つけペンを使って集中線を描く、スクリーントーンの削り方を学ばせる。
また、背景資料の画像をもとに人物を配置した作品を作り、作画合成の技術を学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・マンガ・イラストの基礎的な技術取得と表現を身につける
- ・学習した内容を深めて発展した表現を身につける

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス キャラクタートレーニング（作画）	自分のマンガのキャラクターを描く 必要画材の通達
第2回 ペントーン 効果① 集中線	課題用紙配布（アナログ制作） 集中線、ベタフラの描き方を学ぶ
第3回 ペントーン 効果② スクリーントーン	スクリーントーンの削り方を学ぶ
第4回 ペントーン 効果③ 背景下描き	背景を描く（3種）
第5回 ペントーン 効果④ 背景仕上げ	仕上げ後提出
第6回 背景トレースと人物配置① 資料背景トレース	背景資料の画像を各自セレクトし、トレース台を使って人物を2名配置し作画する デジタルも可
第7回 背景トレースと人物配置② 人物配置ラフ	背景資料の画像を各自セレクトし、トレース台を使って人物を2名配置し作画する デジタルも可
第8回 背景トレースと人物配置③ ペン入れ	背景資料の画像を各自セレクトし、トレース台を使って人物を2名配置し作画する デジタルも可
第9回 背景トレースと人物配置④ トーン効果	背景資料の画像を各自セレクトし、トレース台を使って人物を2名配置し作画する デジタルも可
第10回 背景トレースと人物配置 完成提出 コメント会	完成提出、コメント会をする
第11回 詩や小説の場면을2ページ漫画にする① 場面決定、キャラデザ	好きな場면을設定する キャラクター、世界観デザイン デジタルも可
第12回 詩や小説の場면을2ページ漫画にする② ネーム制作	描いたキャラ案をもとにコマ割りを考える デジタルも可
第13回 詩や小説の場면을2ページ漫画にする③ 原稿下描き	ネームをもとに原稿に下描きをする 下描き後ペン入れをする デジタルも可
第14回 詩や小説の場면을2ページ漫画にする④ ペン入れ、仕上げ	ペン入れし、トーンや効果など仕上げ作業をする デジタルも可
第15回 詩や小説の場면을2ページ漫画にする 完成提出 コメント会	完成提出、コメント会をする

■ 履修上の注意

マンガⅠの受講を推奨する。
制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想、視点、キャラクター、ストーリー構成）

絵40%（画力、丁寧さ、仕上げ）

授業態度20%（準備物、集中度、進行速度）

■ 教科書

必要に応じてその都度資料を配布

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

必要に応じ授業後にオフィスアワーを設け、質問等に対応します。

マンガⅢ

(12148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々野 まりえ

■ 授業の概要

フランスでの漫画出版やLINEマンガでの連載など、漫画家としての経験を生かして指導する。
実施形式でマンガ・イラストに必要な表現方法を指導する。
カラー作画では、必要な資料を探して加工し、作品作りに生かしていく手法を教授する。よりリアリティのある制作方法を身に着けられるようマンガ家経験をふまえて指導する。8ページ作品制作では、ストーリーのマンガの起承転結と設定の重要性、話のつじつまが合うこと、ストーリーに合ったキャラクターデザインづくりの面白さも深く身に着けさせる。修正をしながらより完成度の高い作品を作る意識をつけさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・マンガ・イラストの資料集めの大事さとリアリティを身に着ける
- ・マンガ・イラスト作品のオリジナリティを確立し推敲技術を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業説明・グループワーク	ネタ作りのワークをします
第2回	カラー作画キャラクターデザイン（民族衣装）① ラフ	世界各地の民族衣装を各自セレクト オリジナルキャラクターをデザインする
第3回	カラー作画キャラクターデザイン（民族衣装）② ペン入れ	2名作画（地域は別になってもよい）デジタル可
第4回	カラー作画キャラクターデザイン（民族衣装）③ 完成	完成提出・講評
第5回	オリジナル8ページ作品制作①プロット	8ページのプロット作成・デジタル可
第6回	オリジナル8ページ作品制作②ネーム	ネーム
第7回	オリジナル8ページ作品制作③ネーム直し	ネームチェック、直し
第8回	オリジナル8ページ作品制作④下絵	下描き
第9回	オリジナル8ページ作品制作⑤下絵	人物のほか背景、小物もかき入れること
第10回	オリジナル8ページ作品制作⑥ペン入れ	ペン入れ
第11回	オリジナル8ページ作品制作⑦ペン入れ	丁寧に描き込む
第12回	オリジナル8ページ作品制作⑧仕上げ	集中線やトーン効果を入れて仕上げ作業
第13回	オリジナル8ページ作品制作⑨仕上げ	仕上げ（完成度を上げる）
第14回	オリジナル8ページ作品制作⑩完成・提出	完成チェック、提出
第15回	オリジナル8ページ作品制作⑪コメント会	回覧しコメント会を行う

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ・Ⅱの受講を推奨する。制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40%（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40%（画力・丁寧さ・仕上げ）
授業態度20%（準備物・集中度・進行速度） 各課題完成後にフィードバックします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

必要に応じて、そのつど資料を配布する。

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。
必要に応じ、授業後にオフィスアワーを設け、質問等に対応します。

マンガⅣ

(12149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
鹿 野 明 子

■ 授業の概要

読者に与える感情効果を的確に高めるための指導を行う。マンガを構成する重要な要素「画力」「ストーリー」「ロジック」のスキルアップをねらった課題を課す。画力を上げるためのデッサンやイラスト力の基礎の大切さを理解させる。ストーリーを作成するための方法を指導する。マンガにおけるロジックの実例を示し説明する。もしくは、クライアントの要求に応えることができるスキルを身につけるためのイラストレーション制作を課す。前半で完成させたネームをもとにマンガを完成させる。マンガの幅広い技術とよりよい表現の習熟度向上を図るため、例を挙げて示し自ら考え実践できるよう指導する。もしくは、架空のソーシャルゲームを想定した課題によって、指示書に従った完成度の高い作品を作成できるよう技術的な指導をする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・主題が伝わる技術と表現を考察施行し身につける
- ・マンガ・イラスト作品を制作することで他者を楽しませ、社会と関わる ことができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 技法研究1 人体と表情 制作I 構想／題材選定	人体の構造を調べできる限り覚える 興味のある題材を調査し資料を収集する
第2回	技法研究2 パースペクティヴ 制作II シナリオ／イメージスケッチ	透視図法を用いる風景を数多くスケッチする 何度も読み直す。特にセリフを、短くてもたくさん のことが分かりやすく伝わるようによく練る
第3回	技法研究3 質感とオブジェクト 制作III シナリオのチェックと修正／表紙と挿絵のラフ	描画ツールの特性を理解し生かすために、できる だけ多くの事物を描く
第4回	制作IV ネーム／表紙と挿絵のラフ修正	ネームをかききる。修正・改善をする
第5回	制作V ネーム 演出（ロジックの導入）／下描き	修正・改善をする
第6回	制作VI ネーム／下描き	同上
第7回	制作VII ネーム／ペン入れ	同上
第8回	制作VIII ネーム ネームの完成／ペン入れ	同上
第9回	制作IX 下描き／課題選定・構想	ネームをもとに下描きをする／こちらが提示した 指示書のなかから課題を選定する
第10回	制作X 下描き／ラフとその修正①、資料収集	同上
第11回	制作XI ペン入れ／ラフとその修正②	丁寧な作業を心がける
第12回	制作XII ペン入れ／下描き	丁寧な作業を心がける
第13回	制作XIII ペン入れ／主線	丁寧な作業を心がける
第14回	制作XIV ペン入れ／彩色	必要があれば差し替えをする
第15回	制作XV 講評	作品を客観的にとらえ、これからの制作にどう生 かしていくのかを考える

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ～Ⅲの受講を推奨とする。制作に遅れの出た者は自宅制作に努める。

■ 成績評価方法・基準

アイデア40％（発想・視点・キャラクター・ストーリー構成） 絵40％（画力・丁寧さ・仕上げ） 授業態度20％（準備物・集中度・進行速度）

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。

授業後にオフィスアワーを設け、質問等に対応します。

アニメーションⅠ

(12150)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

アニメーションⅠでは、2Dと3DCGによるアニメ・画像・映像制作の基礎を主に指導する。2Dアニメ制作では手描きをはじめ、多種ソフトウェア（画像加工・映像制作・編集等）を活用し、試行と実践を行う。3DCGアニメ制作ではCG制作ソフト（Blender）を用いて演習と制作を行う。いずれの授業も、テーマ・表現力・技術的な事柄について様々な気づきと展開を促し、次段階へ繋がるよう指導する。ガイダンス：1回（鈴木＋伊勢）、2Dアニメ：7回（鈴木）、3DCG：7回（伊勢）の計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的な知識・学習能力を身につける。
- ・ 作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る。
- ・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンスとアニメ課題（短編作品の構想）	説明と準備。制作ノートの手入れ。
第2回	2. 2Dアニメ① 制作（構想＋スケッチ＋絵コンテ等）	方向性と大まかな流れを決める。
第3回	3. 2Dアニメ② 制作（描画・編集ソフトなどの説明）	コンテを元にタイムライン作成。
第4回	4. 2Dアニメ③ 制作（タイムライン等確認・動画）	詳細を決める。
第5回	5. 2Dアニメ④ 制作（描画）	カット割りや時間について確認。
第6回	6. 2Dアニメ⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	個々で見直す。
第7回	7. 2Dアニメ⑥ 制作（動画の確認、改良）	当初の構想との照らし合わせ。
第8回	8. 2Dアニメ⑦ 講評	各自コメントを発表。
第9回	9. 3Dアニメ① 制作（Blenderの説明とセットアップ）	基本的な操作を確認。
第10回	10. 3Dアニメ② 制作（構想＋スケッチ）	作品の方向性を決める。
第11回	11. 3Dアニメ③ 制作（モデリング基礎）	試作を重ねる。
第12回	12. 3Dアニメ④ 制作（モデリング応用）	試作、改良を重ねる。
第13回	13. 3Dアニメ⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	途中段階の作品を客観的に補足。
第14回	14. 3Dアニメ⑥ 制作（制作物の確認、改良）	最初の構想からどう展開したかの確認。
第15回	15. 3Dアニメ⑦ 講評	各自コメントを発表。

■ 履修上の注意

- ※ 2D、3Dアニメの授業日程や準備等について、変更のある場合は随時指示する。
- ※ 本学のBYOD化指針に従い、PC等の端末は各自用意すること。
- ※ 制作中のデータは不測の事態（データ消失や読込み不可）に備え、バックアップをこまめにとること。
- ※ 講評会では自分の作品についてコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 『入門Blender 2.9～ゼロから始める3D制作～』 著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

- ・ 参考となる書籍・映像作品等については、DMR設置のモニターやプロジェクター等で随時上映、紹介する予定。

■ 備考

- ・ 場合により、課題や日程等を変更する場合があります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付けます。

アニメーションⅡ

(12151)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

アニメーションⅡは、前期Ⅰで各々が制作した作品から更なる発展と深化を目指す。2Dアニメの授業では、それぞれの作品世界についていかに構築し、より説得力のある場面を創造するにはどうすべきか？に主眼を置いて指導を行う。3DCGの授業では、前期Ⅰから引きつづきブレンダーを用いての制作・演習を行い、3Dならではの空間構築、視点の設定、出力について教授する。ガイダンス：1回、2Dアニメ授業：7回（担当・鈴木）、3DCGアニメ授業：7回（担当・伊勢）の合計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。
- ・ 作品を自分自身の問題意識と結びつけることが出来る。
- ・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. 2Dアニメ① 制作（構想＋スケッチ＋コンテ等）	制作の方向性、内容をおおよそ決定。
第3回	3. 2Dアニメ② 制作（設定を決める。実験的要素も含む）	制作ノートを確認しながら制作。
第4回	4. 2Dアニメ③ 制作（絵コンテを元にタイムライン化、確認）	制作する場面の優先順位を決める。
第5回	5. 2Dアニメ④ 制作（描画）	カット、時間配分を再度確認。
第6回	6. 2Dアニメ⑤ 制作（随時改良）	全体的な時間の流れを意識する。
第7回	7. 2Dアニメ⑥ 制作（まとめ）	制作ノートを再度確認。
第8回	8. 2Dアニメ⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。
第9回	9. 3Dアニメ① 制作（3DCGモデルを動かす）	制作ノートの作成、構想を練る。
第10回	10. 3Dアニメ② 制作（環境空間とカメラ）	出来る限り最初の発想を尊重する。
第11回	11. 3Dアニメ③ 制作（試作を重ねる）	制作時間の客観的な把握も必要となる。
第12回	12. 3Dアニメ④ 制作（注力すべき箇所の選択）	ある程度、制作の優先順位を決める。
第13回	13. 3Dアニメ⑤ 制作（改善箇所等の確認）	まとめに向けて密度精度を高める。
第14回	14. 3Dアニメ⑥ 制作・まとめ（出力）	イメージを伝える最適の瞬間を選ぶ。
第15回	15. 3Dアニメ⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。

■ 履修上の注意

- ※ 2D、3Dアニメの授業日程や準備等について、変更のある場合は随時指示する。
- ※ 本学のBYOD化指針に従い、PC等の端末は原則的に各自用意すること。
- ※ 制作中のデータは不測の事態（データ消失や読込み不可）に備え、バックアップをこまめにとること。
- ※ 講評会では自分の作品についてコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指示しない。

■ 参考書

- ・ 『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』 著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 備考

- ・ 場合により、課題を若干変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付けます。

アニメーションⅢ

(12152)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅢのアニメの授業では、Ⅱで制作した各々の作品の更なる発展と深化を目指す。場合により受講者間での制作協力・連携を実践させる。ゲームの授業では、3DCG制作ソフト(Blender)を用いての演習を行い、モデリングの基礎と応用、動画制作について指導する。いずれの授業も、様々な気づきと今後への展開を促し、次段階へ繋がる指導を行う。ガイダンス：1回、アニメ：7回（担当・鈴木）、ゲーム：7回（担当・伊勢）の計15回のオムニバス形式授業である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。
- ・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。
- ・ 作品を自身の問題意識・社会・世界と結びつけ考える。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンスとアニメ課題（作品の構想）	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋スケッチ＋絵コンテ等）	制作の方向性、内容を決定。
第3回	3. アニメ② 制作（タイムライン等確認・動画）	制作ノートを確認しながら試作。
第4回	4. アニメ③ 制作（ラフスケッチで確認）	分担して制作。
第5回	5. アニメ④ 制作（ラフスケッチを基に肉付け）	カット割りや時間を考慮する。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（意図と改善箇所等の確認）	折々で修正、変更柔軟に対応すること。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（動画の確認、改良）	制作ノートと照らし合わせ。
第8回	8. アニメ⑦ 講評	それぞれ感想と意見の交換。
第9回	9. ゲーム① 制作（Blenderの説明とセットアップ）	基本的な操作を確認。
第10回	10. ゲーム② 制作（構想＋スケッチ）	作品の方向性を決める。
第11回	11. ゲーム③ 制作（モデリング基礎）	試作を重ねる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（モデリング応用）	試作、改良を重ねる。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作（制作意図と改善箇所等の確認）	途中段階の作品を客観的に補足。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作（制作物の確認、改良）	最初の構想からどう展開したかを確認。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	各自コメントを発表。

■ 履修上の注意

- ※ ガイダンス1、アニメ7、ゲーム7の授業日数となる。
- ※ 2D、3Dアニメの授業日程や準備等について、変更のある場合は随時指示する。
- ※ 本学のBYOD化指針に従い、PC等の端末は原則的に各自用意すること。
- ※ 制作中のデータは不測の事態（データ消失や読込み不可）に備え、バックアップをこまめにとること。
- ※ 講評会では自分の作品についてコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 教科書：『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

- ・ 参考となる書籍、アニメーション、映像作品などは、モニターやプロジェクターなどで随時上映し紹介する。

■ 備考

- ・ 場合によっては、課題や日程等を変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）で受け付けます。

アニメーションⅣ

(12153)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

アニメ・ゲームⅣは、Ⅲからの更なる発展と深化を目指す。アニメの授業では、これまで制作してきた各々の作品世界を深めることは当然として、鑑賞者に伝え得る演出（編集、音響など）に重点を置いて指導する。ゲームの授業では、Ⅲから引きつづきブレンダーを用いての演習と制作を行い、3DCGでの空間構築、視点の設定、出力などについて教授する。ガイダンス：1回、アニメ授業：7回（担当・鈴木）、ゲーム授業：7回（担当・伊勢）の合計15回のオムニバス形式授業である。講評会では、各作品への感想や意見を交わす場とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 基本的な知識・学習能力を身につけること。
- ・ 画像・映像ソフト等を用いて表現力を向上させる。
- ・ 作品を自身の問題意識・社会・世界と結びつけ考える。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス（概要説明、テーマの設定、構想）	説明と準備。制作ノートの用意。
第2回	2. アニメ① 制作（構想＋ラフスケッチ＋コンテ等）	制作の方向性、内容を決定。
第3回	3. アニメ② 制作（作品内容の検討、制作）	制作ノートを確認しながら制作。
第4回	4. アニメ③ 制作（制作、コンテをタイムライン化）	全体の流れを主に意識する。
第5回	5. アニメ④ 制作（描画、確認を繰り返し行う）	難点箇所をこの時点で把握する。
第6回	6. アニメ⑤ 制作（作品全体の流れを意識する）	折々で修正、柔軟に対応する。
第7回	7. アニメ⑥ 制作（まとめ）	制作ノートを確認。
第8回	8. アニメ⑦ 制作 講評	テーマについて各々補足説明。
第9回	9. ゲーム① 制作（3DCGモデルを動かす）	制作ノートの作成、構想を練る。
第10回	10. ゲーム② 制作（環境空間とカメラ）	出来る限り最初の発想を尊重する。
第11回	11. ゲーム③ 制作（試作を重ねる）	制作時間の客観的な把握も必要となる。
第12回	12. ゲーム④ 制作（注力すべき箇所の選択）	ある程度、制作の優先順位をきめる。
第13回	13. ゲーム⑤ 制作（改良）	まとめに向けて精度を高める。
第14回	14. ゲーム⑥ 制作・まとめ（出力）	イメージを伝える最適の瞬間を選ぶ。
第15回	15. ゲーム⑦ 講評	作品について感想や意見を交わす。

■ 履修上の注意

履修上の注意

- ※ 2D、3Dアニメの授業日程や準備等について、変更のある場合は随時指示する。
- ※ 本学のBYOD化指針に従い、PC等の端末は原則的に各自用意すること。
- ※ 制作中のデータは不測の事態（データ消失や読込み不可）に備え、バックアップをこまめにとること。
- ※ 講評会では自分の作品についてコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題（80%）と授業態度（制作に取り組む姿勢など：20%）を評価する。
- ・ 各課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 教科書：『入門Blender 2.9 〜ゼロから始める3D制作〜』著者：伊丹シゲユキ（秀和システム）

■ 参考書

- ・ 参考書：参考となる書籍、アニメーション作品、映像作品、ゲーム作品等を随時紹介する。

■ 備考

- ・ 場合により、課題を若干変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時は掲示で確認）で受け付けます。

コンテンツデザインⅠ

(12154)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

和田 冬 樹

■ 授業の概要

生活の中で目に触れることのない「ソフト」の部分に着目し、それらを生み出す力を身に付けることを目的とする。「コンテンツデザインⅠ」では、身の回りにある「コンテンツ」を調査するとともに、学生自身の新しいアプローチやデザインも検討し、今後の制作活動の糧になるよう指導する。身の回りにある「コンテンツ」と「ソフト」を調査研究し自身の手を使って実践することで対象への理解が深められるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「コンテンツデザイン」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようにになる。
- ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	テーマについての調査
第2回	絵画コンテンツの実践。（個人作業） 学生自身でアニメ・漫画・絵画・ポスターなどに描かれる絵を模写し、作画技術を学ぶとともに「推し」ポイントを明確にする。	事前：自分の好きな絵（キャラクター/モデル/アイドル/絵画なんでも可）を複数枚準備。 で）
第3回	音楽コンテンツの実践（グループ作業） スマートフォンを使って、音楽コンテンツを作成し、授業内で披露する。作成方法については授業内で説明。	作成音楽コンテンツの提出
第4回	キャラクターデザインの実践：「キャラクターと背景」 ゲーム業界における、イラスト制作の流れの一端を学生自身で体験してもらう。	事前：推しキャラクター（アニメ・漫画に限る）の調査
第5回	キャラクターデザインの実践：「寂しいデッサン/楽しいデッサン」 第4回の流れを踏まえ、作画の展開のさせ方を実践する。	事後：作画画像の提出
第6回	コラージュ1：「既存紙媒体を使ったコラージュ制作」 すでに印刷された布や紙を使って新たなコンテンツを制作する。	事前：自身で集めた布・チラシ・ポスターなどの印刷物を持参すること
第7回	コラージュ2：「既存紙媒体を使ったコラージュ制作」 すでに印刷された布や紙を使って新たなコンテンツを制作する。	事前：自身で集めた布・チラシ・ポスターなどの印刷物を持参すること
第8回	アプリを使った写真加工の実践 スマートフォンアプリを使って効果的な写真の見せ方や、構図、明度・彩度・色相の理解を深める。	事前：スマホアプリのダウンロード 事後：作成画像の提出
第9回	グループ作業1「自己実現逆算計画」 自身の夢を具体的にし、夢を実現するための段取りを解説。	事前：自身の将来について取りまとめを行なっておく 事後：作成した計画書の提出
第10回	個人作業1「オーダー対応企画」 授業内で教員がオーダーした「コンテンツ」に対応する。 （これまでの授業で体験した内容を応用）	事後：作画作品（データ）の提出
第11回	個人作業2「授業というコンテンツ」	事前：第10回の授業終わりにお知らせします
第12回	個人作業2「授業というコンテンツ」 発表日	事後：データ提出
第13回	グループ作業3「PCを活用した資料づくり 1」 「企画コンテンツ」の基礎となる、「見せ方」をPCを活用して実践する。	PC持参
第14回	グループ作業2「展示企画」を考える 個展・グループ展など展示の際に、展示の意味を理解するための授業	PC持参
第15回	グループ作業2「展示企画」を考える 発表	作成データ提出

■ 履修上の注意

- ・ 自習時間については授業中に編成したグループでの活動方針によるが、自主的な制作活動についても自習の対象とする。
- ・ PC及びAdobe CC（コンプライートプラン契約）必須
- ・ 全授業PC持参必須

■ 成績評価方法・基準

出席率30%、授業取り組み姿勢50%、提出物評価20%

授業への取り組み姿勢を重視します。

■ 教科書

事前にクラスルームを使って告知。

授業内でデータ配布。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

コンテンツデザインⅡ

(12155)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

和田 冬 樹

■ 授業の概要

生活の中で目に触れることのない「ソフト」の部分に着目し、コンテンツとコンテンツを繋いでプロデュースやディレクションをする力を身につける。「コンテンツデザインⅡ」では、公募展を活用し実践的な発表を行う。学生自身の新しいアプローチ手法を身につけ今後の制作活動の糧になるよう指導する。身の回りにあるさまざまなコンテンツに対し取材や調査研究をすることで対象への理解が深め自身の素養にも気がつけることを望む。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「コンテンツデザイン」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようにになる。
- ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要説明/2回目以降の授業の進め方説明	
第2回	コンテンツデザインの実例調査 コンテンツデザインⅠの授業内容を踏まえ、各自でインターネットを使い調査	「コンテンツ」と何かの調査（事後）
第3回	個人：企画課題 「公共空間・公開空き地を活用したコンテンツデザイン」についての企画	事後：作画データの提出
第4回	個人：グラフィック課題 「クリエイトフューチャー」をテーマに、Tシャツのデザインを考える	事後：作画データの提出
第5回	個人：キャラクターデザイン課題 「地域キャラ」「SDキャラ」などゆるキャラ系デザインをし応募	事後：作画データの提出
第6回	グループ：PR /プロモーション課題 「バズる動画」の作成および、SNSでの発信 PRとプロモーションの違いを知り、その上でPR動画を作成する	事後：作画データの提出
第7回	グループ：PR /プロモーション課題 タイムラプス・動画・AI・自身の作品・ドラマ・アニメなどを使って、動画コンテンツを作成	事後：作画データの提出
第8回	グループ：PR /プロモーション課題 実際のSNS発信後の検証	事後：作画データの提出
第9回	個人：JIDA学生文化デザイン賞公募 日本文化デザインフォーラム主催のデザイン賞への公募	事後：作画データの提出
第10回	個人：メタバースを使った地方創生企画を考える。	事後：作画データの提出
第11回	個人：キャラクターデザイン公募 (昨年の例：初音ミク×グッドスマイルカンパニーフィギュア化)	事後：作画データの提出
第12回	グループ：ウェブサービス企画（調査） (ゲーム/SNS /写真/AIなどさまざまなウェブコンテンツを再構築し、新たなサービス企画を考える)	事後：作画データの提出
第13回	グループ：ウェブサービス企画（企画・発表） (ゲーム/SNS /写真/AIなどさまざまなウェブコンテンツを再構築し、新たなサービス企画を考える)	事後：作画データの提出
第14回	グループ：ウェブサービス企画（予備日） (ゲーム/SNS /写真/AIなどさまざまなウェブコンテンツを再構築し、新たなサービス企画を考える)	グ事後：作画データの提出
第15回	これまでの提出課題をまとめ、データ化の上提出	授業のまとめ

■ 履修上の注意

- ・ 自習時間については授業中に編成したグループでの活動方針によるが、自主的な制作活動についても自習の対象とする。
- ・ PC及びAdobe CC（コンプライートプラン契約）必須
- ・ 全授業PC持参必須

■ 成績評価方法・基準

出席率40%、授業への取り組み姿勢30%、提出物評価30% これらの掛け合わせで成績をつけます。
調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

事前に資料を配布する。
授業内で発表する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業時間内あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。
内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

コンテンツデザインⅢ

(12156)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

和田 冬 樹

■ 授業の概要

実際の提案を念頭に企画案を作成する。「コンテンツデザインⅢ」では企業が実際に募集している企画案をグループで考え応募するとともに、学生自身のデザインも作成しリアリティのある活動を目指す。コンテンツデザインの思考を身につけることによって、身の回りにある『ハードを動かすための「ソフト」』に対しての理解や、思考手順や実践方法を修得し、対象への理解が深められるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「コンテンツデザイン」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようにになる。
- ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	テーマについての調査
第2回	コンテンツデザインの実例紹介（公のもの）	「コンテンツ」と何かの調査（事後）
第3回	「コンテンツデザインⅠ・Ⅱ」で出てきた事例紹介	事例についてのまとめ（事後）
第4回	企業が募集している企画案に関する調査	事後：より良い企画公募を検討する
第5回	・デザイン系企業の企画提案 グループに分かれて応募先企業の選定（内容検討）① 募集企業の調査・技術の検証などリサーチ	事後：役割分担を決め次週までにリサーチ
第6回	・デザイン系企業の企画提案 グループに分かれてアイデア出し（内容検討）② ①で行なったリサーチを元に、アイデア出しを行い、仮説を立てる。	事前：リサーチ
第7回	・デザイン系企業の企画提案 グループに分かれて提案企画作成（内容検討）③ ②の仮説に関して、客観的な調査（競合や既存の有無）し企画のブラッシュアップを行う。	事後：役割分担を決め次週までにリサーチ
第8回	・デザイン系企業の企画提案 グループに分かれて提案企画応募（内容検討）④ 企画内容を発表し、実際に提案登録を行う。	事後：企画書の提出
第9回	・一般企業の企画提案 グループに分かれて応募先企業の選定（内容検討）① 募集企業の調査・技術の検証などリサーチ	事後：より良い企画公募を検討する
第10回	・一般企業の企画提案 グループに分かれてアイデア出し（内容検討）② ①で行なったリサーチを元に、アイデア出しを行い、仮説を立てる。	事前：リサーチ
第11回	・一般企業の企画提案 グループに分かれて提案企画作成（内容検討）③ ②の仮説に関して、客観的な調査（競合や既存の有無）し企画のブラッシュアップを行う。	事後：役割分担を決め次週までにリサーチ
第12回	・一般企業の企画提案 グループに分かれて提案企画応募（内容検討）④ 企画内容を発表し、実際に提案登録を行う。	事後：企画書の提出
第13回	個人企画（学生自身が企画公募を発見し、応募する） リサーチ、企画アイデア出し	個人での発表資料準備
第14回	個人企画（学生自身が企画公募を発見し、応募する） 企画ブラッシュアップ、完成	個人での発表資料準備（事前）
第15回	個人企画の発表	事後：企画資料の提出

■ 履修上の注意

- ・ 自習時間については授業中に編成したグループでの活動方針によるが、自主的な制作活動についても自習の対象とする。
- ・ PC及びAdobe CC（コンプライートプラン契約）必須
- ・ 全授業PC持参必須

■ 成績評価方法・基準

グループワークへの貢献と発表50%、最終振り返り50%

調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

事前に資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

コンテンツデザインⅣ

(12157)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

和田 冬 樹

■ 授業の概要

「コンテンツデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」で作った資料をもとにポートフォリオ用データ作成を行います。自身の持つスキル（コンテンツ）を活用し企業へ向けた自己プロデュース方法を身につけます。ポートフォリオ作成を行っていくとともに、自身のアピールポイントとウィークポイントを自分自身が把握し制作活動や就職活動へつなげます。自身の持つスキル（コンテンツ）を把握することと、将来像を明確にすることで具体的な行動が取れる力を身につけます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「コンテンツデザイン」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようにになる。
- ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業概要説明	
第2回	自己実現方法に関する逆算思考 自己作品の客観視 学生自身の長所・短所の把握	事前：これまで学校でやった課題のデータ化
第3回	データのまとめ	事前・事後：個人作品のデータまとめ
第4回	グループディスカッション 3人グループになり、自身でまとめたデータを使って意見交換	事後：データのブラッシュアップ
第5回	グループに分かれて応募先企業の選定（リサーチ） 業界ごとにグループ分けを行います	事後：リサーチ企業の共有
第6回	グループに分かれて課題制作 1：各グループごとに違った課題を出します。	事後：課題のブラッシュアップ
第7回	グループに分かれて課題制作 2：制作	事後：課題のブラッシュアップ
第8回	グループに分かれて課題制作 3：講評	事後：課題のブラッシュアップ
第9回	個人で応募先企業の選定（リサーチ）	グループでの追加調査
第10回	個人課題制作 1：各個人に違った課題を出します。	グループでの追加調査
第11回	グループに分かれて課題制作 2：制作	グループでの追加調査
第12回	グループに分かれて課題制作 3：講評	グループでの発表資料準備（事後）
第13回	企業企画公募（リサーチ・企画制作）	個人での発表資料準備
第14回	企業企画公募（企画・提出） 2限目で講評会	事後：ポートフォリオまとめ
第15回	ポートフォリオまとめ	完成ポートフォリオの提出

■ 履修上の注意

- ・自習時間については授業中に編成したグループでの活動方針によるが、自主的な制作活動についても自習の対象とする。
- ・PC及びAdobe CC（コンプライートプラン契約）必須
- ・全授業PC持参必須

■ 成績評価方法・基準

出席率40％、グループワークへの貢献20％、最終資料提出40％
調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

事前に資料を配布する

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。
内容に関しては取り組みの状況により前後する場合がある。

色彩学

(12158)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

デザイナーやアーティスト、造形に携わる人々に必要な色彩システムを教授する。マンセルシステムとPCCSの2つの表色系を中心に色彩調和の基本システムを教授し、アートやデザインの実践に即した実用技術を身に付ける。混色と調色の技能を習得し、おのおのの制作や考察の一要素にできるよう、色材を用いた課題を課す。また、色票を用いた課題を課すことで色の知覚的效果への理解を深め、色彩調和の技法を学び、応用力が身につくように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・色彩システムの基礎知識を身につける
- ・色材を扱う技術を身につける
- ・色彩調和を応用し造形に合った配色ができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス／混色	ノートを準備する。
第2回	色の三属性と色立体、カラーシステム	語句を暗記する。
第3回	PCCSの色相環	画材を用意する。色相の違いに着目し微細な差を見分ける。
第4回	明度と彩度	画材を用意する。明るさ、鮮やかさの違いに着目し限りなく近い色を作る。
第5回	PCCSのトーン	配色カードを持ってくる。
第6回	色のなりたち 光、物体、目	用語を理解し覚える。
第7回	色の知覚的效果 対比と同化	配色カードを持ってくる。反作用によって感じられる現象を覚える。
第8回	色の知覚的效果 色の伝達効果 他の感覚に及ぼす効果	生活・制作で色の知覚的效果をどのように活用できるか考える。
第9回	色の心理的效果	配色カードを持ってくる。用語を覚える。心理的效果がどのような場面で活用されているのかを観察し、実制作にどのように反映できるか考える。
第10回	色彩調和 色相、トーンを基準にした配色	配色カードを持ってくる。用語を暗記する。身の回りの配色されたものがどの配色技法にあたるのか観察する。
第11回	色彩調和 基本的な配色技法	配色カードを持ってくる。配色技法の名称と条件を覚える。
第12回	色彩調和 慣習的な配色技法	配色カードを持ってくる。目的にあわせて応用できるよう配色技法の名称と条件を覚える。
第13回	演習課題I カラーパレットの作成	日頃よく使う色材を持ってくる。
第14回	演習課題II 色彩採集	画像を整理しておく
第15回	まとめ	
第16回	期末試験	

■ 履修上の注意

準備物を必ず持ってくる。授業時間内に課題が終わらない場合は次回講義までに完成させる。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40％ 講義ノートと課題40％ 授業態度20％ 演習中、課題改修後にフィードバックを行う。

■ 教科書

〔PCCSハーモニックカラーチャート201-L〕〔日本色彩研究所〕〔2, 310円〕

〔新配色カード199〕〔日本色彩研究所〕〔a935円もしくはb2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付ける。

美術史 I

(12159)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

大 嶋 貴 明

■ 授業の概要

原始、古代から近代に至る西洋美術の流れに触れ、具体的な作品とその社会的背景および時代的な課程の関連性について教授する。西洋美術史概説で基本として取り上げる作品や人間についての知識的情報のみならず、個々のケースの背後および前後に広がる文化史的脈絡を重点とする。「自己」や「現代」を形作る資源の一つとしての美的遺産を解きほぐし検討することを示唆する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 原始、古代から近代までの西洋美術の流れを俯瞰的に説明できる。
- ・ 自己および現代について、感性的、文化史的成り立ちを分析する視座を持てる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：美術史の普遍的意味／今日的意味 美術史ゲーム体験1：作品が表象するもの	事前：中学校と高校で使用した美術の教科書や資料集の美術史を振りかえる。 事後：「表象」「世界観」などの基本用語について、メモを整理し、疑問点を挙げておく。
第2回	美術史ゲーム体験2：作品間の連続性と分断（美術史と美術理論の可能性） 「近代」への展開：メトロポリタン美術館展の展示から	事前：ウィキペディアや大型の国語辞典などで、「美術史」「西洋美術史」「近代」などのキーワードを検索し読んでおく。 事後：「美術史的展開の連続性と分断性」を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第3回	原始および古代文明の美術	事前：「先史文明」「アメリカ・アフリカ・アジアの原文明」などのキーワードを検索し調べる。 事後：西洋中心主義以外の美術についてメモを整理し、疑問点を明確にする。
第4回	エジプト美術とその展開	事前：「古代エジプト文明」などのキーワードを検索し、調べる。 事後：エジプト文化の影響力を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第5回	古代ギリシャの展開、ヘレニズム時代まで。 エトルリア美術	事前：「前ギリシャ文化」「古代ギリシャ」などのキーワードを検索し、調べておく。 事後：ギリシャ中心主義以外の古代地中海文明の特色を中心に整理し、疑問点を明確にする。
第6回	初期キリスト教美術とビザンティン美術	事前：「キリスト教」の特色や流れを調べておく。 事後：初期キリスト教美術とビザンティン美術の特色を中心に整理し、疑問点を明確にする。
第7回	初期中世美術 ロマネスク、ゴシックの美術	事前：西洋の「中世」などのキーワードを検索し、調べる。 事後：宗教的世界観の変化と美術の変化の関連を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第8回	古代から中世まで振り返り：疑問点の確認 中間レポートの準備	事前：3～6回目までの疑問点を整理し、小レポートにまとめ提出 事後：中間レポートを作成し提出
第9回	前期ルネサンス 北方ルネサンス	事前：「ルネサンス」などのキーワードを検索し、調べておく。 事後：ルネサンスの各時期、地域ごとの美術の特色について、整理し疑問点を明確にする。
第10回	盛期ルネサンス	事前：14～16世紀にかけて西洋の権力構造の変化を調べておく。 事後：ダ・ヴィンチの成しえたことを中心に、整理し疑問点を明確にする。
第11回	マニエリスム	事前：ルネサンス以後の各派についてキーワード

	フランドル美術 ベネチア派	を検索し、見ておく。 事後：各派の特色、後世への影響を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第12回	バロック ロココ	事前：「バロック」などのキーワードを検索し、見ておく。 事後：「バロック」などの後世への影響関係を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第13回	新古典主義・ロマン主義・写実主義 サロンの画家たち	事前：「フランス革命」ほかの西洋各国の社会変化について、キーワードを検索し、見ておく。 事後：各美術家と社会変化の関係を中心に、メモを整理し、疑問点を明確にする。
第14回	近代の始まり 産業革命と市民社会 印象派 デザインの新たな展開	事前：「近代」、「印象派」などのキーワードを検索し調べる。 事後：「近代美術」という新しい考え方の発生を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第15回	印象派の展開 ルネサンスから近代までの振り返り：疑問点の確認 最終レポートの準備	事前：9～14回目までの疑問点を整理し、小レポートにまとめ提出 事後：最終レポートを作成し提出

■ 履修上の注意

毎回、可能な限り次回講義の資料プリントやレジュメを渡す。受講者からは簡単な疑問点や内容についての小レポート提出をもとめる。小レポートは10分程度のものとし、成績評価と出欠の確認用とし、必要に応じてフィードバックする。中間レポートと最終レポートを課す。レポートのテーマや詳細については、中間レポートは5月末、最終レポートについては、7月半ばに提示する。

なお、レポートの形式、分量、制作上の注意点については第1回目講義時に説明する。

事前学習については、最低限ウェブでの検索によって、キーワードや重要な作品についてあたりをつけておくこと。

事後学習については、ノートの整理、特に疑問点の抽出を大事にすること。

そのほかについては第1回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

小レポート（15回）：30% 中間レポート：20% 最終レポート：50%

各レポートの採点基準については、初回講義時に説明する。

■ 教科書

使用しない。

講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

叢書ユニベルシタス69「芸術と文明」 ケネス・クラーク著 法政大学出版局 3900円（第7版定価）

「美術の歴史」 H.W. ジャンソン著 美術出版社 （大型本で、できれば旧版 古書価格20000円）

「美術の物語」 E.H. ゴンブリッチ著 ファイドン株式会社 6980円

■ 備考

参考になるものは、参考書としてあげたものだけではなく、多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義の中でも紹介する。展覧会を含め、できるだけ手に取ったり、見てみること。

質問については、講義終了時他、適宜時間をとるが、詳しくは、第1回講義中に、説明する。

美術史Ⅱ

(12160)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表1年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
大 嶋 貴 明

■ 授業の概要

東洋美術の多様さと各々の展開に触れ、具体的な作品について教授する。
日本美術史概説で基本として取り上げる作品や人間についての知識的情報のみならず、個々のケースの背後および前後に広がる文化史的脈絡や中国美術との関連性を検討する。
「自己」や「現代」を形作る資源の一つとしての美的遺産を解きほぐし検討することを示唆する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・各種の東洋美術および日本美術を俯瞰的に説明できる。
- ・自己および現代について、感性的、文化史的成り立ちを分析する視座を持てる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：東洋美術の多様性、日本美術の位置づけ 岡本太郎の美意識、イグネの美意識、高村光太郎の美意識	事前：ウィキペディアや国語大典などで、「美術史」「東洋美術史」「日本美術史」などのキーワードを検索し読んでおく。 事後：個人が持つ美意識に対する歴史的影響を中心に整理し、疑問点を明確にする。
第2回	イスラムの美術、インドの美術	事前：「イラン」「中央アジア」「南アジア」「東南アジア」の歴史を検索し調べておく。 事後：各地域の宗教と美術の関係を整理し、疑問点を明確にする。
第3回	中国の美術1：古代から北宋の美術まで	事前：「中国史」を検索し見ておく。 事後：例えば、「山水画」などの発生理由を整理し、疑問点を明確にする。
第4回	中国の美術2：南宋から清の美術	事前：中国の中近世の展開を検索し、見ておく。 事後：地域的特色と美術の関係を整理し、疑問点を明確にする。
第5回	仏教美術の展開	事前：「仏教」の発生と展開について、キーワードを検索し、調べておく。 事後：仏教美術の特色を整理し、疑問点を明確にする。
第6回	朝鮮の美術	事前：「朝鮮史」を調べておく。 事後：朝鮮美術の独自性を整理し、疑問点を明確にする。
第7回	東洋美術について、振り返りと疑問点の確認 中間レポートの準備	事前：1～6回目までの疑問点を整理し、小レポートにまとめ提出 事後：中間レポートを作成し提出
第8回	縄文時代の美術 弥生時代・古墳時代の美術	事前：旧石器時代から現代まで、日本史年表をみて、確認しておくこと。 事後：各時代の美術の特色を整理し、疑問点を明確にする。
第9回	飛鳥時代・白鳳・奈良時代前期の美術	事前：大和朝廷の権力構造変化などを検索し、見ておく。 事後：各時代の美術の特色を整理し、疑問点を明確にする。
第10回	奈良時代・天平の美術	事前：「仏像」や「仏教の図像」についてキーワードを検索し、見ておく。 事後：各時代の美術の特色を整理し、疑問点を明確にする。
第11回	平安時代の美術 密教美術	事前：「平安時代」とその他のキーワードを検索し、見ておく。 事後：和風化や国内の民族宗教の影響などを整理し、疑問点を明確にする。

第12回 鎌倉時代・南北朝・室町時代の美術 日本での仏教美術の展開	事前：権力の担い手の変化などを検索し、見ておく。 事後：分断・発生／連続をキーワードにメモを整理し、疑問点を明確にする。
第13回 わび・さび日本独自の美意識 桃山・江戸時代の美術	事前：「茶」「わび」「雪月花」「水墨画」「枯山水」などのキーワードを検索し、見ておく。 事後：独自の美意識の展開を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第14回 江戸時代中・後期の美術 近世から近代へ	事前：都市としての「江戸」「近世の京都」を検索し、見ておく。 事後：日本的市民社会と明治維新で変化した世界観を中心にメモを整理する。
第15回 日本美術の振り返り：疑問点の確認 最終レポートの準備	事前：日本美術史の疑問点を整理し、小レポートにまとめ提出 事後：最終レポートを作成し提出

■ 履修上の注意

毎回、可能な限り次回講義の資料プリントやレジュメを渡す。受講者からは簡単な疑問点や内容についての小レポート提出をもとめる。小レポートは10分程度のものとし、成績評価と出欠の確認用とし、必要に応じてフィードバックする。中間レポートと最終レポートを課す。レポートのテーマや詳細については、中間レポートは11月始、最終レポートについては、1月半ばに提示する。

なお、レポートの形式、分量、制作上の注意点については美術史1に準ずる。

事前学習については、最低限ウェブでの検索によって、キーワードや重要な作品についてあたりをつけておくこと。

事後学習については、ノートの整理、特に疑問点の抽出を大事にすること。

その他必要事項があれば初回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

小レポート（15回）：30％ 中間レポート：20％ 最終レポート：50％

各レポートの採点基準については、初回講義時に説明する。

■ 教科書

使用しない。

講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

「増補新装カラー版東洋美術史」 監修：前田耕作 執筆：山岸公基 他 美術出版社 2500円

「東洋美術史」 監修：朴亨國 執筆：平岡三保子 他 武蔵野美術大学出版局 2400円

「日本美術の歴史」 辻 惟雄著 東京大学出版会 2800円

■ 備考

参考になるものは、参考書としてあげたものだけではなく、多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義の中で紹介するものも含め、また、展覧会なども、できるだけ広く実際に手に取ったり見ることが望ましい。

質問や疑問点については、講義中を含め適宜時間をとるが、詳しくは第1回目講義のとき説明する。

デザイン概論

(12161)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

デザインとは何かを考える。デザインの事例を画像や映像で紹介し、簡単な課題を課す。デザインの基礎的な概念を受講者全員で確認しながら、デザインについて掘り下げる。それらをとおして客観的、理論的思考力を身に付け、身の回りから人間生活、社会、自然と、様々な状況においてデザインで思考できるように指導する。また「よいデザインとは」を問題意識として掲げることで、倫理観と総合的な思考力を育む。人間生活、社会、自然の問題や課題について、デザインで柔軟に対応し解決できるように指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デザインの基本的な知識を身につける
- ・デザインの専門的な知識を身につける
- ・倫理観と総合的な思考力を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	日常の中から「デザイン」に注目する
第2回	「デザインとは何か」 デザインの用語、ジャンルについて	デザインの専門用語を整理する
第3回	「デザインとは何か」 美術とデザインの違いについて	美術の各分野、ジャンルを確認する
第4回	「デザインとは何か」 主にデザインで用いられる材料や加工の方法について	大量生産に適した素材を調べる。気に入った製品を選び、次回紹介する
第5回	「デザインとは何か」 著名なデザイナーと、そのデザインについて	授業で紹介した製品やデザイナーについてさらに調べる
第6回	「デザインとは何か」 のまとめとモダンデザイン	まとめや感想を次回発表する
第7回	「デザインとは何か」 のまとめとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの例を調べる
第8回	「デザインとは何か」 のまとめとグッドデザイン	過去のグッドデザインについて調べる
第9回	デザインの問題点を考える	身近な問題点に注意してみる
第10回	広告について（新聞、雑誌、テレビ他）	広告媒体を調べる
第11回	デザイン史概略 産業革命	時代の流れを整理する
第12回	デザイン史概略 19世紀の建築、工芸、工業製品	時代の流れを整理する
第13回	デザイン史概略 美術工芸運動	時代の流れを整理する
第14回	現代のデザインの仕事からモダンデザインを考える	身近な製品のデザインを自分で考える
第15回	タイプフェイスからモダンデザインを考える まとめ	モダンデザインについてレポートを作成する

■ 履修上の注意

課題（レポート、実技）の提出あり

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、授業での発表（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

なし 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）に受け付けます

美学 I

(12162)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

森 田 優 子

■ 授業の概要

美術を見て理解することは想像するよりも複雑な行為である。基礎的な知識が必要であり、過去の実術作品となると美術以外に様々な知識も必須となる。そのうえ、これまで経験したことが少ないと思われる、かたちを見る訓練も不可欠である。この授業ではルネサンス美術を中心に、聖書の内容をあらわしたキリスト教美術など具体的に作品を見ながら授業を進める。この授業では美術家たちが伝統を踏まえながら試行錯誤を試み、新たな作品を生み出していった過程について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・伝統的な西洋美術について概要を知り、作品を見る際の着眼点が分かるようになる。
- ・伝統的な規範の影響や、芸術家本人の着想、また注文主との関係のなかで作品が生み出されたという文脈を理解できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	必要なし
第2回 聖母子について1 聖母の存在	復習:聖母マリアの特徴について、講義ノートをまとめておく。
第3回 聖母子について2 イエスの誕生をめぐって	復習:キリスト教美術におけるキリストの身体について、講義ノートをまとめておく。
第4回 聖母子について3 写実性とはなにか	復習:宗教美術における「神を見る」ことの表現について、講義ノートをまとめておく。
第5回 教皇の部屋の装飾1 装飾プロジェクトについて	復習:ルネサンスにおける教皇と芸術家の関係について、講義ノートをまとめておく。
第6回 教皇の部屋の装飾2 アテネの学堂について	復習:《アテネの学堂》について、講義ノートをまとめておく。
第7回 絵を見ることとは（初級編）実践	課題を行う。
第8回 絵を見ることとは 講評・解説	復習:課題を再検討し、講義ノートをまとめておく。
第9回 人の顔をあらわす1 肖像の誕生	復習:肖像表現の歴史について、講義ノートをまとめておく。
第10回 人の顔をあらわす2 ルネサンスと肖像	復習:肖像の新たな型について、講義ノートをまとめておく。
第11回 人の顔をあらわす3 芸術家の自己とは	復習:自画像・自刻像について、講義ノートをまとめておく。
第12回 芸術家の自意識 署名	復習:キリストの身体について、講義第3回の内容をふまえて講義ノートをまとめておく。
第13回 宗教美術1 キリストの身体	復習:倣うべき存在の成り立ちについて、講義ノートをまとめておく。
第14回 宗教美術2 システィーナ礼拝堂について	復習:システィーナ礼拝堂の装飾について、講義ノートをまとめておく。
第15回 宗教美術3 ペテロとパウロ	復習:ペテロとパウロの存在について、講義ノートをまとめておく。

■ 履修上の注意

テキストとしてプリントを配布するが、予習よりも復習に時間をかけることを勧める（目安として週当たり復習2時間）。

■ 成績評価方法・基準

2度の授業レポート（70%）と小レポート（30%）をもとに評価する。ミニレポートについてはフィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

プリントを配布する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美学Ⅱ

(12163)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

森 田 優 子

■ 授業の概要

美術の価値とはなにか、その価値はどのように作られてきたのか。改めて考えると、これは美術の本質的な問いにつながっている。授業ではこの問いに歴史的にアプローチし、ルネサンス美術を中心に美術についてより深い考察へ導く。15回の授業の前半はギリシア・ローマ神話を表した美術の基本的見方について、神話を描くことや古代という時代の意味するものについて考察する。後半は美術の価値について歴史的かつ多面的な見方を教える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・伝統的な西洋美術について概要を知り、作品を見る際の着眼点が分かるようになる。
- ・美術が生み出される過程や機能について知ること、各々の作品をより深く理解できるようにする。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 美術の価値をめぐって	必要なし
第2回 ギリシア・ローマ神話と美術1 神々と変身	復習:神々のトレードマークについて講義ノートをもとめておく。
第3回 ギリシア・ローマ神話と美術2 戦いをめぐって	復習:トロイ戦争の経緯と戦いを表した作品について講義ノートをもとめておく。
第4回 ギリシア・ローマ神話と美術3 神話で飾られる空間とは	復習:ギリシア・ローマ神話が表された空間について、講義ノートをもとめておく。
第5回 古代とルネサンス1 古代の復興とは	復習:ルネサンスとはなにか、具体的な作品をもとに講義ノートをもとめておく。
第6回 古代とルネサンス2 古代と名声	復習:ヨーロッパの文化における「古代」の価値について、講義ノートをもとめておく。
第7回 古代とルネサンス3 グロテスク	復習:グロテスク装飾、そして概念としての「グロテスク」について講義ノートをもとめておく。
第8回 芸術家たちの競争1	復習:ルネサンスの「コンクール」について、講義ノートをもとめておく。
第9回 芸術家たちの競争2 諸芸術の格付け競争	復習:芸術の中でどれが一番優れているかという議論について、講義ノートをもとめておく。
第10回 素描と色彩	復習:実制作と理論における素描と色彩の役割について、講義ノートをもとめておく。
第11回 表す主題の価値	復習:芸術における主題の価値について、講義ノートをもとめておく。
第12回 芸術家の自意識 署名	復習:芸術家の署名について、講義ノートをもとめておく。
第13回 芸術家の自由とは	復習:「美術作品を自由に制作する」ことの意味について、講義ノートをもとめておく。
第14回 鑑賞者の自由	復習:前回の授業「芸術家の自由」との関連に注目しながら講義ノートをもとめておく。
第15回 美術品蒐集と美術市場	復習:美術品を収集すること、また美術館・博物館の成立について、講義ノートをもとめておく。

■ 履修上の注意

テキストとしてプリントを配布するが、予習よりも復習に時間をかけることを勧める（目安として週当たり復習2時間）。

■ 成績評価方法・基準

2度の授業レポートをもとに評価する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

プリントを配布する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美術鑑賞Ⅰ

(12164)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

大 嶋 貴 明

■ 授業の概要

鑑賞という営みの理論および鑑賞によって成立することの可能性を論ずる。美術史Ⅰおよび美術史Ⅱに接続させて、近現代の美術作品と美術理論について、その概要を論ずる。いくつかの具体的な作品について、「よく見る」ことによってみえてくるものについて、ケーススタディする。具体的作品を巡って、「見ただけでは理解できないこと」について検討し、「他者」「仮説される作者」「作品の自立」などについて考察する。自己の作品発表時に必要なステートメントなどの在り方を検討し、その作品の鑑賞に対する影響を考察する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・理論化された鑑賞について理解して、主体的鑑賞行為ができる。
- ・「近代」と「現代」の状況理解が深まる。
- ・美術史的脈絡と自作との関連について考慮できる。
- ・自作の持つべき現代性について考慮できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 「鑑賞」の理論化可能性 「作品を見る」ゲーム体験：作品の表象性について	事前：美術史Ⅰおよび美術史Ⅱの復習 事後：講義中提示されたキーワード「表象」「世界観」「作品」について、ウェブなどで検索しメモをつくる。疑問点をまとめる。
第2回	美術史ゲーム体験：作品間の連続性と分断（美術史と美術理論の可能性） 「近代」への展開：メトロポリタン美術館展の展示から	事前：2022年に国立新美術館などで開催された「メトロポリタン美術館展」について調べる。 事後：「美術史的展開の連続性と分断性」を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第3回	「美術」概念の検討	事前：「美術」「アート」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「感性」「世界観」「媒介」などを中心軸として整理し、疑問点をまとめる。
第4回	「鑑賞」「観賞」「観照」、それぞれの機序について検討する。	事前：「鑑賞」について英訳し、使用後の意味を調べる。（和英、英英大辞典を使用のこと） 事後：「即自・対他・対自」の三段階を中心概念として講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第5回	要素主義的鑑賞について。 見ることで認識できる／見ただけでは認識不可能なこと。 全人格的鑑賞。	事前：「美術」「アート」などの基本概念について、その意味の歴史的変化を、調べておく。 事後：「世界観の拡張」を中心概念として講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第6回	「展示鑑賞」は「展示」を鑑賞するか。 世界理解としての世界鑑賞について。	事前：ミュージアム・オリジナル展示論について調べておく。 事後：「世界理解の不可能性」を中心概念として講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第7回	「鑑賞論」について振り返り：疑問点の確認 中間レポートの準備	事前：第1回から第6回までの疑問点を整理し、小レポートにまとめ提出 事後：中間レポートを作成し提出
第8回	「近代」と「現代」について検討。 「ポストモダン」「スーパーモダン」「レイトモダン」、3つの状況について	事前：「近代」「現代」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「現代」の概念的不確定性を軸に整理し、疑問点をまとめる。
第9回	印象派、新印象派、ポスト印象派、象徴主義などについて	事前：「印象派」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：ポスト印象派の3人を中心に整理し、疑問点をまとめる。
第10回	20世紀前半、戦間期までの美術の諸潮流。 戦間期の美術の諸潮流。	事前：「キュビズム」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「美術概念の展開」を軸に講義メモを整理

第11回 20世紀後期の美術の諸潮流	し、疑問点をまとめる。 事前：「抽象表現主義」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「絵画以外の形式の展開」を軸に整理し、疑問点をまとめる。
第12回 冷戦終結後、2010年ごろまでの美術の諸潮流	事前：事前プリントに従って基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「美術の外部性」の観点を中心に整理し、疑問点をまとめる。
第13回 2025年までの美術について。	事前：事前プリントに従って基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：ワークインプログレッシブなど「収斂しない美術」を軸に整理し、疑問点をまとめる。
第14回 近現代の美術の潮流について振り返り：疑問点の確認 作品鑑賞レポートの準備	事前：事前プリントに従って基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：レポートで扱う事象について調べる。
第15回 鑑賞教育の意味と限界について論ずる。 疑問点の確認	事前：小レポート（疑問点）の作成（本時までに提出） 事後：各自の疑問を軸に講義メモを整理する。

■ 履修上の注意

毎回、可能な限り次回講義の資料プリントやレジュメを渡す。受講者からは簡単な疑問点や内容についての小レポート提出をもとめる。小レポートは10分程度のもとし、成績評価と出欠の確認用とし、必要に応じてフィードバックする。中間レポートと作品鑑賞レポートを課す。レポートのテーマや詳細については、中間レポートは11月初め、作品鑑賞レポートについては、1月半ばに提示する。

なお、レポートの形式、分量、制作上の注意点については第1回目講義時に説明する。

事前学習については、最低限ウェブでの検索によって、キーワードや重要な作品についてあたりをつけておくこと。

事後学習については、ノートの整理、特に疑問点の抽出を大事にすること。

その他、必要事項があれば、初回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

小レポート（14回）：30% 第15回小レポート：10% 中間レポート：20% 作品鑑賞レポート：40%

各レポートの採点基準については、初回講義時に説明する。

■ 教科書

使用しない。

講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

「美術館活用術」 ロンドン・テートギャラリー編 著者：ヘレン・チャーマン／キャサリン・ローズ 監訳：奥村高明／長田謙一 訳：酒井敦子／品川知子 美術出版社 3500円

講談社選書メチエ666「なぜ世界は存在しないか」 マルクス・ガブリエル著 講談社 1850円

「センスの哲学」 千葉雅也著 文藝春秋 1760円

■ 備考

参考すべきものは、参考書としてあげたものだけではなく多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義中で紹介するものや、展覧会を含め、できるだけ広く実際に手に取ったり見たりすることが望ましい。

質問や疑問点は、講義中など時間をとるが、詳しくは、初回講義時に説明する。

美術鑑賞Ⅱ

(12165)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

大 嶋 貴 明

■ 授業の概要

鑑賞という営みの理論および鑑賞によって成立することの可能性を論ずる。

いくつかの具体的な作品について、「よく見る」ことによってみえてくるものについて、ケーススタディする。また、具体的作品を巡って、「見ただけでは理解できないこと」について検討し、「他者」「仮説される作者」「作品の自立」などについて考察する。

文化遺産にふれる機会を提供し、そのことで、自らの文化的営みと自己形成のための資源化をシミュレートする。

4回の1日美術鑑賞旅行を実施するものとし、そのための情報提供、事前調査、事後のレポート作成を支援もしくは提供する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・理論化された鑑賞について理解して、主体的鑑賞行為ができる。
- ・「近代」と「現代」の状況理解が深まる。
- ・文化遺産の文化資源化を図ることができる。
- ・研修旅行の成果を論理的に説明できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：文化資源化について 鑑賞論を確認する。	事前：「鑑賞」について英訳し、使用後の意味を調べる。（和英、英英大辞典を使用のこと） 事後：「文化機能論」の観点から、講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第2回	美術史ゲーム体験：作品間の連続性と分断（美術史と美術理論の可能性） 「近代」への展開：メトロポリタン美術館展の展示から	事前：2022年に国立新美術館などで開催された「メトロポリタン美術館展」について調べる。 事後：「美術史的展開の連続性と分断性」を中心にメモを整理し、疑問点を明確にする。
第3回	「美術」概念の検討	事前：「美術」「アート」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：「感性」「世界観の拡張」の2観点から、講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第4回	「近代」と「現代」について。 「ポストモダン」「スーパーモダン」「レイトモダン」、3つの状況論の論点を紹介する。	事前：「近代」「現代」などの基本概念について、その意味するところを、調べておく。 事後：キーワードに即し講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第5回	比較して見るゲーム体験：作品が表象するもの 作品鑑賞体験1：絵画作品	事前：「表象」などのキーワードについて、適宜検索し理解しておく。 事後：個々の作品が内包する、「多重性」「多様性」の観点から、内容を整理する。
第6回	「展示鑑賞」は「展示」を鑑賞するか？ 世界理解としての世界鑑賞について。 作品鑑賞体験2：インスタレーション	事前：ミュージアム・オリジナル・展示論について調べておく。 事後：「世界理解の不可能性」の観点から講義メモを整理し、疑問点をまとめる。
第7回	美術鑑賞旅行Ⅰの事前準備（青葉城址、西公園、定禅寺通り、仙台駅前）	事前：当該地区の立体作品について情報を調査 事後：旅行計画の作成
第8回	美術鑑賞旅行Ⅰの実施 青葉城址、西公園、定禅寺通り、仙台駅前（予定）	事前：旅行計画書の確認とすり合わせ 事後：メモを整理し、旅行Ⅰ報告レポート作成。
第9回	美術鑑賞旅行Ⅰの報告 レポート発表	事前：報告レポートの提出 事後：旅行Ⅰ報告レポートの修正
第10回	美術鑑賞旅行Ⅱの事前準備 多賀城、塩釜、松島地区の文化遺産について	事前：多賀城、塩釜、松島地区の文化遺産について調査 事後：メモを整理し、計画書案の作成
第11回	美術鑑賞旅行Ⅱの実施 多賀城国府跡、塩釜神社等、瑞巖寺、雄島、西行戻松	事前：旅行計画書の確認とすり合わせ 事後：旅行Ⅱ報告レポート作成
第12回	美術鑑賞旅行Ⅱの事後報告	事前：報告レポートの提出

	レポートに基づいた検討	事後：メモを整理し、旅行Ⅱレポートの修正
第13回	美術鑑賞旅行Ⅲの事前準備（平泉） 藤原氏と平泉、中尊寺、仏教美術について	事前：当該旅行地の情報調べ 事後：計画書案の作成
第14回	美術鑑賞旅行Ⅲの事前準備（平泉） 毛越寺、日本庭園について	事前：当該地域の文化遺産について調査 事後：計画書のすり合わせ
第15回	美術鑑賞旅行Ⅲの実施 平泉地域	事前：計画書の確認 事後：メモを整理し、旅行Ⅲ報告レポートの作成
第16回	美術鑑賞旅行Ⅲの事後報告 レポートに基づいた検討	事前：報告レポートの提出 事後：メモを整理し、旅行Ⅲレポートの修正
第17回	美術鑑賞旅行Ⅳの事前準備（茨城県五浦） 岡倉天心、明治の日本画の流れ、日本美術院	事前：当該地域の文化遺産について調査 事後：メモを整理し、計画書案の作成
第18回	美術鑑賞旅行Ⅳの事前準備（茨城県五浦） 五浦海岸、茨城県天心記念五浦美術館	事前：当該地域の文化遺産について調査 事後：メモを整理し、計画書案の作成
第19回	美術鑑賞旅行Ⅳの実施 茨城県五浦地域（予定）	事前：旅行計画書の確認とすり合わせ 事後：旅行Ⅳ報告レポート作成
第20回	美術鑑賞旅行Ⅳの事後報告 1. 報告レポートの発表	事前：旅行Ⅳ報告レポートの提出 事後：旅行報告レポートの修正
第21回	美術鑑賞旅行Ⅳの事後報告 2. 旅程イメージマップ制作：コラージュ型絵地図からイメージマップへ	事前：イメージマップ素材収集 事後：「絵地図」とは違った「イメージ表現」について、メモを整理する。
第22回	イメージマップの展開 直喩的表現／隠喩的表現 と その読み取り（鑑賞） 直喩、換喩と提喩的表現／それ以外での全体性へ 美術鑑賞Ⅳのまとめ	事前：「喩」「抽象と捨象」などのキーワードを調べる。 事後：「世界の認識不可能性」の観点から感想文を書く。

■ 履修上の注意

毎回、可能な限り次回講義の資料プリントやレジュメを渡す。

日帰りによる美術鑑賞旅行を4回実施の予定。4回の旅行への参加、調査・研修に基づく報告レポートの提出を単位取得の必須条件とする。

旅行代金は4回で50,000円程度になる予定。（交通費、観覧料、食費、その他。基本的には直接支払うこと）

なお、30回分中、美術鑑賞旅行Ⅰは2回分、美術鑑賞旅行ⅡとⅢは各々3回分、美術鑑賞旅行Ⅳは4回分をあてるものとする。

実施日程については、当年度の予定、担当専任教員の予定、受講者要望などによって、開講後決定する。

その他、必要事項があれば、初回講義時に説明する。

■ 成績評価方法・基準

報告レポート4回で80パーセント、プレゼンテーション20%

それぞれの採点基準については、初回講義時に説明の予定

■ 教科書

使用しない。

講義時にはレジュメおよび資料プリントを配布する。

■ 参考書

講談社選書メチエ666「なぜ世界は存在しないか」 マルクス・ガブリエル著 講談社 1850円
「センスの哲学」 千葉雅也著 文藝春秋 1760円
「増補新装カラー版東洋美術史」 監修：前田耕作 執筆：山岸公基 他 美術出版社 2500円
「日本美術の歴史」 辻 惟雄著 東京大学出版会 2800円

■ 備考

参考すべきものは、参考書としてあげたものだけではなく多くの大事な書物や画集、展覧会カタログなどがある。講義中で紹介するものや、展覧会を含め、できるだけ広く実際に手に取ったり見たりすることが望ましい。

質問や疑問点は、講義中など時間をとるが、詳しくは、初回講義時に説明する。

諸事情により、シラバスに記載されている講義日程が前後したり内容の変更がある場合がある。

日帰り美術鑑賞旅行の実施で、引率は授業担当教員と美術学部専任教員1名が行う。専任教員は授業内で伝えるが、変更する可能性がある。

メディア芸術論

(12166)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表3年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
伊 勢 周 平

■ 授業の概要

メディア芸術論では、20世紀から今日までに制作された絵画、立体、写真、映像、音楽、身体表現、プロジェクト、プロダクト、また作家自身について各テーマに沿いながら紹介し、“表現”と“メディア（媒体）”との関係について講義する。芸術と時代、社会、文化、生活、精神との関わりの中で生まれる表現活動を理解し、メディアと芸術の関係性への視野を広げられるよう指導する。また、対象の3年次は選択コースごとに専門性が深まる重要な時期と思われる。自身の制作と社会・他者との関わりを見つめる機会としたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・メディア芸術の基礎的な知識をみにつける。
- ・メディア芸術の様々な表現を理解する。
- ・メディア芸術と社会・文化を関連づけて理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス／芸術とはどういうものか、今日	授業ファイルの作成、2. の用語確認
第2回	モダンとポストモダンの芸術	3. の用語確認
第3回	コンセプチュアル・アート	4. の用語確認
第4回	抑圧（人種）とメディア	5. の用語確認
第5回	抑圧（性）とメディア	6. の用語確認
第6回	社会（政治、制度、思想）とメディア	7. の用語確認
第7回	抑圧（場／地域）とメディア	8. の用語確認
第8回	記録（文字・文章）とメディア	9. の用語確認
第9回	記録（画像）とメディア	10. の用語確認
第10回	記録（映画）とメディア	11. の用語確認
第11回	記録（実験）とメディア	12. の用語確認
第12回	諸感覚とメディア	13. の用語確認
第13回	リレーショナル（関係性）とインタラクティブ（相互作用）	14. の用語確認
第14回	情報技術とメディア	課題レポートの確認
第15回	レポート課題もしくは作品プレゼンテーション	課題のまとめ

■ 履修上の注意

毎回授業の導入があるので遅刻しないよう注意すること。
積極的に課題に取り組むよう心がけること。
授業の進捗により内容が変更される場合がある。
印刷紙代として100円を徴収する。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート提出60%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）40%
課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

テーマごとにプリントを配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

必修。
質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

地域工芸論

(12167)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

佐藤 雅也

■ 授業の概要

地域の工芸、伝統工芸、伝統的工芸、伝統産業などの歴史文化について、第1に旧仙台藩・城下町由来の手工業の視点、第2に明治以降に展開する新しい近代的な手工業の視点、第3に殖産興業政策や「旧慣」保存政策によって新たに概念化された美術工芸、工芸、産業工芸、工業（固有工業〔手工業〕と器械工業）などの視点、第4に明治10年代以降に登場する地誌・郷土誌・郷土読本・観光商案内書などに見る郷土の物産の視点、第5に機械制工業の確立期に意識化された民芸の視点、第6に明治後期以降に登場する柳田国男の「民俗」概念を前提としつつ、昭和初め、戦後、高度経済成長期に意識化された民具の視点、第7に戦後、現代に提唱された伝統工芸、伝統的工芸、伝統産業などの視点から考えていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・工芸、美術工芸、伝統工芸、伝統的工芸品産業、民芸（民衆的工芸）、民具などの歴史的な用語の意味を理解すること。
- ・仙台地方や宮城県を中心に地域工芸の歴史的、経済的、文化的な意義を理解すること。
- ・映像記録や採集記録、文献・統計資料などをもとに地域工芸の担い手の視点から工芸の現在・過去・未来を理解し展望すること。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	はじめに（自己紹介、授業の進め方、評価方法、授業概要・目標・計画等）	授業概要を理解する
	1 工芸とは何だろう （1）工業と工芸（工芸と美術工芸） （2）民芸	工芸、民芸等の用語を理解する
第2回	（3）民具 （4）道具と機械の区分点 （5）職人と職工 （6）伝統的工芸品産業 （7）伝統工芸	民具、伝統工芸、伝統的工芸品などの用語を理解する
第3回	2 仙台藩時代の手仕事と近代仙台の手工業、工芸、職人の変遷 （1）仙台藩時代の手仕事 （2）近代仙台の手工業、工芸、職人の変遷 （3）郷土の物産と工芸	江戸時代の手仕事に由来する近代の手工業、工芸を理解する
第4回	3 明治初年以降の「旧慣」保存と文化財保護行政、日本美術史の成立 （1）1880年代、大和における文化財保護 （2）帝室博物館の設置、明治30年（1897）制定の古社寺保存法 （3）日本美術史（時代区分）の成立	明治の「旧慣」保存と文化財保護について調べる
第5回	4 近代日本の産業政策の分岐点と地域産業（在来産業、地域工芸） （1）『温知図録』による輸出工業（工芸）の振興 （2）1880年代『興業意見』構想と在来産業政策	明治の『温知図録』と『興業意見』構想を調べる
第6回	（3）仙台市の市是に見る産業振興と職人技術の改良、変遷	国是、県是、郡是、市是、町村是と工芸について調べる
第7回	5 徒弟制度と職人（近代）	徒弟制度について調べる
第8回	6 徒弟制度と職人（現代）	技能教育について調べる
第9回	7 住関連の工芸（大工、指物、左官、石工、畳刺、寝具製作、表具師等）・DVD上映予定『仙台タンス』 ブラクティス①仙台タンスについて	住関連の工芸や仙台タンスについて調べる
第10回	8 衣関連の工芸（履物、染織等）・DVD上映予定『仙台の木綿染め』 ブラクティス②木綿染めについて	衣関連の工芸や木綿染めについて調べる
第11回	9 食関連の工芸（桶、堤焼、金網と曲輪等）・DVD上映予定『桶作り』『仙台の金網と曲輪』	食関連の工芸や桶、金網と曲輪について調べる

	プラクティス③桶作り、金網と曲輪について	
第12回	10 鍛冶屋（刃物鍛冶、鋸鍛冶、野鍛冶等）・DVD上映予定『仙台の刃物鍛冶』 プラクティス④刃物鍛冶について	鍛冶屋について調べる
第13回	11 柳生和紙と松川達磨・DVD上映予定『仙台の柳生和紙と松川達磨』 プラクティス⑤柳生和紙と松川達磨について	和紙、達磨について調べる
第14回	12 正月飾りと伝承切り紙「おかざり、きりこ、きざみもの」	正月飾りと工芸について調べる
第15回	補足とまとめ	授業内容を振り返り、要点をまとめる

■ 履修上の注意

予習、復習に努め、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

授業内容をどの程度理解しているか確認するために、感想や意見などを記入するプラクティス（練習）を5回ほど行い（1回10点の計50点）、授業の中でフィードバックする。レポート課題「授業の内容をもとに地域工芸論の特徴について論述して下さい」の提出が50点満点で、合計100点で採点評価する。レポート課題は、1～2枚程度で第14回～第15回までに提出すること。

■ 教科書

佐藤雅也『仙台の伝統工芸の歴史と現在』（国宝大崎八幡宮・仙台・江戸学叢書72、2022年）800円（税別）

■ 参考書

授業内にプリント配布する。

■ 備考

必修

論文演習Ⅰ

(12168)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

山口 刀也 伊勢 周平

■ 授業の概要

「論文演習Ⅰ」では、国内外の美術をはじめとする人文社会学の歴史をふまえ、社会と文化の現在を照らし、未来をみえる構想力の開発をめざすための基礎としてこの授業を提供する。第三者が過去に発表した美術・文化に関するエッセイ等の読解からスタートし、徐々に理解の深化を促す。また、それぞれの受講者に発表（ディスカッションを含む）を課すことによって、プレゼンテーション力、コミュニケーション力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術・文化について、執筆されたエッセイを読解できる。
- ・社会的視点から、読解した内容を説明できる。
- ・自身の評価基準を構築し、その基準に沿って他者のエッセイを評価できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： 「エッセイのいろいろ」	配布資料の読解
第2回	事例研究（エッセイ①）-読解1（テーマを中心として）	ワークシート：テーマについて
第3回	事例研究（エッセイ①）-読解2（論旨を中心として）	ワークシート：論旨について
第4回	事例研究（エッセイ①）-内容の整理	ワークシート：論旨をアウトラインで辿る。
第5回	事例研究（エッセイ①）-内容の確認	ワークシート；アウトラインを文章で表す。
第6回	事例研究（エッセイ①）-内容に関する考察	ワークシート：論旨の問題点を探す。
第7回	事例研究（エッセイ①）-内容評価	ワークシート：評価基準を策定する。
第8回	事例研究（エッセイ①）-内容に関する発表（質疑応答）	プレゼン評価表の記入
第9回	事例研究（エッセイ②）-読解1（テーマを中心として）	ワークシート：テーマについて
第10回	事例研究（エッセイ②）-読解2（論旨を中心として）	ワークシート：論旨について
第11回	事例研究（エッセイ②）-内容の整理	ワークシート：論旨をアウトラインで辿る。
第12回	事例研究（エッセイ②）-内容の確認	ワークシート；アウトラインを文章で表す。
第13回	事例研究（エッセイ②）-内容に関する考察	ワークシート：論旨の問題点を探す。
第14回	事例研究（エッセイ②）-内容評価	ワークシート：評価基準を策定する。
第15回	事例研究（エッセイ②）-内容に関する発表（質疑応答）	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：70%（フィードバックを行う） プレゼンテーション：30%（フィードバックを行う）

ルーブリック評価については初回授業の際に説明する。

■ 教科書

[まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書][阿部幸大、2018][光文社][¥1,980]

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）

論文演習Ⅱ

(12169)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表2年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
山口 刀也 伊勢 周平

■ 授業の概要

「論文演習Ⅱ」は、「論文演習Ⅰ」既履修者を対象とし、卒業論文の執筆を想定して提供される演習科目である。国内外の美術をはじめとする人文社会学の歴史をふまえ、社会と文化の現在を照らし、未来をみすえる構想力の開発をめざし、第三者が過去に発表した美術・文化に関する学術論文等の読解からスタートし、その内容に関する評価を課す。また、評論文の執筆をとおり、評価の客観性に関する検証を促す。さらには、受講者に発表の機会を与えることによって、プレゼンテーション力及びディスカッション力等のコミュニケーション力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・論文等を読解することができる。
- ・読解した内容を概念化し、自身の言葉で説明することができる。
- ・自身の評価基準を設定し、その基準に沿ってエッセイ・論文の論旨を構築することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： 「定説のいろいろ」	ワークシート①記入
第2回	事例研究（定説について－絵画）－調査1	調査状況の報告書（画家編）
第3回	事例研究（定説について－彫刻）－調査2	調査状況の報告書（彫刻家編）
第4回	事例研究（定説について－工芸・デザイン）－調査3	調査状況の報告書（工芸家・デザイナー編）
第5回	事例研究（定説について－絵画でも彫刻でも工芸でもデザインでもない美術に関する）－調査4	調査状況の報告書（その他）
第6回	事例研究 定説に関する考察	ワークシート：挑戦すべき定説の存在について
第7回	事例研究 定説評価	ワークシート：挑戦すべき定説の見極め（評価基準の策定）
第8回	事例研究 定説に関する発表	プレゼン準備（資料作成）
第9回	事例研究 論文執筆1（定説への挑戦・序章）	序章執筆
第10回	事例研究 論文執筆2（定説への挑戦・本文／前半）	本文／前半執筆
第11回	事例研究 論文執筆3（定説への挑戦・本文／後半）	本文／後半執筆
第12回	事例研究 論文執筆4（定説への挑戦・終章）	終章執筆
第13回	事例研究 論文執筆5（定説への挑戦・参考文献）	参考文献作成準備・修正
第14回	事例研究 論文集読解（定説への挑戦）	自己評価表記入
第15回	プレゼンテーション チェックリスト記入（定説への挑戦）	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示する。
30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：100%（フィードバックを行う。）

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する。）

論文演習Ⅲ

(12170)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

山口 刀 也 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「論文演習Ⅲ」は「論文演習Ⅰ」及び「論文演習・Ⅱ」既履修者を対象とし、卒業論文の執筆を前提として開講される演習科目である。

過去に発表された論文情報を提供し、それら作品の理論的背景に関する理解と評価を促す。また、それらの理解と評価を基に、各履修者作品の内容に関する再確認と明文化を支援する。さらには、全受講者に口頭発表を課すことによって、プレゼンテーション力の必要性を認識させるだけでなく、口頭発表後の質疑応答に力点を置くことで主にディベート力等のコミュニケーション能力の育成に着手する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・さまざまな美術家等の自説（英文を含む）を理解することができる。
- ・理解した内容を基に、評価することができる。
- ・作り手・表現者としての自説を文章化し、説明することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 「作品を構築する要素について」	ワークシート記入「私の作品を構築する要素について」
第2回	事例研究1	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第3回	事例研究2	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第4回	事例研究3	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第5回	事例研究4	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第6回	事例研究5	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第7回	事例研究6	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第8回	事例研究7	ワークシート 自身の関心にもとづいて論文を調査・収集し、その説を検討する
第9回	「それぞれの作品・それぞれの自説」序章アウトラインの作成について	ワークシート序章アウトライン作成
第10回	「それぞれの作品・それぞれの自説」序章トピックパラグラフの執筆について	ワークシート序章トピックパラグラフ執筆
第11回	「それぞれの作品・それぞれの自説」序章第2段落第4段落以降の執筆について	ワークシート序章第2段落 第4段落以降の執筆
第12回	「それぞれの作品・それぞれの自説」序章最終段落の執筆について	ワークシート：序章最終段落の執筆
第13回	「それぞれの作品・それぞれの自説」第1章アウトライン作成について	ワークシート：第1章アウトライン作成
第14回	「それぞれの作品・それぞれの自説」第1章アウトライン執筆について	ワークシート：第1章アウトライン執筆
第15回	「それぞれの作品・それぞれの自説」プレゼン（序章と最初の本文の内容について）	ワークシート：プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

提出課題の内容：70%（フィードバックを行う） プレゼンテーション：30%（フィードバックを行う）

■ 教科書

[まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書][阿部幸大、2018][光文社][¥1, 980]

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する。）

論文演習Ⅳ

(12171)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表3年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
山 口 刀 也 伊 勢 周 平

■ 授業の概要

「論文演習Ⅳ」は、「論文演習Ⅰ」、「論文演習Ⅱ」、「論文演習Ⅲ」既履修者を対象とし、卒論執筆の準備を完結する演習科目である。

想定される卒業論文のテーマに関する仮説の構築を支援し、その仮説の合理性と独自性について考察を促す。アウトラインの作成とそのアウトラインに基づく執筆を指導し、それらへの検証をもとに論旨の問題点と弱点等を認識させることによって、論理的展開力のさらなる向上をめざす。また、各受講者にプレゼンテーションを課することによって、さらなるコミュニケーション力の育成を図る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・論文のテーマに沿ってアウトラインを設定できる。
- ・先行論文と自身のテーマ性との関係について説明できる。
- ・自身の論旨を客観的に評価できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション： 論文執筆と「TO DO LIST」について	ワークシート：「論文演習Ⅲ」からの展開計画について
第2回	序章の検証・修正について	章立ての検証・修正
第3回	第1章の検証・確認	段落構成、節・項の設定に関するチェック
第4回	第2章のアウトライン作成・執筆について	第2章アウトライン作成・執筆
第5回	第2章の校正について	第2章校正
第6回	第3章のアウトライン作成・執筆について	第3章アウトライン作成・執筆
第7回	第3章の校正について	第3章校正
第8回	第4章以降のアウトライン作成・執筆について	第4章以降のアウトライン作成・執筆
第9回	第4章以降の校正について	第4章以降校正
第10回	終章のアウトライン作成・執筆について	終章アウトライン作成・執筆
第11回	終章の校正について	終章校正
第12回	参考文献一覧の作成・画像情報の編集・挿入について	参考文献一覧の作成・画像情報の編集・挿入
第13回	要旨（アブストラクト）の作成・表紙・目次の作成について	要旨（アブストラクト）の作成・表紙・目次の作成
第14回	プレゼンテーションについて	プレゼン資料作成
第15回	プレゼンテーション	プレゼン評価表の記入

■ 履修上の注意

必須／前提要件：「論文演習Ⅲ」を履修すること（「論群演習Ⅲ」未履修者は、「論文演習Ⅳ」を履修できません。）
毎回、課題を提示します。

30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

プレゼンテーション：25％ 提出課題の内容：75％（フィードバックを行う。）
課題については、授業中にフィードバックの時間を設定する。

■ 教科書

その都度、資料を配布する。

■ 参考書

その都度、資料を配布する。

■ 備考

オフィスアワー：2時間/1週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する。）

製図Ⅰ

(12172)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表2年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

製図を履修する上での、製図の道具とそれぞれの使い方により、様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき演習させ、製図の基本的な線・図形の作図の基本を学ばせる。
正投影図第法と三角投影図法（三面図）の原理を理解させる。立体の基本と名称を理解し三面図と展開図、断面図等の作図を演習させる。プロダクトの授業と連携し、事前に製図製作の基礎を習得させる。
実際の製品を例題として、二つの物体（おもちゃの家・バス）を正規（JIS）な製図の様式で、三面図を作図演習させる。実務レベルで講義し、作図演習させる。大手メーカーの開発責任者としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・様々な平面図形をそれぞれの図法に基づき作図出来るようにする
- ・立体の基本を理解し三面図と展開図を作図出来るようにする
- ・例題をJIS様式で三面図を作図出来るようにする

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 製図用具の説明と使い方	次回までに用意する製図用具を用意
第2回 線と文字、縮尺の知識	縮尺の仕方の復習
第3回 直線と角の作図、多角形の作図	配布した多角形作図の仕方の予習
第4回 円と円弧の作図渦巻き線の作図	配布した円弧渦巻作図の仕方の予習
第5回 分割の方法、作図	配布した分割の仕方の予習
第6回 第一角投影図(三面図)の基本と作図	配布した三面図作図の仕方の予習
第7回 角錐の三面図、切断面図の作図	配布した角錐の作図の仕方の予習
第8回 角錐の展開図の作図	角錐の三面図の基本の予習
第9回 花瓶の二面図、断面図の作図	花瓶の三面図の基本の予習
第10回 おもちゃの家の三面図作図(各面の下描き)	切断面の作図の予習
第11回 おもちゃの家の三面図作図(各面の仕上げと寸法記入)	角錐の展開図の予習
第12回 おもちゃのバスの三面図作図(各面の下描き)	おもちゃのバスの配布資料の予習
第13回 おもちゃのバスの三面図作図(詳細図を含め寸法線記入)	おもちゃバス詳細図配布資料の予習
第14回 ガラス器3種の二面図断面図の作図(下書き)	ガラス器の事前配布資料の予習
第15回 ガラス器3種の二面図断面図の作図(仕上げと寸法記入)	ガラス詳細図の配布資料の予習

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン、三角スケール、三角定規、分度器、コンパス
円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ
本科目は教職一種免(工芸)取得のための必修科目である

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（50%）授業態度(授業集中度)（20%）意欲(20%)
提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

無し 授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。
期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を次週まで会議室まで取りにくる事。

製図Ⅱ

(12173)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

前期で履修した内容をもとに、製品化された商品の三面図を縮尺変更し作図化する。

プロダクトの授業と連携し、事前にプロダクトの製図製作を習得させる。

実際製品化された製品の二面図、断面図の作図をさせる。製品自体（iPhone等）をノギス等で計測し三面図として製図させる。

著名な椅子の三面図の作図カラーリング、スツールのアイデアスケッチの演習と三面図、製作図を作図させる。木製テーブルの構造・仕様等の知識を履修しながら、三面図を作図、詳細図、仕様図を製図作図させる。

インテリア製図の基礎を学び、マンション、木造一戸建ての構造の基礎も学び、平面図、立面図を作図させる

大手メーカーの開発責任者としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・製品化された商品を三面図に作図出来るようにする
- ・インテリア平面図の基礎を習得し三図面を身につける
- ・インテリアの三面図を習得し、構造の基礎の知識を身につける

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 小筆筭の三面図(下書き)	前期の三面図の基礎を見ておく
第2回 小筆筭の三面図(仕上げ、着色)	前回渡された資料を復習する
第3回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>下書き	配布された資料を予習しておく
第4回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>カラーリング	カラーリングする前に作図しておく
第5回 椅子の三面図作図<リートフェルトチェア>パーツ図面	作図した三面図資料を理解しておく
第6回 丸スツール椅子の三面図、スケッチの作図	丸スツールの資料を予習しておく
第7回 角スツール椅子の三面図、スケッチの作図	角スツールの資料を予習しておく
第8回 テーブルの三面図、詳細図の作図(下書き)	テーブルの資料を予習しておく
第9回 テーブルの三面図、詳細図の作図、カラーリング	作図が遅れている場合は補習する
第10回 マンション平面図(基準線下書き)	配布された資料の基準線を予習しておく
第11回 マンション平面図(仕上げ)	平面図の下書きを終えておく
第12回 マンション立面図	作図が遅れている場合は補習する
第13回 木造住宅平面図(基準線下書き)	配布された木造図面資料を予習しておく
第14回 木造住宅平面図	木造図面の下書きを終えておく
第15回 木造住宅平面図(仕上げ)	作図が遅れている場合は補習する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン、三角スケール、三角定規、分度器、コンパス
円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

本科目は教職一種免(工芸)取得のための必修科目である。製図Ⅰの既修を受講要件とする

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(40%) 授業態度(30%) 意欲(20%)

■ 教科書

授業前にプリントを配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等は授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

図学 I

(12174)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：美表3年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

透視図法の原理と種類を理解し、各点の違いを理解させる。透視図法の基礎を習得させる。
透視図法の基礎である立方体を、1点2点3点透視図法でそれぞれ作図させ、それぞれの違いを理解させる。分割・増殖の仕方を理解し、課題に反映させる応用力を習得させる。
また円柱・円錐の図法も合わせて作図習得させる。正確な円弧の描き方を習得させる。
以上の図法を応用しコップ・ソファの製品を透視図法で表現する。
2年時習得した製図課題（おもちゃの家、バス）を各点透視図法で作図習得させる。
簡単な室内インテリアの透視図を1点透視図法で作図させ、カラーリングし表現する。
大手メーカーの開発責任者としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・透視図法の原理と種類、それぞれの基礎を身につける
- ・立体の透視図法のプロセス、技術表現力を身につける
- ・室内空間の透視図法を理解しプロセス技術表現力を身につける

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス、透視図法の原理と種類	透視図法の名称を復習する
第2回 立方体を1点透視図法、2点透視図法で描く	各VP位置の違いを復習する
第3回 立方体を3点透視図法で描く（見上げ・見下げ）	3点のVP位置の違いを復習する
第4回 円と円柱を透視図法で描く	正確な円弧の描き方を予習しておく
第5回 円錐を透視図法で描く	正確な円弧の描き方を復習しておく
第6回 透視図法での増殖と分割	各増殖分割の仕方を復習しておく
第7回 コップを1点透視図法で描く（下書き）	5の正確な円弧描き方を予習しておく
第8回 下書きしたコップの1点透視図法を実線で描く	コップの下書きを終えておく
第9回 ソファを1点2点透視図法で描く	1点透視との違いを予習しておく
第10回 リビングAを1点透視図法で描く（下書き）	配布した資料を事前に予習しておく
第11回 リビングAを1点透視図法で描く（仕上げ）	着色迄の仕上げを完了しておく
第12回 リビングAを1点透視図法で描いた図に着色する	授業中に未完了は事後完成する
第13回 おもちゃの家を等角図法で描く	1点透視との違いを予習しておく
第14回 おもちゃの家を2点透視図法で描く	授業中に未完了は次回まで完成する
第15回 おもちゃの家の2点透視図法を着色する	授業中に未完了は事後完成する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0、3mm/0、5mmシャープペン、墨入れペン、三角スケール、三角定規、分度器、コンパス
円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ
本科目は教職一種免（工芸）取得のための必修科目である

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり（40%）授業態度（30%）意欲(20%)
提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーにて受け付ける。
期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

図学Ⅱ

(12175)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

前期で習得した透視図法の基礎をもとに、インテリア空間の1点・2点透視図法により作図させる。分割・増殖の応用を使用し、作図時間を短縮する技法を習得する。

また作図した完成図に着色させ、表現力も習得させる。インテリア空間の2点透視図法で作図し視覚調整の知識・技術を習得させ表現力を向上させる。実際に講師が関わった作品も参考で見せる。

建築物の1点2点透視図法を習得し、実際の大学内建物を透視図法により作図し、着色を施し表現力を習得させる。

大手メーカーの開発責任者としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・室内を透視図法で作図しインテリア空間の表現力を身につける
- ・透視図法で作図した物に着色を施し表現力を身につける
- ・建物の透視図法を習得する事により絵画等に影響出来るようにする

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く（足線下書き）	大学建物を2点透視図法で描く（拡大着色）
第2回	ダイニングキッチンAを1点透視図法で描く	授業中に未完了は事後完成する
第3回	ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く（下書き、足線）	授業中に未完了は次回まで完成する
第4回	ダイニングキッチンBを2点透視図法で描く（視覚調整）	視覚調整の仕上がりを再確認する
第5回	和室をD点図法で描く（下書き）	授業中に未完了は次回まで完成する
第6回	和室をD点図法で描く（実線着色）	授業中に未完了は事後完成する
第7回	建物Aを1点透視図法で描く	事前にAの配布資料を予習しておく
第8回	建物Bを2点透視図法で描く	事前にBの配布資料を予習しておく
第9回	建物Cを2点透視図法で描く（下書き）	事前に配布資料Cを予習しておく
第10回	建物Cを2点透視図法で描く（実線）	建物Cの下書きを終えておく
第11回	建物Dを2点透視図法で描く（下書き）	建物Cの下書きを終えておく
第12回	建物Dを2点透視図法で描く（実線）	建物Dの下書きを終えておく
第13回	大学建物を2点透視図法で描く（下書き）	授業中に未完了は事後完成する
第14回	大学建物を2点透視図法で描く（実線）	授業中に未完了は次回まで完成する
第15回	大学建物を2点透視図法で描く（拡大着色）	授業中に未完了は事後完成する

■ 履修上の注意

指定された製図用具を用意する。0, 3mm/0, 5mmシャープペン、墨入れペン、三角スケール、三角定規、分度器、コンパス
円定規、楕円定規、雲形定規、時消し板製図用テープ

本科目は教職一種免(工芸)取得のための必修科目である。図学Ⅰの既修を受講要件とする

■ 成績評価方法・基準

課題の提出 期限内提出(10%)、正確さ、仕上がり(50%) 授業態度(授業集中度)(20%) 意欲(20%)

提出された課題は添削し評価点を記入し後日返却します。

■ 教科書

無し 授業時にプリント配布。コピー代として200円集金

■ 参考書

無し

■ 備考

資問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける

期限内提出が原則のため欠席等の場合は必ず資料を自習まで会議室まで取りにくる事。

インテリアデザインⅠ

(12176)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

インテリアを生活空間としてとらえ、日本の生活空間の生い立ちと西洋の生活空間との違いをとらえ、かつ比較しながら検証させる。インテリアを構成するスペースエレメント（空間部位）、フィックスエレメント（固定部位）、ファニッシングエレメント（可動部位）等、様々なインテリアエレメントの知識と生活空間の構成する目的を習得させ、今後のマーケットの必要なエレメントの解説し、日本の過去的生活文化と現代の生活空間の今後のあり方、生活者への提案の仕方の理解を深めさせる。又法務省仙台矯正管区から管轄内施設への、インテリア小物のプランコンテストへ参加し提案力を実践させる。

。大手メーカーの開発責任者、大手流通小売業の店舗開発顧問としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・日本と西洋の生活空間の生い立ちと生活文化を理解する。
- ・生活空間を構成するエレメントの知識を習得出来る。
- ・インテリアアクセサリーの提案を実践する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	インテリアデザイン概論	講義内容を資料に基づいて復習する
第2回	西洋と日本の生活空間の歴史（古代から中世）	古代中世を資料に基づいて復習する
第3回	西洋と日本の生活空間の歴史（近代から現代）	近代現代を資料に基づいて復習する
第4回	インテリア空間とスペースエレメントの種類	空間種類を資料に基づいて復習する
第5回	建築の構造・構法	構造構法を資料に基づいて復習する
第6回	インテリアの構法	構法種類を資料に基づいて復習する
第7回	インテリアエレメントの素材・仕上げ	素材種類を資料に基づいて復習する
第8回	木材の知識、造作と造作材	造作内容を資料に基づいて復習する
第9回	窓・建具、床材の知識	各素材を資料に基づいて復習する
第10回	インテリアアクセサリーの種類、素材の種類	各種類の用途機能、素材を復習する
第11回	仙台矯正管区のプランニングのオリエンテーション	矯正管区の要望を復習する
第12回	プランニングのラフチェック	チェックされた内要を変更してくる
第13回	プランニングした商品のスケッチ作成	スケッチを次回まで完成させる
第14回	プランニングした商品を図面化する	図面の指示された内要を完成させる
第15回	プレゼンテーション提出の最終チェック	課題を完成させる

■ 履修上の注意

配布した資料を見ておくこと。欠席した場合は必ず資料を入手すること。

■ 成績評価方法・基準

前期講義内容の考査（80％）授業態度（授業に集中しているか）（20％）
考査結果をフィードバックする。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金。

■ 参考書

無し。授業時にプリント配布。

■ 備考

授業終了時に質問を受け付けます。

インテリアデザインⅡ

(12177)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

湯 目 俊 彦

■ 授業の概要

前期につづき、主要となるインテリアエレメントの知識と生活空間の構成する目的を習得させ、今後のマーケットの必要なエレメントの解説し、インテリアコーディネート基礎をカラーイメージとスタイルを基に、与えられた室内空間に指定したエレメントを、自分のイメージで選定し、コーディネートをプランニングし、図面に入れ込み、プレゼンテーションボードを作成させる。大手メーカーの開発責任者、大手流通小売業の店舗開発顧問としての経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・生活空間を構成するエレメントの知識を身につける
- ・インテリアコーディネートの実践を習得出来るようにする

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 住宅設備	設備内容を資料に基づいて復習する
第2回 照明の基礎と知識	照明基礎を資料に基づいて復習する
第3回 内装仕上材の歴史と種類内装仕上材の知識	仕上材知識を資料に基づき復習する
第4回 絨毯・カーペットの歴史と知識	絨毯・カーペットの歴史知識を復習する
第5回 ウィンドカバーリングの歴史と知識	家具歴史を資料に基づいて復習する
第6回 西洋の家具の歴史、日本の家具の歴史	家具種類を資料に基づいて復習する
第7回 家具の種類と構造の知識	コンセプトを事前に考えておく
第8回 インテリアコーディネーションの基礎	イメージに合う設備材を選択する
第9回 プランニングの為のフィックスエレメント選定(設備等)	イメージに合う内装材を選択する
第10回 プランニングの為のフィックスエレメント選定(内装材等)	イメージに合う各素材を選択する
第11回 プランニングの為の選定(置き家具、照明等)	前回の内容に合う各素材を選択する
第12回 プランニングの為の選定(窓廻り、アクセサリー等)	配布した図面にレイアウト準備
第13回 プランニング平面図、立面図作成	配布した図面に立面図の準備
第14回 プランニングボード貼付け作成	エレメントの配置を考えておく
第15回 プランニングボード貼付けを終わらせる	エレメントの貼付けの準備

■ 履修上の注意

プランニングボードはA3ミューズボード2枚、両面テープ、スプレーのりを用意する事。
インテリアデザインⅠの既修を受講要件とする。

■ 成績評価方法・基準

授業10での後期講義内容の考査（30％）課題内容（50％）授業態度(授業に集中してる)(20％)
考査結果をフィードバックする。

■ 教科書

無し。授業時にプリント配布。コピー代として200円集金。

■ 参考書

無し。

■ 備考

(オフィスアワー) 授業終了時に質問を受け付けます。
各自カッターでのカット作業等ではがをしないう気をつけること。

写真 I

(12178)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

飯 沢 耕太郎

■ 授業の概要

写真評論家、写真史家としての活動を踏まえ、写真という表現媒体のあり方について幅広い視点で講義する。特に現代日本の写真表現に着目し、写真家たちの活動を写真集、DVD、youtubeなどを参照しつつ、多面的に紹介していきたい。具体的には、まず写真集の成立を通じて「写真とは何か」を考察し、写真コレクションや写真展などについても事例を挙げて詳述する。次に戦後日本写真史の流れを追い、あわせてデジタル化、生成AIなど近年の写真全般の動向についても触れていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・写真の表現の面白さ、魅力について理解を深める。
- ・写真家たちの表現の姿勢について学ぶ。
- ・写真家たちの活動のあり方を自身の今後の活動に活かす。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	写真とは何か（1）写真集の成立「自然の鉛筆」	写真史の本などで予備知識を得る。
第2回	写真とは何か（2）現代の写真集 Steidl社の活動	同上
第3回	写真とは何か（3）現代の写真家たち、S・ライター、W・ティルマンス、W・エグルストンなど	同上
第4回	現代日本写真の展開（1）『PROVOKE』の写真家たち	森山大道、中平卓馬らの活動について調べる。
第5回	現代写真の展開（2）「私写真」について	荒木経惟、深瀬昌久、牛腸茂雄らの活動について調べる。
第6回	現代写真の展開（3）写真と現代美術	杉本博司、森村泰昌らの活動について調べる。
第7回	現代写真の展開（4）震災後の写真家たち	志賀理江子、畠山直哉らの活動について調べる。
第8回	まとめとレポート作成	図書館等で写真集を閲覧する。

■ 履修上の注意

最新の情報をフォローしたいので、授業内容は変更することがある。

■ 成績評価方法・基準

レポートを評価する（80%）。授業の取り組みへの姿勢、遅刻、早退等を考慮（20%）。基本的には全講義に出席することを前提とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

『キーワードで読む現代日本写真』飯沢耕太郎、フィルムアート社、3800円 『写真集の本』飯沢耕太郎、打林俊、中村義郎、カンゼン、2420円

■ 備考

（集中講義）質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

写真Ⅱ

(12179)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

飯 沢 耕太郎

■ 授業の概要

主に自分で撮影・プリントした写真作品をポートフォリオに仕上げ、その作成のプロセスを実際に経験する。最終的に、ブック、ファイル等にまとめたポートフォリオを提出し、それを全員で鑑賞しながら講評を加える。そのことで、写真作品をどのようにプレゼンテーションしていくのかを、実践的に学ぶことができる。ポートフォリオとは何かというオリエンテーションを踏まえ、それぞれのやり方で作業を進めていただく。また、ポートフォリオ作成の参考として、現代写真家のポートフォリオ、写真集などを鑑賞する時間も設けたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・写真表現の基礎を身につける
- ・写真の編集、装丁などのプロセスを経験する

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 現代写真家のポートフォリオ、写真集などを鑑賞	ポートフォリオのための写真を用意する。事前に写真集などを鑑賞して予備知識を得る。
第2回 ポートフォリオ作成（1）写真を選ぶ	ポートフォリオ制作のための台紙、ファイル等を用意する。制作に必要な写真を入手しておく。必要ならば、ノリ、ハサミ、カッターなども揃えておく。
第3回 ポートフォリオ作成（2）写真の順番を決める	写真を並べて順番を決める。
第4回 ポートフォリオ作成（3）台紙などを用意する	台紙やファイルを準備しておく。
第5回 ポートフォリオ作成（4）台紙に写真を貼る	台紙やファイルを準備しておく。
第6回 ポートフォリオ作成（5）ページを整え綴じ合わせる	台紙を使う場合は閉じ合わせる。ファイルの場合はきちんと入れる。
第7回 ポートフォリオ作成（6）タイトル、テキスト等を加える	タイトル、テキストのロゴに注意する。手書きの場合は丁寧に書く。
第8回 まとめと講評	ポートフォリオを仕上げる。

■ 履修上の注意

あらかじめ、ポートフォリオ作成のための材料を準備する。途中で写真をプリントするなどすることも可。集中授業のため、遅刻、欠席は基本的に認めない。

■ 成績評価方法・基準

提出されたポートフォリオを評価する（80％）。授業への取り組みの姿勢（20％）。ポートフォリオは、添削して返却する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

『写真集の本』飯沢耕太郎、打林俊、中村善郎、カンゼン、2420円

■ 備考

（集中講義）質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

美術特別講義Ⅰ

(12180)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

立 花 布美子 落 合 里 麻

■ 授業の概要

東京の文化、芸術、美術の現在に触れる機会を提供する授業である。東京圏内の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設での自主研修（1泊2日）を想定し、研修対象に関する調査と研修計画の立案を課す。研修は夏季休業期間内で実施を予定している。研修期間中は、ミーティング（プレゼンテーション、質疑応答、情報共有を含む）を指導し、随時、研修計画の見直しと修正を促す。研修後、各自の調査と研修・鑑賞体験に基づくレポートの作成と提出を求める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術分野における、調査・フィールドワークの方法を会得し、主体的に実践することができる。
- ・基礎的知識とコミュニケーション能力を身につけ、鑑賞体験について、適切に説明することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業概要説明）	レポート（授業内容について理解できたこと、できなかったこと）
第2回	事前調査①（東京圏の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設について）	事前調査レポート①
第3回	事前調査②（東京圏の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設について）	事前調査レポート②
第4回	研修計画立案①（東京圏の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設について）	研修計画書作成
第5回	研修計画立案②（東京圏の博物館、美術館、ギャラリー、歴史遺産等の文化施設について）	研修計画書完成
第6回	実地研修（1日目）	各自鑑賞のまとめ
第7回	実地研修（2日目）	研修報告書用アウトラインの作成
第8回	まとめ	研修報告書作成・提出

■ 履修上の注意

- ・「美術特別講義Ⅰ」研修旅行への参加と研修ファイルの提出を単位取得の必須条件とする。
- ・講義の開講日時等については、Google Classroomにて連絡する。
- ・仙台ー東京の交通費、宿泊費、研修期間中の移動・拝観に伴う費用、食費等、研修にかかる費用は自己負担とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・実習態度（50%）、課題（50%）
- ・提出されたレポートについては、フィードバックを行う。

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

〈集中講義〉

- ・オフィスアワーの曜日／日時については、Google Classroomにて連絡する。
- ・感染症拡大等の影響により、当該シラバスに沿った授業の実践が困難となった場合には、シラバスを変更することがある。

美術特別講義Ⅱ

(12181)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 藤 恵 夫

■ 授業の概要

造形表現に必要なとなる人体の構造についての基礎的知識を解説する。人体に関する知識を十分理解できるようにするとともに、実際に造形表現された作品についてその表現法などを美術解剖学的な立場から紹介する。扱う内容は、頭部の骨格、頭部の筋、体幹の骨格、頸部と体幹の筋、体肢の骨格と筋、プロポーション等である。また、人体のみならず可動人形、動物および植物、天象（水や炎など）の表現についても美術解剖学的な視点から解説し、折紙等を用いて生物のバランスについても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・人体の構造について理解を深め、造形作品の制作に応用できる。
- ・人体について、観察・理解・効果・表現を実践することができる。
- ・造形表現されたカッコイイ嘘について美術解剖学的に分析できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	美術解剖学概論、プロポーション	好きなキャラ等のプロポーションを測っておく
第2回	コントラポスト、ジョジョ立ち	コントラポストの作例を探しておく
第3回	日本の伝統工芸：折紙、生物のバランス	折紙の作例の図を収集しておく
第4回	人体の構造と可動人形	人体と可動人形の違いを考えておく
第5回	体幹の骨と筋、乳房	体幹の骨と筋の図を収集しておく
第6回	体肢の骨と筋	体肢の骨と筋の図を収集しておく
第7回	動物美術解剖学	動物の姿のバランスを考えて観察しておく
第8回	天象美術解剖学、講評	風や炎などを造形表現した作例を探しておく

■ 履修上の注意

教室内では携帯電話・スマートフォンの電源は切る。飲食厳禁。2日間の集中講義のため、10分以上の遅刻は欠席とする。

■ 成績評価方法・基準

- ① 授業中に課す提出物またはノート（評価割合30%）、レポート試験（評価割合70%）。
- ② 授業中に課した提出物については、次の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

教科書は使用しない。

「資料」として授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

〔ホネ事典〕〔スティーブ・パーカー〕〔あすなろ書房〕〔2500円＋税〕

■ 備考

（集中講義）

質問等については、授業中および授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅲ

(12182)

単位：1
対象学科：
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目

■ 授業の概要

商業セルアニメーションにおける基礎知識と必要な技能およびスキルを理解し、身につけられるよう、商業セルアニメーションの演出実務経験者により、教授する。映像が誕生した背景と古典作品から、映像表現の本質的な特性と魅力を説明し、現在の映像メディアや日本の商業アニメーションの制作プロセスを学ぶ。演習では、商業セルアニメーションの特性とワークフローを理解した上で、カット制作についてのデジタル作画に取り組み、絵を動かすことの面白さを体験しながら、基礎的なスキルを身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 商業セルアニメの基礎的な知識を身につける。
- ・ 商業セルアニメに必要な技能を理解することができる。
- ・ 必要なスキルを、本授業以外の授業と関連づけて理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 映像の誕生／本質的な特性／メディアの種類	調査
第2回 商業セルアニメーションのワークフロー／各部紹介	各部の仕事を意識しての作品鑑賞
第3回 カット制作の現在について	調査
第4回 デジタル作画における基礎知識	自習で実践
第5回 課題の演習（絵を動かすことの、自由な面白さ）	表現に自由を感じるカットの調査
第6回 講評（一部作品を選択し、動画検査を行い添削）	他者作品から学びを得る
第7回 セルアニメーション業界で求められる技能とそのレベル	まとめ（講評から展開）
第8回 質疑応答	疑問点を深掘りする

■ 履修上の注意

履修条件

- 1, アニメ・ゲームⅠを履修していること。
 - 2, Photoshopまたは、CLIP STUDIO PAINTの操作ができること。
 - 3, Photoshopでは、基本操作を理解し、ペンタブレットで絵を描いた経験があること。CLIP STUDIO PAINTではアニメーション機能を使った制作経験があること。
- わからない用語があった場合は、都度質問する。機材の都合により定員を設ける場合がある。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（50%）、授業態度、取り組みの姿勢、課題発表（50%）で評価する。

■ 教科書

適宜指示する

■ 参考書

適宜指示する

■ 備考

（集中講義）質問等については、授業終了時に受け付ける。
機器台数に限りがあるため定員を定める場合があります。

美術特別講義Ⅲ

(12183)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）
対象学科：美表2年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐藤 一郎

■ 授業の概要

1. 謝赫の「畫の六法」、すなわち「氣韻生動、骨法用筆、応物象形、随類賦彩、經營位置、伝模移写」を取り上げ、西洋画と関連づけ、「素描の心得」を考察する。2. アリストテレスの「見ることの重層構造」と、ヤン・ファン・エイクの「描くことの重層構造」の対応関係を考察する。3. 一点、二点透視図法による、各人の視高と視距離による空間設定をし、床面を作図する。4. その床面に、ある立体物を置き、二点透視図法を用い、描く。5. 転写後、墨汁と面相筆で輪郭線素描をする。さらに暗部に陰影を付け、肉付けを行い、量感を描出する。その際、立体物に生じる「陰」だけでなく、床面に投影される「影」をも描き込む。6. 地透層という中間調子で画面全体を塗る。7. その後、テンペラ絵具で「白色浮出」を行い、明部からの肉付けを行う。8. その結果、「素描」が形づくられ、これを下敷きに、彩色をほどこす。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「論画六法」を通して、「絵画とはなにか」の基礎知識を理解する。
- ・「見る」を「描く」行為に置換するための絵画材料とは何かを理解する。
- ・地透層（インプリマトゥーラ Imprimatura）を行う理由を理解する。
- ・テンペラ絵具と油絵具との違いとはなにかを理解する。
- ・比例(Proportion)＋遠近法(Perspective)＝構図(Composition)
- ・一点透視図法および二点透視図法による「線遠近法」を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	「畫の六法」の「氣韻生動、骨法用筆、応物象形、随類賦彩、經營位置、伝模移写」を取り上げ、西洋画と関連づける。	「氣」使った熟語を、ノートに描いてみる。「応物象形」「随類賦彩」に、返点を付ける。
第2回	アリストテレスの「見る構造」とファン・エイクの「描く構造」の対応関係を考察する。	「ものが見える」ための前提条件を考える。「ものを描く」ための前提条件を考える。
第3回	厚紙①：立体物の展開図を切り抜き、それを組立てる。 厚紙②：床面を設定し、市松模様の文様を作成する。	この立体物を、イメージする。文様の最小単位が連結すると、全体がどうなるか考える。
第4回	アルシュ紙①-1：透視面（画面）を設定し、二点透視図法で描く。その際、厚紙②の床面に置かれた立体物を参考とする。	鑑賞者の視高、視距離による視心と画面の視心を一致させる展示方法はどうすれば良いのか。
第5回	テンペラ媒剤(メディウム)の製法。アルシュ紙②-1：アルシュ紙①の原寸大素描をアルシュ紙②に転写する。その際、トレスイングペーパー裏面に油絵具（＋同量の揮発性油）を塗る。	水性媒剤と油性媒剤が混じり合い分離しない媒剤を、テンペラまたは乳濁液（エマルション）という。通常は鶏卵を使用する。
第6回	アルシュ紙②：転写された描線を墨描きし、褐色で陰影付けする。次に、画面全体に地透層を塗り、中間調子を設定する。	墨汁による輪郭線描が基本だが、できれば明暗の陰影（キアロスクーロ）も描き入れる。
第7回	アルシュ紙②：白色浮出して、対象物の量感を形づくり、対象物を取り囲む空間をも意識し、乾燥後彩色する。	暖色の下素描には、寒色の地透層を塗布する。白色浮出に微量の有彩色絵具を混ぜる。
第8回	批評会：学生が自己制作作品を前にして、批評する。他の学生の作品をもよく観察し、発言することが望ましい。	油絵具チューブに記されている記号（透明、半透明、被覆絵具）を調べる。

■ 履修上の注意

- 学生の準備物：筆記用具、ノート、水彩道具一式、鋏、カッター、定規（30cm前後）
- 大学の準備物：アルシュ（300g/㎡ 18cm×26cm）水彩紙各自2枚、方眼厚紙1枚、墨汁、コピー用紙（A4, A3）

■ 成績評価方法・基準

授業態度、プレゼンテーションを含む平常点50%、アルシュ紙①、②に描いた描画作品（2枚）50%で評価する。

■ 教科書

●適宜、プリント（パワーポイント＋参考資料をも含む）を配布。●『絵画制作入門』佐藤一郎＋東京藝術大学油画技法材料研究室編 東京藝術大学出版局 ●『トンプソン教授のテンペラ画の実技』佐藤一郎監訳、三好企画

■ 参考書

●『マックス・デルナー：絵画技術体系』佐藤一郎訳、美術出版社 ●『クルト・ヴェールテ：絵画技術全書』佐藤一郎訳、美術出版社 ●『絵画技術入門』佐藤一郎著、美術出版社

■ 備考

質問は、適宜受け付ける。

美術特別講義Ⅳ

(12184)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

小野寺 良 枝

■ 授業の概要

臨床美術の沿革、臨床美術の実際の効果、臨床美術アートプログラムの仕組みやアートを媒体としたコミュニケーションなど、臨床美術に関する基礎的な知識を学ぶことができる。また、臨床美術の基本画材であるオイルパステルを使用して、臨床美術のアートプログラムを体験し、創造の楽しさを味わうことができる。美術が本来持っている創造力を発揮し臨床美術を用いて様々な地域の課題を克服し、社会の変化に対応しながら、文化を主体的に創造してゆける態度を養えるよう指導をする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・臨床美術の基礎的知識や学習態度を身につけることができる。
- ・臨床美術の専門知識とその技能体系を社会と関連付けて理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 授業の概要と流れ、課題の設定とその展開について	情報を集め、調査をする。
第2回 課題1 課題説明 調査内容を発表	修正を加え再提出する。
第3回 検討・制作、発表・提出	プリント・課題を完成させ提出する。
第4回 フィードバック、プレゼンテーション、まとめ	調査・プレゼンの準備をする。 授業を振り返り、ポイント等を整理する。
第5回 課題2 課題説明 調査内容を発表	修正を加え再提出する。
第6回 検討・制作、発表・提出	プリント・課題を完成させ提出する。
第7回 フィードバック、検討・制作、プレゼンテーション	内容を復習し、課題を完成させる。 プレゼンの準備をする。
第8回 プレゼンテーション 今後の展開とまとめ	授業を振り返り、ポイント等を整理する。

■ 履修上の注意

実施時期・講義内容の詳細について掲示で知らせる。各自内容を確認し履修登録を行うこと。また、必要な材料等の準備物についても掲示にて知らせる。必ず提出すること。

■ 成績評価方法・基準

授業態度、取り組みの姿勢など50%、課題とプレゼンテーションの内容50%で評価する。

課題については、授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業時に資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

（集中講義）

質問については、授業時、授業終了後に受け付ける。

美術特別講義Ⅳ

(12185)

単位：1
対象学科：
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目

■ 授業の概要

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

■ 教科書

■ 参考書

■ 備考

美術特別講義Ⅴ

(12186)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
三 浦 誠

■ 授業の概要

美術特別講義Ⅴでは映画や広告などの映像を中心に、情報の映像化と表現技法について指導する。芸術と歴史、社会、文化、生活との関わりの中で生まれるメディア表現を理解し、メディア芸術への視野を広げられるよう指導する。広告の中で映像がどのように使われているか、映像のルーツや今後のあり方を含め、今日までの様々な映像作品を見つつ作品をテーマごとに紹介しながら、実務経験に基づいた撮影技法、職種なども交えた“映像と広告”との関係を浮き彫りにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・映像の基礎的な知識を身につける
- ・映像の様々な表現を理解することができる
- ・映像と社会・文化を関連づけて理解することができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	現代における映像についての説明
第2回	現代における映像と広告の関係	映像広告の手法や種類のまとめ
第3回	映像における職種	仕事の種類や就職先について
第4回	映像の対価	映像制作に関わる金額相場感について
第5回	映像鑑賞(TVCM)	TVCMのまとめ
第6回	映像鑑賞(WEB CM)	WEBCMのまとめ
第7回	映像についてのまとめ	レポート作成
第8回	講評	課題のまとめ

■ 履修上の注意

課題レポートの提出あり。

■ 成績評価方法・基準

提出課題70%(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。)、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）30%で評価する。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

（集中講義）授業計画の順番等を変更することがある。質問等は授業終了時に受け付ける。

美術特別講義Ⅵ

(12187)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

中 村 真

■ 授業の概要

「日常生活の中で活かせる漆芸」を、実習と講義の双方を合わせ理解する。

- ・実習は、陶器修繕の漆芸活用例「金継ぎ」基礎技法の「漆接着工程」と、木製食器に多く施される原始的漆塗り技法の「摺漆」を行う。講義は太古より日本列島に根付く漆の歴史・社会的背景・未来展望を俯瞰し解説をする。
- ・事前準備として、各自が①身近な人から漆について連想することを複数聞き取り調査してくる。②割れた陶器を用意し、その器にまつわるエピソードも準備してくる。
- ・当講義は、漆芸作家、漆・金継ぎ講師の中村真が担当する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・漆とその取り扱い方を理解することができる。
- ・主体的に身近な課題を解決する能力を身につけることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	講義 ガイダンス・漆文化について。（先入観の漆）	漆の認識把握。
第2回	講義 ウルシノキについて。（分布、歴史、活用）	ウルシノキの理解。
第3回	講義 漆素材について。（漆の特性、取り扱い方、かぶれ対応方法）	漆素材の理解。
第4回	漆実習①（アクティブ・ラーニング） 「漆接着工程」①素地調整と固め。「摺漆」①木地調整と固め。	講義内容の確認。
第5回	漆実習②（アクティブ・ラーニング） 「漆接着工程」②麦漆配合塗布と接着。「摺漆」②摺漆塗装。	講義内容の確認。
第6回	漆実習③（アクティブ・ラーニング） 「漆接着工程」③修正と固定。「摺漆」③摺漆塗装。	講義内容の確認。
第7回	講義 金継ぎについて。（歴史、展開、展望）	金継ぎの理解。
第8回	プレゼンテーション（アクティブ・ラーニング） まとめ。（生活と漆）	講義ふりかえり。

■ 履修上の注意

- ①漆かぶれは個人差のある生体反応につき、完全防御出来ない事情を理解した学生のみ受講可能とする。そのうえで、最低限の漆かぶれ予防に塗装ヤッケなどの長袖作業着着用を必須とする。
- ②随時重要な説明があるので遅刻欠席をしないように注意。
- ③割れた陶磁器（小破片がなくても可）と、その組み上がり想定よりゆとりあるサイズのタッパーを各自で準備する。
- ④その他材料一式は頒布する。費用は共通消耗品代・テキスト代と合わせ、後日揭示する。（10,000円前後の見込み）

■ 成績評価方法・基準

出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）40%、課題制作とプレゼン60%で評価する。課題作品については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

[ゼロからの金継ぎ入門] [伊良原満美・中村真共著] [誠文堂新光社] [2000円＋税]

■ 参考書

プリント配布する。

■ 備考

(集中講義)

- ・質問等については、授業中および終了時に受け付ける。
- ・素材特性の都合上、定員は最大8名迄とする。

美術教諭試験対策講座Ⅰ

(12188)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表3年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 晃

■ 授業の概要

公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅱの基礎となる内容である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する
- ・ 学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする
- ・ 確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	筆記試験対策1. 教職教養	過去問題に取り組み躰いた所を調べておく
第2回	〃 2. 教育法規Ⅰ	教育にかかわる法規の体系を理解する
第3回	〃 3. 教育法規Ⅱ	教員採用試験に關係する法規の内容理解
第4回	〃 4. 面接	質問に正対する回答のあり方を調べる
第5回	〃 5. 集団討議	課題を受けてまとめていくことの理解
第6回	教員採用試験実技について	実技試験の目的と留意点を調べて提出
第7回	実技試験対策1 画材	画材の違いによる表現できる工夫の調査
第8回	〃 2 主題	主題の具現化を図る上での工夫を調べる
第9回	〃 3 時間配分	完成に至る望ましい時間配分のあり方
第10回	小論文対策1 今日の課題に正対する教師の役割の自覚	教員採用試験論文の書き方の留意点調査
第11回	〃 2 専門職としての意識の育成と発展	教員志望者に求められるものの理解
第12回	学習指導案作成演習1	学習指導案の目的と作成の留意点調べ
第13回	〃 2	授業のイメージづくりと各種指導案調べ
第14回	総合演習1 近年の動向を踏まえた課題	基本的問題の確実な把握と新傾向の対策
第15回	〃 2 まとめのレポート	採用試験対策講座關係プリント読み返し

■ 履修上の注意

受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）
- レポート70％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
- ・ 提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔127円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・ 質問等については授業終了時（オフィスアワー）に受け付けます。

美術教諭試験対策講座Ⅱ

(12189)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表4年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 晃

■ 授業の概要

公立学校教員採用試験（中・高美術）対策として過去問題を中心に筆記、実技、面接、模擬授業のそれぞれについて体系的に理解を深めるとともに出題傾向、出題意図、出題の視点および解答への道筋を解説する。採用試験に向けた学習指導案の作成方法とそれに基づいた授業の実践について指導する。これらのことを教授する中で美術教師になるための基本的な素養を身に付けさせ、実践的指導力、使命感、幅広い知見を育んでいくことを目的とする。本講座は美術教諭試験対策講座Ⅰをさらに発展継承させた内容となる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 授業を学修する中で美術教師として必要なものを理解する
- ・ 学修した内容を咀嚼反芻して整理要約できるようにする
- ・ 確かな知見と豊かな人間性を持った基本的素養を身に付ける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	筆記試験対策1. 教職教養	過去問題に取り組み躰いた所を調べておく
第2回	〃 2. 教育法規Ⅰ	教育にかかわる法規の体系を理解する
第3回	〃 3. 教育法規Ⅱ	教員採用試験に關係する法規の内容理解
第4回	〃 4. 面接	質問に正対する回答のあり方を調べる
第5回	〃 5. 集団討議	課題を受けてまとめていくことの理解
第6回	教員採用試験実技について	実技試験の目的と留意点を調べて提出
第7回	実技試験対策1 画材	画材の違いによる表現できる工夫の調査
第8回	〃 2 主題	主題の具現化を図る上での工夫を調べる
第9回	〃 3 時間配分	完成に至る望ましい時間配分のあり方
第10回	小論文対策1 今日的課題に正対する教師の役割の自覚	教員採用試験論文の書き方の留意点調査
第11回	〃 2 専門職としての意識の育成と発展	教員志望者に求められるものの理解
第12回	学習指導案作成演習1	学習指導案の目的と作成の留意点調べ
第13回	〃 2	授業のイメージづくりと各種指導案調べ
第14回	総合演習1 近年の動向を踏まえた課題	基本的問題の確実な把握と新傾向の対策
第15回	〃 2 まとめのレポート	採用試験対策講座關係プリント読み返し

■ 履修上の注意

受講の際は配布するプリントを持参すること。必要な用具等準備して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点30％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）
- ・ レポート70％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
- ・ 提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説書 美術編〕〔日本文教出版〕〔127円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・ 質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

版画 I

(12190)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

版画表現の基礎を学ぶ。版画の主要4版種のうち3版種（孔版/凸版/凹版）に触れ、各々の特徴を掴む。制作ノートを作成し、各版種の制作工程を振り返れるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・版画の基礎的な技法と工程を理解し身につける
- ・各版種の特徴を活かした版画表現ができる
- ・皆と意見交換しながら協働して作品を制作できる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス	版画の主要4版種（凹版/凸版/孔版/平板）について調べておく（事前）
	授業内容および版画の主要4版種について説明する	
第2回	制作1) 孔版表現：アイデアスケッチ	作品のアイデアを練っておく（事前）
第3回	制作1) 孔版表現：下書き作成／版材への転写	アイデアスケッチのコンセプトを制作ノートに記入しておく（事前）
第4回	制作1) 孔版表現：版制作／刷り	完成した作品を制作ノートに貼り付けた上で、制作を通して感じた孔版の特徴を記入する（事後）
第5回	制作2) 孔版表現：作品鑑賞／合評会	合評会での自分の作品に対する批評を制作ノートに記録しておく（事後）
第6回	制作2) 凸版表現：アイデアスケッチ	作品のアイデアを練っておく（事前）
第7回	制作2) 凸版表現：下書き作成／版材への転写	アイデアスケッチのコンセプトを制作ノートに記入しておく（事前） 転写の際に使用したトレーシングペーパーを制作ノートに貼り付けておく（事後）
第8回	制作2) 凸版表現：版制作／試し刷り	試し刷りの結果を受けて修正が必要だと感じた点を制作ノートに記録しておく（事後）
第9回	制作2) 凸版表現：版修正／本刷り	完成した作品を制作ノートに貼り付けた上で、どのように版を修正して本刷りに臨んだか記録しておく。また、制作を通して感じた凸版の特徴を記入する（事後）
第10回	制作2) 凸版表現：作品鑑賞／合評会	合評会での自分の作品に対する批評を制作ノートに記録しておく（事後）
第11回	制作3) 凹版表現：版制作／アイデアスケッチ	作品のアイデアを練っておく（事前）
第12回	制作3) 凹版表現：下書き作成／版材への転写	アイデアスケッチのコンセプトを制作ノートに記入しておく（事前） 転写の際に使用したトレーシングペーパーを制作ノートに貼り付けておく（事後）
第13回	制作3) 凹版表現：版制作／試し刷り	試し刷りの結果を受けて修正が必要だと感じた点を制作ノートに記録しておく（事後）
第14回	制作3) 凹版表現：版修正／本刷り	完成した作品を制作ノートに貼り付けた上で、どのように版を修正して本刷りに臨んだか記録しておく。また、制作を通して感じた凹版の特徴を記入する（事後）
第15回	制作3) 凹版表現：作品鑑賞／合評会	合評会での自分の作品に対する批評を制作ノートに記録しておく（事後）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する
- ・材料費を学生から実費徴収する

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%

- ・課題50%
- ・課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・そのつど資料を配布する

■ 参考書

- ・適宜指示する

■ 備考

- ・質問等は授業時に受け付ける
- ・授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

版画Ⅱ

(12191)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

木版画の多版多色刷りや、腐食を利用した銅版画の技法の体験を通して、版画Ⅰで学んだ凸版および凹版の可能性を探る。制作ノートを作成し、各版種の制作工程を振り返れるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・版画の基礎的な技法と工程を理解し身につける
- ・各技法の特徴を活かした版画表現ができる
- ・皆と意見交換しながら協働して作品を制作できる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	木版画の多版多色刷りや、銅版画のエッチング技法について調べておく（事前）
第2回 制作1）木版画 多版多色刷：アイデアスケッチ	作品のアイデアを練っておく（事前）
第3回 制作1）木版画 多版多色刷：下書き作成	アイデアスケッチのコンセプトを制作ノートに記入しておく（事前）
第4回 制作1）木版画 多版多色刷：版材への転写／版制作	転写の際に使用したトレーシングペーパーを制作ノートに貼り付けておく（事後）
第5回 制作1）木版画 多版多色刷：版制作	版制作の作業内容を制作ノートに記入しておく（事後）
第6回 制作1）木版画 多版多色刷：版制作／試し刷り	試し刷りの結果を受けて修正が必要だと感じた点を制作ノートに記録しておく（事後）
第7回 制作1）木版画 多版多色刷：版修正／本刷り	完成した作品を制作ノートに貼り付けた上で、制作を通して感じた木版画の多版多色刷りの特徴を記入する（事後）
第8回 制作1）木版画 多版多色刷：合評会	合評会での自分の作品に対する批評を制作ノートに記録しておく（事後）
第9回 制作2）銅版画 エッチング：防触処理／アイデアスケッチ	アイデアスケッチのコンセプトを制作ノートに記入しておく（事前）
第10回 制作2）銅版画 エッチング：下書き作成／版材への転写	転写の際に使用したトレーシングペーパーを制作ノートに貼り付けておく（事後）
第11回 制作2）銅版画 エッチング：版制作	版制作の作業内容を制作ノートに記入しておく（事後）
第12回 制作2）銅版画 エッチング：腐食処理／試し刷り	試し刷りの結果を受けて修正が必要だと感じた点を制作ノートに記録しておく（事後）
第13回 制作2）銅版画 エッチング：防触処理／版修正	版修正の作業内容を制作ノートに記入しておく（事後）
第14回 制作2）銅版画 エッチング：腐食処理／本刷り	完成した作品を制作ノートに貼り付けた上で、制作を通して感じたエッチングの特徴を記入する（事後）
第15回 制作2）銅版画 エッチング：合評会	合評会での自分の作品に対する批評を制作ノートに記録しておく（事後）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する
- ・材料費を学生から実費徴収する

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50％
- ・課題50％
- ・課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ その都度資料を配布する

■ 参考書

- ・ 適宜指示する

■ 備考

- ・ 質問等は授業時に受け付ける
- ・ 授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

壁画Ⅰ

(12192)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

森 敏 美

■ 授業の概要

絵画のルーツ（美術・工芸・デザインの源）としての壁画を見直し、様々な壁画の技法を学ばせる。ここでは建築アートとしての壁画のうち、モザイク・フレスコ・ステンドグラスの技法のいずれかを選択しその技法を身につけることが出来る。それらの技法も様々あるが、実際の建築物或いは造形物に取り付けることを想定し、その取り付け場所の環境、状況を把握する論理的思考力、創造的実践力と表現力を身につけ、美術を通して地域社会に貢献できる（生活と美の融合を実践し得る数少ない美術のジャンルの一つ）ものとして壁画を学ばせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・絵画で学んだ各技法のルーツを知り表現力を高められる。
- ・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。
- ・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。
- ・フレスコ・モザイク・ステンドグラスのいずれかを学ぶことで、人類最古の美術表現の一つを修得できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：個々で行う技法を選択し申告する	メモを取る
第2回	制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回	実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回	本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回	材料準備	材料を精査する
第6回	作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回	作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回	作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回	作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回	作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回	作業6 各部位の確認	丁寧に見直す
第12回	作業7 詳細の作りこみに入る	必要があれば時間外も制作する
第13回	作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回	作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回	作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）

課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房内の壁画関連の図書

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）

壁画Ⅱ

(12193)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
森 敏 美

■ 授業の概要

建築アートとしての壁画(モザイク・ステンドグラス・フレスコ)の技法を活かし、実際の建築物或いは造形物に設置することを想定し、その設置する場所の環境、状況を把握する論理的思考力と創造力の育成、表現力を身につけ、制作させる。場合によっては設置場所をリサーチし様々な問題点を見出し柔軟に対応することで、解決する事ができるコミュニケーション能力を身につけさせる。また、壁画技法を応用した表現作品も検討させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ 壁画Ⅰで学んだ各技法の応用力を高められる。
- ・ 空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。
- ・ 地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：個々で行う技法、趣旨を選択し申告する	メモを取る事
第2回	制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回	実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回	本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回	材料準備	材料を精査する
第6回	作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回	作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回	作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回	作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回	作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回	作業6 各部位の確認	丁寧に直す
第12回	作業7 詳細の作りこみに入る	必要があれば時間外も制作する
第13回	作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回	作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回	作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

時間に遅れないこと。授業で補えないときは空き時間を利用し制作を行う。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）
課題に関しては、講評会を通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布(壁画制作の手引き)

■ 参考書

壁画工房、図書館にあるステンド・モザイク・フレスコの関連書を確認する。

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）

人形Ⅰ

(12194)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

山内 実

■ 授業の概要

創作人形作家として会得した技術などをもとに身近な人形、玩具などの存在について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージを膨らませて実寸代でデッサンをさせ、設計図を作り、オリジナルのキャラクターを考えながら制作させる。関節は首、肩、股間のみとし、サイズは頭部6.5cmの4頭身のデフォルメのキャラクターの人形を制作させる。原則として人形Ⅰではドールアイを使用せず描き目にし、その表現について研究させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。
- ・球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。
- ・オリジナルな人形を完成させることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回	粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回	ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回	手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ（手、胴、腕）
第7回	足、脚の造形。	やすりがけ（足、脚）
第8回	乾燥させ、すべてを磨く。	やすりがけ（全体）
第9回	関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やすりがけ（頭部）
第10回	球を磨き、各関節に固定する。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回	球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、肩、脚に固定する。	全体のバランス確認。
第12回	仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする。
第13回	塗装する。肌の着色。	メイクのイメージ、資料集め
第14回	メイク。髪のみを作る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第15回	髪を貼る。組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講評会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕
〔人形メディア学講義〕〔菊地浩平〕〔河出書房新社〕〔2, 500円〕

■ 備考

ループリックと評価については第一回目の授業で説明します。
質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

人形Ⅱ

(12195)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

山 内 一 実

■ 授業の概要

創作人形作家として会得した技術などをもとに人形の表現について考えさせ、球体関節人形の仕組みを学び、オリジナルの球体関節人形を制作できるよう指導する。作品は人体の形をモデルとし、イメージをふくらませて実寸大でデッサンをさせ、設計図を作り、人形を通して自己の潜在意識を表現できるようにする。人形Ⅱでは頭部8cmほどの5頭身の人形を制作し、関節は首、肩、股間、手首、足首とする。個々の進行状況により腕、脚のカットやドールアイの使用を習得させ、人形の表現について研究させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・人形の造形について研究しながら学ぶことが出来る。
- ・球体関節人形を制作するための技法を理解することが出来る。
- ・オリジナルな人形を完成させる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の説明 方眼紙に実寸大の下図をかく。	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	下図を元に型紙をつくり、心材にあててカッター等で削り形をつくる。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	芯を削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回	粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第5回	ステンレス製の針金で手の芯をつくる。顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第6回	手の芯に粘土を巻き、手の造形をする。胴、腕の造形。	やすりがけ（手、胴、腕）
第7回	足、脚の造形。	足、脚の造形。やすりがけ（足、脚）
第8回	乾燥させ、すべてを磨く。	やすりがけ（全体）
第9回	関節の球を作る。芯材を抜く。頭部に耳を造形する。	やすりがけ（頭部）
第10回	球を磨き、各関節に固定する。（頭を開き、瞳を入れる）	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第11回	球に対する受けを作る。各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	全体のバランス確認。
第12回	仮組をし、やすりをかけ、調整する。	細かなキズなどをチェックする。
第13回	塗装する。肌の着色。	メイクのイメージ、資料集め。
第14回	メイク。髪のみのを作る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め。
第15回	髪を貼る。組み立て完成させる。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）講習会でフィードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕
〔人形メディア学講義〕〔菊地浩平〕〔河出書房新社〕〔2, 500円〕

■ 備考

ループリックと評価については第一回目の授業で説明します。
質問等については授業終了時にオフィスアワーで受け付けます。

ガラスアートⅠ

(12196)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）

対象学科：美表3年

授業形態：実技 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

山口 綾 子

■ 授業の概要

ガラス造形技法のひとつである、“バーナーワーク”の中からトンボ玉制作の授業を行う。「軟質ガラス」の佐竹ガラスと「エアバーナー」を用い、器具や素材を十分に理解させ、熱く溶けたガラスや炎の扱い方について、安全に配慮した製作ができるように指導する。また、制作の入門編として初歩的な文様を中心に、基礎技法を身につけさせ、作品の完成を図る。ガラス制作に携わってきた経験を基に、ガラス素材の魅力を感じてもらえる授業実践を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・安全なバーナーの取り扱いができるようになる。
- ・ガラスと炎の特性を知ることができる。
- ・基礎を理解し反復練習により技術を身につけられるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業概要／諸注意説明）	配布プリントを熟読すること
第2回	ガラスを溶かす・巻取る	第2回の技法の考察と制作手順のまとめ
第3回	細引き棒をつくる／マーブル玉	第3回の技法の考察と制作手順のまとめ
第4回	基本技法1（初期技法） 線の文様① 縦縞文様	第4回の技法の考察と制作手順のまとめ
第5回	基本技法1（初期技法） 線の文様② 横縞文様	第5回の技法の考察と制作手順のまとめ
第6回	基本技法1（初期技法） 線の文様③ 線流し文様	第6回の技法の考察と制作手順のまとめ
第7回	基本技法2（初期技法） 点の文様① 水玉文様	第7回の技法の考察と制作手順のまとめ
第8回	基本技法2（初期技法） 点の文様② 同心円文様	第8回の技法の考察と制作手順のまとめ
第9回	基本技法2（初期技法） 点の文様③ 花文様	第9回の技法の考察と制作手順のまとめ
第10回	基本技法3（中級技法） ひっかき文様① ジグザグ	第10回の技法の考察と制作手順のまとめ
第11回	基本技法3（中級技法） ひっかき文様② リーフ／ハート	第11回の技法の考察と制作手順のまとめ
第12回	基本技法4（中級技法） スキ掛け技法① 水中水玉	第12回の技法の考察と制作手順のまとめ
第13回	基本技法4（中級技法） スキ掛け技法② 水中花	第13回の技法の考察と制作手順のまとめ
第14回	自由制作 基本技法1～4の中から制作	第14回の技法の考察と制作手順のまとめ
第15回	講評会（作品提出）	授業内容のまとめ

■ 履修上の注意

- ・直接炎を扱い、素材のガラスや道具が熱くなります。
- ・火傷の危険があるので、安全のため、服装や髪形（結ぶ）など講師の指示に従うこと。
- ・事前にGoogle classroomに登録して下さい。開講前にクラスコードと登録期限を連絡します。

※定員12名程度。人数超過の場合、調整のため授業曜日の移動があります。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組／理解度（50％） どのくらいの時間をかけ、制作に向合ったか取組み姿勢を評価します。
- ・作品提出／課題達成／作品完成度（50％） 講評会提出作品の出来具合で判断します。
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

無し

■ 参考書

〔トンボ玉の技法〕 〔スタジオ タック クリエイティブ〕 〔中央精版印刷株式会社〕 〔3,000円＋税〕

■ 備考

- ・受講費を徴収します。ガラス棒、カセットガスボンベなどは自己負担になります。
- ・ガラス棒の購入方法はガイダンスで案内します。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

グラスアートⅡ

(12197)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（60＋30）
対象学科：美表3年
授業形態：実技 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目
山口綾子

■ 授業の概要

ガラス工芸の中でも溶けたガラスを扱う“バーナーワーク”という分野から“トンボ玉”制作を指導する。基本技法の中でも上位の技術を必要とするレースやパーツ（ムリーニ）の制作をとおり、より密度の高い表現を意識させる。また、初級・中級の基本技法も組み入れ、トンボ玉の模様の多様性に関する再認識を促し、デザインの幅が広がるよう指導する。ひとつの作品完成にあたり、制作時間が長くなるため、集中力と計画性のレベルアップを図る。ガラス制作に携わってきた経験から、ガラス素材の魅力を感じてもらえる授業実践を志向する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・ガラスと炎の関係性を身に付け、ガラスの溶解をコントロールできる。
- ・基礎を理解し反復練習により技術を身につけられるようになる。
- ・模様の多様性を理解し表現できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	基本技法の復習① ヨーヨー玉（細引き応用）	第1回の技法の考察と制作手順のまとめ
第2回	基本技法の復習② 糸巻玉（細引き応用＋スキ掛け）	第2回の技法の考察と制作手順のまとめ
第3回	基本技法5（上級技法）レース① クロスのレース玉をつくる	第3回の技法の考察と制作手順のまとめ
第4回	基本技法5（上級技法）レース② リボンのレース棒を引く	第4回の技法の考察と制作手順のまとめ
第5回	基本技法5（上級技法）レース③ リボンのレース玉をつくる	第5回の技法の考察と制作手順のまとめ
第6回	基本技法6（上級技法）パーツ① 渦巻文様玉（レース棒を利用）	第6回の技法の考察と制作手順のまとめ
第7回	基本技法6（上級技法）パーツ② 小菊文様をつくる	第7回の技法の考察と制作手順のまとめ
第8回	基本技法6（上級技法）パーツ③ アサガオのパーツをつくる	第8回の技法の考察と制作手順のまとめ
第9回	基本技法6（上級技法）パーツ④ アサガオ玉をつくる	第9回の技法の考察と制作手順のまとめ
第10回	複合技法 立体的なトンボ玉をつくる	第10回の技法の考察と制作手順のまとめ
第11回	異素材を使う 泡玉をつくる	第11回の技法の考察と制作手順のまとめ
第12回	自由制作 ①デザイン決定	第12回の技法の考察と制作手順のまとめ
第13回	自由制作 ②試作・練習（テストピース作成）	第13回の技法の考察と制作手順のまとめ
第14回	自由制作 ③完成	第14回の技法の考察と制作手順のまとめ
第15回	自由制作 ④仕上げ／講評	授業内容のまとめ

■ 履修上の注意

- ・受講対象：グラスアートⅠの単位取得者。未経験者の受講不可。
- ・授業開講前にGoogle classroomへ事前登録すること。
- ・安全のため、服装や髪型（結ぶ）など講師の指示に従うこと。
- ・ガラス棒の保管に留意すること（混ぜない／種類を把握すること）。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題達成（30％） あらかじめ課題に取り組むためのデザイン計画書などを提出し、取り組んだ達成度を見ます。
- ・作品の完成度（30％） 講評会提出作品の出来具合で判断します。
- ・制作への取組（40％） どのくらいの時間をかけ、真摯に制作に向合ったか取組み姿勢を評価します。
- ・作品は、講評会でフィードバックし、当日返却します。

■ 教科書

無し

■ 参考書

〔トンボ玉の技法〕〔スタジオ タック クリエイティブ〕〔中央精版印刷株式会社〕〔3,000円＋税〕

■ 備考

- ・受講費を徴収します。その他に、ガラス棒、カセットガスボンベなどは自己負担になります。
- ・ガラス棒の購入方法はガイダンスで案内します。
- ・受講人数などの事情により、授業計画等を変更することがあります。

- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付けます。

地域創生演習Ⅰ

(12198)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：美表1年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
伊 勢 周 平

■ 授業の概要

普段の生活や大学での学びを基に、自らが暮らす地域を主体的に創っていくために必要な能力や知識を身に付けることを目的とする。地域創生演習Ⅰでは、「場とオブジェクト」をテーマに、地域社会（場所）と仮想された制作物（オブジェクト）の関係をどのようなアプローチで鑑賞者に発信、還元できるのかを検討しながら、今後の制作活動のビジョンが持てるように指導する。自らが立てた課題に対して主体的に取材や調査研究をすることで課題に対する理解が深められるように、多くの表現活動の事例を紹介しながら指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「地域創生」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようになる。
- ・表現のアウトプットについて学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	テーマについての調査（事後）
第2回 テーマ「場とオブジェクト」の共有	テーマについての調査（事後）
第3回 「場とオブジェクト」の事例紹介	事例についてのまとめ（事後）
第4回 ディスカッション①：「地域と表現活動」の課題	テーマに関する仮説を検討する（事後）
第5回 ディスカッション②：「地域と表現活動」の展開	テーマに関する仮説を検討する（事後）
第6回 テーマを調べる①（ヒアリング内容検討）	ヒアリング内容を検討する（事後）
第7回 テーマを調べる②（関係者へのヒアリング）	ヒアリング内容をまとめる（事後）
第8回 調べたことをまとめる	ヒアリング内容から考察する（事後）
第9回 解決策のアイデアをつくる①（アイデアを検討）	追加調査：アイディアについて（事後）
第10回 解決策のアイデアをつくる②（中間発表）	追加調査：中間発表を受けて（事後）
第11回 解決策のアイデアをつくる③（アイデアの強化）	追加調査：オブジェクトについて（事後）
第12回 展示案と発表の準備①（理想とする場のリサーチと考察）	追加調査：場について（事後） 発表資料準備（事後）
第13回 展示案と発表の準備②（オブジェクト案の調整）	発表資料準備（事前・事後）
第14回 展示案と発表の準備③（プレゼンテーションの準備）	発表資料準備（事前・事後）
第15回 プレゼンテーション：資料展示と発表	授業のまとめ

■ 履修上の注意

毎回授業の導入があるので遅刻しないよう注意。積極的に課題に取り組むよう心がける。
授業の進捗により内容が変更される場合がある。

■ 成績評価方法・基準

プレゼンテーションへ向けた取り組みと内容50%、グループワークへの貢献と発表50%。
調査内容や資料に対してその都度、フィードバックを行う。

■ 教科書

毎時間の導入時に資料を配布する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

必修。
質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日、日時は掲示で確認）に受け付ける。

地域創生演習Ⅱ

(12199)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：美表1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

講師自身が参画しているまちづくりを例として取り上げながら、学生自身の生活や大学での学びを基に、自らが暮らす地域に主体的に関わっていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。

「地域創生演習Ⅱ」では、学生が生活する地域ならではの自然素材や環境、文化といった地域資源を探る。その上で、学生が生活者として自身の暮らしをよりよくすることにつながるような、地域資源を活かした表現について学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・「地域創生」の意義について理解し、第三者にも分かるように説明できるようになる。
- ・グループで目標に向かって協働する手法を学び、自身の役割を責任をもって実践できるようになる。
- ・自分が感じたことや考えたことを表現する方法について学び、実践するビジョンを持つ。

■ 授業計画

第1回 ガイダンス		自習（事前・事後学修の内容）
第2回 地域資源を活かした「衣」① 衣服のデザインに活かせる地域資源を探す		授業中に示された資料やその中で紹介されている関連資料に目を通しておく（事後）
第3回 地域資源を活かした「衣」② 地域資源をモチーフとした衣服のデザイン案を考える		衣服のデザインに活かせるような地域資源を探しながら生活圏内を歩く（事前）
第4回 地域資源を活かした「衣」③ ②で考えた衣服のデザイン案の講評会		地域資源をモチーフとした衣服のデザインの先行事例を調べておく（事前）
第5回 地域資源を活かした「食」① 食器のデザインに活かせる地域資源を探す		②で考えたデザイン案について説明できるようにしておく（事前）
第6回 地域資源を活かした「食」② 地域資源をモチーフとした食器のデザイン案を考える		食器のデザインに活かせるような地域資源を探しながら生活圏内を歩く（事前）
第7回 地域資源を活かした「食」③ ②で考えた食器のデザイン案の講評会		地域資源をモチーフとした食器のデザインの先行事例を調べておく（事前）
第8回 地域資源を活かした「住」① 家具のデザインに活かせる地域資源を探す		②で考えたデザイン案について説明できるようにしておく（事前）
第9回 地域資源を活かした「住」② 地域資源をモチーフとした家具のデザイン案を考える		家具のデザインに活かせるような地域資源を探しながら生活圏内を歩く（事前）
第10回 地域資源を活かした「住」③ ②で考えた家具のデザイン案の講評会		地域資源をモチーフとした家具のデザインの先行事例を調べておく（事前）
第11回 地域資源を活かした学校① 大学生活をよりよくすることができるよう新しい共用施設のアイデアをグループで考える		②で考えたデザイン案について説明できるようにしておく（事前）
第12回 地域資源を活かした学校② ②で考えた共用施設のデザインに活かせる地域資源をグループで探す		大学生活をよりよくすることができるよう新しい共用施設のアイデアを考えておく（事前）
第13回 地域資源を活かした学校③ 地域資源をモチーフとした共用施設のデザイン案をグループで考える		共用施設のデザインに活かせるような地域資源を探しながら生活圏内を歩く（事前）
第14回 地域資源を活かした学校④ ③で考えた共用施設のデザイン案の講評会		地域資源をモチーフとした建築物の先行事例を調べておく（事前）
第15回 まとめ		③で考えたデザイン案について説明できるようにしておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%、課題50%。課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・そのつど資料を配布する

■ 参考書

- ・適宜指示する

■ 備考

- ・必修
- ・質問等は授業時に受け付ける
- ・授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

地域創生演習Ⅲ

(12200)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

どんな土地にも地域資源は存在する。それは土地でとれる自然素材や環境、文化など多岐にわたる。そして美術は、地域資源を生かして新たな土地の魅力をつくり出し、賑わいの創出につなげる力を持っている。この演習では、大学の敷地内や講師自身がまちづくりに参画している仙台市内の地域を例として取り上げながら、地域資源の多様性について教える。また、地域資源を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・地域資源を見つけることのできる力が身につく
- ・地域資源を生かして美術作品をつくる力が身につく

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 ガイダンス	授業中に示された資料やその中で紹介されている関連資料に目を通しておく（事後）
第2回 地域資源の「色」を生かした美術表現① （地域資源をさがす）	地域資源の「色」に着目して学内を下見しておく（事前）
第3回 地域資源の「色」を生かした美術表現② （作品をつくる）	授業中に配付される資料で紹介されている、体験した美術表現に関する先行事例について、インターネットや文献を用いて調べておく（事後）
第4回 地域資源の「色」を生かした美術表現③ （講評会）	②でつくった作品について説明できるようにしておく（事前）
第5回 地域資源の「形」を生かした美術表現① （地域資源をさがす）	地域資源の「形」に着目して学内を下見しておく（事前）
第6回 地域資源の「形」を生かした美術表現② （作品をつくる）	授業中に配付される資料で紹介されている、体験した美術表現に関する先行事例について、インターネットや文献を用いて調べておく（事後）
第7回 地域資源の「形」を生かした美術表現③ （講評会）	②でつくった作品について説明できるようにしておく（事前）
第8回 地域資源を生かしたパブリックアート① （地域資源をさがす）	パブリックアートについて授業中に配付される資料を参考にしながらインターネットや文献を用いて調べておく（事前）
第9回 地域資源を生かしたパブリックアート② （展示場所の検討・アイデアスケッチ）	①で見つけた地域資源をモチーフとした作品のアイデアを考えておく（事前）
第10回 地域資源を生かしたパブリックアート③ （講評会）	②で考えた作品のアイデアについて説明できるようにしておく（事前）
第11回 フィールドワーク① （講師がまちづくりに参画している地域を歩く）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク② （①で歩いた地域で魅力的な地域資源をさがす）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③ （②で見つけた地域資源を生かした美術作品をつくる）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④ （講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅴと合同で実施する。
- ・フィールドワークで講師がまちづくりに参画している地域に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%
- ・課題50%

- ・課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・そのつど資料を配布する

■ 参考書

- ・適宜指示する

■ 備考

- ・質問等は授業時に受け付ける
- ・授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

地域創生演習Ⅳ

(12201)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：美表2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

「地域創生演習Ⅲ」で学んだ土地の魅力をつくり出す美術を実現するためには、そこで用いる地域資源の特徴をつかむ必要がある。この演習では、五感を駆使して地域資源の特徴を深くつかむ方法を教える。また、このような地域資源の特徴を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を、実践を交えながら教える。さらに講師自身がまちづくりに参画している仙台市内の地域におもむいて、地域の賑わいの創出に取り組む個人・団体の活動に資するような美術の実践も体験し、学びを深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術で土地の魅力を生かす上で必要な力が身につく
- ・美術で地域の賑わいを創出する上で必要な力が身につく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	授業中に配付される資料やその中で紹介されている関連資料・文献に目を通しておく（事後）
第2回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる①（視覚）	学内を下見し地域資源の視覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第3回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる②（触覚）	学内を下見し地域資源の触覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第4回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる③（聴覚）	学内を下見し地域資源の聴覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第5回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる④（①～③でつくった作品の講評会）	授業中に鑑賞した作品の素材として用いられた地域資源を学内を歩いて確認する（事後）
第6回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる⑤（作品鑑賞）	鑑賞した作品について授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて知見を深める（事後）
第7回 ランド・アートで土地の魅力を引き出す①（季節を生かす）	季節を生かしたランド・アートの作品の先行事例を授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて調べておく（事後）
第8回 ランド・アートで土地の魅力をつくり出す②（①でつくった作品の講評会）	授業中に鑑賞した作品の素材として用いられた地域資源を学内を歩いて確認する（事後）
第9回 ランド・アートで土地の魅力をつくり出す③（作品鑑賞）	鑑賞した作品について授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて知見を深める（事後）
第10回 屋内の地域資源を生かした作品をつくる	屋内の地域資源を生かした作品の先行事例を授業中で示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて調べておく（事後）
第11回 フィールドワーク①（講師が参画している地域のまちづくりについて学ぶ）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク②（①で学んだ地域のまちづくりに資する美術表現の先行事例を鑑賞する）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③（①で学んだ地域のまちづくりに資する美術表現のアイデアを考える）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④（講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅵと合同で実施する。
- ・フィールドワークでは、講師がまちづくりに参画している地域を訪問する。その際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%
- ・課題50%
- ・課題は授業中にフィードバックを行う

■ 教科書

- ・そのつど資料を配布する。

■ 参考書

- ・適宜指示する

■ 備考

- ・質問等は授業時に受け付ける
- ・授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

地域創生演習Ⅴ

(12202)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

どんな土地にも地域資源は存在する。それは土地でとれる自然素材や環境、文化など多岐にわたる。そして美術は、地域資源を生かして新たな土地の魅力をつくり出し、賑わいの創出につなげる力を持っている。この演習では、大学の敷地内や講師自身がまちづくりに参画している仙台市内の地域を例として取り上げながら、地域資源の多様性について教える。また、地域資源を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・地域資源を見つけることのできる力が身につく
- ・地域資源を生かして美術作品をつくる力が身につく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	授業中に配付される資料やその中で紹介されている関連資料・文献に目を通しておく（事後）
第2回 地域資源の「色」を生かした美術表現① （地域資源をさがす）	地域資源の「色」に着目して学内を下見しておく（事前）
第3回 地域資源の「色」を生かした美術表現② （美術作品をつくる）	授業中に配付される資料で紹介されている、体験した美術表現に関する先行事例について、インターネットや文献を用いて調べておく（事後）
第4回 地域資源の「色」を生かした美術表現③ （講評会）	②でつくった作品について説明できるようにしておく（事前）
第5回 地域資源の「形」を生かした美術表現① （地域資源をさがす）	地域資源の「形」に着目して学内を下見しておく（事前）
第6回 地域資源の「形」を生かした美術表現② （作品をつくる）	授業中に配付される資料で紹介されている、体験した美術表現に関する先行事例について、インターネットや文献を用いて調べておく（事後）
第7回 地域資源の「形」を生かした美術表現③ （講評会）	②でつくった作品について説明できるようにしておく（事前）
第8回 地域資源を生かしたパブリックアート① （地域資源をさがす）	パブリックアートについて授業中に配付される資料を参考にしながらインターネットや文献を用いて調べておく（事前）
第9回 地域資源を生かしたパブリックアート② （展示場所の検討・アイデアスケッチ）	①で見つけた地域資源をモチーフとした作品のアイデアを考えておく（事前）
第10回 地域資源を生かしたパブリックアート③ （講評会）	②で考えた作品のアイデアについて説明できるようにしておく（事前）
第11回 フィールドワーク① （講師がまちづくりに参画している地域を歩く）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク② （①で歩いた地域で魅力的な地域資源をさがす）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③ （②で見つけた地域資源を生かした美術作品をつくる）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④ （講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅲと合同で実施する。
- ・フィールドワークで講師がまちづくりに参画している地域に行く際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

- ・出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など）50%
- ・課題50%

- ・課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・そのつど資料を配布する

■ 参考書

- ・適宜指示する

■ 備考

- ・質問等は授業時に受け付ける
- ・授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

地域創生演習Ⅵ

(12203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

美術学部 美術表現学科専門科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

「地域創生演習Ⅴ」で学んだ土地の魅力をつくり出す美術を実現するためには、そこで用いる地域資源の特徴をつかむ必要がある。この演習では、五感を駆使して地域資源の特徴を深くつかむ方法を教える。また、このような地域資源の特徴を生かして土地の魅力をつくり出す美術の手法を、実践を交えながら教える。さらに講師自身がまちづくりに参画している仙台市内の地域におもむいて、地域の賑わいの創出に取り組む個人・団体の活動に資するような美術の実践も体験し、学びを深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・美術で土地の魅力を生かす上で必要な力が身につく
- ・美術で地域の賑わいを創出する上で必要な力が身につく

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	授業中に配付される資料やその中で紹介されている関連資料・文献に目を通しておく（事後）
第2回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる①（視覚）	学内を下見し地域資源の視覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第3回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる②（触覚）	学内を下見し地域資源の触覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第4回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる③（聴覚）	学内を下見し地域資源の聴覚的な特徴をつかんでおく（事前）
第5回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる④（①～③でつくった作品の講評会）	授業中に鑑賞した作品の素材として用いられた地域資源を学内を歩いて確認する（事後）
第6回 五感で地域資源を生かした美術作品をつくる⑤（作品鑑賞）	鑑賞した作品について授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて知見を深める（事後）
第7回 ランド・アートで土地の魅力を引き出す①（季節を生かす）	季節を生かしたランド・アートの作品の先行事例を授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて調べておく（事後）
第8回 ランド・アートで土地の魅力をつくり出す②（①でつくった作品の講評会）	授業中に鑑賞した作品の素材として用いられた地域資源を学内を歩いて確認する（事後）
第9回 ランド・アートで土地の魅力をつくり出す③（作品鑑賞）	鑑賞した作品について授業中に示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて知見を深める（事後）
第10回 屋内の地域資源を生かした作品をつくる	屋内の地域資源を生かした作品の先行事例を授業中で示された資料を参考にしながらインターネット・文献を用いて調べておく（事後）
第11回 フィールドワーク①（講師が参画している地域のまちづくりについて学ぶ）	ワークシートの作成（事後）
第12回 フィールドワーク②（①で学んだ地域のまちづくりに資する美術表現の先行事例を鑑賞する）	ワークシートの作成（事後）
第13回 フィールドワーク③（①で学んだ地域のまちづくりに資する美術表現のアイデアを考える）	ワークシートの作成（事後）
第14回 フィールドワーク④（講評会）	ワークシートの作成（事後）
第15回 まとめ	学んだことを整理しておく（事前）

■ 履修上の注意

- ・準備物はそのつど指示する。
- ・この授業は地域創生演習Ⅳと合同で実施する。
- ・フィールドワークでは、講師がまちづくりに参画している地域を訪問する。その際は交通費を学生から実費徴収する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 50%
- ・ 課題50%
- ・ 課題は授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ そのつど資料を配布する。

■ 参考書

- ・ 適宜指示する

■ 備考

- ・ 質問等は授業時に受け付ける
- ・ 授業の進行状況等によって授業計画の修正が生じる場合ある

卒業研究 I

(12204)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用することで、卒業研究に向けて自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成として作品を完成させることを目的とし、作品の大きさ、材料の質、取り組み時間等を考慮して制作の準備や試作を行う。展示発表という外部に向けた発信を意識した卒業研究の指導を行う。そのための一連の流れ、情報収集、日程や計画の設定、材料の購入、加工、展示方法等を確認しながら、制作について個別に指導を行う。また実際の展覧会会場（卒業制作展）での作品設置、展示を想定して進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる
- ・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	材料の購入をする
第2回	4～6. テーマ設定（調査方法、情報収集）検討 作業	作品制作（準備）
第3回	7～9. 完成予想（図やマケット）制作 材料準備	作品制作（材料、道具の検討）
第4回	10～12. 完成予想 制作 基本構造 中間構造 細部・表面	作品制作（全体と部分の確認）
第5回	13～15. 完成予想 制作 仕上げ 設置方法 サイズ確認 発表	発表の手順等、準備をする
第6回	16～18. 完成予想から実際の作業、制作 テーマ設定 調査	発表後の手直しをする
第7回	19～21. テーマ設定 情報収集	作品制作（全体制作）
第8回	22～24. テーマ発表 制作	材料の購入をする
第9回	25～27. 制作 進行・日程（発表） 制作ノート確認	作品制作（構造の確認）
第10回	28～30. 制作 技法研究（技法確認）	材料の購入をする
第11回	31～33. 制作 材料準備（材料確認）	作品制作（色彩の確認）
第12回	34～36. 制作 材料準備（色彩計画）	作品制作（全体制作）
第13回	37～39. 制作 基本構造（計画）	作品制作（仕上げ）
第14回	40～42. 発表 手直し	発表の手順等、準備をする
第15回	43～45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究 I 提出	発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究Ⅰ

(12205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業研究Ⅰ（情報デザイン）では、これまでの学びを総括し、研究と作品制作に取り組む。各自が制作計画を立案し、作業プロセスを構築・実践することで自己管理能力を養う。また、現代社会におけるデザインの役割について考え、問題点を発見・分析して解決策を導き出し、それを具体的なデザインに落とし込む力を身につける。中間審査会に向けて、情報を正確にわかりやすく伝えるための表現やプレゼンテーションスキルが向上するよう指導する。大手総合電機メーカーでの実務経験を有する教員が経験を生かして指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・制作計画の立案から完成までを自律的に遂行できる
- ・課題を発見し、創造的な解決策を導き出して、実現可能なデザインを構築することができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	研究に関する調査、制作プロセスのまとめ
第2回	2回 - 5回：研究テーマ設定	研究テーマの調査、制作プロセスのまとめ
第3回	6回 - 10回：研究テーマに関する調査	研究テーマの調査、制作プロセスのまとめ
第4回	11回 - 15回：研究計画の作成	研究テーマの調査、制作プロセスのまとめ
第5回	16回 - 20回：デザインスケッチ制作	デザインの調査、制作プロセスのまとめ
第6回	21回 - 25回：デザイン検討	デザインの調査、制作プロセスのまとめ
第7回	26回 - 30回：モックアップ・デモ制作	デザインの調査、制作プロセスのまとめ
第8回	30回 - 39回：制作	制作技法の調査、制作プロセスのまとめ
第9回	40回 - 42回：プレゼンテーション準備	プレゼン準備、制作プロセスのまとめ
第10回	43回 - 44回：プレゼンテーション、講評、ふりかえり	プレゼン準備、制作プロセスのまとめ
第11回	45回：中間審査会	制作プロセスをデータにまとめる
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

情報デザインⅢ・Ⅳを履修し、修得していること。
制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。
課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究 I

(12206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（アニメーション、映像、平面作品など）を指導する。個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現方法の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、作品制作の意義を、社会や文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。
- ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテ、エスキースなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテやエスキース、具体的なイメージを制作）	継続制作・制作ノート作成。
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成、画面構築について確認）	絵コンテなどで全体のイメージを具体的にする。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性と意図の確認、時間を意識したコンテ制作。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成。
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認、場合により加筆）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画：改良）	編集、場合により映像の書き出し。制作意図の確認。
第14回	40～42. 制作（作画：仕上げ）	編集、場合により映像の書き出し。制作意図の確認。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12207)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（アニメーション、映像など）を指導する。個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現方法の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、アニメーションや映像表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。
- ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテ、具体的なイメージを制作）	継続制作・制作ノート作成。
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成）	絵コンテなどで全体のイメージを具体的にする。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性と意図の確認、時間を意識したコンテ制作。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成。
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画：改良）	編集、場合により映像の書き出し。
第14回	40～42. 制作（作画：仕上げ）	編集、場合により映像の書き出し。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
立 花 布美子

■ 授業の概要

これまでに修得した技法・技術を駆使し、独創性のある完成度の高い作品を制作するため、様々な素材において技法研究を充分に行った上で、作品のテーマ設定をし、綿密な計画性を持って中間提出までの制作に取り組めるよう指導する。研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉めディスカッションを重ねる。また、焼成は各自が責任を持つて行うため、制作ノート（テストピース等の焼成データ、グラフ作成）の指導を行い、プレゼンテーションまでを想定した本制作に入らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。
- ・卒業研究における独創的、創造的思考力を高めることができる。
- ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～2回：ガイダンス、年間計画の打ち合わせ、計画表作成	卒業研究内容の確認
第2回	3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ 5回～9回：資料収集	制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。
第3回	10回～14回：テストピース生地制作、制作ノート確認①計画表のチェック	各自テストピース用粘土を注文
第4回	15回～19回：釉薬原料の調合 釉掛け焼成	釉薬の調合についての復習 釉薬原料の在庫確認
第5回	20回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成、制作ノート確認②計画表の修正	釉薬原料の注文
第6回	21回～24回：釉薬原料の調合 釉掛け 焼成	焼成準備
第7回	25回～26回：釉薬が出来次第、実際の器に釉掛けを行う	テストピースのまとめ
第8回	27回～28回：釉薬原料の微調整、制作ノート確認③原料確認	焼成実験を含め、他学生と協力して行うよう、焼成日程を組む。
第9回	29回～30回：完成した釉薬の調合	ポットミルの使用方法についての理解
第10回	31回～34回：マケット制作	各自マケット制作を進める
第11回	35回：マケット制作 焼成、制作ノート確認④マケットチェック	マケット焼成結果を行う
第12回	36回～39回：マケット制作 焼成	マケット焼成結果後の再調整を行う
第13回	40回：本制作 制作ノート確認⑤焼成結果	本制作の準備・確認
第14回	41回～44回：本制作	本制作を進める
第15回	45回：中間審査打合せ、制作ノート確認⑥最終確認	中間提出の準備、最終確認を行う

■ 履修上の注意

- ・各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 024円〕
〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 344円〕
〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 024円〕
〔釉薬手づくり帖〕〔野田耗一著〕〔誠文堂新光社〕〔1, 641円〕
〔釉薬づくり入門〕〔深海宗佑著〕〔誠文堂新光社〕〔2, 835円〕

■ 備考

- ・ 作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究Ⅰ

(12209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

佐々木 輝 子

■ 授業の概要

各自で設定した染織技法の研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・染織に関する高度な専門知識を身につける。
- ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	2回～3回：年間計画	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回	4回～39回：本制作（計画に基づいた染織作品の制作）	作品に関する収集・制作ノートのまとめ
第4回	40回～41回：仕上げ	展示備品等の準備・制作ノートのまとめ
第5回	42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理	プレゼン準備・制作ノートのまとめ
第6回	45回：作品提出 審査	展示準備・制作ノートの完成

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用（各自準備）。作品に使用する材料は、各自で購入する。染織Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度（20%）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12210)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋60）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
落合里麻

■ 授業の概要

4年間の集大成に相応しい作品を制作する。社会や身の回りの問題解決のためのデザイン、もしくは暮らしを快適にするためのデザインについてリサーチを行い、研究テーマを各自で設定させる。研究テーマを基に作品の外観のデザインとコンセプトを決定し、具体的な計画を立てる。マケットを複数制作し、細部の形状も含めてデザインを検討する。機能性や耐久性についても考慮し、使用する材料や加工方法を決定させる。実寸大で制作図と部材図を描き、形状と構造をより明確にしてから本制作に臨む。授業担当者の実務経験を活かして指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を見つけ出し、解決に繋がるデザインを考案できる
- ・デザインを形にする方法を自ら考え、計画的に進めることができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス、年間計画を立てる	リサーチを始める
第2回	2～3回	リサーチを行い、研究テーマを検討する	リサーチの結果をまとめ、研究テーマを決める
第3回	4～6回	コンセプトと外観のデザインを検討する	コンセプトを複数考える
第4回	7～9回	マケットを制作する	マケットを複数制作する
第5回	10～11回	マケットを元に機能性を検討する	マケットを比較する
第6回	12～14回	外観のデザインと機能性のバランスを検討する	優先順位や関係性を書き出して比較する
第7回	15～17回	材料の特徴を調べ、検討する	材料のサンプルを用意する
第8回	18～21回	テクスチャーの実験を行い、検討する	テクスチャーのサンプルを作る
第9回	22～24回	細部のデザインを検討する	細部のデザインを決定する
第10回	25～28回	制作図を描く	参考書で製図法を確認し、制作図を進める
第11回	29～31回	部材図を描く	部材図を完成させる
第12回	32～33回	制作（材料に墨付け、転写し、部材を作る）	全ての部材に墨付け、転写する
第13回	34～41回	制作（部材を作る）	部材を完成させる
第14回	42～44回	制作（部材を組み立てる）	部材の接合部を調整する
第15回	45回	プレゼンテーション	卒業研究Ⅱに向けて準備をする

■ 履修上の注意

- ・材料・道具類は自分で購入すること。
- ・プロダクトデザインⅠ～Ⅳを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

課題80%、授業態度20%で評価する。
授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

随時紹介する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12211)

単位：6
対象学科：
授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目

■ 授業の概要

日本又は、諸外国の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べる。美術館、図書館を効果的に活用し日本の版画の伝統と文化に対する美術文化の理解を深め思考力、創造的実践力を高めることを目標とする。これまでに版画Ⅰ～Ⅳで獲得した知識、技能、を総合的に活用し、作品のコンセプト、技法、支持体についての試作を重ね制作ノートに記録し、制作の充実が図れる能力を修得する。卒業制作をとおして、社会の一員としての責任を果たす生涯学習力が身につけられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。
- ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する。
- ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス/授業内容の説明	記録するための制作ノートを用意する。
第2回	2～5回 テーマ設定・年間計画表作成 (事前ポートフォリオを参考)	各作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回	6～10回 制作・技法研究試作	技法の試作内容をまとめ次回提出。
第4回	11～15回 制作・支持体研究試作	支持体の試作内容をまとめ次回提出。
第5回	16～23回 制作・原寸大イメージへ展開	イメージの内容をまとめ次回提出。
第6回	24～34回 制作・版表現へ展開・描写	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第7回	35～40回 制作・版表現へ展開・印刷	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第8回	41～44回 制作ノートのまとめ (計画表、コンセプト、大きさ、版種、技法、支持体)	制作ノートのまとめを行ない、プレゼンテーションの準備をする。
第9回	45回 中間審査	

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。
ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

作業内容のまとめは、授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%） 2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

適宜対応します。

■ 参考書

適宜対応します。

■ 備考

版画

質問等については、オフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究 I

(12212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、大学の4年間で彫刻分野として学んできた三次元立体表現の知識や技術などを活かし、集大成として総合的な研究の経過を踏まえ、卒業制作に取り組んでいく。卒業研究I（彫刻）、研究テーマを絞り込み、取り組む彫刻分野における立体作品の素材と加工法について、特性、特徴などを分析、研究していく。イメージの中で、「もの」として自立する物質的な要素を検証する。研究テーマに沿って、段階的に材料、道具の関係、及び段取りを重視し、プロセスをイメージする。制作ノートとファイルの中で制作過程を記録する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの習得した美術的表現の総ての学修を統合し、自身の彫刻表現の意味を、社会における文化的側面との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自立する立体作品として制作を行うことができる。
- ・美術の表現活動を通じて、文化的な日常生活の意識向上の立場を維持することを目的として、感性を磨いていくことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明、課題等のまとめ、評価方法の説明	課題等のまとめについて進めていく
第2回	4～6. 過去彫刻表現の振り返り、テーマ研究のための資料収集、プラン立案等、関係資料等のまとめ	卒業研究テーマ研究、プランについて、資料収集等
第3回	7～9. テーマ研究のための資料収集、資料を整理して制作ノートの作成に着手	テーマ研究料を整理、制作ノートの作成を継続
第4回	10～12. テーマ研究のための資料収集、資料を整理し、制作ノートの作成を進める。講評会として、まとめたノートを発表プレゼンしていく	講評会にて各学生の発表に対して、記録してお互いに批評できるようにしておく
第5回	13～15. エスキース制作、実際の彫刻作品の制作素材を考慮して、エスキース制作の素材を選択	エスキース制作の素材研究、継続制作
第6回	16～18. 素材研究を目的として他の素材にて、エスキース制作	エスキース制作の素材研究、継続制作
第7回	19～21. 素材研究を目的として他の素材にて、エスキース制作	エスキース制作の素材研究、継続制作
第8回	22～24. 素材研究を目的として他の素材にて、エスキース制作、発表	エスキース制作の素材研究、継続制作、お互いの発表について分析、研究
第9回	25～27. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒取りなど）、塑造制作（心棒作りなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第10回	28～30. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒取りなど）、塑造制作（心棒作りなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第11回	31～33. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒取りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第12回	34～36. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第13回	37～39. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第14回	40～42. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第15回	43～45. 講評、卒業制作中間審査	中間審査結果をまとめて、今後の制作へ活かすように制作ノートに今後の課題をまとめる

■ 履修上の注意

カービング彫刻の材料を手配した場合は、材料運搬下ろしの作業に立ち合う。卒業制作素材によって制作スペースは異なる。各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。

■ 成績評価方法・基準

課題(90%)と授業態度(10%)

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

随時参考となる作品集等を紹介する。

■ 備考

必修

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅰ

(12213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
森 敏 美

■ 授業の概要

4年間の集大成として、卒業研究Ⅱに向け個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して、明確な方向性を示させる。制作ノートを作成することにより、主観的、客観的に卒制のあり方を見ることが出来るのでコンセプトをしっかりと認識させノートを作り確認させる。個々の世界観を醸し出せるよう、資料収集を念入りに行い、エスキースやマケットを何度も練り、技法の吟味を行い、場合によっては材料や工程の確認等も含め数点の小作品の制作をさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・壁画Ⅰ，Ⅱで学んだ各技法の応用力を高められる。
- ・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。
- ・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。
- ・フレスコ実習を行うことで、最古の絵画技法の一つを修得できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：個々で行う技法を選択し申告する	メモを取る事
第2回	制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回	実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回	本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回	材料準備	材料を精査する
第6回	作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回	作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回	作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回	作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回	作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回	作業6 各部位の確認	丁寧に直す
第12回	作業7 詳細の作りこみに入る	必要があれば時間外も制作する
第13回	作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回	作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回	作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

制作時間を最大限に活用できるよう計画を立て。工房の空き時間を有効に利用し制作を行う。
担当教員と密に連絡を取り、問題点や改良すべき課題をこなしてゆく。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）
課題作品に関しては、ミーティングを通して学生と相互に理解を深め、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

図書館、壁画工房内の壁画関連の図書

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）

卒業研究Ⅰ

(12214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆芸卒業作品を集大成としてどのように捉えているか聞き取り完成を目指す。乾漆素地は作品完成の要なので十分考察させ、作品スケッチを基に素材選び、模型制作、考察し図案を作成、原型を制作する。作品が一体型か合体型かを見極め、制作過程を見守り、アドバイスし素地の完成に導き、自在な形状を楽しみながら創意をもって造形の幅を広げ創作の喜びを深めるを目的として指導する。万延元年創業仙台筆笥の伝統技法を用い、仙台筆笥等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・粘土にて正確に原型を起こすことができる。
- ・用途、形状による適切な原型素地が選択できる。
- ・石膏にて適切な原型を作成できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～2回：ガイダンス、作品コンセプトの考察、計画表作成	制作ノート作成
第2回	3回～4回：テーマ、デザイン、プレゼン等の打合せ	制作ノート確認、計画表の見直し修正を行っておく。
第3回	5回～6回：資料収集、デザインの考察	研究に生かせるようにまとめておく。
第4回	7回～9回：デザインを完成させ、大きさ・色調・柄等の細部調整	デザイン案のまとめ、作業記録をつける。
第5回	10回～13回：材料と技法の考察 制作ノート確認①	必要であれば模型の制作。
第6回	14回～16回：原型の制作 制作ノート確認②	原型が制作できるようにしておく。
第7回	17回～19回：全体のバランス等を確認。	手板にて色調等の考察をしておく。
第8回	20回～21回：手板により漆等の色調等の確認。 制作ノート確認③	手板にて漆の乾燥等を確認しておく。
第9回	22回～27回：寒冷紗をバイアスに貼り、布目を止める。	布目を止めておく。
第10回	28回～29回：麻布を貼り、厚みをつける。	厚みをつけておく。
第11回	30回～34回：寒冷紗をバイアスに貼り、強度を増す。	寒冷紗、麻布の乾燥を確認しておく。
第12回	35回～41回：固め塗りを数回塗り高温乾燥器入れる。 制作ノート確認④	高温乾燥の確認しておく。
第13回	42回～43回：高温乾燥。	作業記録（乾燥工程）をつける。
第14回	44回：制作過程の確認。	中間審査に向けて制作記録をまとめる。
第15回	45回：中間審査。打合せ 制作ノート確認⑤	制作ノートの書込みをしておく。

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。漆芸Ⅳを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（30％）：適切な技法を選択できる。出欠状況。制作意欲
- ・作品完成（70％）：作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現（中間審査でフィードバックする。）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし1～4〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・卒業制作材は各自購入
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。□

卒業研究Ⅰ

(12215)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
山口綾子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を用い、更なる創意工夫による完成度の高い作品になるよう指導する。着実に技法の研鑽を積み上げ、表現を深められるように、制作計画・テーマ設定・写真・画像・メモ・イラストなどの資料をまとめ、制作ノート・スクラップブックを作成しながら進める。中間審査までに、作品のテストピース・モデル・展示空間まで含めた作品概要の計画を立案させる。作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、魅せる作品の意識を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。
- ・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス	制作面談／卒研運用の説明	・制作ノートを準備し、制作に必要なコンテンツをまとめる。
第2回	2	年間計画の作成		・年間計画表（前期）を作成し提出
第3回	3	テーマ設定・確認		・参考資料収集 ・参考展示を鑑賞
第4回	4～9	技法・デザインの確認		・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第5回	10	進捗確認①	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第6回	11～19	技法練習	デザインに適した方法を確立	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第7回	20	進捗確認②	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第8回	21～29	試作制作①	技法・技術の習熟度を上げる試作	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第9回	30	進捗確認③	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第10回	31～39	試作制作②	作品＋ディスプレイの全体を考え試作	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。 ・ディスプレイの素材案を用意。
第11回	40	進捗確認④	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第12回	41～44	試作制作③	作品／展示のマケット（模型）準備	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第13回	45	進捗確認⑤	中間審査作品提出準備・確認	・内容のまとめ

■ 履修上の注意

制作するデザインや用途に応じ、適したガラスの種類とバーナーを選択すること。
作品と展示の関係性（空間デザイン）についても考察する。
関連する展覧会やディスプレイ、展示施設などを参考に回ること。
使用する材料（特殊ガラス・特殊道具・特殊素材）については個人で手配して下さい。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

無し

■ 参考書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 備考

- ・質問、相談は、 オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅰ

(12216)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

山 内 一 実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・自分の世界の人形を完成させる。
- ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考える。
- ・人形との向き合い方を深める。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス	完成時のイメージを膨らませておく。資料集め。
第2回	2. 年間計画の打ち合わせ。計画表制作。テーマを決める。	解剖学の本などを参考にし、人体の研究をする。
第3回	3～4. 原寸大の下図を描き、型紙を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第4回	5～6. 芯材に下図をあててカッターなどで削り、形を作る。	資料を参考に人体の研究をする。
第5回	7～9. 粘土を練り芯材に3～5mm厚さに粘土を巻く。	しっかり乾燥させてくる。
第6回	10～12. 顔の造形をする。	顔の造形、表情について観察してくる。
第7回	13～14. 胴の造形をする。	制作した部分のやすりがけ
第8回	15～17. ステンレスの針金で手の芯を作り、手の造形をする。	制作した部分のやすりがけ
第9回	18～19. 腕の造形をし、手とのバランスもチェックする。	制作した部分のやすりがけ
第10回	20～25. 脚を造形し、足も作る。必要であれば芯も入れる。	制作した部分のやすりがけ
第11回	26～29. 乾燥後、全てを磨き、関節を切断し、芯を抜く。	制作した部分のやすりがけ
第12回	30～33. 関節の球を作り、磨く。途中経過確認。	制作した部分のやすりがけ
第13回	34～38. 球を各関節に固定し、球に対する受けを作る。	穴を開ける場所をしっかりと確認する。
第14回	39～44. 各球に穴を開け、ステンレス線を頭、手、足に固定する。	細かなキズなどをチェックする。
第15回	45. 中間審査打ち合わせ、途中経過確認。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）課題作品提出時にフォードバックします。

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕
〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕
〔人形メディア学講義〕〔菊地浩平〕〔河出書房新社〕〔2, 500円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究Ⅰ

(12217)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

鹿 野 明 子

■ 授業の概要

どんなマンガを描きたいか、作品テーマの設定をさせる。ディスカッションを通し、テーマやそれに伴う世界観を明確にさせる。それに関わる資料の収集、場合によっては取材をさせる。

前期卒業制作Ⅰ提出までの計画表を立てさせ、日誌を含む制作ノートを作らせる。マンガの要となるネームの指導をする。登場人物の設定を決める為、キャラクター表を作成させる。卒業制作のマンガ作成に必要な画力や構成力を付けるために小編作品を作らせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・作品完成までの計画を立てることができる。
- ・マンガの要素をよく検討し読みやすく魅力あるネームをつくることできる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス・年間計画の確認	予め制作ノート・日誌を準備しておく
第2回	2. テーマ・プレゼンの打ち合わせ	卒制に向けて何を描きたいか考えておく
第3回	3～5. プロット作成、資料収集、取材	取材先、収集方法を考えておく
第4回	6～8. ネーム・キャラクター表作成・プロット確認	ノートチェック①
第5回	9. ネーム・キャラクター表チェック	ノートチェック②
第6回	10～14. ネーム修正	ノートチェック③
第7回	15. ネームチェック	ノートチェック④
第8回	16～17. プレゼン試作	ノートチェック⑤
第9回	18～20. 背景作画	ノートチェック⑥
第10回	21. プレゼン監修	ノートチェック⑦
第11回	22～23. ネーム最終修正	ノートチェック⑧
第12回	24～40. 小編(試作)作品作成・ペン入れ	ノートチェック⑨
第13回	41～43. 仕上げ	ノートチェック⑩
第14回	44. 小編(試作)作品完成	ノートチェック⑪
第15回	45. 総評 フィードバックを行う	ノートチェック⑫

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ～Ⅳを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

必修

マンガ

授業のあとオフィスアワーを設ける。

卒業研究Ⅰ

(12218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
只 野 彩 佳

■ 授業の概要

本学で学び研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。卒業制作展への出品を前提に、発表までを視野に入れた企画立案、および作品制作のプロセスを支え、指導する。前期では、個々の履修者と綿密に相談しながら、卒業制作作品のテーマを設定し、制作スケジュールの計画、小下図、大下図の制作を重点的に行う。後期の卒業研究Ⅱに向けて、履修者の制作の方針と手法をしっかりと定め、作品の土台作りを完了する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまで培った知識、技法に基づきながら自身の卒業研究のテーマを設定する。
- ・支持体の扱いを覚え、自身の制作に必要な描画材を選択することができる。
- ・自身の設定した制作テーマを、集大成として仕上げる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 導入 科目の説明(1, 2, 3回)	東洋絵画、日本絵画の鑑賞。使いたい技法を調べる。
第2回 テーマの探求(4, 5, 6回)	モチーフやテーマの模索。制作記録開始。
第3回 構想(7, 8, 9回)	作品の大きさ、テーマ、構図の構想。
第4回 デッサン、資料研究(10, 11, 12回)	作品に盛り込むモチーフのデッサン、資料収集。
第5回 小下図作成(13, 14, 15回)	いくつかの案を出せるとよい。
第6回 制作スケジュールの計画(16, 17, 18回)	大きさ、構図、使用技法を決めておく。
第7回 大下図制作(19, 20, 21回)	モチーフのデッサン、資料を用意しておく。
第8回 大下図制作、支持体準備(22, 23, 24回)	大下図を描き進める。支持体の手配。
第9回 本画制作準備、支持体準備、裏打ち、水張り(25, 26, 27回)	支持体を用意。支持体によっては裏打ちを行う。
第10回 本画制作、水張り、トレース、転写(28, 29, 30回)	大下図を描き終えておく。
第11回 本画制作、転写、骨描き(31, 32, 33回)	転写を終えておく。骨描きに使う墨を決めておく。
第12回 本画制作、骨描き、隈取り(34, 35, 36回)	大下図をもとに骨描き、隈取りを終える。
第13回 本画制作、下塗り(37, 38, 39回)	胡粉、水干による下塗りを終える。
第14回 中間審査作品提出準備(40, 41, 42回)	テーマやコンセプト、制作スケジュール確認。
第15回 中間講評、中間審査作品提出(43, 44, 45回)	後期の制作の制作の土台となるよう制作。

■ 履修上の注意

丹念にモチーフを観察し、描画する。基本技法を素直な気持ちで習得すること。
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。
月初めか月末に、制作計画や実行したことを報告すること。
必要なパネル、紙、絵具は個人で用意する必要があります。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％） 課題提出の際、フィードバックを行う。
授業態度30％（創作意欲や、創作の自主性等）

■ 教科書

授業前にプリント配布します。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅰ

単位（総授業時間＋自習時間）： 6（180＋60）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専攻科目
三 浦 忠 士

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（版画の技法を用いた美術表現）を指導する。個人の課題に沿って主体的に制作を進めることができるように、課題の発見・技法や素材の選択・支持体や展示方法の検討・計画の立案・技術の向上・コンセプトの醸成・適切な表現の検討等の方法を教授する。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
- これまでの総ての学修を統合し、版画の技法を用いた作品制作の意義を、社会や文化等との関係において十分理解することができる。 - 主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。 - 制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 1～3. 授業の説明	過去課題等のまとめ。作品の構想。制作ノート作成。
第2回 4～6. 過去の学修や自身の作品についての振り返り。資料収集。	関係資料等のまとめと方向性の模索。制作ノート作成。
第3回 7～9. 制作（アイデアスケッチ）	構想を具体化。制作ノート作成。
第4回 10～12. 制作（用いる技法の検討）	アイデアに基づいた作品を制作するために、どの技法を用いるのが適切か検討。制作ノート作成。
第5回 13～15. 制作（用いる版材の検討）	選んだ技法で用いることのできる版材のうち、アイデアを具体化する上で適切なものは何か検討。制作ノート作成。
第6回 16～18. 制作（印刷する素材の検討）	選んだ技法・版材を用いて製版したイメージを印刷するのに相応しい素材を検討。制作ノート作成。
第7回 19～21. 制作（用いるインクの検討）	選んだ技法・版材を用いて製版したイメージを印刷するのに相応しいインクの種類を検討。制作ノート作成。
第8回 22～24. 制作（アイデアスケッチに基づいた版下の作成）	選んだ技法・版材に適した版下を作成できているか確認。制作ノート作成。
第9回 25～27. 制作（製版）	適切な製版の方法や必要な材料を、関連資料を調べて検討。制作ノート作成。
第10回 28～30. 制作（インクの準備）	作成した版を用いて試作を制作する上で必要なインクの色や濃度、透明度等を検討。制作ノート作成。
第11回 31～33. 制作（印刷）	制作過程と結果を制作ノートに記録。
第12回 34～36. 中間講評	中間講評をもとに、改善・修正点を把握。制作ノート作成。
第13回 37～39. 制作（版の修正・インクの再検討等）	中間講評で把握した改善・修正点に対応できているか確認。制作ノート作成。
第14回 40～42. 制作（改良版の制作）	制作過程と結果を制作ノート作成。
第15回 43～45. 講評	講評とディスカッション。支持体や展示方法の検討。制作ノート作成。

■ 履修上の注意

- 各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- 講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題(90%)と授業態度(10%：制作に取り組む姿勢も評価する)。
- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指定しない。

■ 参考書

- ・ 随時参考となる作品や技法書等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12219)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

三 上 秀 夫

■ 授業の概要

これまで獲得してきた知識や技能を総合的に活用し、卒業研究に向けた新たな課題に自らが主体的に取り組む授業である。4年間の集大成に相応しい作品を仕上げることを目的とし、今までの経験以上の作品の大きさ、材料の質、取り組み時間等を考慮した制作を計画し、作品制作を行う。そのための一連の流れ、情報収集、日程や計画の設定、材料の購入、加工、展示方法等を確認しながら制作について個別に指導をする。また実際の展覧会会場（卒業制作展）での発表という外部に向けた発信を意識した卒業研究の指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・知識・技能・態度を総合的に活用し活用することができる
- ・自らが立てた課題を主体的に解決する能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1~3. ガイダンス（授業の進め方、課題の発表、評価方法について）	調査、資料収集を行う
第2回	4~6. 制作 基本構造 構造計画	作品制作
第3回	7~9. 制作 基本構造 中間発表（進行状況、今後の予定）	材料の購入をする
第4回	10~12. 制作 中間構造 色彩計画	作品制作（準備）
第5回	13~15. 発表 手直し まとめ	作品制作（材料、道具の検討）
第6回	16~18. 制作 日程確認 全体構造 構造計画	作品制作（全体と部分の確認）
第7回	19~21. 制作 全体構造 色彩計画	発表の手順等、準備をする
第8回	22~24. 制作 全体構造 全体計画	発表後の手直しをする
第9回	25~27. 制作 日程・計画発表 制作ノート確認	作品制作（全体制作）
第10回	28~30. 制作 細部の制作	材料の購入をする
第11回	31~33. 制作 仕上げ	作品制作（構造の確認）
第12回	34~36. 制作 設置計画	作品制作（色彩の確認）
第13回	37~39. 制作 制作 手直し 完成	作品制作（全体制作）
第14回	40~42. 発表 手直し	発表の手順等、準備をする
第15回	43~45. まとめ プレゼンテーション 卒業研究Ⅱ提出	発表後の手直しをする

■ 履修上の注意

用具、材料については授業でその都度指示する

■ 成績評価方法・基準

提出課題40%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）授業態度（20%）、講評での発表の内容（40%）で評価する。課題に関しては、授業時にフィードバックを行う

■ 教科書

無し 授業時にプリントを配布する

■ 参考書

無し

■ 備考

授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業時あるいはオフィスアワー（曜日日時は掲示で確認）に受け付けます

卒業研究Ⅱ

(12220)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
鶴 巻 史 子

■ 授業の概要

卒業研究Ⅱ（情報デザイン）では、これまでの学びの集大成として、研究と作品制作に取り組む。各自が制作計画を立案し、作業プロセスを構築・実践することで、自己管理能力を養う。また、学外での作品発表や卒制作品展の企画・運営を通して、デザイン全体のプロセスを理解する。これにより、実践的なプレゼンテーションスキルを磨き、社会に貢献する力と文化創造力を身につけられるよう指導する。大手総合電機メーカーでの実務経験を有する教員がその経験に基づき指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・デザイン全体のプロセスを実践的に修得し、企画から作品完成、発表・運営までを自律的に遂行できる
- ・社会的課題や文化的ニーズに応えるデザインを提案・表現し、効果的なプレゼンテーションを通じて伝えることができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：研究テーマの確認	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第2回	2～5回：研究計画の作成	研究計画の調査、制作プロセスまとめ
第3回	6～10回：研究テーマに関する調査	研究テーマの調査、制作プロセスまとめ
第4回	11～15回：デザインスケッチ制作	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第5回	16～20回：デザイン検討	デザインの調査、制作プロセスまとめ
第6回	21～37回：本制作	制作技法の調査、制作プロセスまとめ
第7回	38～42回：プレゼンテーション準備	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第8回	43～44回：プレゼンテーション、講評、リフレクション	プレゼン準備、制作プロセスまとめ
第9回	45回：本審査会	制作プロセスをデータにまとめる
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

■ 履修上の注意

卒業研究Ⅰ（情報デザイン）を履修し、修得していること。
制作データはUSBメモリ等に保存し持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80%）、授業態度、取り組みの姿勢、プレゼンテーション（20%）で評価します。
課題作品については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

適宜指示する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

鈴木 専

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（アニメーション、映像、平面作品など）を指導する。卒業研究Ⅰと同様に、個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現方法の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、アニメーションや映像、平面作品での表現の意義を社会や文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。
- ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテ、エスキースなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテ、具体的なイメージを制作。画面構築について試作をつづける）	継続制作・制作ノート作成
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成。また、画面構築上のさまざまな可能性を探索する）	絵コンテやエスキースなどで、全体のイメージをより具体的ににする。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性、狙いの確認。タイムライン上でコンテを動かす。構図の展開。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画：改良）	編集、場合により映像の書き出し。制作開始時のエスキース等の振り返り。
第14回	40～42. 制作（作画：仕上げ）	編集、場合により映像の書き出し。制作意図の確認と客観的な考察。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ループリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12222)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

伊 勢 周 平

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（アニメーション、映像など）を指導する。卒業研究Ⅰと同様に、個人の課題に沿って主体的に制作を進め、特に課題発見から構想・計画から実作業のプロセス、コンセプトの醸成、表現方法の適正等を確認・立案させる。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの総ての学修を統合し、アニメーションや映像表現の意義を社会・文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。
- ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明。	過去課題等のまとめ。作品の構想。
第2回	4～6. 過去学修と個々作品についての振り返り。資料収集、計画立案、構想など	関係資料等のまとめと方向性の探索。
第3回	7～9. 制作（作品の構想スケッチやドローイングの制作→テーマ設定）	制作を継続、構想を詰める。
第4回	10～12. 制作（表現技法の確認、スケッチ、ドローイング、絵コンテなど）	制作を継続、具体的な時間配分を考慮する。
第5回	13～15. 制作（絵コンテ、具体的なイメージを制作）	継続制作・制作ノート作成
第6回	16～18. 制作（主に絵コンテなどを基に画面とタイムラインの構成）	絵コンテなど、全体のイメージをより具体的にする。
第7回	19～21. 制作（中間講評）	方向性、狙いの確認。タイムライン上でコンテを動かす。
第8回	22～24. 制作（中間講評をもとに、改善・修正点などを把握）	継続制作・制作ノート作成
第9回	25～27. 制作（作画）	計画の確認、継続制作・制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（作画）	継続制作・制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（作画／仕上げ／講評会）	継続制作・制作ノート作成。
第12回	34～36. 制作（改良箇所を確認）	大まかな編集、継続制作・制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（作画：改良）	編集、場合により映像の書き出し。
第14回	40～42. 制作（作画：仕上げ）	編集、場合により映像の書き出し。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・課題（90％）と授業態度（10％：制作に取り組む姿勢も評価する）。
- ・課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・特に指定しない。

■ 参考書

- ・随時参考となる映像作品、音楽作品、書籍や画集等を紹介する。

■ 備考

- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

立 花 布美子

■ 授業の概要

中間提出の結果より進捗状況を確認、計画表の再検討をし、本提出まで綿密な計画性をもって制作に取り組むよう指導する。常に研究テーマに関連した参考文献、参考資料の収集、展覧会鑑賞に勉め、制作ノートをまとめさせる。また、焼成は各自が責任を持って行うため、制作意欲、自主性を持って望むよう指導する。また、本制作（最終焼成）後、最終プレゼンテーションの確認も含め、集大成に相応しい卒業研究となるよう指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・卒業研究において自己管理能力を高めることができる。
- ・卒業研究における問題解決能力を高めることができる。
- ・これまでに修得した技法・技術の高度な専門知識を、美術を学ぶ意味と関連付けて表現することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～9回：本制作	中間提出後の結果を受け、制作ノート確認時に各自設定した計画表の見直し、修正を行い研究を進めていく。
第2回	10回：本制作 制作ノート確認①計画表チェック	本制作を進める 必要に応じて材料の発注
第3回	11回～19回：本制作	本制作を進める
第4回	20回：本制作 制作ノート確認②進捗状況の確認、調整	進捗状況の見直しを行う
第5回	21回～29回：本制作	本制作を進める
第6回	30回：本制作 制作ノート確認③プレゼン材料打合せ	最終作品数、プレゼンテーションサイズを再度確認し、日程調整を行う
第7回	31回～40回：本制作	本制作を進める
第8回	41回：本制作 最終焼成 窯出し	最終焼成後の作品の確認を行う
第9回	42回～44回：プレゼンテーション確認 修正	必要に応じて修正を行う プレゼンテーション準備
第10回	45回：制作ノート確認④最終プレゼンテーション確認	プレゼンテーションチェック まとめ

■ 履修上の注意

各自の計画表に沿って作業を進めること。

■ 成績評価方法・基準

- ・作品制作の過程、内容などの総合的評価70%（制作ノートの記入内容も含む）、制作意欲、自主性等30%
- ・制作ノート確認時にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

〔新技法シリーズ102陶芸の基本〕〔東京芸術大学美術学部工芸科陶芸講座〕〔美術出版〕〔3, 024円〕

〔陶芸を学ぶ②〕〔京都造形芸術大学編〕〔角川書店〕〔7, 344円〕

〔混ぜておぼえるはじめての釉薬づくり〕〔野田耕一〕〔誠文堂新光社〕〔3, 024円〕

〔釉薬手づくり帖〕〔野田耗一著〕〔誠文堂新光社〕〔1, 641円〕

〔釉薬づくり入門〕〔深海宗佑著〕〔誠文堂新光社〕〔2, 835円〕

■ 備考

- ・作品完成数により随時窯詰め作業を行うので、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了時またはオフィスアワーに受付ける。

卒業研究Ⅱ

(12224)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
佐々木 輝 子

■ 授業の概要

各自で設定した染織技法の研究テーマを基に卒業研究本制作に取り組む。制作意図をより明確化し、4年間の集大成としてふさわしい完成度の高い作品を制作できるよう指導する。制作のみに留まらず、必要に応じて繊維製品関連施設の課外研修等を実施し、社会に即応した実践力を身に付け、地域社会に貢献できる能力の習得・向上も図ることができるよう指導する。これまでに獲得した染織に関する知識・技能等を総合的に活用し、自らが立てた計画を適用し、その課題を主体的に解決する能力を養えるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・染織に関する高度な専門知識を身につける。
- ・綿密な染織計画を立て、制作を通して自ら主体的に課題を解決する能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回：ガイダンス	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第2回	2回～3回：年間計画	作品に関する資料収集・制作ノートのまとめ
第3回	4回～39回：本制作（計画に基づいた染織作品の制作）	作品に関する収集・制作ノートのまとめ
第4回	40回～41回：仕上げ	展示備品等の準備・制作ノートのまとめ
第5回	42回～44回：プレゼンテーション準備 資料整理	プレゼン準備・制作ノートのまとめ
第6回	45回：作品提出	展示準備・制作ノートの完成

■ 履修上の注意

染料・助剤等の化学薬品使用時は、作業内容に応じて仕事着、防護メガネを着用のこと。
作品に使用する材料は、各自購入すること。

■ 成績評価方法・基準

提出課題（80％）、授業態度（20％）で評価します。
作品課題については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書

適宜指示する。

■ 参考書

図解染織技術事典 / 田中清香 土肥悦子 / 理工学社

■ 備考

質問などについては、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12225)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋60）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
落 合 里 麻

■ 授業の概要

4年間の集大成に相応しい作品を制作する。卒業研究Ⅰで定めた研究テーマを基に、研究計画に沿ってデザインを具体的な形にする。材料の性質と向き合いながら、各工程で加工方法や手順を検討し、部材を組み上げていく。完成度の高い作品に仕上げるための加工方法や見せ方について、授業担当者の実務経験を活かして指導する。また、制作と並行して展示構成やプレゼンボードの内容を推敲し、作品全体を完成させる。提出に向けて、相手に的確に伝わるプレゼンテーションができることを目標とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・問題を見つけ出し、解決に繋がるデザインを考案できる
- ・デザインを形にする方法を自ら考え、計画的に進めることができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	研究計画の見直し、修正する	研究計画を確認する
第2回	2～3回	各工程における加工方法と必要な時間を検討する	加工方法を調べる
第3回	4～6回	制作（材料取りの計画、材料に墨付け、転写する）	材料への墨付け、転写を完了させる
第4回	7～10回	制作（主要部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第5回	11～14回	制作（中間部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第6回	15～18回	制作（細部の部材を作る）	細部の加工の墨付け、転写を行う
第7回	19～21回	制作（部材の微調整を行う）	部材の微調整を行う
第8回	22～23回	制作（部材を組み立ての準備を行う）	組み立てに必要な治具等を作る
第9回	24～27回	制作（部材を組み立てる）	組み立てに使用する道具を揃え、調整する
第10回	28～30回	制作（細部の加工、微調整）	微調整を行う
第11回	31～33回	制作（仕上げ）	表面を仕上げた後の調整を行う
第12回	34～37回	展示構成を検討する	展示会場の模型を準備し、空間を確認する
第13回	38～42回	展示に必要な物を制作する	作品と合わせて構成を確認する
第14回	43～44回	プレゼンボードを制作する	プレゼンボードを完成させる
第15回	45回	最終審査の準備とプレゼン内容の確認を行う	準備を完了させ、プレゼンを練習する

■ 履修上の注意

- ・材料・道具類は自分で購入すること。
- ・プロダクトデザインⅠ～Ⅳ、卒業研究Ⅰを履修し、単位を修得していること。

■ 成績評価方法・基準

課題80%、授業態度20%で評価する。
授業内、講評会にてフィードバックを行う。

■ 教科書

特に定めない。

■ 参考書

随時紹介する。

■ 備考

質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12226)

単位：6
対象学科：
授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択
美術学部 美術表現学科専門科目

■ 授業の概要

これまでに学んだ自然や社会を含む人間生活と美術の関係を学び、研究し、版画に関する知識技能、創造的思考力を総合的に活用する。完成度の高い卒業制作になるようにさまざまな素材や技法、いろいろな考え方にふれ、自己表現の手法を探索確立することを目標とする。卒業制作をとおして、地域社会の発展に貢献できる力と文化創造力を身につけ、美術、工芸、デザイン分野に関する職業や創造活動に従事出来る能力が身に付けられるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・版の総合的な技法と工程を理解し身につけることができる。
- ・展覧会を見て得た情報を整理し制作に生かす手法を習得する。
- ・皆と協働し作品について意見交換し自律的に制作ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回	ガイダンス、後期作業の確認	記録するための制作ノートを用意する。
第2回	2～11回	本制作、部分	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第3回	12～22回	本制作、細部	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第4回	23～31回	本制作、仕上げ	作業ごとに内容をまとめ次回提出。
第5回	32～34回	プレゼンテーション（検討）	プレゼンの検討内容をまとめ次回提出。
第6回	35～40回	プレゼンテーション（完成）	プレゼンの完成までの内容をまとめ次回提出。
第7回	41～44回	制作ノートのまとめ（完成写真、プロセスのまとめ）	制作ノートのまとめを行ない、最終的なプレゼンを行なう。
第8回	45回	本審査	

■ 履修上の注意

制作ノートに、それぞれの制作の試行錯誤をまとめ記録する。ポートフォリオ作成のための文章能力、PCの技術を習得する。

■ 成績評価方法・基準

作業内容のまとめは授業中にフィードバックをします。

1. 提出課題（技法、計画性、創意工夫、完成度80%） 2. 制作ノート又はポートフォリオ（20%）

■ 教科書

適宜対応します。

■ 参考書

適宜対応します。

■ 備考

版画

質問等については、オフィスアワー（曜日と時間は掲示）で受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

虎 尾 裕

■ 授業の概要

美術表現の中で、大学の4年間で彫刻分野として学んできた三次元立体表現の知識や技術などを活かし、集大成として総合的な研究の経過を踏まえ、卒業制作に取り組んでいく。卒業研究Ⅰ（彫刻）、研究テーマを絞り込み、取り組む彫刻分野における立体作品の素材と加工法について、特性、特徴などを分析、研究していく。前期で進めてきたカービング制作は、段階的に荒彫りから細部の仕上げ彫りに移行。塑造制作は、粘土荒付けから細部に移行。それぞれ、最終段階で細部の仕上げ、完成。制作ノートとファイルの中で制作過程を記録する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・これまでの習得した美術的表現の総ての学修を統合し、自身の彫刻表現の意味を、社会における文化的側面との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に専門の表現力・技術力を身に付けるとともに、持続的な制作態度により、美術表現による自立する立体作品として制作を行うことができる。
- ・美術の表現活動を通じて、文化的な日常生活の意識向上の立場を維持することを目的として、感性を磨いていくことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明、課題等のまとめ、評価方法の説明	課題等のまとめについて進めていく
第2回	4～6. 卒業制作現時点での彫刻表現の振り返り、作品とテーマ研究と照合して確認作業	卒業研究テーマ研究について、継続して確認作業
第3回	7～9. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第4回	10～12. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第5回	13～15. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒彫りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第6回	16～18. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第7回	19～21. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第8回	22～24. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第9回	25～27. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第10回	28～30. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、荒取りなど）、塑造制作（粘土荒付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第11回	31～33. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第12回	34～36. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第13回	37～39. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど）、塑造制作（粘土細部土付けなど）	卒制継続制作、制作ノート作成
第14回	40～42. 実際の卒業研究作品制作、カービング制作（材料加工、細部仕上げ彫りなど、完成）、塑造制作（粘土細部土付けなど、完成）	卒制継続制作、制作ノート作成
第15回	43～45. 講評、卒業制作審査	最終的な審査結果をまとめて、今後の制作へ活かすように制作ノートに今後の課題をまとめる

■ 履修上の注意

カービング彫刻の材料を手配した場合は、材料運搬下ろしの作業に立ち合う。卒業制作素材によって制作スペースは異なる。各自必要とあれば授業時間外に制作を進めることができる。

■ 成績評価方法・基準

課題(90%)と授業態度(10%)

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書

随時参考となる作品集等を紹介する。

■ 備考

必修

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

森 敏 美

■ 授業の概要

4年間の集大成として、卒業研究Ⅰに引き続き個々の取り組むべき課題を整理し十分なディスカッションを通して臨ませる。制作ノートを完成させることにより、卒制の流れを見ることが出来るのでコンセプトに合わせ確認させる。卒業研究Ⅰで醸し出した世界観を、資料に基づき、精査した技法で、適切な大きさや設置方法を話し合い、プレゼンテーションも視野に入れ制作に向かわせる。予め作られた計画表に則り進めてゆくが、常に状況を見て修正しながら期日に間に合うよう万全を尽くさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・壁画Ⅰ・Ⅱで学んだ各技法の応用力を高められる。
- ・空間演出としての、壁画の認識を深めることが出来る。
- ・地域との様々なコミュニケーション能力を高められる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：個々で行う技法、趣旨を選択し申告する	メモを取ること
第2回	制作：エスキース・マケット・材料研究等	図書館等を利用し資料収集
第3回	実際に設置する場合と、応用制作の諸問題を検討する	必要と有れば設置希望現場を見ておく
第4回	本制作（パネル製作等）	予め使う材料等調べておく
第5回	材料準備	材料を精査する
第6回	作業1 制作に入る	制作にあたってメモ、ノートを作る
第7回	作業2 制作過程を確認	わからない所は聞くこと
第8回	作業3 全体像を把握する	計画を見直すことも
第9回	作業4 全体像の作りこみ	中間チェックに向けた準備
第10回	作業5 各部位の作りこみ 中間チェック	足りない時間は各自補う
第11回	作業6 各部位の確認	丁寧に直す
第12回	作業7 詳細の作りこみに入る	必要があれば時間外も制作する
第13回	作業8 詳細のバランス確認	引き続き、時間外も有効に活用する
第14回	作業9 仕上げ、完成	講評会に向けたチェック
第15回	作業10 講評会（作品に関するフィードバック）	反省点等メモをとる

■ 履修上の注意

時間を有効に使うこと。壁画工房の空き時間を積極的に利用し制作を行う。
健康に留意し、怪我の無いように安全に作業を進める。

■ 成績評価方法・基準

課題（制作）90%、平常点10%（平常点は授業への参加状況および制作態度で判断する）
課題に関しては、講評会等ミーティングを通して学生と相互に、作品に関するフィードバックを行う。

■ 教科書

資料配布（壁画制作の手引き）

■ 参考書

壁画工房、図書館にあるモザイク・ステンドグラス・フレスコの関連書を確認する。

■ 備考

オフィスアワーを有効に活用する（授業終了時）
モザイク展等の展覧会や実際の作品に触れ見聞を広める。

卒業研究Ⅱ

(12229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
長谷部 嘉 勝

■ 授業の概要

漆芸卒業作品制作の集大成として卒業研究Ⅰで制作した乾漆素地に今まで研鑽してきた漆芸の技法を駆使し、色や加飾を施し漆芸卒業作品としての完成を目指すよう見守り、適宜アドバイスをを行い完成精度を高め納得できる作品になるよう指導する。漆芸卒業作品制作を通して0から作品を生み出す苦楽を感じ完成した時の達成感を味わってもらえるように導く。万延元年創業仙台筆笥の伝統技法を用い、仙台筆笥等の家具漆塗り木工家具等を製造・販売の家業に50年間従事し、漆塗り全般に精通した知識を活かして授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・漆で漆塗りの基本工程（塗り、研ぎ、磨き）ができ、自由な表現ができる。
- ・作品に対して効果的な加飾ができ、自己表現ができる。
- ・全体的に仕上げが綿密で完成度を高めることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1回～3回：脱乾し縁の調整を行い塗りの作業に入れるようにする。	制作のスケジュールの考察
第2回	4回～9回：錆漆、固め塗りを数回行い、黒中塗りに入れるようにする。 制作ノート確認①	漆が乾燥しているか確認しておく。
第3回	10回～15回：黒中塗りを数回行い加飾の作業に入れるようにする。	黒中塗りの制作過程の記録
第4回	16回～19回：加飾・彩色・変わり塗りの作業。制作ノート確認②	加飾彩色の漆を調合して、手板にて発色・乾き等を確認しておく。
第5回	20回～29回：加飾・彩色・変わり塗り・蒔絵を施し作品全体のバランスを確認する。	色漆の乾燥を把握しながら、作業を進めておく。
第6回	30回～39回：仕上げ作業。摺り磨きの作業のより漆本来の艶が出るようにする。制作ノート確認③	作品の仕上がり状況を確認しながら作業を進めておく。
第7回	40回～44回：制作ノートの書込み。プレゼンの準備。	制作ノートのまとめ
第8回	45回：審査	1年間の制作記録 審査結果のまとめ

■ 履修上の注意

作業着を着用の上、漆かぶれに注意しながら授業に臨む。卒業研究Ⅰを履修していること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業態度（30％）：適切な技法を選択できる。出欠状況。制作意欲
- ・作品完成（70％）：作品の完成度、デザイン、センス、個性の表現（審査会卒業作品提出でフィードバックする。）

■ 教科書

授業中に適宜資料を配布する。

■ 参考書

〔やさしく身につく漆のはなし1～4〕〔(一財)日本漆工協会〕〔2, 200円(税込)〕
〔漆塗りの技法書〕〔誠文堂新光社〕〔3, 080円(税込)〕

■ 備考

- ・卒業制作材は各自購入
- ・質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

卒業研究Ⅱ

(12230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
山口綾子

■ 授業の概要

これまでに修得したバーナーワークの技術・技法を更に昇華させるために、中間審査の結果をふまえ、進捗状況を確認し、作品の「質」をさらに向上させる。必要に応じて、計画の見直しや作品の修正と改善を行い、納得のいく作品に仕上げるよう指導する。また、作品の世界観を大切に、展示も含め自分の考えを伝える力を身に付けることを目指す。作家の制作・展示の経験から、4年間の集大成になる作品を目指すと共に、制作者としての意識と視野を持たせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・習得した技法の習熟度をさらに錬成することができる。
- ・主題に応じ、計画性、自主性をもって制作に取り組めるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1	ガイダンス	面談：中間審査の内容確認	・中間審査の講評内容をまとめておく。
第2回	2～19	本制作①	試作を元に修正や改善	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第3回	20	進捗確認①	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第4回	21～29	本制作②	完成度を高める	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第5回	30	進捗確認②	作品・制作ノートの確認	・面談内容のまとめ
第6回	31～39	本制作③	作品仕上げ	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第7回	40	進捗確認③	作品・制作ノートの確認	・見直し、内容のまとめ
第8回	41～44	本制作④	全体仕上げ（ディスプレイ完成）	・制作ノートをまとめ、検証・考察する。
第9回	45	進捗確認④	本審査作品提出準備・確認	・見直し、内容のまとめ

■ 履修上の注意

制作するデザインや用途に応じ、適したガラスの種類とバーナーを選択すること。
作品と展示の関係性（空間デザイン）についても考察する。展示方法・設置・施工も検討すること。
使用する材料（特殊ガラス・特殊道具・特殊素材）については個人で手配して下さい。

■ 成績評価方法・基準

- ・制作への取組 30%（作業姿勢・進捗状況・制作ノート・各種資料）
- ・作品 70%（完成度・習熟度・目標達成において総合的に判断する）
- ・制作ノートを通じて、常にフィードバックして行きます。

■ 教科書

無し

■ 参考書

必要に応じてプリントなどを配布する。

■ 備考

必修

- ・質問、相談は、 オフィスアワー（曜日・時間は初回ガイダンスにて連絡）に受付ます。

卒業研究Ⅱ

(12231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

山 内 一 実

■ 授業の概要

4年間で習得した技術を基に、オリジナルの人形を制作させる。作品のテーマを設定し、展示空間を考えながら人形のキャラクターや人形の在り方について研究させ、人体の造形についても深く追求し、完成度の高い作品を制作できるよう指導する。誰にどこに作品を発信するのかしっかり考え、完成する作品、空間すべてを含め、綿密な計画を立てさせる。4年間の集大成の作品を見せる意義について考えさせると共に制作記録を付けさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・自分の世界の人形を完成できる。
- ・人形を通して展示の仕方も含め表現方法を考えることができる。
- ・人形との向き合い方を深めることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 仮組をし、バランスチェック。塗装が出来るようしっかりとヤスリをかける。	全体のバランス確認。
第2回	4～8. 塗装をし、磨く。	細かなキズなどをチェックする。
第3回	9～12. 塗装したものに着色する。	再度全体をチェックする。
第4回	13～14. メイクする。	メイクのイメージ、資料集め
第5回	15～18. かせを作り、髪を貼る。	ヘアスタイルのイメージ、資料集め
第6回	19. 組み立てる。	イメージ通りかチェックする。
第7回	20～32. 衣装を作る。	衣装の資料集め。
第8回	33～44. 背景、展示方法。	展示方法について考察する。
第9回	45. 完成。講評。	

■ 履修上の注意

人物の観察、本、写真等から研究して、造形力を付けておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品50%、授業態度50%（出席率、忘れ物の有無、創作意欲など）

講評会の際、フィードバックを行う

■ 教科書

〔吉田式球体関節人形制作技法書〕〔吉田良〕〔ホビージャパン〕〔2, 880円〕

■ 参考書

〔美術解剖図ノート〕〔視覚デザイン研究所〕〔2, 700円〕

〔人形論〕〔金森 修〕〔平凡社〕〔3, 200円〕

〔人形メディア学講義〕〔菊地浩平〕〔河出書房新社〕〔2, 500円〕

■ 備考

人形

解剖学の資料は必ず用意すること。

質問等については授業終了後、オフィスアワーを受け付けます。

卒業研究Ⅱ

(12232)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専門科目

鹿野明子

■ 授業の概要

前期卒制研究Ⅰの審査結果をふまえ、本提出に向けた計画の見直しやプレゼンテーション、制作ノートの指導を行う。提出にあたり最低限の画力は必要だが、卒制〆切までの時間で個人の持つ技量と構成力、ストーリー性等の要素をバランスよく取り入れた作品になるよう指導する。また、作品の中にどれだけ作者の世界観を取り入れて、それを第三者にもわかりやすく示せるか、トータルで卒制課題としてのクオリティを醸し出せるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・丁寧で綺麗な仕上げを行い、クオリティの高い画面にできる。
- ・妥協せず完成度の高い内容に上げることができる。
- ・作品のよさが伝わる展示方法を実践できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. 前期からの計画を見直し修正する	前期製作ノートをチェックしておく
第2回	2～4. ネームの見直しチェック：ノートチェック①	内容、構成等を吟味しておく
第3回	5～7. 構図等の見直しチェック：ノートチェック②	構図や枠取り等の作業を進めておく
第4回	8～10. ペン入れ：ノートチェック③ 枠線、ふきだし	用具のチェックも行っておく
第5回	11～13. ペン入れ：ノートチェック④ 主線-01	毎回丁寧な作業を心がける
第6回	14～15. ペン入れ：ノートチェック⑤ 主線-02	毎回丁寧な作業を心がける
第7回	16～19. ペン入れ：ノートチェック⑥ 背景-01	毎回丁寧な作業を心がける
第8回	20～21. ペン入れ：ノートチェック⑦ 背景-02	毎回丁寧な作業を心がける
第9回	22～25. ペン入れ：ノートチェック⑧ 背景-03	毎回丁寧な作業を心がける
第10回	26～28. ペン入れ：ノートチェック⑨ 効果-01	毎回丁寧な作業を心がける
第11回	29～31. ペン入れ：ノートチェック⑩ 効果-02	毎回丁寧な作業を心がける
第12回	32～34. プレゼンテーション1, 2：ノートチェック⑪ 入稿データチェック等	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第13回	35～36. プレゼンテーション3, 4：ノートチェック⑫ 額装-01	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第14回	37～39. プレゼンテーション5, 6：ノートチェック⑬ 額装-02	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第15回	41～42. プレゼンテーション7, 8 展示のシミュレーション	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第16回	43～44. プレゼンテーションの確認、修正	パネル展示、印刷、製本、原画の扱い等をディスカッションし、効果的なプレゼン方法を検討してゆく
第17回	45. 本提出前の確認：ノートチェック⑭	製作ノート、日誌を確認する

■ 履修上の注意

マンガ・イラストⅠ～Ⅳを履修していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

課題提出でフィードバックを行なう。

課題80%（アイデア40%、絵（丁寧さ、画力、仕上げ）40%）授業態度（創作意欲や創作の自主性等）20%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

必修

マンガ

授業の後にオフィスアワーを設ける。

卒業研究Ⅱ

(12233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：6（180＋30）
対象学科：美表4年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修
美術学部 美術表現学科専門科目
只 野 彩 佳

■ 授業の概要

本学で学び、研究したことの集大成として、卒業制作（日本画）作品の制作を行う。教員は、履修者の卒業制作展への出品を前提に、発表までを視野に入れた計画立案および作品制作の過程を支え、指導する。後期では、状況に合わせて方向性の再検討や制作スケジュール計画の調整を行いながら、作品のより高い完成度を目指して制作を行う。履修者の作り上げたい作品についてよく話し合い、制作の計画や技法について個別に指導、対応を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

- ・日本画の伝統技法に基づきつつも、自己の制作スタイルを築く。
- ・卒業研究Ⅰで得た気づきを作品に反映し、集大成として作品を完成させる。
- ・自己の表現の意味や意図を、作品や言葉で表すことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	制作および展示計画の確認、制作スケジュールの調整、本画制作(1, 2, 3回)	制作の意図やテーマをまとめ、スケジュールを確認しておく。
第2回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(4, 5, 6回)	使用する画材を決め、用意しておく。
第3回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(7, 8, 9回)	制作記録を適宜つける。制作を進める。膠の管理。
第4回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(10, 11, 12回)	制作記録を適宜つける。制作を進める。膠の管理。
第5回	本画制作、制作および展示計画の確認(13, 14, 15回)	制作と計画を見直し、改善、変更点はまとめる。
第6回	卒業制作展に向けての準備(16, 17, 18回)	具体的な額装や表装についての研究し、決定、手配できるようにしておく。
第7回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(19, 20, 21回)	全体像を把握しながら制作を進める。膠の管理。
第8回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(22, 23, 24回)	全体像を把握しながら制作を進める。膠の管理。
第9回	本画制作、水干および岩絵具、その他描画材による描画(25, 26, 27回)	全体像を把握しながら制作を進める。膠の管理。
第10回	本画制作、岩絵具での細部描写など(28, 29, 30回)	作品にとって重要な部分の描き込み。膠の管理。
第11回	本画制作、岩絵具での細部描写など(31, 32, 33回)	作品にとって重要な部分の描き込み。膠の管理。
第12回	本画制作、岩絵具での細部描写など(34, 35, 36回)	作品にとって重要な部分の描き込み。膠の管理。
第13回	本画制作、仕上げ、最終調整(37, 38, 39回)	全体を見ながら仕上げ、描き込み、ほぼ完成させる。
第14回	卒業制作提出準備(40, 41, 42回)	作品側面の処理、額装、展示道具の確認。最終調整。
第15回	講評、プレゼンテーション（※アクティブラーニング）、卒業制作提出(43, 44, 45回)	制作意図や工夫を自分の言葉で説明できるようにする。

■ 履修上の注意

モチーフをよく観察し、必要な知識、技法を積極的に習得すること。
毒性のある赤系の絵の具は水道に流さない。朱を使用した皿は、ふき取り後、洗浄。
月初めか月末に、制作計画や実行したことを報告すること。
必要なパネル、紙、絵具は個人で用意する必要があります。

■ 成績評価方法・基準

課題作品70％（完成度50％ 意図・発想20％）課題提出の際、フィードバックを行う。
授業態度30％（創作意欲や、創作の自主性等）

■ 教科書

授業前にプリント配布します。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
描画材を用意すること。

卒業研究Ⅱ

単位（総授業時間＋自習時間）： 6（180＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修

美術学部 美術表現学科専攻科目

三 浦 忠 士

■ 授業の概要

大学でこれまで学んできた知識や技能を総合的に活用した、4年間の集大成に相応しい卒業制作（版画の技法を用いた美術表現）を指導する。卒業研究Ⅰと同様に、個人の課題に沿って主体的に制作を進めることができるように、課題の発見・技法や素材の選択・支持体や展示方法の検討・計画の立案・技術の向上・コンセプトの醸成・適切な表現の検討等の方法を教授する。都度制作上の問題点を明確に整理するために「制作ノート」の作成を課す。また、完成作品については自己表現の到達度合や作品の存在意義・価値等の視点から振り返りを行わせる。

■ 授業の到達目標

- ・これまでの総ての学修を統合し、版画の技法を用いた作品制作の意義を、社会や文化等との関係において十分理解することができる。
- ・主体的に、専門的な方法と技術による表現を、自己実現につなげていくことができる。
- ・制作活動を通じて、生活と文化の諸相に対する多様な視点を理解することができる。

学位授与の方針との関連

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1～3. 授業の説明	過去課題等のまとめ。作品の構想。制作ノート作成。
第2回	4～6. 過去の学修や自身の作品についての振り返り。資料収集。	関係資料等のまとめと方向性の模索。制作ノート作成。
第3回	7～9. 制作（アイデアスケッチ）	構想を具体化。制作ノート作成。
第4回	10～12. 制作（用いる技法の検討）	アイデアに基づいた作品を制作するために、どの技法を用いるのが適切か検討。制作ノート作成。
第5回	13～15. 制作（用いる版材の検討）	選んだ技法で用いることのできる版材のうち、アイデアを具体化する上で適切なものは何か検討。制作ノート作成。
第6回	16～18. 制作（印刷する素材の検討）	選んだ技法・版材を用いて製版したイメージを印刷するのに相応しい素材を検討。制作ノート作成。
第7回	19～21. 制作（用いるインクの検討）	選んだ技法・版材を用いて製版したイメージを印刷するのに相応しいインクの種類を検討。制作ノート作成。
第8回	22～24. 制作（アイデアスケッチに基づいた版下の作成）	選んだ技法・版材に適した版下を作成できているか確認。制作ノート作成。
第9回	25～27. 制作（製版）	適切な製版の方法や必要な材料を、関連資料を調べて検討。制作ノート作成。
第10回	28～30. 制作（インクの準備）	作成した版を用いて試作を制作する上で必要なインクの色や濃度、透明度等を検討。制作ノート作成。
第11回	31～33. 制作（印刷）	制作過程と結果を制作ノートに記録。
第12回	34～36. 中間講評	中間講評をもとに、改善・修正点を把握。制作ノート作成。
第13回	37～39. 制作（版の修正・インクの再検討等）	中間講評で把握した改善・修正点に対応できているか確認。制作ノート作成。
第14回	40～42. 制作（改良版の制作）	制作過程と結果を制作ノート作成。
第15回	43～45. 講評	講評とディスカッション。支持体や展示方法の検討。制作ノート作成。

■ 履修上の注意

- ・各自必要とあれば授業時間外に制作を進め、作品の完成度を上げること。
- ・講評会では自己及び他者の作品についてのコメントを発表する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 課題(90%)と授業態度(10%：制作に取り組む姿勢も評価する)。
- ・ 課題については、授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

- ・ 特に指定しない。

■ 参考書

- ・ 随時参考となる作品や技法書等を紹介する。

■ 備考

- ・ ルーブリック評価については第1回目の授業で説明する。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)で受け付ける。

教 職 に 関 す る 科 目

教育原理

(19801)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専1年・服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也

■ 授業の概要

教育の理念、本質を考究するため、代表的な理論や原理的な課題を学習するとともに、たがいの考えを照らし合わせながら、教育概念を検討する。また、日本と諸外国における教育の歴史、思想について探究するため、学校、子どもとその家族、教師、という各種のトピックを設けて、それぞれをめぐる制度や観念の変遷、現代的諸問題を取りあげ、検討する。ペアやグループでのワーク、レポート発表などを通じて、受講状況をつど確かめていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を深め、それらを説明することができる。
- ・教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解し、それらについて自らの考えを持つことができる。
- ・日本と諸外国の教育思想について理解し、それらをもとに自らの教育に対する考えを批判的に検討することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 教育をどのようにとらえるか

教科書の第1章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第2回 教育を支える土台－子ども・家庭・社会

教科書の第2章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第3回 教育を受ける権利から考える公教育のあり方

教科書の第3章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第4回 教育の思想と歴史1－西洋教育思想

教科書の第4章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第5回 教育の思想と歴史2－宗教と教育

教科書の第5章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第6回 教育の思想と歴史3－近代教育

教科書の第6章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第7回 教育の思想と歴史4－新教育の登場

教科書の第7章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第8回 学校の歴史1－近代学校の誕生と展開

教科書の第8章を網羅的に復習する

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第9回 学校の歴史2－日本における学校の誕生と展開

教科書の第10章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第10回 学校の歴史3－敗戦後日本における学校

教科書の第11章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第11回 教育の実践1－西洋における教育実践を例に

教科書の第12章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

第12回 教育の実践2－日本における教育実践を例に

教科書の第13章を読む

教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む

	り組む
第13回 現代教育の課題 1－学力をめぐって	教科書の第 1 4 章を読む 教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第14回 現代教育の課題 2－情報化社会	教科書の第 1 5 章を読む 教科書と講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第15回 現代教育の課題 3－教育と福祉	事前配布資料を読む 事前配布資料と講義をもとにして、提示された課題に取り組む
第16回 試験	復習をしておく 期末試験のフィードバックを受けて考えを整理する

■ 履修上の注意

必ず第1回に参加してください

教科書の購入、また、教科書や事前配布資料の予習が必須です

■ 成績評価方法・基準

授業内課題への取り組み50%、試験50%

取り組みは知識・思考・表現、主体性・協働性の程度に応じて評価する

■ 教科書

[アクティベート教育学01][教育原理][木村元・汐見稔幸編、2020][ミネルヴァ書房][¥2, 000]

■ 参考書

適宜、示します

■ 備考

質問等は授業前後に受け付けます

教職概論

(19802)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専1年・服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

永 田 和 寛

■ 授業の概要

この授業では、教職の意義や教員の役割・職務内容、チームとしての学校運営のあり方の理解を目指します。そのうえで、自らが理想とする教師像について考えることをとおして、教職志望者の職業選択に資する機会とします。授業の進め方は、教科書等の内容を講義するだけでなく、グループワークや発表等の機会を多く取り入れることによって、それぞれの受講生が能動的に授業に参加できるようにします。この授業の担当者は、高等学校における勤務経験を有する実務家教員です。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・公教育の役割や教師の存在意義を理解し、自らの理想の教師像を抱くことができる。
- ・教職に関する制度について理解し、その諸課題について自らの考えを持つことができる。
- ・教師に求められる資質・能力を理解し、それを自らの教職課程の指針することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション／教職観のリフレクション	本シラバスをよく読んでオリエンテーションに臨む。
第2回 「教師」とはどんな職業か	教科書の序章をよく読む。
第3回 教師の魅力	教科書の第1章または第2章をよく読む。
第4回 教職の特徴Ⅰ―国際比較	教科書の第3章をよく読む。
第5回 教職の特徴Ⅱ―歴史的展開	教科書の第4章をよく読む。
第6回 教員の服務	教科書の第5章をよく読む。
第7回 教員の権利と身分保障	教科書の第6章をよく読む。
第8回 教員研修	教科書の第7章をよく読む。
第9回 チームとしての学校	教科書の第8章をよく読む。
第10回 中間テスト	これまでの授業を復習する。
第11回 教師の専門職性	教科書の第9章をよく読む。
第12回 子どもの生存保障と教師	教科書の第10章をよく読む。
第13回 いじめ問題と教師	教科書の第11章をよく読む。
第14回 子どもの多様性と教師	教科書の第12章をよく読む。
第15回 演習「私の理想の教師像」を考える1（グループワーク）	これまでの授業を振り返り、自らが理想とする教師像について考える。
第16回 演習「私の理想の教師像」を考える2（グループワーク）	グループで理想の教師像についてまとめて発表する。発表のふりかえりを踏まえて最終レポートを作成する。

■ 履修上の注意

- ・連絡や課題提出のためにGoogleクラスルームを使用します。

■ 成績評価方法・基準

- ・中間テスト（30％）、最終レポート課題（40％）、その他授業内の課題（30％）で成績評価をします。
- ・授業内の課題を受領するのは課題を課した授業時のみとします。そのため欠席しないようにしてください。

■ 教科書

〔アクティベート教育学2 現代の教師論〕〔佐久間亜紀・佐伯胖 編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 200円〕

■ 参考書

〔動画教材〕〔独立行政法人教職員支援機構〕〔<https://www.nits.go.jp/materials/>〕

■ 備考

質問等については、授業の前後や、Google Classroomで受け付けます。

教育制度論

(19803)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）
対象学科：健専3年・服専3年・美表3年
授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択
教職に関する科目
永田和寛 高橋賢

■ 授業の概要

近現代日本の教育制度について、学校を主たるトピックとして考える。第1に、日本と諸外国の教育制度を原理的、歴史的、構造的に検討する。第2に、今日における教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて、日本国憲法が規定する教育を受ける権利の保障という観点から検証する。その際、近年の学校教育と教育政策における課題と関連付けて考察する。第3に、学校と家庭、地域との連携ないし協働に関する意義を、学校における安全確保に関する側面も含めて検討する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・教育に関する制度的な基礎知識を習得する。
- ・社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。
- ・学校と家庭及び地域との連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 制度の意味と学ぶ意義（永田）	事前：シラバスを確認し、学習内容を見通す 事後：配布資料を読み、課題に取り組む
第2回 子どもの権利（永田）	教科書第2章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第3回 教育法のしくみ（永田）	教科書第3章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第4回 教育行政のしくみ（永田）	教科書第11章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第5回 日本国憲法と教育基本法（永田）	教科書第5章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第6回 教育の目的と目標（永田）	教科書第6章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第7回 教育法制度をめぐる原理的論点（永田）	これまでの学習内容をふりかえる 自分の考えをまとめなおす
第8回 学校の制度（永田）	教科書第7章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第9回 義務教育の制度（高橋）	教科書第8章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第10回 教育の機会均等（高橋）	教科書第9章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第11回 教育内容の制度（高橋）	教科書第4章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第12回 教職員の制度（高橋）	教科書第10章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第13回 社会教育の制度（高橋）	教科書第14章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第14回 保育の制度（高橋）	教科書第12章、第13章を読んでくる 配布資料を読み、課題に取り組む
第15回 まとめと試験（高橋）	これまでの学習内容をふりかえる 試験を通じて、自分の考えをまとめなおす

■ 履修上の注意

初回のオリエンテーションに必ず出席してください
教科書の購入と予習が必須です

■ 成績評価方法・基準

授業内課題への取り組み50%、期末試験50%

■ 教科書

[新版 未来を創る教育制度論][川口洋誉他編、2020][北樹出版][¥2, 200]

■ 参考書

適宜、紹介します

■ 備考

質問等は、授業終了後とオフィスアワーにのみ受け付けます

教育心理学

(19804)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

教えるとは何か、学ぶとは何かというテーマについて考える。教えるとは、学習者が既にもっている知識や過去経験と教授者や教科書からの新しい情報とを統合して、主体的、能動的に知識構造を構成する学びの活動を援助することである。その具体的事例を紹介する。何かができるようになったり、わかったりするようになる発達、人が他者との共同の中で援助を受けながら可能性を広げることが前提となる。このような教育と発達との関係について考察する。また、学びには有意味学習と機械的暗記学習がある。私たちがもっている「学習観」は機械的暗記学習に基づいている。そのため、有意味学習の特徴を学び、従来の学習観を批判し、教育実践に役立てることができるように講義する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・教えるとは何か、学ぶとは何かという問題について考えられるようになる。
- ・発達に関する理論を学び、教育と発達の関係について理解できるようになる。
- ・有意味学習の特徴を学び、従来の「学習観」を批判できるようになる。
- ・教育評価活動とは何かについて理解できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、授業の概要と教育目標、注意点	シラバスを熟読すること。
第2回	個別的学习とルール学習	ルール学習のすばらしさについて理解すること。 配布されたテキストのプリントを熟読すること。
第3回	ルールを理解するための授業づくり	ルールと事例をどのように学べばルールの理解につながるかを考えること。配布されたテキストのプリントを熟読すること。
第4回	記憶と応用を高めるための教授法	検証法、帰納法、演繹法の違いと効果について理解すること。配布されたプリントを読み返すこと。
第5回	有意味学習と機械的暗記学習	2つの違いを理解し、従来の「学習観」を批判すること。板書された内容について理解すること。
第6回	学習者の「誤った知識」を把握し、その根拠である過去経験を理解して認めることの重要性	過去経験を理解し、認めることの重要性について理解すること。具体的な事例を自分で探したり、調べたりすること。
第7回	学習者がもつ過去経験と教科書からの情報が対立的な関係にある場合、どのような教授法が必要か	「範囲画定」とは何か、理解すること。板書された内容について理解すること。
第8回	家庭科の分野での教授事例	具体的な教材を通して「範囲画定」の有効性について理解すること。配布されたプリントを一読すること。
第9回	発達と教育との関係	ピアジェとヴィゴツキーの理論の違いについて理解すること。立場の違いをノートにまとめること。
第10回	「発達の最近接領域説」の問題点と具体的事例	ヴィゴツキーの理論の問題点を理解し、これまでの援助や指導によってどのような発達が実現したかなどを考え、レポートすること。
第11回	欲求の階層説－自己実現欲求を生み出すためには－	マズロー、ロジャース、フロイトの考えを統合して自己実現欲求を高める方法について考えること。プリント、板書の内容についてよく理解すること。
第12回	教育評価活動とは何か	誰が、何を、何のために評価するのかを理解すること。プリントを一読し、ポイントを説明できるようになること。
第13回	教育評価活動の方法	構成法、比較法、相関法について理解すること。

	プリント、板書の内容を理解すること。
第14回 発達障がい事例	相手の世界にこちらから入り、理解し、認めることの重要性について理解すること。プリント、板書の内容を理解し、自分なりの考えをもてるようになること。
第15回 まとめと補足	疑問点やわからなかった点を明らかにすること。
第16回 試験	これまでの授業の復習をして学びを深めること。

■ 履修上の注意

授業を休まないこと。5回以上欠席の場合は単位を認めない。どうしても休む場合は欠課届けを提出すること。
ノートに講義の内容を記録すること。プリントを配るので、それを入れるファイルを用意すること。

■ 成績評価方法・基準

レポートと試験の結果に基づいて成績を判断する。
レポート20点、試験80点の配分により最終的な成績を決める。

■ 教科書

特に使用しない。毎回、授業前にプリントを配る。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。
伏見陽児・麻柄啓一著「授業づくりの心理学」（国土社）など。

■ 備考

将来、教員採用試験を受験する者は、心理学Ⅰと心理学Ⅱの受講をすすめる。
質問、相談等は授業終了後、またはオフィスアワーで受け付ける。

特別支援教育

(19805)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（8＋16）
対象学科：健専2年・服専2年・美表2年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択
教職に関する科目
大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の抑制及び心身の発達を理解する。
- ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
- ・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容や計画について理解する。
第2回	特別支援学校の教育	テキストを読み、予習・復習をする。
第3回	介護等体験の実際	テキストを読み、予習・復習をする。
第4回	障害のある児童生徒との関わり方①（視覚障害、聴覚障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第5回	障害のある児童及び生徒との関わり方②（肢体不自由、病弱）	テキストを読み、予習・復習をする。
第6回	障害のある児童及び生徒との関わり方③（知的障害、発達障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第7回	障害のある子供の保護者に声当事者の声	テキストを読み、予習・復習をする。
第8回	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	テキストを読み、予習・復習をする。
第9回	期末試験（レポート課題など）	

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度や発言など）を高く評価します。また、グループワークの際に積極的に話し合いに加わるなどの態度についても評価の一助にします。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（20％）、グループワークへの参加態度（20％）、期末試験（60％）で総合的に評価します。

■ 教科書

〔特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア〕
〔全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著〕〔ジアース教育社〕〔1400円〕

■ 参考書

〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時やオフィスアワーに受け付けます。

教育課程論

(19806)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

永 田 和 寛

■ 授業の概要

各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について考える。実際にパフォーマンス課題を作成することをとおして、教育課程編成の実践的な知識・技能の目指す。なお、担当者は高等学校において実務経験のある教員である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。
- ・教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- ・教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	本シラバスをよく読んでオリエンテーションに臨み、次回以降にむけて教科書等の準備をする。
第2回 教育課程とは何か	教科書「序章」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第3回 教育課程の編成原理(1)：生活と科学	教科書「第4章1」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第4回 教育課程の編成原理(2)：領域論	教科書「第4章2～3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第5回 教育課程の編成原理(3)：履修原理	教科書「第4章4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第6回 教育課程の戦後史(1)：経験主義と系統主義	教科書「第2章1～2」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第7回 教育課程の戦後史(2)：教育の現代化と人間性重視	教科書「第2章3～4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第8回 教育課程の戦後史(3)：「新学力」観と「生きる力」	教科書「第2章5～7」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第9回 中間テスト	中間テストに向けて、これまでの授業の内容を復習する。
第10回 教育課程の現代的課題：コンテンツからコンピテンシーへ	教科書「第2章8」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第11回 教育課程の編成(1)：教育目標	教科書「第5章1～2」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第12回 教育課程の編成(2)：教科教育（パフォーマンス課題）	教科書「第5章3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。
第13回 教育課程の編成(3)：教科外教育	教科書「第5章4」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。パフォーマンス課題の作成を進める。
第14回 カリキュラム・マネジメントの進め方	教科書「第6章3」をよく読み、気づいたことやわからなかったことをまとめる。パフォーマンス課題の作成を進める。
第15回 パフォーマンス課題の発表	パフォーマンス課題の発表の準備をする。
第16回 パフォーマンス課題のふりかえり	発表を踏まえてパフォーマンス課題を練り直し、最終レポート課題として提出する。

■ 履修上の注意

連絡や課題提出のためにGoogleクラスルームを使用する。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト（４０％）、最終レポート課題（４０％）、その他授業内の課題（２０％）

以上に基づいて総合的に評価する。

■ 教科書

〔新しい時代の教育課程 第5版〕〔田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵〕〔有斐閣〕〔2, 200円〕

■ 参考書

〔「逆向き設計」実践ガイドブック〕〔奥村好美・西岡加名恵 編〕〔日本標準〕〔2, 420円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

道徳教育の指導法

(19807)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也

■ 授業の概要

道徳教育は学校の教育活動全体を通して進められるものであるが、その要となるのが「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）である。本授業では、道徳教育の理念・歴史に関する学習を通じて、現代における実践的課題を理解するとともに、その課題解決に向けて実践されている「道徳科」の指導法、教材研究や目標・評価のあり方について検討していく。受講者たちと、よりよい道徳教育実践を探究していくための基盤を確認していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・道徳教育の理念や歴史をふまえて、学校における道徳教育の目標と内容を理解している。
- ・児童・生徒の発達に合わせた道徳科の指導方法と指導計画について理解している。
- ・道徳科の特性に合わせた指導法と学習評価のあり方について理解している。
- ・倫理学、心理学などの知見をふまえて、道徳や道徳性について考察することができる。
- ・現代日本における道徳教育の実践的課題を見据えて、道徳科の教材研究、指導案作成ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 はじめに―本授業の目的・内容・方法について	事前：シラバスを確認しておく 事後：プリントに示した本時の授業の流れについて理解する。
第2回 道徳理論の本質と基礎	教科書第1章をよむ 配布資料を精読し課題に取り組む
第3回 道徳性とところ	教科書第2章をよむ 配布資料を精読し課題に取り組む
第4回 道徳教育の目標と内容	教科書第3章をよむ 配布資料を精読し課題に取り組む
第5回 道徳教育の方法と評価	教科書第4章をよむ 配布資料を精読し課題に取り組む
第6回 道徳教育の現代的課題―学習指導要領(2017)「特別の教科 道徳」	学習指導要領をよむ 配布資料を精読し課題に取り組む
第7回 道徳教育の方法1―授業実践分析（読み物教材を用いた授業方法）	読み物教材（「卒業文集最後の二行」（中3））を読み、授業方法を考える 授業内で扱った映像資料を振り返る
第8回 道徳教育の方法2―授業実践分析（社会問題を扱った授業方法）	授業で対象とする（「防災道徳」授業の取り組み1、2）を読んでおく 授業内で扱った映像資料を振り返る
第9回 道徳教育の方法3―中断読み・モラルジレンマの授業提案	教材（「ダン」をどうする？（小6））を精読し、授業を構想してみる 配布資料（スライドを含む）を精読する
第10回 道徳教育の指導案作成1―道徳科の指導計画	教科書第6章を読む 指導案を作成する教材を選んでおく
第11回 道徳教育の指導案作成2―教材研究・授業設計	グループ内で分担した教材研究を進める 授業内容に基づき、指導案作成を進める
第12回 道徳教育の指導案作成3―道徳科の特性と学習評価について	ねらいに基づき、指導案作成を進める 授業内容の視点から指導案を改善する
第13回 模擬授業・授業改善1―ねらいと中心発問の検討	教科書第7章をよむ 授業内容（ねらいと中心発問の検討）の視点から指導案を改善する

第14回 模擬授業・授業改善 3－発問・展開の検討

教科書 8 章をよむ

授業内容（発問・展開の検討）の視点から指導案を改善する。

第15回 総合討論、まとめ

復習をしておく

討論とまとめを通じて考えをまとめる

■ 履修上の注意

第 1 回に必ず出席してください

教科書の購入と予習が必須です

授業内では、適宜ワークショップを取り入れるので、積極的な参加を期待します

■ 成績評価方法・基準

授業内課題への取り組み30%、指導案作成30%、期末課題40%

指導案作成はグループ内での模擬授業も含めて評価の対象とします

■ 教科書

〔道德教育のキソ・キホン 道德科の授業をはじめる人へ〕〔相沢伸幸・神代健彦編〕〔ナカニシヤ出版〕〔2,000円＋税〕

〔中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道德編〕〔文部科学省〕〔教育出版〕〔156円＋税〕

■ 参考書

〔悩めるあなたの道德教育読本〕〔神代健彦・藤谷秀編著〕〔はるか書房〕〔1,800円＋税〕

〔史料 道德教育を考える〔4改訂版〕〕〔波本勝年他編〕〔北樹出版〕〔1,800円＋税〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

(19808)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

須 藤 由 子

■ 授業の概要

特別活動及び総合的な学習の時間の目標、内容、教育課程における位置付けや意義、設立された歴史的背景、変遷等について、学習指導要領の解説書や講師の体験談を通して理解する。学習内容としては、実践事例から題材の見つけ方や取り上げ方を具体的に理解する。学習方法としては、集団活動、話し合い活動の方法、テーマ学習、横断的な学習等の意味や生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について実践的に理解する。学習指導案の作成と発表を行い、実践的指導力を身に付ける。

。教諭として公立小学校で3年間、公立中学校で21年間、11年間の管理職、2年間の教育行政での経験を講義内容に生かす。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け、目標や内容について具体的に理解することができる。
- ・2. 総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に、生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え、表現できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 特別活動の目標と内容を理解する。

解説書特別活動編
P11～P19を読んでくる。

第2回 特別活動の歴史と変遷を理解する。

解説書特別活動編
P5～P10を読んでくる。

第3回 理想の学級とは何かを考える。学級担任の仕事内容を理解する。

解説書特別活動編
P40～P44を読んでくる。

第4回 学級カシートの作成と分析方法を理解する。

事前に配布された資料を読んでくる。

第5回 学級活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。

解説書特別活動編
P40～P44を読んでくる。

第6回 学校行事の目標と内容・指導の在り方を理解する。

解説書特別活動編
P109～P112を読んでくる。

第7回 生徒会活動と部活動の意義と指導の在り方を理解する。

解説書特別活動編
P74～P91を読んでくる。

第8回 話し合い活動の方法を知る（ディベート、ディスカッションなど）。特別活動の学習指導案の作成方法を理解する。

指導案を完成してくる。

第9回 少人数グループで学習指導案について発表し、評価する。特別活動のまとめとしてDVD(合唱)

指導案を完成してくる。

第10回 総合的な学習の時間の背景と実践上の課題を理解する。総合的な学習の時間の目標と意義、計画・実践・評価を理解する。

解説書総合的な学習の時間編
P1～P13を読んでくる。

第11回 SDGsを事例として取り上げ、総合的な時間を体験する。SDGsの内容について、各項目から具体的に理解する。

解説書総合的な学習の時間編
P18～P22を読んでくる。

第12回 各自、総合的な学習の時間の課題の設定を行う。レポート作成の計画立案、資料収集、実践などを行う。

各自の課題の設定とレポートの作成

第13回 各自のレポートの発表 1
質疑・応答・評価

レポートの作成と発表資料の作成、自己評価

第14回 各自のレポートの発表 2
質疑・応答・評価

レポートの作成と発表資料の作成、自己評価

第15回 各自のレポートの発表 3
質疑・応答・評価

レポートの作成と発表資料の作成、自己評価

第16回 特別活動と総合的な学習の時間の総括
類似点と相違点

レポートの完成

■ 履修上の注意

毎時間、教育問題に関する新聞記事を持参し、記事に対する自分の考えをまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・小論文（20％），期末試験（50％），講義中の議論への貢献度合い（30％）を総合して評価する。
- ・授業中にグループディスカッション後、発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 特別活動編〕〔文部科学省〕〔256円＋税〕

■ 参考書

参考資料

〔NEW学級力向上プロジェクト：小中学校のクラスが変わる 学級力プロット図誕生！〕〔今宮信吾、田中博之編著〕〔金子書房〕〔1, 980円〕

■ 備考

質問は授業中及び授業後も受け付けます。東北生活文化大学高等学校入試広報室にいます。

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）（19809）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専2年・服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

清水 禎 文 松 尾 広

■ 授業の概要

教育方法に関する基本的な概念や視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解し、実践できるようにする。

また教育を行う上での必要な情報通信技術の知識・技能を学び、情報機器活用方法を身につける。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・教授論・学習論の基本的な理論と実践を理解する。
- ・教育の目的に適した教育方法・指導技術を理解し、身につける。
- ・情報通信技術の活用の意義を理解し、指導法を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション・教育方法論(情報通信技術を活用した教育の理論と方法を含む)を学ぶ意義 (担当：清水) アクティブ・ラーニング（チームビルディングと学習概念図のワークショップ）	事前学修：講義資料を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第2回	教授論から学ぶ授業の本質（その1） 大村はまの授業論 (担当：清水) アクティブ・ラーニング（ジグソー法）	事前学修：講義資料（荻谷夏子『優劣を越えて大村はま』からの抜粋資料）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第3回	教授論から学ぶ授業の本質（その2） 平野朝久の授業論 (担当：清水) アクティブ・ラーニング（ジグソー法）	事前学修：講義資料（平野朝久『はじめに子どもありき』からの抜粋資料）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第4回	学習指導要領における教授論「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」 (担当：清水)	事前学修：講義資料（学習指導要領と講義資料）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第5回	学習指導案に見られる授業の構成要素 (担当：清水)	事前学修：講義資料（学習指導案と講義資料）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第6回	学習評価の理論と方法（その1） 指導と評価の一体化 (担当：清水)	事前学修：講義資料（『指導と評価の一体化』と講義資料）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第7回	学習評価の理論と方法（その2） 形成的アセスメント (担当：清水)	事前学修：講義資料（中教審諮問とパワーポイント）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第8回	教育方法と学習評価 前半のふり返りとまとめ (担当：清水) アクティブ・ラーニング（目標達成シートによるふり返り）	事前学修：講義資料（パワーポイント）を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第9回	現代社会におけるICTの役割、教育へのICT活用 (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくこと（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClassroomに提出すること。
第10回	主体的・対話的、個別最適な学習へのICT活用	事前学修：講義資料を読んでくこと（90分）。

	(担当：松尾)	事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第11回	ICTを活用した学習指導 (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第12回	遠隔・オンライン教育による学び (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第13回	ICTを活用した校務の推進 (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第14回	情報活用能力の育成 (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第15回	情報モラル・情報セキュリティ (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第16回	学校におけるICTの在り方 (担当：松尾)	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。

■ 履修上の注意

Google Classroom を使用します。講義資料やワークシート、参考文献等は事前にアップします。各自ダウンロードして、予習、復習をしてください。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、試験80%

■ 教科書

授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年度告示）〕〔文部科学省〕 文科省からダウンロード
〔高等学校学習指導要領（平成30年度告示）〕〔文部科学省〕 文科省からダウンロード

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

生徒指導の理論と方法 A（進路指導の理論及び方法を含む。）

(19810)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

永 田 和 寛 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

担当教員は共に中学校・高等学校等の勤務経験を有する実務家教員であり、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	生徒指導・進路指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第2回	校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第3回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（1） ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第4回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（2） ：不登校への対応（佐々木）	生徒指導提要第10章Ⅱを読む
第5回	個別の課題を抱える児童生徒への指導（3） ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第11章を読む
第6回	生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第7回	生徒指導の評価と改善（佐々木）	課題レポートを発表する
第8回	生徒指導の意義と課題（永田）	生徒指導提要（改訂版）第1章1.1・1.2（pp. 12～23）を読む
第9回	生徒指導の方法（永田）	生徒指導提要（改訂版）第1章1.3・1.4・1.5（p. 23～38）を読む
第10回	教育課程における生徒指導の位置づけ（永田）	生徒指導提要（改訂版）第2章（pp. 39～67）を読む
第11回	進路指導の意義と課題（永田）	自分が受けた進路指導の経験をまとめる
第12回	進路指導の進め方 ：ロールプレイを含む（永田）	事前学習課題にとりくむ
第13回	多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅰ ：発達障害（永田）	生徒指導提要（改訂版）第13章13.1（pp. 268～274）を読む
第14回	多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅱ ：家庭への支援（永田）	生徒指導提要（改訂版）第13章13.4（pp. 280～289）を読む
第15回	まとめ：これからの生徒指導のあり方を考える（グループ・ディスカッション）（永田）	授業を振り返り、これからの生徒指導の課題を考え、グループ・ディスカッションの成果をふまえて、レポートにまとめる

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業内の課題とレポート（70%）
- ・発表会での発表内容（30%）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm〕

〔生徒指導提要—令和4年12月—〕〔文部科学省〕〔東洋館出版〕〔990円〕

■ 参考書

〔山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志〕〔新しい時代の生活指導〕〔有斐閣〕〔1,800円〕

■ 備考

- 1) 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- 2) 質問等については授業終了時に受け付けます。

教育相談

(19811)

単位：2

対象学科：健専3年・服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

熊谷 亮

■ 授業の概要

教育相談やスクールカウンセリングにおける心理的諸問題や、発達障害、心理的危機等の事柄をとりあげて、現象の理解と対応の両面から学ぶ(カウンセリングの理解を含む)。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・教育相談やスクールカウンセリングとは、誰が誰に対して、どういったことを行うのかについて体験的に理解する。教育相談に関する基本的な知識を習得し、説明ができるようにする。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 教育相談の歴史と現状

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第2回 学級集団の理解

事前：教科書のⅡ・第10章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第3回 学校の中の人間関係

事前：教科書のⅡ・第11章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第4回 学校不適応と心理的危機

事前：教科書のⅡ・第14章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第5回 不登校の理解と対応（1）

事前：教科書のⅡ・第13章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第6回 不登校の理解と対応（2）

事前：教科書のⅡ・第6章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第7回 いじめの理解と対応（1）

事前：教科書のⅡ・第5章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第8回 いじめの理解と対応（2）

事前：教科書のⅡ・第4章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第9回 発達障害と発達支援（1）

事前：教科書のⅡ・第8章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第10回 発達障害と発達支援（2）

事前：教科書のⅠ・第11章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第11回 児童青年期と精神疾患（1）

事前：教科書のⅠ・第12章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第12回 児童青年期と精神疾患（2）

事前：教科書のⅠ・第10章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第13回 教育相談とカウンセリング（1）

事前：教科書のⅠ・第9章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

第14回 教育相談とカウンセリング（2）

事前：教科書のⅡ・第12章を読み、指定されたキーワードを調べる

事後：授業後に課される復習テストに取り組む

■ 履修上の注意

毎回の授業の予習・復習内容は以下の通りです。

■ 成績評価方法・基準

1. 毎回の授業終了時に課す小テスト (50%)
2. 最終試験 (50%)

■ 教科書

書名：教職課程コアカリキュラム対応版キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育

著者名：橋本創一ほか

出版社：福村出版

発行年：2020年

価格：2, 970円（税込）

■ 参考書

書名：生徒指導提要—令和4年12月—

著者名：文部科学省

出版社：東洋館出版社

発行年：2023年

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む。）

（ 19812 ）

単位：5

対象学科：服専4年・美表4年

授業形態：実習 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也 植 松 公 威 永 田 和 寛

■ 授業の概要

中学校教諭一種免許状の取得を目指し、3週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
- ・2. 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
- ・3. 実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
- ・4. 生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。
- ・5. 学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第2回	事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第3回	事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第4回	事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第5回	教育実習（15日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第6回	事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第7回	事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第8回	事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第9回	事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

教育実習Ⅰは、中学校教諭一種免許状取得に向けたものである

事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取り組み状況10%

実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%

教育実習レポート20%

評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する
課題とレポートはフィードバックを行う

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること

■ 参考書

なし

■ 備考

教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること
事前指導への取り組み状況によっては実習を取りやめることがある
質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける

教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む。）

（ 19813 ）

単位：3

対象学科：服専4年・美表4年

授業形態：実習 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也 植 松 公 威 永 田 和 寛

■ 授業の概要

高等学校教諭一種免許状の取得を目指し、2週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
- ・2. 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
- ・3. 実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。
- ・4. 生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。
- ・5. 学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第2回	事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第3回	事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第4回	事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第5回	教育実習（10日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第6回	事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第7回	事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第8回	事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第9回	事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

教育実習Ⅱは、高等学校教諭一種免許状取得に向けたものである

中学校教諭一種免許状と両方の取得を目指す場合は、教育実習Ⅰを受講登録すること

事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取り組み状況10%

実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%

教育実習レポート20%

評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する
課題やレポートはフィードバックを行う

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること

■ 参考書

なし

■ 備考

教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること

事前指導への取り組み状況によっては実習を取りやめることがある

質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける

教職実践演習（中・高）

（ 19814 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専4年・美表4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

山 口 刀 也 植 松 公 威 永 田 和 寛

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。介護等体験、教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。教育実習時の指導案の見直しなど研究授業等を再検討した上で教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・2. 生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。
- ・3. 学習指導の基礎的理解・基本的方法を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 履修上の諸注意	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第2回 教職課程履修科目の確認と省察等	既学習した教職専門科目を復習しておく
第3回 教職の意義、教員の使命、教員の職務等について（討議、検討）	「教職概論」の講義内容を復習すること
第4回 教育実習における教科指導の諸問題（ロールプレイングを含む）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第5回 教育実習における生徒指導の諸問題（ロールプレイングを含む）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第6回 教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第7回 教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第8回 教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第9回 学校をめぐるの昨今の状況（講義）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第10回 教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の検討	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第11回 教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第12回 教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと
第13回 教育実習報告会の発表資料の作成	関連資料を読んでおくこと
第14回 教育実習報告会の予行	発表資料を作成し発表リハーサルを実施すること
第15回 教育実習報告会（発表）と教員の講評	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する
本科目はオムニバス形式で実施する。担当者は山口、植松、永田

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30％
課題への取り組み30％
実習報告会の発表40％
課題については授業で講評を行う
評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

各種学習指導要領

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーのみ受け付ける

生徒指導の理論と方法B

(19815)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

教職に関する科目

永 田 和 寛 佐々木 晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。

担当教員は共に中学校・高等学校等の勤務経験を有する実務家教員であり、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。
- ・生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。
- ・学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 生徒指導の指導体制（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第2回 校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第3回 個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応（佐々木）	生徒指導提要第4章を読む
第4回 個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応（佐々木）	生徒指導提要第10章Ⅱを読む
第5回 個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応（佐々木）	生徒指導提要第11章を読む
第6回 生徒指導と家庭・地域との連携（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第7回 生徒指導の評価と改善（佐々木）	課題レポートを発表する
第8回 生徒指導の意義と課題（永田）	生徒指導提要（改訂版）第1章1.1・1.2（pp. 12～23）を読む
第9回 生徒指導の方法（永田）	生徒指導提要（改訂版）第1章1.3・1.4・1.5（p. 23～38）を読む
第10回 教育課程における生徒指導の位置づけ（永田）	生徒指導提要（改訂版）第2章（pp. 39～67）を読む
第11回 生徒指導と教育相談（永田）	生徒指導提要（改訂版）第3章3.3・3.4（pp. 80～96）を読む
第12回 食育における相談指導（永田）	食に関する指導の手引（第二次改訂版）第6章（pp. 234～251）を読む
第13回 多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅰ ：発達障害（永田）	生徒指導提要（改訂版）第13章13.1（pp. 268～274）を読む
第14回 多様な背景を持つ児童生徒の理解Ⅱ ：家庭への支援（永田）	生徒指導提要（改訂版）第13章13.4（pp. 280～289）を読む
第15回 これからの生徒指導のあり方を考える ：グループ・ディスカッション（永田）	授業を振り返り、これからの生徒指導の課題を考え、グループ・ディスカッションの成果をふまえて、レポートにまとめる。

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

- ・授業内の課題とレポート（70％）
- ・発表会での発表内容（30％）

授業内課題については、授業中にフィードバックします。

レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm〕

〔生徒指導提要—令和4年12月—〕〔文部科学省〕〔東洋館出版〕〔990円〕

■ 参考書

〔山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志〕〔新しい時代の生活指導〕〔有斐閣〕〔1, 980円〕

〔食に関する指導の手引（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm〕

■ 備考

栄養教育実習事前事後指導

(19816)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也 嶋 原 美智子 永 田 和 寛

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の栄養教育実習に向けた学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 栄養教諭の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
- ・2. 生徒の実態等を踏まえて、栄養指導案を作成し、実践することができる。
- ・3. 栄養指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	事前指導①（講義） 栄養教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第2回	事前指導②（講義） 栄養教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第3回	事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第4回	事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第5回	事後指導①（講義） 栄養教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第6回	事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第7回	事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第8回	事後指導④（講義） 栄養教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

事前・事後指導の受講状況と課題への取り組み状況30%

栄養教育実習レポート70%

課題とレポートの講評は授業内で行う

評価にあたり、「到達目標」に記載した各項目の達成度を基準とし尺度は授業内で周知する

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること

■ 参考書

なし

■ 備考

栄養教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること
事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある
質問等は授業終了時またはオフィスアワーに受け付ける

栄養教育実習

(19817)

単位：1
対象学科：健専4年
授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択
教職に関する科目
山口 刀 也 嶋 原 美智子 永 田 和 寛

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の教育実習を行う。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 実習を通して、学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。
- ・2. 授業参観や実践授業を行うことにより、教材研究や指導技術の具体的方法を理解する。
- ・3. 各種活動を通して児童・生徒と直接触れ合うことにより、栄養教諭に求められる役割を理解する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 教育実習（5日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習に必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
---	---

■ 履修上の注意

栄養教育実習は、栄養教諭一種免許状取得に向けたものである
事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと

■ 成績評価方法・基準

実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等80%
教育実習レポート20%
いずれもフィードバックをおこなう

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書

なし

■ 備考

教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
事前指導への取り組み状況によっては実習を取りやめることがある。
質問等は授業終了時、またはオフィスアワーに受け付ける。

教職実践演習（栄養教諭）

（ 19818 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：健専4年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

教職に関する科目

山口 刀 也 嶋 原 美智子 永 田 和 寛

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭として求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。栄養教育実習時の指導案や研究授業等を再検討した上で栄養教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。
- ・2. 学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。
- ・3. 学校という教育機関の一員として他の教職員と協力して職務を遂行できる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 履修上の諸注意

既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える

第2回 教職課程履修科目の確認と省察等

既学習の教職専門科目を復習しておく。

第3回 栄養教諭の意義、教員の使命、教員の職務等について（講義）

「教職概論」の授業内容を復習すること。

第4回 食育に関する諸問題（学校給食を中心に）について（講義）

授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。

第5回 学校給食の歴史と実情、給食指導について（講義）

授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。

第6回 教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）

授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。

第7回 教育経験者による講義（主として教科指導、道德教育について）

授業内容に関する課題を期限までに提出すること。

第8回 教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）

授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。

第9回 学校をめぐる昨今の状況（講義）

授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。

第10回 栄養教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の開催

教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。

第11回 栄養教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討

教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。

第12回 栄養教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討

教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。

第13回 栄養教育実習報告会の発表資料の作成

資料を読んでおくこと。

第14回 栄養教育実習報告会の予行

発表資料を作成すること、発表リハーサルを実施すること。

第15回 栄養教育実習報告会（発表）と教員の講評

発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

1 回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）30%

課題への取り組み30%

実習報告会の発表40%

課題については授業で講評を行う

■ 教科書

授業前に資料を配布する

■ 参考書

食に関する指導の手引き

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーにのみ受けつける受け付ける

家庭科教育法Ⅰ

(19819)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）
対象学科：服専3年
授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択
教職に関する科目
小野寺 泰 子

■ 授業の概要

家庭科教育の意義、中学校技術・家庭科（家庭分野）及び高等学校家庭科の特質、目標・内容について背景学問と関連させて理解を深め、各学校段階における系統性を踏まえた授業設計と実践に向けた力の育成を目指す。教科内容の学習方法・教材研究方法・教科評価等を学ぶことで、受講生が指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業をとおして授業実践に向けた指導の在り方について理解できるようにする。これらについて、学校現場における教員・管理職等の実務経験や家庭科教員養成の経験を生かし、実践的・体験的な授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・家庭科学習指導要領における中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標及び内容を理解し、学習指導計画や指導案の作成・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。
- ・模擬授業の構想・実践をとおして、目標の設定、教材の選定、授業を進めるための指示や発問等の指導技術を身に付ける。
- ・自ら考える家庭科授業で取り上げる教材について分析したり作成したりしながら、目的に合う選択ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（シラバス、評価等についての説明） 家庭科教育の意義、家庭科教育における教師	学習指導要領の基本方針を読む
第2回	家庭科教育の歴史的変遷と展望	家庭科教育の変遷について調べる
第3回	小・中・高等学校の教育課程 小学校家庭科の目標と内容、学習指導方法	小学校家庭科での学びについてまとめる
第4回	中学校技術・家庭科（家庭分野）の目標と内容、学習指導方法	中学校技術・家庭科（家庭分野）での学びについてまとめる
第5回	高等学校家庭科の目標と内容、学習指導方法	高等学校学校家庭科での学びについてまとめる
第6回	家庭科教育の学習指導、他教科等との関連 情報機器の活用、SDGsとの関わり	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第7回	家庭科教育の評価（目的と対象、手順、具体例）	学習指導要領、教科書の関連部分を読み、評価についてまとめる
第8回	中学校技術・家庭科（家庭分野）年間指導計画作成の意義、手順等	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第9回	年間指導計画の作成①	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第10回	年間指導計画の作成②	学習指導要領、教科書の関連部分を読む
第11回	中学校技術・家庭科（家庭分野）の教材研究① （教材の製作）	教材の製作
第12回	中学校技術・家庭科（家庭分野）の教材研究② （教材の製作）	教材の製作
第13回	中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案作成について（形式、留意点等）	これまでの家庭科授業の学びのまとめをする
第14回	中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案の作成①	各自が作成した年間指導計画に則った学習指導案の作成
第15回	中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案の作成②、提出	各自が作成した年間指導計画に則った学習指導案の作成
第16回	中学校技術・家庭科（家庭分野）学習指導案作成発表	学習指導案の説明準備
第17回	模擬授業①（導入～まとめ）板書含む	模擬授業の準備（発問、指示等の確認）
第18回	模擬授業②（導入～まとめ）板書含む	模擬授業の準備（発問、指示等の確認）
第19回	模擬授業③（導入～まとめ）板書含む	模擬授業の準備（発問、指示等の確認）
第20回	模擬授業④（導入～まとめ）板書含む	模擬授業の準備（発問、指示等の確認）
第21回	模擬授業⑤（導入～まとめ）板書含む	模擬授業の準備（発問、指示等の確認）
第22回	模擬授業の振り返り、学習指導案の見直し	感想をレポートにまとめる

第23回	高等学校家庭科の教材研究① 教材作成上の留意点	内容AまたはCの教材調査（アクティブラーニング）
第24回	高等学校家庭科の教材研究② 教材作成上の留意点	内容Bの教材調査（アクティブラーニング）
第25回	高等学校家庭科教材調査の発表	発表プレゼンテーション準備
第26回	高等学校家庭科学習指導案の作成①	題材を決め、本時の指導を構想する
第27回	高等学校家庭科学習指導案の作成②	ワークシート、板書を考える
第28回	高等学校家庭科学習指導案作成発表（提出）	学習指導案の説明準備
第29回	家庭科教育の課題と展望	家庭科教育の変遷について確認する
第30回	これまでの学習のまとめと試験	これまでの学びをまとめる

■ 履修上の注意

- ・自らが家庭科の授業を行うことを想定し指導力を身に付けるため、小・中・高等学校の家庭科教科書及び指導要領の精読を心がけること。
- ・自身がなりたいたい姿を思い描きながら意欲的に受講し、指示された提出物は期限を守ること。

■ 成績評価方法・基準

- ・授業への真摯な取組を重視する。
- ・平常点・受講態度(遅刻や無断欠席をしない、授業への積極的参加、ミニットペーパーへの記入等) 30%、レポート提出・試験 30%、学習指導案提出及び模擬授業 40%で評価する。
- ・課題については、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

- ・〔新家庭科教育法〕〔池崎喜美恵・仙波圭子・青木幸子・小林陽子・野上遊夏・室雅子 共著〕〔学文社〕〔2, 970円〕
- ・〔中学校 教科書『技術・家庭（家庭分野）〕〔開隆堂〕〔680円〕
- ・〔高等学校 教科書『家庭基礎』令和4年度版〕〔開隆堂〕〔535円〕

※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

- ・〔小学校学習指導要領解説 家庭編〕〔東洋館出版社〕〔95円〕
- ・〔中学校学習指導要領解説 技術・家庭編〕〔文部科学省〕〔開隆堂〕〔143円〕
- ・〔高等学校学習指導要領解説 家庭編〕〔文部科学省〕〔教育図書〕〔462円〕
- ・〔「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭〕〔文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター〕〔東洋館出版社〕〔1, 200円〕
- ・〔「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭〕〔文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター〕〔東洋館出版社〕〔1, 600円〕

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番を変更することがある。
- ・毎回の授業時にパソコンを持参すること。Google Classroom上で資料や課題の提示、課題提出受付等を行う。
- ・質問等については授業終了後に受け付ける。

家庭科教育法Ⅱ

(19820)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60＋120）
対象学科：服専4年
授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択
教職に関する科目
石川りか

■ 授業の概要

家庭科教育法Ⅰで学んだ内容をさらに深めながら、学校教育において家庭科を学ぶ意義と学校段階間のつながりを踏まえた中学校「技術・家庭」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業実践力の修得を目指す。そのための学習計画・指導法・学習評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習能力と態度を育成する。また現代を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導の在り方について理解を深める。高等学校家庭科教員の経験を生かして、アクティブラーニング形式で授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・ 中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で指導案を計画し、それに基づいた模擬授業を実践できる知識・技能を持って、実践し学習評価することができる。
- ・ 中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で教材研究・教材教具を作成し、充実した授業内容にするよう努力できる。
- ・ 家庭科教育の歴史的背景を踏まえながら、今後の教科の方向性についても真摯に取り組むことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：年間予定 教育実習確認 模擬授業実践計画	シラバスの確認 中学・高等学校学習指導要領の示す家庭科教育についてまとめる
第2回	教育実習：教育実習事前指導 ①シラバス	中学・高校それぞれの授業の『年間計画』について調べてまとめる
第3回	教育実習：教育実習事前指導 ②教材研究・指導案	教育実習で行う学校の（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめる
第4回	教員採用試験にむけて①・指導細案作成方法	前回の教材研究・指導案をさらに深める
第5回	模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究についての資料を集めて、具体的に教材を作成し、次回提出
第6回	情報機器の操作と活用法	情報機器についての操作と活用方法について、具体的な活用方法を調べまとめる
第7回	模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成
第8回	模擬授業Ⅰ：模擬授業実践②（まとめと板書の工夫）	模擬授業内容のポイントをまとめ、板書すべきことをまとめる
第9回	模擬授業Ⅰ：模擬授業実践③（評価の工夫）	学習評価についてまとめる
第10回	模擬授業Ⅰ：模擬授業実践④（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるように準備
第11回	教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてアンケート用紙を作成
第12回	教育実習研究授業実践発表会・評価（中学校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する①
第13回	教育実習研究授業実践発表会・評価（高等学校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する②
第14回	模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて②	教員採用試験に向けての準備・集団面接練習
第15回	指導案・授業構成 まとめ 試験	前半のまとめ 夏季休業中の『課題』説明
第16回	学習指導計画：体験・実習・実験学習指導法	学習指導計画表の作成 課題確認
第17回	実践学習指導(1)：実践学習の進め方（保育・福祉分野）	体験学習授業時の注意・進め方・工夫
第18回	実験・実習学習指導の進め方①：食物分野	食物分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第19回	実験・実習学習指導の進め方②：衣生活分野	衣生活分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第20回	模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）	模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）
第21回	模擬授業Ⅱ（食物分野）：実験学習指導①	授業内容のタイムテーブルを作成・導入

第22回 実験学習指導②（展開の工夫・山場・板書）	学習プリントの作成 実習教材作成・試作・レポートを作成し提出する
第23回 実践学習指導（2）（食物・食文化）	日本の食文化 『マイ箸』製作 感想レポートを提出
第24回 実践学習指導（3）（被服 基礎）	被服製作
第25回 実践学習指導（4）（被服 応用）	被服製作
第26回 実践・実験学習指導（実習・学習プリント）	中学・高校それぞれに対応する学習プリントの作成、提出
第27回 模擬授業Ⅲ（視聴覚教材の活用）	視聴覚教材を活用した授業実践
第28回 模擬授業Ⅳ（各種パンフレットの活用）	各種パンフレットを使用した授業実践
第29回 家庭科教育の変遷と歴史	家庭科教育の変遷について確認
第30回 これまでのまとめ 今後の家庭科教育の方向性	模擬授業Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの感想をレポートにまとめる

■ 履修上の注意

- ・受講は、自分が授業を行うことを想定し指導する実践的指導を身につけるためにも、教科書（小学・中学・高校）・学習指導要領の精読を心掛ける。
- ・家庭科の内容は多岐にわたり、日々変化している内容もあります。生きること、生活すること、社会の動きに常に敏感で好奇心を持つ。さらに、日常生活を楽しみながら理論的に考え実践する態度や意欲が重要である。

■ 成績評価方法・基準

講義への取り組み状況40％ 試験30％ 模擬授業の実践30％（学習指導計画案、指導技術、態度等）

■ 教科書

〔新家庭科教育法〕〔池崎喜美恵・仙波圭子・青木幸子・小林陽子・野上遊夏・室雅子 共著〕〔学文社〕

〔2, 970円〕

〔中学校 教科書 技術・家庭（家庭分野）（令和3年度版）〕〔開隆堂〕〔680円〕

〔高等学校 教科書 家庭総合（令和4年度版） 自立・共生・創造〕〔東京書籍〕〔806円〕

※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する

〔小学校学習指導要領解説 家庭編〕〔東洋館〕〔95円〕

〔中学校学習指導要領解説 技術・家庭編〕〔文部科学省／編 教育図書〕〔82円〕

〔高等学校学習指導要領解説 家庭編〕〔文部科学省（著）〕〔288円〕

〔高等学校 教科書 家庭基礎（令和4年度版） 自立・共生・創造〕〔東京書籍〕〔596円〕

■ 備考

- ・やむを得ない事由により、欠席することが事前にわかっている場合は必ず申告すること。
- ・授業終了時に質問を受け付ける。
- ・レポートの提出は次回提出を原則とするが、都合により当日の提出となることもある。
提出されたレポートは、後日添削して返却する。
- ・都合により、授業計画の順番を変更することがある。
- ・実験実習を行う場合、それに伴う諸経費を徴収することもある。

美術科教育法Ⅰ

(19821)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（30＋60）

対象学科：美表3年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

横 山 美喜子

■ 授業の概要

中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念についての理解を図る。学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意味について理解を図る。授業を展開するための基礎的な指導理論や、表現及び鑑賞の幅広い活動における創造的な技能を育成する指導方法の修得を図る。教員としての実務経験を生かし、より具体的な教材研究や模擬授業に関する指導を行い、4年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念について理解する。
- ・学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意義について理解する。
- ・題材における教材としての価値を把握し、具体的授業を想定した授業計画を立てて、学習指導案の作成を行う。
- ・授業を展開するための基礎的な指導理論に基づき、指導する上での留意点を理解し、模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し、授業改善の視点を理解する。
- ・4年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養い、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身に付ける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、1年間の講義を通して、身に付けるべきことを知る。	配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。
第2回	教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則といった法律に定められた学校教育の理念を理解する。	学校教育の理念について、講義内容を理解・把握する。
第3回	学習指導要領について①（学習指導要領とは何か）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第4回	学習指導要領について②（中学校美術科と小学校図画工作科）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第5回	中学校学習指導要領について③（中学校美術科の目標について）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第6回	中学校学習指導要領について④（中学校美術科の内容について）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第7回	教科書について①（教科書の在り方）	取り上げた題材に関わる中学校美術の教科書の内容及びレジュメを熟読しておく。
第8回	教科書について②（授業を考える。オープンな教育リソースとして教科書会社のホームページを活用する。）	教科書会社の資料などを熟読しておく。
第9回	学習指導案について①（指導案の様式と内容）	指導案のそれぞれの項目とその内容についてレジュメを熟読しておく。
第10回	学習指導案について②（指導案を書く） ・題材について ・教材研究	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第11回	学習指導案について③（指導案を書く） ・題材の評価規準 ・指導計画	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第12回	学習指導案について④（指導案を書く） ・本時の指導 ・ICTの活用	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第13回	学習指導案について⑤（ワークシート等を含む指導案の完成・提出）	模擬授業の準備を始める
第14回	模擬授業について① ・模擬授業の実践のために指導案の内容をより実践的に深める。	中学校での美術の学習を思い出しながら、授業の構想を練る。
第15回	模擬授業について② ・発問など授業の具体を考える。模擬授業の授業日の決定	中学校での美術の学習を思い出しながら、授業の展開を考える。
第16回	模擬授業1 ・グループ内で、互いの授業を見合う。（アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	模擬授業のリハーサルをしておく。

第17回	模擬授業 2 ・ポスターセッション方式で、他のグループの授業も見て、検討会に参加する。（アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	模擬授業のリハーサルをしておく。
第18回	模擬授業 3（全体で模擬授業を振り返る。）	配布された全員の指導案に目を通しておく。
第19回	「鑑賞」の学習指導案作成① ・「表現」と「鑑賞」の指導案の違い（オープンな教育リソースとして教科書会社のホームページを活用する。）	中 1～3 の教科書をよく読み、鑑賞の題材から自分が授業を行いたい題材を選んでおく。
第20回	「鑑賞」の学習指導案作成② ・美術と道徳との関連について	前回以上のよい指導案を目指して準備を始める。
第21回	「鑑賞」の学習指導案作成③ ・例となる実際の授業の概要を知る。	授業で使用する資料や参考作品について考える。
第22回	「鑑賞」の学習指導案作成④ ・例となる実際の授業の指導案のポイントを知る。	授業の中での自分なりの工夫を考える。
第23回	「鑑賞」の学習指導案作成⑤（指導案の完成・提出）	全員の指導案に目を通しておく。
第24回	模擬授業 4 ・グループ内の全員で短い時間の模擬授業を行う。（アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回	模擬授業 5 ・グループの代表者の授業を全員で受け、検討会を行う。（アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第26回	高等学校の学習指導要領について① ・芸術科（美術）と美術科の違い ・中学校美術科との違い	高校の美術の授業の内容を振り返る。
第27回	高等学校の学習指導要領について② ・芸術科（美術）の目標と内容	指導要領を熟読しておく。
第28回	高等学校 芸術科（美術）の教科書について	高校の教科書のの抜粋を熟読しておく。
第29回	高等学校 芸術科（美術）の指導案について	中学校美術科の指導案の様式と比べておく。
第30回	1 年間の授業のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認する。

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。
- ・本科目は中一種免（美術）、高一種免（美術）取得のための必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

- ・レポート・提出物（学習指導案他）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）
- ・試験は3 1 週目に実施します。
- ・提出されたレポート等は、後日添削して返却します。
- ・各回のミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックします。
- ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評を行います。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年告示 文部科学省〕〔115円〕
 〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年告示 文部科学省〕〔495円〕
 その他、授業毎に適宜、テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布します。

■ 参考書

〔中学校美術教科書〕〔日本文教出版〕〔1, 000円前後〕, 〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕
 〔日本文教出版HP〕<https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/c-bi/>

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

美術科教育法Ⅱ

(19822)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（30＋60）

対象学科：美表4年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択

教職に関する科目

横 山 美喜子

■ 授業の概要

美術科教育法Ⅰの学修をふまえ、美術科教員としての実践力を高めることをねらいとする。指導案の作成においてはより具体的かつ実践的に、教材の分析や生徒の実態の把握、指導法の工夫を行い、現場に即した内容となるよう指導していく。模擬授業の展開にあたっては、グループの中で互いに授業を見合い、意見を交換し合うなどして、授業の内容をより深めていけるよう指導する。教員としての実務経験を生かし、美術指導における「指導と評価」のあり方や美術教育の意義やねらいについて、自己の考えをしっかりともつことができるように指導していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・美術科における効果的指導力の向上を目指し、学習指導要領の全体構造を理解、把握する。
- ・中学校3年間で身に付けさせたい美術の力を理解し、年間指導計画を作成することができる。
- ・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していく力を身に付ける。
- ・美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。
- ・美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用する力を身に付ける。
- ・美術教育の持つ意義と目標を理解し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション。年間の学修計画を知り、見通しをもつ。	配布されたレジュメによく目を通し、ファイリングを始める。
第2回	教育実習に向けて①（実習校の概要、美術科の年間指導計画を知り、中心授業の内容について考える。）	実習校のHPなどから、学校の概要について調べておく。
第3回	教育実習に向けて②（授業の三要素について）	実習校でのオリエンテーションでわかったことを整理しておく。
第4回	教育実習に向けて③（学習指導案の書き方を確認する。）	美術科教育法Ⅰで学んだ指導案の書き方の復習と確認を行う。
第5回	教育実習に向けて④（指示された中心授業に関する指導案を作成する。）	授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。
第6回	教育実習に向けて⑤（学校現場の状況と実習生に対する一般的な対応について伝える。）	美術の授業以外での留意点なども確認する。
第7回	実習報告①受講生全員の報告ができるよう3回に分けて報告会を行う。（実習全般の様子と美術の中心授業の内容の報告及び他の受講者との質疑応答を行う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第8回	実習報告②（実習全般の様子と中心授業の内容の報告及び他の受講者との質疑応答を行う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第9回	実習報告③（実習全般の様子と中心授業の内容の報告及び他の受講者との質疑応答を行う。アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第10回	指導案の作成①（実習での中心授業の指導案の振り返りを行う。教材研究を深め生徒の実態をさらに詳しく把握する。）	指導対象の生徒を想定しておく。
第11回	指導案の作成②（実習を終えた段階でのやってみよう授業の指導案を作成する。オープンな教育リソースとして、教科書会社のホームページを活用する。）	指導の流れを想定しておく。
第12回	指導案の作成③（ICTの活用を工夫する。）	指導上の技術について考える。

第13回	指導案の作成④（指導案の完成・提出）	間に合わない場合は課題とする。
第14回	指導案の振り返り①（チェックされた内容を確認し、より良い形にする。）	さらに工夫できる点はないか考える。
第15回	指導案の振り返り②（具体的な指導の場面を想定し、さらに内容を深める。）	さらに工夫できる点はないか考える。
第16回	模擬授業①（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第17回	模擬授業②（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第18回	模擬授業③（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	他の受講者の授業を見て自分だったらどうするか考える。
第19回	教育技術に関するチェックシートに沿って、自分の授業を振り返る。	これまでの授業についても振り返る。
第20回	指導案の作成①（ICTを必ず活用し、まだ作っていない領域の指導案を考える。）	最後の指導案作成の題材を選択する。
第21回	指導案の作成②（道徳との関連について考える。）	道徳と美術のこれまでの指導案における関連を振り返る。
第22回	指導案の作成③（カリキュラムマネジメント、SDGsなど現代的課題と美術との関連を生かした授業について知る。）	現代的課題と美術のこれまでの指導案における関連を振り返る。
第23回	指導案の作成④（指導案の提出、完成）	間に合わない場合は課題とする。
第24回	模擬授業①（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回	模擬授業②（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第26回	模擬授業③（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施） （アクティブラーニングとして、プレゼンテーション及びグループ・ディスカッションを行う。）	自他の模擬授業から学んだことを振り返り、美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
第27回	年間指導計画の作成について①（学習指導要領から）	学習指導要領における年間指導計画作成に関する記述を熟読しておく。
第28回	年間指導計画の作成について②（教科書会社の資料から）	教科書会社の資料における年間指導計画に関する記述を熟読しておく。
第29回	年間指導計画の作成について③（中学校美術科の全学年の年間指導計画を作成する。）	自校独自のものとなる要素（地域性や行事との関連など）について考えておく。
第30回	1年間の振り返りと美術教師としての心構えについて	配布された全レジュメのファイリングを確認

■ 履修上の注意

- ・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき、受講の際は必ず持参すること。
- ・自主的、意欲的に受講し、講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で提出すること。
- ・本科目は中一種免（美術）取得のための必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

- ・レポート・提出物（学習指導案・年間指導計画他）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）
- ・試験は31週目に実施します。
- ・提出されたレポート、指導案等は、後日添削して返却します。
- ・各回のミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックします。
- ・模擬授業演習は、授業でのフィードバックと紙面による講評を行います。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説 美術編〕〔平成29年度告示 文科省〕〔115円〕

〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔平成30年度告示 文科省〕〔495円〕

＊上記2点は3年次に購入のものを継続使用

＊その他、授業毎に適宜、テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布します。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日 文 出 版〕〔1, 000円前後〕, 〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕

＊ 3 年次に購入のものを継続使用

〔日本文教出版HP〕<https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/c-bi/>

■ 備考

質問については、授業終了時に受け付けます。

工芸科教育法

単位（総授業時間＋自習時間）： 4（60＋120）
対象学科：美表3年
授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択
教職に関する科目
市川 寛也 松島 さくら子 山本 玲央

■ 授業の概要

「高等学校学習指導要領解説」の「工芸」に関する理解を促し、工芸科教育の内容・目標・指導・評価に関する基礎的知識と指導及び教材開発能力を育成する。その際、中学校美術科の表現領域における工芸分野との接続についても意識しながら工芸の授業を構想することができるようになることを目指す。講義及び演習課題や模擬授業の実践をととして、学習指導案の作成力と授業実践力を高める。工芸科教育の可能性について示唆を与える。

■ 授業の到達目標

①学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。	学位授与の方針との関連
②学習指導要領解説（工芸）に示された教科の目的や内容を理解する。	
③具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。	

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 授業全体のガイダンス（工芸科教育法の目的など）	ワークシートへの記入（事後学習）
第2回 教科としての「工芸」の成立について（学習指導要領の変遷）	中学校学習指導要領（美術編）に予め目を通しておくこと（事前学習）
第3回 中学校美術科表現領域工芸分野を想定した授業の体験 ジオラマの技法で庭をつくる	制作過程のまとめおよびふりかえり（事後学習）
第4回 工芸分野を踏まえた授業（ワークショップ）の構想 次回の授業に向けた課題の提示	授業全体のふりかえり（事後学習）
第5回 身近にあるものから工芸の鑑賞について考える	前時に課題を提示する（事前学習）
第6回 地域と工芸の関係性―東北地方を中心に	前時に課題を提示する（事前学習）
第7回 地域性を生かした工芸の授業のつくりかた	ワークシートへの記入（事後学習）
第8回 工芸分野を踏まえた授業（ワークショップ）に向けたグループワーク	企画書の作成（事後学習）
第9回 工芸の概念と工芸のなりたち・地域の工芸について	ワークシートによる復習
第10回 アジアや世界の遺産と工芸	日本やアジアの伝統工芸についての情報を収集
第11回 機能を満たした工芸制作〈表現〉 アイデアスケッチ	教材として扱うことを前提に、身近な工芸作品 やプロダクトデザインを観察
第12回 機能を満たした工芸制作〈技術〉 用具の取り扱い	ワークシートによる復習
第13回 機能を満たした工芸制作〈技術〉 木地の加工	ワークシートによる復習
第14回 機能を満たした工芸制作〈鑑賞〉 木地の漆塗りとパッケージ 相互鑑賞	教材として扱うことを前提に、身近なパッケージ デザインを観察
第15回 アジアや世界の遺産と工芸 課題発表	課題の相互鑑賞とコメントによる復習
第16回 授業（ワークショップ）案のプレゼンテーション	企画書の作成（事前学習） ワークシートへの記入（事後学習）
第17回 学習指導案の書き方（目的と方法の明確化）	ワークシートへの記入（事後学習）
第18回 デモンストレーション（模擬授業）	デモンストレーションに必要な用具・材料について 予め準備しておくこと（事前学習）

第19回	デモンストレーション（模擬授業）のふりかえり	学習指導案の作成（事後学習）
第20回	授業（ワークショップ）の準備 ※金ヶ崎芸術高等学校で実施	必要な用具・材料の準備（事前学習）
第21回	授業（ワークショップ）の実践 1 ※金ヶ崎芸術高等学校で実施	記録のまとめ（事後学習）
第22回	授業（ワークショップ）の実践 2 ※金ヶ崎芸術高等学校で実施	記録のまとめ（事後学習）
第23回	授業（ワークショップ）実践のふりかえり ※金ヶ崎芸術高等学校で実施	ワークシートへの記入（事後学習）
第24回	「学校教材で扱われる工芸素材について 「素材と用具」「設備」「手順と技法」の概説	ワークシートによる復習（事後学習）
第25回	発想を導く（工芸と表現）① 制作のためのアイデアスケッチ／図面作成	デッサン・図面作成のために必要な用具の準備 （事前学習）
第26回	発想を導く（工芸と表現）② 制作のための図面作成／相互鑑賞	木材の種類や性質、加工の用具などについて調 べておく（事前学習）
第27回	教材開発と目標設定① 工芸素材を用いた授業プログラムの作成	興味を持っている工芸素材とその加工技術、装 飾技法についての情報を収集しておく（事前学 習）
第28回	教材開発と目標設定② 工芸素材を用いた授業プログラムの作成：ICTの活用	授業のオリエンテーションを想定した資料をパ ワーポイントで作成するので、基本的な使用方 法を学んでおく（事前学習）
第29回	年間指導計画の作成①	前回の授業で作成した授業プログラムを年間計 画に組み込むことを念頭に置いておく（事前学 習）
第30回	年間指導計画の作成②／発表	一年間のふりかえり（事後学習）

■ 履修上の注意

無断遅刻・欠席をしないこと。
30分を超える遅刻については欠席扱いとする。30分以内の遅刻については、欠席1/3回とみなす。

■ 成績評価方法・基準

目標①～③の理解度を評価の基準とする。授業時のワークシートなど 30%，課題課題・レポート70%

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説（美術）〕〔高等学校学習指導要領解説（芸術科）〕（データ版：無料）
その他、必要に応じ提示する。

■ 参考書

〔工芸I〕〔工芸II〕〔日本文教出版株式会社〕

■ 備考

博物館に関する科目

生涯学習概論

(19901)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

又 木 潤

■ 授業の概要

社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習の全体像を明らかにする。また、「生涯教育論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、社会教育施設の社会的位置付けを明らかにする。学習成果の活用支援・学習情報の提供・生涯各期の教育課題を通して、生涯学習の現代的な課題と今後の展望を示す。（社会教育施設実務者が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 生涯学習に関する歴史・方法・計画・課題等の基礎的知識を習得する。
- ・2. 「生涯学習社会」における社会教育施設の役割を検討する思考を身につける。
- ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。
- ・4. 社会で活動するために必要なコミュニケーション能力を身に付ける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：講義の進め方・生涯学習のあり方	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第2回	生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第3回	生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認し、プレゼンを作成しておく
第4回	「生涯教育論」	生涯教育論の概要を調べる。社会教育施設を確認し、プレゼンを作成しておく
第5回	リカレント教育 調べ学習による施設のプレゼン	リカレント教育の概要を調べる
第6回	生涯学習と学校教育 調べ学習による施設のプレゼン	生涯学習と学校教育の相違を調べる
第7回	生涯学習の方法と内容 調べ学習による施設のプレゼン	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第8回	生涯学習と社会教育の計画 調べ学習による施設のプレゼン	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第9回	学習プログラムの編成	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第10回	生涯学習関連行政の仕組み	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第11回	生涯学習と社会教育施設	博物館等の役割と機能を調べる
第12回	生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
第13回	学習成果の活用支援	学習成果の活用の意義を調べる
第14回	学習情報提供と学習相談	学習情報の事例を調べる
第15回	講義のまとめ 「生涯学習社会」の課題 試験 ※授業の中でのグループ・ディスカッションに意欲的に参加し、課題の発見・解決に努める。	これまでの学修内容を復習する

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。生涯学習に関する情報に日常的に留意すること。

■ 成績評価方法・基準

ディスカッションへの参加態度を含む受講態度、授業ごとの振り返りシート（30%）、調べ学習による施設のプレゼン（20%）、試験（50%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

必要に応じて講義中に資料を配布する

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館概論

(19902)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。さらに、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・ 1. 博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。
- ・ 2. 博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。
- ・ 3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：講義の進め方・博物館の概要

自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する

第2回 身近な博物館（SMMA、歴ネット等）

自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する

第3回 博物館の定義・目的

ICOMを調べる

第4回 博物館の分類・施設・設備

博物館法を調べる

第5回 博物館の機能①（資料収集・整理保管）

博物館データベースを調べる

第6回 博物館の機能②（調査研究）

博物館研究紀要等を調べる

第7回 博物館の機能③（展示）

博物館展示情報を調べる

第8回 博物館の機能④（教育普及）

博物館教育プログラムを調べる

第9回 博物館史①（欧米の博物館）

欧米と日本の博物館情報を調べる

第10回 博物館史②（日本の博物館）

欧米と日本の博物館情報を調べる

第11回 博物館の現状

欧米と日本の博物館情報を調べる

第12回 博物館関係法令と政策

社会教育法、文化財保護法を調べる

第13回 市民と博物館

博物館ボランティアを調べる

第14回 地域社会と博物館

まちづくりと博物館を調べる

第15回 講義のまとめ 博物館・学芸員の課題とこれから

これまでの学修内容を復習する

第16回 試験

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

博物館体験に関するプレゼンテーションやグループワークを実施します。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館経営論

(19903)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

博物館に関する科目

笠原 信 男

■ 授業の概要

博物館は学校の生徒・学生だけでなく、一般の成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設である。講義では社会教育施設としてのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的をどのように実現し、博物館を運営するか、について教員の博物館勤務経験に基づいて解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者などの視点から、博物館経営についての考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・2. 博物館を多角的に観覧・考察する姿勢を身に付けることができる。
- ・3. 社会教育施設としての博物館の地域社会への役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 博物館と博物館学及び博物館経営論

博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第2回 博物館における感染症対策

新型コロナ感染症対策を新聞等で学習し、配布資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第3回 博物館の設置と使命

設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第4回 博物館経営の考え方

経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第5回 博物館の経営手法

経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第6回 博物館の運営方針

運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第7回 博物館の組織

組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第8回 博物館の予算

中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第9回 博物館の危機管理

危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第10回 博物館の展示活動

展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第11回 博物館の教育活動①— 一般的な活動—

博物館の一般的な教育活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第12回 博物館の教育活動②—2000年代教育観に基づく活動—

2000年代教育観に基づく活動を参考書で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第13回 博物館の広報活動

広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第14回 博物館の市民参画と地域社会との連携

地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

第15回 博物館の資料収集、調査研究活動

資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

- ・受講態度（20％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（80％）で評価しま

す。

- ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし。授業前にプリントを配付します。

■ 参考書

〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2, 090円〕

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料論

(19904)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

菊 地 逸 夫

■ 授業の概要

本科目は、学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。

授業では、担当者が長年東北歴史博物館の学芸職員であった実務経験を踏まえて、文化財と博物館の関わりや博物館資料の意義と資料の活用方法について解説するもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座を通して理解・習得する。

また博物館資料の理解を深めるため、実物資料(浮世絵や絵画資料)から歴史を読み取る演習を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。
- ・博物館資料の整理・保存・活用や文化財について理解できる。
- ・博物館資料の基本的な取り扱いを理解できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス 授業の概要説明

これまで見学した博物館の特徴を理解する

第2回 博物館資料とは

配布資料から資料の意義や種類を復習する

第3回 博物館資料の収集

資料収集の意義や目的についてまとめる

第4回 文化財と博物館

文化財と博物館の関係についてまとめる

第5回 文化財の種類と身近な文化財

県内の指定文化財について調べておく

第6回 埋蔵文化財について

県内の遺跡や貝塚・古墳について調べておく

第7回 博物館とコレクション資料

博物館とコレクション資料の関係をまとめる

第8回 博物館資料の管理

博物館資料の管理用法についてまとめる

第9回 資料の公開・展示

資料の展示や公開の意義についてまとめる

第10回 博物館資料の保存と修復について

資料の保存・修復についてまとめる

第11回 博物館におけるレプリカについて

レプリカの意義についてまとめる

第12回 博物館資料の取り扱いや資料の輸送

博物館資料の取り扱いについてまとめる

第13回 鏡の資料化(拓本と資料カードの作成)

拓本から資料カードを作成する(レポート)

第14回 美術資料の見方①(絵巻や絵画から歴史を読む)

資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)

第15回 美術資料の見方②(浮世絵から歴史を読む)

資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)

まとめの筆記試験を実施

筆記試験を実施

■ 履修上の注意

授業では毎時間資料を配布し、パワーポイントにより解説を加える。

各自資料保存用のファイルを準備する事。

■ 成績評価方法・基準

筆記試験(60%)と平常点・受講態度(授業への参加状況?10%、ミニットペーパー?10%、課題レポート?20%)などから判断します。

00%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業の際に資料を配布する。

質問等は授業終了時（オフィスアワー）で受け付ける。

博物館資料保存論

(19905)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

博物館に関する科目

及 川 規

■ 授業の概要

文化財は貴重な“国民的財産”であり、それを後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。本授業では、文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら、博物館資料を将来にわたって保存し、活用できるようにするための、温度・湿度、光、空気、生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。

それらについて、担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして、実際の資料保存活動を例示しながら、現状の課題や問題点も含めて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・①博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。
- ・②資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。
- ・③またそれらに基づいて、実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
第2回	資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
第3回	資料劣化の要因と対策1 a (温・湿度:基礎・影響・測定)	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
第4回	資料劣化の要因と対策1 b (温・湿度:管理と制御)	後:温湿度の管理・制御法を復習する
第5回	資料劣化の要因と対策2(光)	後:光の影響とその管理について復習する
第6回	資料劣化の要因と対策3 a (生物:生物被害の概要と調査)	後:加害生物例と調査法について復習する
第7回	資料劣化の要因と対策3 b (生物:生物被害の対策)	後:IPMと生物被害の対処法について復習する
第8回	資料劣化の要因と対策4 a (空気質:影響と調査)	後:汚染因子の種類と影響について復習する
第9回	資料劣化の要因と対策4 b (空気質:管理と対策)	後:空気汚染の対策について復習する
第10回	資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
第11回	資料の防災	後:災害・防犯対策について復習する
第12回	資料の科学的調査	後:科学的調査の特性・方法について復習する
第13回	資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
第14回	資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
第15回	本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自の考えをまとめる

■ 履修上の注意

要点をまとめた資料を配布するが、ポイントだけでなく、疑問に思ったこと、さらに詳しく知りたいこと、自分のアイディア等をメモするなど、より主体的な取り組みに努めること。

■ 成績評価方法・基準

授業期間中に実施する課題[テスト・レポート](60%)、取り組み状況[学習意欲、質問、ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。講義前にプリントを配布する。

■ 参考書

[博物館資料保存論] [石崎武志] [講談社] [2, 200円]

■ 備考

- ・ 配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。
- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については授業前あるいは終了時に受け付けます。

博物館展示論

(19906)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

笠原 信 男

■ 授業の概要

展示は博物館が行う事業の中で中核に位置づけられ、博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められる。博物館展示論では、制作者の観点でアプローチするのに必要な視点に留意しながら、展示の企画・運営に必要な事項を教員の博物館勤務経験に基づいて各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の3つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶことができる。
- ・展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢を身に付けることができる。
- ・展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶことができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 展示の理論 1－博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第2回 展示の理論 2－展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第3回 展示の理論 3－展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第4回 展示の理論 4－生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第5回 展示の理論 5－ユニバーサルミュージアムと展示	ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第6回 展示の理論 6－展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第7回 展示の技術 1－展示技術総論(東北生活文化大学顕彰館の展示技術)	展示施設の実際を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第8回 展示の技術 2－展示のプロセス(企画から撤収)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第9回 展示の技術 3－動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回 展示の技術 4－展示環境(リスクマネジメント等)	展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回 展示の技術 5－照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回 展示の技術 6－解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回 展示の技術 7－展示グラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回 展示の装置 1－展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回 展示の装置 2－レプリカとジオラマ	レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意

欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準

- ・受講態度（20％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（80％）で評価します。
- ・レポートは必ず提出してください。
- ・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書

なし。授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

〔博物館展示論〕〔黒澤 浩〕〔講談社〕〔2, 640円〕

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
- ・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館情報・メディア論

(19907)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専2年・美表2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

清 水 有

■ 授業の概要

博物館における情報・メディアの活用は、コンピュータ等の進展に伴う情報技術革新により、その意義はますます重要となっている。博物館の生涯教育・学習に占める意義が、社会的に評価されるにつれ、博物館には教育施設として、また情報を発信する基地としての役割が期待されている。一方学芸員には、情報やメディアに関する専門的な知識のみならず、それに関わる基礎的な能力を身につけることが必要といえる。本科目では、博物館学芸員としての経験を基礎とし、情報・メディアの意義と活用方法、その目的について学習する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・博物館における情報・メディアの意義と目的について深く理解し論じること。
- ・現在の博物館・美術館を実践的に体験理解し、研究を行う素地を作ること。
- ・メディアを通じてその使用方法を正しく理解し正確で道徳的な利用ができること。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	イントロダクション1 美術館・博物館とは何か。	自身の興味のある美術館・博物館について、様々な角度からリサーチをおこなっておく
第2回	イントロダクション2 現代の多様な館（せんだいメディアテークの場合）	当該の館の意義についてリサーチをおこなっておく
第3回	メディア概論（正しい情報発信等）	普段の生活の中から、情報やメディアがどのように活用されているかを観察し、情報メディアとは何かを考える
第4回	メディア論史（マーシャル・マクルーハンとそれ以降のメディア論）メディアの諸相 新聞/雑誌	事後は自身の興味のあるメディア論についてのリサーチをする
第5回	メディアの諸相 新聞/雑誌 メディアの諸相 写真/映画	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第6回	メディアの諸相 インターネット/テレビ・ラジオ	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第7回	メディアの諸相 写真/映画	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第8回	メディアの確認考査と振り返り（用語）	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第9回	博物館概論	事後は自身の興味のある美術館・博物館についてリサーチをする
第10回	博物館の歴史（第4世代型ミュージアムについて）	事後は自身の興味のある時代に建設された美術館・博物館についてリサーチをする
第11回	国内の博物館の現状1 展示とメディア 広報計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第12回	国内の博物館の現状2 展示とメディア 動員計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第13回	国内の博物館の現状3 展示とメディア 教育普及	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第14回	国内の博物館の現状4 展示とメディア アーカイブ	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第15回	博物館情報・メディア論全体の確認考査	振り返りの中から、理解を深める為に、よく復習を行う

■ 履修上の注意

各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

■ 成績評価方法・基準

学習意欲を含む授業態度40%、課題レポート30%、論文テスト30%

■ 教科書

講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 参考書

講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 備考

質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館教育論

(19908)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：服専1年・美表1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

伊 藤 優

■ 授業の概要

現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、その解決の方策に対する理解を深める。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・1. 学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。
- ・2. 博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身に付ける。
- ・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の概要	博物館概論の学修内容を復習しておく
第2回	博物館教育の諸形態①（展示を中心とした教育プログラム）	展示関連の教育プログラムを調べる
第3回	博物館教育の諸形態②（展示以外の教育プログラム）	展示以外の教育プログラムを調べる
第4回	博物館での学び①（博物館教育と学校教育）	博物館教育と学校教育の相違を調べる
第5回	博物館での学び②（博物館利用者を理解する基礎理論）	構成主義的な博物館教育を調べる
第6回	博物館の教育活動①（教育プログラムの立案）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第7回	博物館の教育活動②（教育プログラムの実施）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第8回	博物館の教育活動③（ワークシートについて）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第9回	博物館の教育活動④（ユニバーサルデザイン）	ユニバーサルデザインの事例を調べる
第10回	ギャラリートークの事例	ギャラリートークの意義を調べる
第11回	ワークショップの事例	ワークショップの意義を調べる
第12回	美術館・文学館・歴史博物館・大学博物館の教育プログラム	大学博物館の意義を調べる
第13回	博物館教育とボランティア	ボランティアとNPOを調べる
第14回	博物館教育とさまざまな連携	学社連携・地域連携の意義を調べる
第15回	講義のまとめ 博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回	試験	

■ 履修上の注意

意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること。

自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

博物館教育に関するプレゼンテーションやグループワークを実施します。

■ 成績評価方法・基準

事前事後学修を含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館実習Ⅰ

(19909)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（15＋30）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

博物館に関する科目

菊 地 逸 夫

■ 授業の概要

担当者が、長年東北歴史博物館で学芸業務に従事した経験をもとに、学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に付けさせる。

具体的には、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法(梱包や修復も含む)を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上3点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。
- ・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。
- ・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 授業の概要説明	
第2回	博物館資料の取り扱いについて(考古資料の梱包)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第3回	災害から展示物を守る(地震への対応)	県内の地震災害の歴史を調べておく
第4回	刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第5回	資料の撮影について(資料写真の撮り方)	カメラの基本的な取り扱いを予習する
第6回	特別展について(特別展の紹介)	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
第7回	シナリオ作成、資料選択の方法、展示プランについて	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
第8回	展示のプラン作成、企画書作成	展示のシナリオをまとめておく(事後)
第9回	博物館の教育普及活動の紹介	博物館の教育普及活動について調べておく
第10回	教育プログラム実践① 「土器作り」という活動の概説(意味・目標) 縄文土器についての概説	博物館の教育普及活動にはどのようなものがあるか調べておく。 縄文土器とは何か調べておく。
第11回	教育プログラム実践② 縄文土器の製作	実践した内容をまとめる(レポート)
第12回	博物館の教育普及活動の計画(企画書作成)	活動プログラムを企画(企画書)
第13回	レプリカの製作 アンモナイトの型取りと石膏模型の製作	レプリカの活用の意義について調べておく 石膏模型への彩色を行う
第14回	文化財の修復(考古資料の復元) 土器、陶磁器の復元	授業後修復資料を完成させる。
第15回	文化財の修復(破損紙資料の修復)	古文書などの修復方法について調べておく

■ 履修上の注意

授業では講義と実技を行うが、実技後のレポート及び企画書の提出は必須。

受業で実物資料を扱う事もあるので、作業に適した服装で臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(ミニットペーパーなど50%)、レポート(展示・教育普及活動の企画書)50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

授業の際に資料を配布する。資料の手配等の都合により、授業順は変更する場合がある。

質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館実習Ⅱ（見学実習を含む。）

(19910)

単位（総授業時間数＋自習時間）：（45＋30）

対象学科：服専3年・美表3年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

博物館に関する科目

落合里麻

■ 授業の概要

本授業では学内実習と見学実習を行う。学内実習では、学芸員課程で学んだ理論や知識を踏まえ、作品・資料を扱う際に必要となる知識や技術を実習形式で修得させる。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の扱い、展示などの基本事項を教授した上で、一人一人に実践させる。見学実習では、博物館の展示室とバックヤードの見学を行い、利用者と学芸員（企画、管理する側）の双方の立場から博物館の活動を理解させる。現職の学芸員の話聞き、博物館の現状と問題点について考察させる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

・学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、4年次の館園実習に関する説明

学生便覧の学芸員資格の頁をよく読んでおく

第2回 顕彰館と短大資料室の見学、額装の吊り方

希望する実習先について調べる
額装の展示位置の計算方法について復習する

第3回 額装の扱いと吊り方（グループワーク）

展示方法と手順について復習する

第4回 古美術品と箱の扱い①、紐の掛け方

紐の掛け方を復習し、習得する

第5回 古美術品と箱の扱い②（陶磁器、漆器、金工品）

素材ごとの扱いの基本を復習する

第6回 古美術品と箱の扱い③（茶道具、仕覆、御物袋）
着物の扱い

袋の扱い、緒の結び方、着物の畳み方を復習する

第7回 装こう①（表具の種類、歴史、掛軸の構造）

掛軸の構造、各部の名称について復習し、プリントに彩色する

第8回 装こう②（掛軸の扱い、掛け方、しまい方）

掛軸の扱い、掛け方、しまい方について復習する

第9回 装こう③（掛軸の扱い、掛け方、しまい方）
日本画の基礎知識

掛軸の扱い、掛け方、しまい方について復習する

第10回 作品・資料の調査と整理①（調査、法量）（グループワーク）

調査時の心得について復習する

第11回 作品・資料の調査と整理②（撮影、画像処理、調査）

作品・資料カードに記載する内容をまとめる

第12回 作品・資料の調査と整理③（データ入力）

作品・資料カードに記載する内容をまとめる

第13回 作品・資料の調査と整理④（作品・資料カード完成）

作品・資料カードに不備や誤字・脱字がないか確認する

第14回 掛軸の箱を制作する①（説明、掛軸の採寸、計算）

制作手順について復習する

第15回 掛軸の箱を制作する②（仕上げ）

箱に番号と写真を貼って完成させる

第16回 掛軸を箱に入れて顕彰館に収蔵し、16回の授業のまとめを行う

実習生記録を清書し、提出する

■ 履修上の注意

- ・授業内で4年次の館園実習について説明し、実習先を選定する。実習生記録を作成する。
- ・県外の博物館・美術館等で見学実習を実施する。日時については授業内で指示する。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学実習レポート（30%）、実習内容の修得（30%）で評価する。

■ 教科書

特に定めない。各単元でプリントを配布する。

■ 参考書

〔博物館資料取扱いガイドブック〕〔日本博物館協会〕〔ぎょうせい〕〔2, 750円＋税〕

〔日本画用語事典〕〔東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室〕〔東京美術〕〔3, 500円＋税〕

〔MAU（武蔵野美術大学）造形ファイル〕<http://zokeifile.musabi.ac.jp/>

■ 備考

授業計画の順番を変更する場合がある。質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。

博物館実習Ⅱ（館園実習）（事前・事後指導を含む。）

（ 19911 ）

単位：

対象学科：服専4年・美表4年

授業形態：実習 学期：通年 必・選：選択

博物館に関する科目

落 合 里 麻

■ 授業の概要

本授業では、学芸員資格の取得を目指し、学外の博物館園での実務体験を行う。実習期間は5日間以上とする。実習先の博物館・美術館・資料館等では、学芸員から指導を受け、館の活動内容、学芸員の職務内容を理解する。実習前と実習後に事前・事後指導を行う。事前指導では、実習にあたっての心構え（学芸員の倫理、社会人としてのルール・マナー）、文章表現・レポート作成のきまり等について指導する。事後指導では、実習を体験しての反省・自己評価等をもとに、課題解決のための指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- ・博物館資料の収集、保管、展示、整理、調査研究、教育普及等の学芸員の業務と博物館運営の実態を理解する。
- ・博物館園での実務体験によって、大学で学んできた博物館像を確認する。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（館園実習の流れについての説明、「博物館実習日誌」に必要事項を記入）

実習を申し込む館の特徴や過去の実習内容、最近開催された展覧会について調べる。展覧会を観る。

第2回 事前指導（実習にあたっての心構え、準備物、レポート作成要領について）

実習に必要な物を揃える。

■ 履修上の注意

実習先は基本的に自分で探すこと。

3年次までの博物館に関する科目（必修／10科目／18単位）を履修し、単位を修得していること。また、3年次の学内選考を通過した者のみ履修可能である。

実習費を期限内に支払う必要がある。

各館によって実習日程及びカリキュラムが組まれる。実習先の候補を決める際に実習内容をよく調べること。

学芸員の仕事は対人関係が多く、信頼性やコミュニケーション能力が求められる。知識・技術の習得のみならず、優れた識見と人格を有する全人的な向上に努める必要がある。

実習先によって実習内容が異なるため、事後指導は個別に実施する。

■ 成績評価方法・基準

「博物館実習日誌」への記載内容、実習館による評価：50%

館園実習レポート：50%

■ 教科書

特に定めない。実習先で配布される資料等を使用する。

■ 参考書

特に定めない。実習先で配布される資料等を使用する。

■ 備考

事前指導の取り組み状況によっては実習を取りやめる場合がある。

質問等はオフィスアワーに受け付ける。